

2 0 2 3 年度

シラバス

貞静学園短期大学

I 貞静学園短期大学の教育理念・目的

本学は、「学問と人格の切磋琢磨・心の教育」の基本方針の下、「これからの社会に貢献できる心豊かな人材の育成」を教育理念とし、知識および実践力の向上、そして中断のない研究と幅広い人間教育に重点を置く大学教育機関として活動を展開しています。

本学は、「幼児教育・保育の特殊性・専門性を兼ね備えた柔軟性のある保育者養成」を教育目的とし、特に、教育の基本は人間教育であることを踏まえ、社会で生きていくためにどうあるべきか、どのような姿勢で研究を進めていくのか等、人として生きていく姿勢を絶えず念頭に置き、教育課程に反映してまいります。

また、本学は、より豊かな社会生活を実現するための教養教育及び教養教育と実務教育とが結合した専門的職業教育、さらには地域社会に密着した生涯学習の機会を与えていくことも視野に入れ、幼児教育・保育の分野において求められる専門的な知識・技術の修得は勿論のこと、心の教育を重視し、乳幼児・弱者に対する思いやりや気配りとともに、職場・社会で相手の立場に立ったものの見方・考え方ができるような人間教育を実施してまいります。

さらに、日本の未来を担う子どもの豊かな成長を、家庭と保育現場から捉え、乳幼児期の家庭のしつけが、その人間の一生を左右するほど重要であることを認識し、家庭と保育現場の双方の連帯関係の重要性という視点に立ち、真に社会に役立つ幅の広い柔軟性のある人材の養成を目指してまいります。

さらにまた、急速に進む高齢社会に対応する為に平成 22 年 4 月より、従来の専門学校介護福祉専攻科から短期大学専攻科介護福祉専攻を新たに開設し、より資質の高い介護福祉士養成をめざしてまいります。

II 3つの方針

1) アドミッションポリシー

○保育学科

本学は、「これからの社会に貢献できる心豊かな人材の育成」を教育の理念とし、資質の高い保育士・幼稚園教諭の養成を目標としています。

そのため、以下のとおり入学者受け入れ方針を設けています。

- ①幼児教育・保育・福祉に関わる職につくことを希望し、その意志を持ち続けることができる人（至誠）
- ②子どもについて深く学び、誰に対しても公平にコミュニケーションを取ろうとする人（和敬）
- ③ひと、もの、ことに慈しみの心をもって、保育・福祉で社会に貢献しようとする人（慈愛）
- ④国語の基礎力があり、言葉の重みを理解し、豊かな表現力を身につけようとする人

○専攻科介護福祉専攻（1年課程）

本学は、「これからの社会に貢献できる心豊かな人材の育成」を教育の理念とし、資質の高い介護福祉士養成を目標としています。

そのため、以下のとおり入学者受け入れ方針を設けています。

- ①介護福祉士の職に就くことを希望し、その意志を持ち続けることができる人
- ②大学・短期大学もしくは専門学校で保育士の資格を取得し、積極的に介護実践力を身につけようとする人
- ③高齢者および障害者を取り巻く環境に関心を持ち、福祉・教育について学ぶ意欲のある人
- ④誠実で真摯な心を持ち、コミュニケーションを大切にする人

2) ディプロマポリシー

本学保育学科に2年以上在籍し、卒業に必要な単位数を修得して、広い保育学の知識と優れた保育の技能並びに保育者に相応しい豊かな人間性を有し、真に社会で活躍できる人材であると、教授会において認定した学生に対して、短期大学士（保育学）の学位を授与する。

3) カリキュラムポリシー

貞静学園短期大学の教育課程は、保育・幼児教育に携わる一人の人間としての在り方や生き方に関する深い洞察力や現実を正しく理解する力の涵養と、幅広く深い教養と保育に関する専門科目を総合的に教授することを目的としている。

1. 教育課程を「教養教育科目」と「専門教育科目」に分け、「教養教育科目」と「専門教育科目」を履修することにより、一般教養・専門的知識を修得し、保育・幼児教育に関する研鑽を積み、保育の専門家として卒業後も成長できる保育者養成を目指す。
2. 教養教育科目は、「教養科目」、「体育」、「語学」、「情報」に分け、保育・幼児教育を専門に学び実践する者として、幅広い知識を修得し、社会で応用できる基礎能力に必要な教養を身につけ、社会に役立つ人材を育成するための授業科目を設定する。「教養科目」の中に「キャリア教育」を卒業必修として設置し、建学の精神のもと本学独自の科目を履修することにより、本学卒業生として獲得すべき学習成果の基盤を創る。
3. 専門教育科目は、「基礎技能科目」、「基礎理論科目」、「保育の内容・方法」、「保育の対象・理解」、「保育教育実践演習」、「教育・保育実習」、「ゼミナール」から編成し、知識の獲得・活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決能力、表現力、コミュニケーション能力など、保育の専門職や社会人として必要な知識や技能を修得させるために講義、演習、実習など、多様な科目設定をする。
4. 保育学科2年間で社会に役立つ保育者を養成するため、本学独自の科目を「教養科目」、「保育の内容・方法」ならびに「保育の対象・理解」の各分野に新たに開設した。さらに保育学科2年間の学習の総まとめとして、選択科目ゼミナールを開設し、個々の学生達が絵本づくりや、伝承玩具、おもちゃづくり等、また少子社会、地域の子育て支援等、保育に関する様々な課題について、各自の研究テーマを定め、課題解決のための対応策・方法・技術等を研究し、保育者としての資質向上をはかることを目的に、ていねいな個別指導を行う。
5. 2年間を4期にわけて、基礎的・基本的な科目から総合的に実践し、応用でき

る科目へと順次学べるように編成する。そのため、科目は各期を基準にするが、通年科目についても各期のまとまりを持つように編成する。

6. 卒業と同時に幼稚園教諭2種免許状、保育士資格の二つの免許・資格を取得できる教育課程を編成する。

Ⅲ学習成果

本学は、建学の精神「至誠、和敬、慈愛」に基づき、「これからの社会に役立つ、人間性豊かな知性と教養ある人材の育成」を教育理念としている。その教育理念を実現するために、自ら学び努力していく姿勢と、強くしなやかな意志を育むことを基盤として、専門的学習成果と汎用的学習成果の両面から学習成果を定めている。

専門的学習成果（保育者としての学習成果）とは、保育及び教育に必要な専門的知識・技術・技能を習得し、一人一人の最善の幸福を考え、倫理観を持って保育・教育を実践する能力を身に付けることである。

汎用的学習成果（社会人としての学習成果）とは、伝統文化、社会、自然についての理解を深め、社会で生じる様々な問題や意見に向き合い、他者と協力し、科学的・論理的に考え、積極的に解決に取り組むことが出来るようになることである。

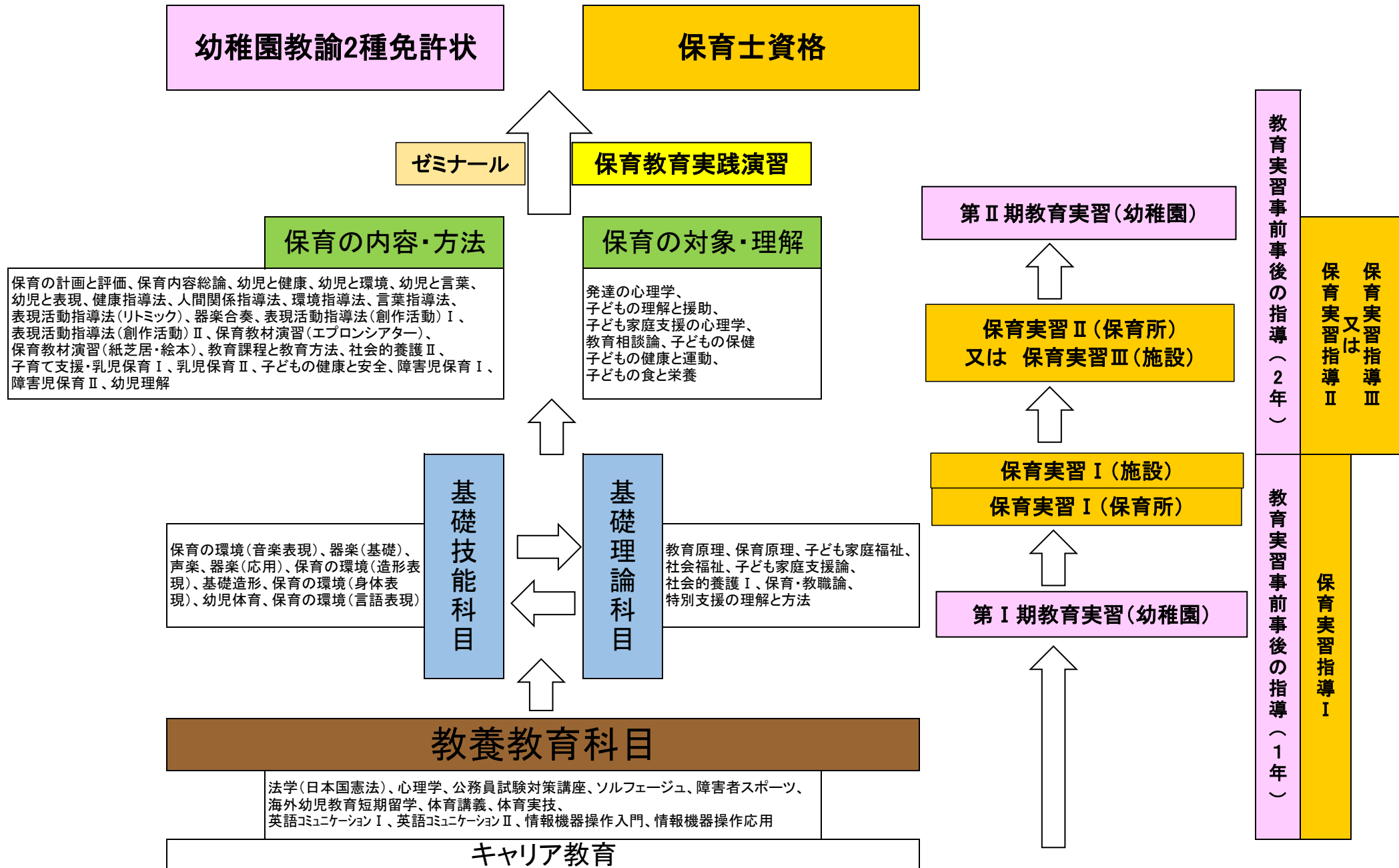
専門的学習成果（保育者としての学習成果）

1. 子どもや特別な支援を要する人の発達特性や個性について学び、一人一人の最善の幸福を考え、保育・教育および家庭支援を実践するための様々な知識・技術・技能を習得する。
2. 子どもの「生きる力」を育むために、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の五領域についての技術や技能を習得する。
3. 保育者として子どもの人権を尊重し、倫理観を持って他者と協調すると共に、子どもの心身の健康と安全に努めながら保育・教育に取り組むことができる。
4. 獲得した知識・技能・態度を基礎として、継続的に向上心を持って学習することができる。
5. 他国の人や文化を尊重しグローバルな視点で、子ども、職場、社会を捉え、保育・教育および家庭支援について知識と理解を深めていく姿勢をつくる。

汎用的学習成果（社会人としての学習成果）

6. 文化、社会や自然に対する知識を豊かにし、多様な価値観や意見を理解し、自ら学んでいく。
7. 読む、書く、聞く、話す能力をはじめ、情報を収集・分析する能力、数や量を理解する能力を高め、他者と協働して新しい視点や発想、柔軟な方法で問題を解決することができる。
8. 社会規範や職場のルールを理解し守り、様々な人々と協調して仕事や課題に積極的に取り組み、実現へ向けて計画し、やり遂げる強い意志を獲得する。

貞静学園短期大学保育学科カリキュラムツリー



カリキュラムマップ (保育学科)

※シラバス用

卒業要件：66単位以上、幼稚園教諭2種免許状：66単位以上、保育士資格：70単位以上

★印：必修科目29単位以外に選択科目29単位以上の修得が必要。ただし【教育実習5単位】又は【保育実習Ⅰ(保育所)・(施設)と保育実習指導Ⅰ及び「保育実習Ⅱと保育実習指導Ⅱ」又は「保育実習Ⅲと保育実習指導Ⅲ」の9単位】を修得すること。

●印：卒業又は幼稚園教諭又は保育士必修単位(選択必修を含む)

○印：選択科目

▲印：どちらかを選択

※印：50分授業

		卒業単位		幼稚園教諭		保育士		1年		2年		授業形態			特記事項	学習成果
科目区分	授業科目の名称	必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	講義	演習・実技	実験・実習		
教養教育科目	キャリア教育 ※	2				2		●	●			✓			必修科目6単位及び選択科目2単位以上修得すること	3. 4. 6. 7. 8
	法学(日本国憲法)		2	2		2			●			✓				3. 5. 6. 7. 8
	心理学		2			2		○				✓				4. 6. 7. 8
	公務員試験対策講座		1						○				✓			1. 4. 6. 7
	ソルフエージュ		1			1		○					✓			1. 2. 3. 6. 8
	障害者スポーツ		1			1		○					✓			1. 3. 5. 6
	海外幼児教育短期留学		1			1		○		○			✓			1. 3. 4. 5. 6. 7. 8
	体育															
	体育講義 ※	1		1		1		●				✓				1. 4. 5. 6
	体育実技	1		1		1		●					✓			1. 3. 4. 6. 8
	語学															
	英語コミュニケーションⅠ	1		1		1			●				✓			5
	英語コミュニケーションⅡ	1		1		1				●			✓			5
専門教育科目	情報														★参照	
	情報機器操作入門		1	1		1		●					✓			4. 7
	情報機器操作応用		1	1		1					●		✓			4. 7
	小計(13科目)	6	10	8		4	11	-		-		-				-
	基礎技能科目															
	保育の環境(音楽表現)	1		1		1		●	●				✓			1. 2. 4. 5. 6. 7
	器楽(基礎)	1		1		1		●	●				✓			1. 2. 4. 5. 6. 7
	声楽 ※		1		1	1				●	●		✓			1. 2. 4. 5. 6. 7. 8
	器楽(応用)		1		1	1				●	●		✓			1. 2. 4. 5. 6. 7
	保育の環境(造形表現)	1		1		1			●				✓			1. 2. 3. 4
	基礎造形	1		1		1		●					✓			1. 2. 4. 8
	保育の環境(身体表現)	1		1		1			●				✓			1. 2. 3. 4. 6
	幼児体育	1		1		1					●		✓			1. 3. 4. 5. 6. 8
基礎理論科目	保育の環境(言語表現)	1		1		1		●					✓			2. 4. 6. 7. 8
	小計(9科目)	7	2	8	1	4	5	-		-		-				-
	教育原理	2		2		2			●			✓				1. 4. 5. 6
	保育原理	2		2		2				●		✓				1. 3. 5. 6. 8
	子ども家庭福祉		2			2				●		✓				1. 3. 4. 5. 6. 7. 8
	社会福祉		2			2		●				✓				1. 3. 4. 5. 6. 7. 8
	子ども家庭支援論		2			2					●	✓				1. 3. 4. 5. 6. 7. 8
	社会的養護Ⅰ		2			2		●				✓				1. 3. 4. 5. 6. 7. 8
	保育・教職論		2	2		2		●				✓				3. 4. 6. 7. 8
	特別支援の理解と方法	1		1						●			✓			1. 3. 4. 6. 7. 8
	小計(8科目)	5	10	7		14		-		-		-				-

		卒業単位		幼稚園教諭		保育士		1年		2年		授業形態			特記事項	学習成果		
科目区分	授業科目の名称	必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	講義	演習・実技	実験・実習				
専門教育科目	保育の内容・方法	保育の計画と評価		2			2				●		✓			★参照	1. 3. 7	
		保育内容総論	1		1		1					●		✓			1. 2. 7. 8	
		幼児と健康	1		1			1		●				✓			1. 2. 3. 4. 6	
		幼児と環境	1		1			1			●			✓			2. 4. 6. 7	
		幼児と言葉	1		1			1		●				✓			2	
		幼児と表現	1		1			1		●				✓			1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8	
		健康指導法	1		1		1				●			✓			1. 2. 3. 4. 7	
		人間関係指導法	1		1		1			●				✓			1. 2. 3. 4. 5. 6	
		環境指導法	1		1		1					●		✓			2. 4. 6. 7	
		言葉指導法	1		1		1					●		✓			2	
		表現活動指導法（リトミック）	1		1		1				●			✓			1. 2. 3. 4. 6. 8	
		器楽合奏		1		1		1				○		✓			1. 2. 4. 6. 8	
		表現活動指導法（創作活動）Ⅰ		1	1			1				●		✓			1. 2. 3. 4. 5. 6. 7	
		表現活動指導法（創作活動）Ⅱ		1	1			1					●		✓		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8	
		保育教材演習（エプロンシアター）		1		1					○				✓			1. 2. 4
		保育教材演習（紙芝居・絵本）		1		1						○			✓			1. 2. 3. 4. 5. 6. 7
		教育課程と教育方法	1		1					●					✓			1. 2. 7
		社会的養護Ⅱ		1				1					●		✓			1. 3. 4. 5. 6. 7. 8
		子育て支援		1				1					●		✓			1. 3. 5. 6
		乳児保育Ⅰ		2				2		●				✓				1. 3. 4
		乳児保育Ⅱ		1				1			●				✓			1. 3. 4. 6
		子どもの健康と安全		1				1			●				✓			1. 3. 4. 8
		障害児保育Ⅰ		1				1		●					✓			1. 3. 7
		障害児保育Ⅱ		1				1			●				✓			1. 3. 7
		幼児理解	2		2			2		●				✓				1. 2. 3
		小計（25科目）	13	15	15	3	16	9		-		-		-	-		-	-
	保育の対象・理解	発達の心理学	2		2		2		●					✓				1. 3. 4. 6. 7
		子ども家庭支援の心理学		2			2			●				✓				1. 3. 4. 5. 7
		子どもの理解と援助		1			1				●				✓			1. 3. 4. 6. 8
		教育相談論		2	2							●		✓				1. 3. 4. 7. 8
		子どもの保健		2			2		●					✓				1. 3. 4. 8
		子どもの健康と運動		1		1		1			○				✓			1. 2
		子どもの食と栄養		2			2		●	●					✓			2. 6
		小計（7科目）	2	10	4	1	9	1	-		-		-	-	-		-	-
	保育教育実践演習	2		2		2					●			✓			1. 3. 4. 5. 8	
	小計（1科目）	2		2		2		-		-		-	-	-	-		-	
	教育・保育実習	教育実習（5単位）	教育実習5単位又は保育実習9単位のどちらかを必ず選択		5			1年後期及び2年後期						✓	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8			
		教育実習事前事後の指導1年※						●	●						1. 7. 8			
		教育実習事前事後の指導2年※								●	●						1. 2. 3. 4. 5. 7. 8	
		保育実習Ⅰ（保育所）(2単位)					2	1年後期及び2年前期						✓	1. 5. 7. 8			
		保育実習Ⅰ（施設）(2単位)					2							✓	1. 5. 7. 8			
		保育実習指導Ⅰ（2単位）					2	●	●					✓			1. 5. 7. 8	
		保育実習Ⅱ（2単位）					2			▲					✓		1. 5. 7. 8	
		保育実習指導Ⅱ（1単位）					1	Ⅱ又はⅢを選択		▲					✓		1. 5. 7. 8	
		保育実習Ⅲ（2単位）					2			▲					✓		1. 5. 7. 8	
		保育実習指導Ⅲ（1単位）					1			▲					✓		1. 5. 7. 8	
	小計（8科目）		17	5		9		-		-		-	-	-	-		-	
	ゼミナール		2				2			○	○			✓			4. 6	
	小計（2科目）		2				2	-		-		-	-	-	-		-	
		35	66	48	5	58	27	-		-		-	-	-	-			

ナンバリング（保育学科科目コード表）

A	A	B	C	D	E	E	E	F	F
①		②	③	④	⑤			⑥	

① 科目区分

教養教育科目 教養科目	11
教養教育科目 体育	12
教養教育科目 語学	13
教養教育科目 情報	14
専門教育科目 基礎技能科目	21
専門教育科目 基礎理論科目	22
専門教育科目 保育の内容・方法	23
専門教育科目 保育の対象・理解	24
専門教育科目 保育教育実践演習	25
専門教育科目 教育・保育実習	26
専門教育科目 ゼミナール	27

② 卒業必修

必修	1
その他	0

③ 幼稚園教諭 2 種免許状取得

必修	1
選択必修	2
その他	0

④ 保育士資格取得

必修	1
選択必修	2
その他	0

⑤ 保育学科通し番号

保育学科コード番号 1 を先頭にした 3 桁

⑥ 開講時期

1 年通年	10
1 年前期	11
1 年後期	12
2 年通年	20
2 年前期	21
2 年後期	22
1・2 年	13

保育学科科目コード一覧表

キャリア教育	1110210110
法学(日本国憲法)	1101210212
心理学	1100210311
公務員試験対策講座	1100010412
ソルフェージュ	1100210511
障害者スポーツ	1100210611
海外幼児教育短期留学	1100210711
体育講義	1211110811
体育実技	1211110912
英語コミュニケーションⅠ	1311111012
英語コミュニケーションⅡ	1311111121
情報機器操作入門	1401211211
情報機器操作応用	1401211322
保育の環境(音楽表現)	2111111410
器楽(基礎)	2111211510
声楽	2102211620
器楽(応用)	2102211720
保育の環境(造形表現)	2111111812
基礎造形	2111211911
保育の環境(身体表現)	2111112012
幼児体育	2111212122
保育の環境(言語表現)	2111112211
教育原理	2211112312
保育原理	2211112421
子ども家庭福祉	2200112521
社会福祉	2200112611
子ども家庭支援論	2200112722
社会的養護Ⅰ	2200112811
保育・教職論	2201112911
特別支援の理解と方法	2211013021
保育の計画と評価	2300113121
保育内容総論	2311113222
幼児と健康	2311213312
幼児と環境	2311213421
幼児と言葉	2311213512
幼児と表現	2311213612

健康指導法	2311113721
人間関係指導法	2311113812
環境指導法	2311113922
言葉指導法	2311114021
表現活動指導法(リミック)	2311114121
器楽合奏	2300214221
表現活動指導法(創作活動)Ⅰ	2301214321
表現活動指導法(創作活動)Ⅱ	2301214422
保育教材演習(エプロンシアター)	2300014512
保育教材演習(紙芝居・絵本)	2300014621
教育課程と教育方法	2311014711
社会的養護Ⅱ	2300114822
子育て支援	2300114922
乳児保育Ⅰ	2300115011
乳児保育Ⅱ	2300115112
子どもの健康と安全	2300115212
障害児保育Ⅰ	2300115311
障害児保育Ⅱ	2300115412
幼児理解	2311215511
発達心理学	2411115611
子ども家庭支援の心理学	2400115712
子どもの理解と援助	2400115821
教育相談論	2401015922
子どもの保健	2400116011
子どもの健康と運動	2400216112
子どもの食と栄養	2400116210
保育教育実践演習	2511116322
教育実習	2601016413
保育実習Ⅰ(保育所)	2600116513
保育実習Ⅰ(施設)	2600116613
保育実習指導Ⅰ	2600116710
保育実習Ⅱ	2600216821
保育実習指導Ⅱ	2600216921
保育実習Ⅲ	2600217021
保育実習指導Ⅲ	2600217121
ゼミナール	2700217220

2023年度 貞静学園短期大学保育学科シラバス

補足資料

実務経験のある教員等による授業科目の配置

科目名称	単位	開講 学年	担当教員		授業内容
表現活動指導法(創作活動)Ⅰ	1	2年	別府 浩実	教授	絵本・アートブック・紙芝居の作家であり、幼児から大人対象の創作表現ワークショップを長年行ってきた実務経験から五領域「表現」の創作活動分野を実践的に指導・教授する。
表現活動指導法(創作活動)Ⅱ	1	2年	別府 浩実	教授	絵本・アートブック・紙芝居の作家であり、幼児から大人対象の創作表現ワークショップを長年行ってきた実務経験から五領域「表現」の創作活動分野を実践的に指導・教授する。
言葉指導法	1	2年	山本 伸一	准教授	幼稚園教員養成課程を卒業し、幼稚園並びに小学校教諭として長年勤務してきた。その間に大学院において学校教育を専攻し、研鑽を積み、小学校並びに幼稚園教諭専修免許状を取得している。その経験を生かして、領域言葉の指導法について実践的に教授する。
幼児と言葉	1	1年	山本 伸一	准教授	幼稚園教員養成課程を卒業し、幼稚園並びに小学校教諭として長年勤務してきた。その間に大学院において学校教育を専攻し、研鑽を積み、小学校並びに幼稚園教諭専修免許状を取得している。幼少接続を専門的に研究しており、長きにわたる経験を合わせ、幼児と言葉を担当する。
保育の環境(言語表現)	1	1年	山本 伸一	准教授	幼稚園教員養成課程を卒業し、幼稚園並びに小学校教諭として長年勤務してきた。その間に大学院において学校教育を専攻し、研鑽を積み、小学校並びに幼稚園教諭専修免許状を取得している。幼少接続を専門的に研究しており、研究成果と経験を生かし、保育の環境(言語表現)を担当する。
保育内容総論	1	2年	瀬川 千津子	講師	長年保育現場で活躍をしたのち、大学院において子ども人間学を専攻し、他学で実習に関する相談や実習先開拓、実習指導を担当してきた実績がある。その経験を踏まえ、実践的に教育を行う。
保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ	2 1 2 1	1年 2年	瀬川 千津子	講師	長年保育現場で活躍をしたのち、大学院において子ども人間学を専攻し、他学で実習に関する相談や実習先開拓、実習指導を担当してきた実績がある。保育所や保育所以外の児童福祉施設における実習のための事前事後指導を実践的に行う。

単位数合計

11

保育学科

※必要に応じて Teams 等を利用したの遠隔授業を実施する場合があります。

授業科目名：1110210110 キャリア教育 1年通年	必修：卒・（保）	単位数： 2単位	担当教員名：奥明子・保育学科教員 担当形態：講義 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：教養教育科目 教養科目		
学習成果該当番号：3、4、6、7、8			
授業の到達目標及びテーマ： 「教養科目」に設置されている本学独自の本科目を履修することで、「至誠」、「和敬」、「慈愛」の建学の精神のもと、「幼児教育・保育の特殊性・専門性を兼ね備えた柔軟性のある保育者養成」という本学の教育目的に向かい、「これからの社会に貢献できる心豊かな人材の育成」という本学の教育理念を実現できる学生を育成する。到達目標としては、以下のことが挙げられる。 ・建学の精神を理解する ・マナーを身につける ・行事を企画、立案、運営する力を身につける ・危機管理において実際の場面で対応できる知識を身につける ・情報処理能力を身につける 以上をもとにキャリア形成を自覚し、今後の人生に活かすことができる。			
授業の概要： 保育学科1学年次に卒業必修科目として授業の到達目標を全ての学生が達成し、本学卒業生としての学習成果の基盤をつくるために、大学生として学ぶ姿勢や保育者としての心構え、マナー、実習への準備学習、プレゼンテーションの方法論、危機管理等幅広い教養を身に付ける。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	キャリア教育について（担当：教務委員会）	準備：シラバスに記載されているキャリア教育の内容を読んで把握する。（30分）	
第2回	スタートアップスキル ・インターネット通信を利用した授業等の受講の仕方について ・学内PC貸出、印刷等の説明 ・メール送信のマナーなどスタートアップスキル ・大学教育全般に対する動機付け ・大学生活における時間管理や学習習慣 （担当：教務課・学生課・保育学科教員）	復習：実際にシステムを操作する。大学生として学びを継続するために必要な生活リズム（日々の生活の仕方）を理解し、自己を振り返り生活を見直し、日々実践する。（30分）	
第3回	文京区散策①（担当：保育学科教員）	準備：文京区内の有名な場所、人などについて調べる。（30分）	
第4回	文京区散策②（担当：保育学科教員）	復習：一緒に散策した学生や教職員との交流を深める。（30分）	
第5回	第1回アセスメントテスト（基礎力リサーチ） （担当：FD委員会）	準備：高校までの学習を振り返っておく。（30分）	
第6回	情報管理の重要性1 ・SNS等の管理と情報の扱いに関する倫理教育 （担当：岩井幸博）	復習：情報の取り扱いに関して復習し、危険性をまとめる。（30分）	
第7回	情報管理の重要性2 ・著作権と情報検索（附属図書館運営委員会）	復習：著作権と情報検索について理解したことをまとめる。（30分）	
第8回	建学の精神について 社会人としてのマナー①（担当：奥明子）	復習：建学の精神を知り、短期大学での学習に向けて準備する。（30分）	
第9回	洋食マナー研修「マナーのこころを学ぶ」 （担当：1年担任教員）	準備：ナイフ・フォークの使い方等洋食マナーに必要な事項を調べる。（30分）	
第10回	危機管理教育1 「防犯対策・禁止薬物について」 （担当：大塚警察署・1年担任教員）	復習：自分の身を守るための方法について理解を深めておく。（30分）	

第11回	危機管理教育2 「防災訓練について（消火・避難訓練）」（担当：小石川消防署・1年担任教員）	復習：消火器の位置や避難経路の確認をする。（30分）
第12回	職業意識を高める1 保育ボランティア① （担当：実習担当教員）	準備：保育ボランティア先を探す。（30分）
第13回	職業意識を高める2 保育ボランティア② （担当：実習担当教員）	復習：保育ボランティアで学んだことをまとめる。（30分）
第14回	2年生から実習体験談を聞く① （担当：実習担当教員・1年担任教員）	準備：保育ボランティアの経験をもとに実習に向けて準備する。（30分）
第15回	2年生から実習体験談を聞く② （担当：実習担当教員・1年担任教員）	復習：2年生の実習体験談を聞いて準備出来ることを書き出す。（30分）
第16回	卒業生シンポジウム① ・保育所・幼稚園・施設へ就職している卒業生の話聞く。（質疑応答含む）（担当：学生委員会就職部会）	準備：自分の将来像を思い描き、就職希望について考える。（30分）
第17回	卒業生シンポジウム② ・介護施設・その他の職種に就職している卒業生の話聞く。（質疑応答含む）（担当：学生委員会就職部会）	復習：就職希望について具体的に考え書き出す。（30分）
第18回	SDGsの取り組みについて （担当：入試広報委員会）	準備：SDGsとして取り組んでいることをまとめておく。（30分）
第19回	プレゼンテーションの構成 ※テーマは担当教員ごとに設定（担当：保育学科教員）	準備：プレゼンテーションの構成を考えておく。（30分）
第20回	プレゼンテーションへの準備 （担当：保育学科教員）	準備：効果的なプレゼンテーションの方法を調べる。（30分）
第21回	プレゼンテーションの実際 （担当：保育学科教員）	準備：発表に向けてプレゼンテーションの準備を行う。（30分）
第22回	プレゼンテーションの実際 （担当：保育学科教員）	復習：実際に行ったプレゼンテーションを振り返る。（30分）
第23回	献血セミナー 受講を通してその理論とボランティア精神を学ぶ（担当：日本赤十字社・1年担任教員）	復習：献血の重要性について学んだことをまとめる。（30分）
第24回	社会人としてのマナー② （担当：奥明子）	復習：配付されたプリントに沿って復習を行う。（30分）
第25回	大学祭・学習発表会における取組 （担当：全専任教員）	準備：学習発表として大学祭の準備を行う。（120分）
第26回	社会人としてのマナー③ （担当：奥明子）	復習：配付されたプリントに沿って復習を行う。（30分）
第27回	危機管理教育3 「災害時における妊産婦及び母子救護所について」（担当：文京区防災課・1年担任教員）	復習：母子救護所の必要性について復習し、理解を深める。（30分）
第28回	ゼミナール発表会への参加 （担当：教務委員会）	準備：興味のある分野について調べておく。（30分）
第29回	和食マナー研修「マナーのこころを学ぶ」 （担当：1年担任教員）	準備：箸遣い等和食マナーに必要な事項を調べる。（30分）
第30回	就職ガイダンス 先輩（在学生）の講話 （担当：学生委員会就職部会）	準備：就職活動において必要となることを考え、事前に情報を集め、準備する。（30分）
定時試験 「1年間授業を受けてきて、今後の自身のキャリア形成をどのように考えていますか」のレポートを課す。		
フィードバックの方法： 保育ボランティア実習後の日誌提出について、添削後コメントを添えて返却する。		
テキスト：なし		
参考書・参考資料等：内容に応じて各種プリントを配布		
学生に対する評価：各分野における取組(100%)ごとに、各担当が学生の学習成果達成度の評価を行い、その集計を100点満点に換算して科目の最終評価とする。		

授業科目名：1101210212 法学（日本国憲法） 1年後期		必修：（卒）・幼・（保）	単位数： 2単位	担当教員名： 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		幼：教育職員免許法施行規則第6 6 条の6 に定める教科		
学習成果該当番号：3. 5. 6. 7. 8				
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】本講義では、①法的なものの見方・考え方、いわゆる「リーガル・マインド」を身につける、②憲法をはじめとする我国の主要な法律の概要・基本理念をおよび各法規間の関係を理解する、③実際の事例・判例を考察することにより、法的解決能力を身につける、ことを到達目標とします。 【テーマ】社会の複雑・多様化に対応して、法律の重要性は一層増しつつあるといえます。従って、法律の知識を積極的に身につけ、トラブルを未然に防止することが、快適な社会生活を営む上で、有効な手段の一つとなりうるといえるでしょう。本講義では、我国の法律の基本概念および我国の法体系の輪郭を学び、そのポイントを把握することをテーマとします。				
授業の概要：授業は講義形式で行います。なるべく皆さんの身近な問題、話題となった事件の解説等を取り入れ、映像資料等を使用することにより、わかりやすく面白い講義を行いたいと思います。講義中の事柄に限らず、日頃疑問に思っている法律問題等がありましたら、遠慮なく質問して学修に役立てて下さい。講義への積極的な参加を希望します。				
授業計画：				
回数	内容	準備学習		
第 1回	法の概念：規範としての法の必要性、法が主要な規範たる理由について学ぶ。	予習：講義レジュメの「法の概念」の箇所を読み、内容を把握しておく。疑問点については、参考書・インターネット等を利用して調べておく（60分）。		
第 2回	法の特質：行為規範、他律規範、強要規範としての法の特質について学ぶ。	予習：講義レジュメの「法の特質」の箇所を読み、内容を把握しておく。疑問点については、参考書・インターネット等を利用して調べておく（60分）。		
第 3回	法と他の規範との関係：法と道德・慣習・宗教等の規律との相違について学ぶ。	予習：講義レジュメの「法と他の規範」の箇所を読み、内容を把握しておく。疑問点については、参考書・インターネット等を利用して調べておく（60分）。		
第 4回	法の法源：法源（制定法・判例法・慣習法・条理）の種類とその役割、制定法・判例法主義の国について学ぶ。	予習：講義レジュメの「法源」の箇所を読み、内容を把握しておく。疑問点については、参考書・インターネット等を利用して調べておく（60分）。		
第 5回	法の体系：法の体系「憲法、法律、命令（政令・省令・条例）」について学ぶ。	予習：講義レジュメの「法の体系」の箇所を読み、内容を把握しておく。疑問点については、参考書・インターネット等を利用して調べておく（60分）。		
第 6回	法の分類：法の分類（公法と私法、実体法と手続法、普通法と特別法、強行法と任意法）について学ぶ。	予習：講義レジュメの「法の分類」の箇所を読み、内容を把握しておく。疑問点については、参考書・インターネット等を利用して調べておく（60分）。		
第 7回	法の解釈：法の解釈の必要性、法の解釈の種類（有権解釈、学理解釈、文理解釈、論理解釈）について学ぶ。	予習：講義レジュメの「法の解釈」の箇所を読み、内容を把握しておく。疑問点については、参考書・インターネット等を利用して調べておく（60分）。		
第 8回	国家と法①：個人の尊重—基本的人権の保障—（憲法）について学ぶ。	予習：講義レジュメの「憲法」の箇所を読み、内容を把握しておく。疑問点については、参考書・インターネット等を利用して調べておく（60分）。		
第 9回	国家と法②：国家の統治権・統治作用に関する	予習：講義レジュメの「憲法」の箇所を讀		

	る根本原則（憲法）について学ぶ。	み、内容を把握しておく。疑問点については、参考書・インターネット等を利用して調べておく（60分）。 予習：講義レジュメの「民法」の箇所を読み、内容を把握しておく。疑問点については、参考書・インターネット等を利用して調べておく（60分）。 予習：講義レジュメの「民法」の箇所を読み、内容を把握しておく。疑問点については、参考書・インターネット等を利用して調べておく（60分）。 予習：講義レジュメの「会社法」の箇所を読み、内容を把握しておく。疑問点については、参考書・インターネット等を利用して調べておく（60分）。 予習：講義レジュメの「商法」の箇所を読み、内容を把握しておく。疑問点については、参考書・インターネット等を利用して調べておく（60分）。 予習：講義レジュメの「刑法」の箇所を読み、内容を把握しておく。疑問点については、参考書・インターネット等を利用して調べておく（60分）。 予習：講義レジュメの「民事訴訟法・刑事訴訟法」の箇所を読み、内容を把握しておく。疑問点については、参考書・インターネット等を利用して調べておく（60分）。
第10回	財産と法：民法の第一編～第三編（総則、物権、債権）について学ぶ。	
第11回	家族と法：民法の第四編・第五編（親族・相続）について学ぶ。	
第12回	企業と法：会社制度の概要、会社の種類（合名会社・合資会社・合同会社・株式会社）と違い（会社法）について学ぶ。	
第13回	商取引と法：商取引の基本ルール（商法）について学ぶ。	
第14回	犯罪・刑罰と法：犯罪と刑罰の種類（刑法）について学ぶ。	
第15回	訴訟と法：裁判制度と訴訟手続き（民事訴訟法・刑事訴訟法）について学ぶ。	
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を実施します	
フィードバックの方法：		
テキスト：テキストは特に使用しません。講義レジュメと必要に応じて資料等を配布します。		
参考書・参考資料等：加藤一郎編著『現代法学入門』有斐閣、西村健一郎・西井正弘・初宿正典他著『判例法学』有斐閣、小野幸二編『現代社会と法』八千代出版、井上正仁他編『ポケット六法（令和4年度版）』有斐閣		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：成績評価の方法は、定期試験の成績（100％）で評価します。成績評価は、基本的な法的知識・思考力・理解力を身につけているか否かの観点から、「成績評価基準」に準拠して評価します。		

授業科目名：1100210311 心理学（選択） 1 年後期	必修：	単位数： 2単位	担当教員名：豊田 賀子 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：4. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 人間の心の仕組みや、心の働きと行動との関係を理解し、生活に役立てることを目標とする。 【テーマ】 ① 人と関わる際に役立つ考え方や心の仕組みを理解する。 ② 新しい行動を身につける仕組みを理解して実践する。 ③ 心理的不適応とその支援について理解する			
授業の概要：本講義は様々な領域にわたる心理学の基礎的な知識および知見の習得を目的とし、人間の心の仕組みや心の働きや行動等について理解し、日常の生活に役に立てることを目的とする。具体的には、行動心理学・認知心理学・社会心理学・臨床心理学の各分野について学習する。なお、本授業は、双方向型授業を基本とする。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	心理学とは何か	シラバスを読み、授業の内容を把握する（約60分）。	
第 2回	様々な心理学の各分野と方法論について	配布資料を確認し、予習・復習する（約60分）。	
第 3回	行動心理学（1）古典的条件づけ、オペラント条件づけ	配布資料を確認し、予習・復習する（約60分）。	
第 4回	行動心理学（2）動機づけと欲求	配布資料を確認し、予習・復習する（約 60 分）。	
第 5回	認知心理学 記憶の過程、長期記憶と忘却	配布資料を確認し、予習・復習する（約60分）。	
第 6回	社会心理学（1）社会的行動、個人や他者との関わり	配布資料を確認し、予習・復習する（約60分）。	
第 7回	社会心理学（2）集団・社会の中の個人	配布資料を確認し、予習・復習する（約60分）。	
第 8回	臨床心理学（1）パーソナリティと適応	ワークシートを記入し、配布資料を確認、予習・復習する（約60分）。	
第 9回	臨床心理学（2）ストレスと反応	ワークシートを記入し、配布資料を確認、予習・復習する（約60分）。	
第10回	臨床心理学（3）不適応に基づく障害	配布資料を確認し、予習・復習する（約60分）。	
第11回	臨床心理学（4）心理的援助の方法	配布資料を確認し、予習・復習する（約60分）。	
第12回	乳幼児期における心理的障害の理解	ワークシートを記入し、配布資料を確認、予習・復習する（約60分）。	
第13回	児童期・青年期における心理的障害の	配布資料を確認し、予習・復習する（約60分）。	

理解		
第14回	青年期から老年期における心理的障害の理解	配布資料を確認し、予習・復習する（約60分）。
第15回	まとめと振り返り	第1回目～第14回目までの配布資料について復習する（60分）。
定期試験	レポート課題	
フィードバックの方法：グループディスカッションなどを通じて、随時フィードバックを行う。		
テキスト：なし		
参考書・参考資料等：テーマに合わせた資料を配布し、参考書はその都度紹介する。		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：・定時試験期間中を提出締切レポート提出をもって 定時試験とする（このレポートにはコメントを付して返却する）、提出物と授業態度（40％）で、総合的に判断し評価する。		

授業科目名：1100010412 公務員試験対策講座（選択） 1年後期		必修：	単位数： 1単位	担当教員名：津布楽 杏里 他 担当形態：演習 オムニバス
施行規則等に定める 科目区分又は事項等				
学習成果該当番号：1. 4. 6. 7				
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 公務員採用試験（保育士及び一般職）に必要な基礎的知識の修得を目標とする。教養試験・専門試験の内容を中心に取り組み、広い教養を身につけ、公務員試験の合格を目指す。 【テーマ】 公務員採用試験本番を見据えた練習問題に取り組んでいく。教養試験については解説を行い、理解の定着を目指す。また、就職課とも連携し公務員保育士についての理解を深める。				
授業の概要：本授業は公務員（主に保育士）を志望する学生を対象とする。公務員採用試験の合格を最終目標とし、そのために必要な内容に取り組む。一般教養・保育士専門・小論文・面接・履歴書・志願書の書き方などについて理解を深めていく。特に、教養試験に関する問題に多く取り組む。多くの過去問題に取り組むことで試験内容に慣れ、苦手意識の克服を目指す。				
授業計画：				
回数	内容	準備学習		
第1回	授業内容についてのオリエンテーション。受験希望自治体の試験内容を確認する。	予習：シラバス及びテキスト内容の確認。公務員（保育士）について調べ、受験希望自治体の試験内容について調べる。（30分） 復習：本授業内容について理解する。複数の受験希望自治体について試験内容を確認し問題集に取り組んでみる。（30分）		
第2回	文章理解分野の考え方を理解し課題に取り組む。教養試験対策。	予習：文章理解分野について理解を深める。（30分） 復習：文章理解分野の過去問題に取り組む。（30分）		
第3回	数的推理分野の考え方を理解し課題に取り組む。教養試験対策。	予習：数的推理分野について理解を深める。（30分） 復習：数的推理分野の過去問題に取り組む。（30分）		
第4回	判断推理分野の考え方を理解し課題に取り組む。教養試験対策。	予習：判断推理分野について理解を深める。（30分） 復習：判断推理分野の過去問題に取り組む。（30分）		
第5回	資料解釈分野の考え方を理解し課題に取り組む。教養試験対策。	予習：資料解釈分野について理解を深める。（30分） 復習：資料解釈分野の過去問題に取り組む。（30分）		
第6回	社会科学分野の考え方を理解し課題に取り組む。教養試験対策。	予習：社会科学分野について理解を深める。（30分） 復習：社会科学分野の過去問題に取り組む。（30分）		
第7回	人文科学分野の考え方を理解し課題に取り組む。教養試験対策。	予習：人文科学分野について理解を深める。（30分） 復習：人文科学分野の過去問題に取り組む。（30分）		
第8回	自然科学分野の考え方を理解し課題に取り組む。教養試験対策。	予習：自然科学分野について理解を深める。（30分） 復習：自然科学分野の過去問題に取り組む。（30分）		
第9回	保育原理、教育原理、社会的養護の考え方を理解し課題に取り組む。専門試験対策。	予習：保育原理、教育原理、社会的養護について理解を深める。（30分） 復習：保育原理、教育原理、社会的養護の過去問題に取り組む。（30分）		
第10回	児童家庭福祉、社会福祉、保育の心理学の考え方を理解し課題に取り組む。専門試験対策。	予習：児童家庭福祉、社会福祉、保育の心理学について理解を深める。（30分） 復習：児童家庭福祉、社会福祉、保育の心理学の過去問題に取り組む。（30分）		
第11回	子どもの保健、子どもの食と栄養、家庭支援論の考え方を理解し課題に取り組む。専門試験対策。	予習：子どもの保健、子どもの食と栄養、家庭支援論について理解を深める。（30分） 復習：子どもの保健、子どもの食と栄養、家庭支援論の過去問題に取り組む。（30分）		
第12回	保育内容、乳児保育、障害児保育、保育実習の考え方を理解し課題に取り組む。専門試験対策。	予習：保育内容、乳児保育、障害児保育、保育実習について理解を深める。（30分） 復習：保育内容、乳児保育、障害児保育、保育実習の過去問題に取り組む。（30分）		

第13回	小論文の課題に取り組む。	予習：小論文の書き方について理解する。（30分） 復習：過去の小論文題目を知り、その内容について考えを深める。（30分）
第14回	個人・集団面接、集団討論の練習を行う。	予習：さまざまな面接形態を知り、自己アピールについて考えをまとめる。（30分） 復習：受験希望自治体の過去に行われた面接内容を確認し考えを深める。（30分）
第15回	履歴書、志願書等の書き方について学ぶ。	予習：これまでの学校生活を振り返り自己アピールについて考えをまとめる。（30分） 復習：受験希望自治体の志願書について知り、実際に書いてみる。（30分）
定期試験	定期試験期間中を締切とするレポート課題を実施する。	
フィードバックの方法：第2回から第12回授業において行った過去問題等の解説・添削を行う。		
テキスト：毎授業でプリントを配付する。		
参考書・参考資料等：『スイスイわかる保育士採用 教養試験問題集』（TAC 出版） 『保育所保育指針解説』厚生労働省 編（フレーベル館）		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：毎授業の取り組み（80%）、レポート課題（20%）で評価を行う。		

授業科目名：1100210511 ソルフェージュ（選択） 1 年前期	必修：	単位数： 1単位	担当教員名：桑原 章寧 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：1. 2. 3. 6. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ジャズアレンジの課題曲の歌唱活動を中心としたソルフェージュを通してト音記号、ヘ音記号による楽譜の読譜ができることを目標とする。またリズム譜における複雑なリズムや分割されたリズムを実際の打楽器を用いて演奏することで、その理解を深める。 【テーマ】 楽譜の読譜と初見視唱力と初見視奏力の向上			
授業の概要：合唱曲による各声部の演奏を通して楽譜の読み方を理解する。また実際に出された音やリズムを楽譜に書き表す活動を通して、臨時記号やアーティキュレーション（音と音のつながり方）に関する記号、スタカートやアクセント、スラーなどの適切な記述を習得する。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	ト音記号とヘ音記号の楽譜の読み方その 1（幼稚園でよく扱われる曲を中心にした視唱） 参考曲：ちゅうりっぷ、ぶんぶんぶん、きらきら星、おべんとう、おはよう（ヘ音記号については左手の伴奏譜の視唱）	準備学習として、毎回テキストからソルフェージュに関する課題を提示し、授業内で視唱する。（6 0分） （ト音記号とヘ音記号の楽譜の読み方を練習し、あまり読み慣れていないヘ音記号に慣れるため階名唱する。個別に聴き能力に併せて課題を出す。）	
第 2回	ト音記号とヘ音記号の楽譜の読み方その 2（上線と下線）プリント回答配布と答え合わせ	プリントによる上線と下線の位置の階名記述問題(6 0分)答え合わせによるフィードバック	
第 3回	ト音記号とヘ音記号の楽譜の読み方その 3（臨時記号と奏法を指示する用語記号）プリント回答配布と解説	プリントによる臨時記号と奏法を指示する用語記号の問題（6 0分）	
第 4回	音程、純正律（長 3 度と短 3 度音程について）プリント回答配布と解説、コールユンゲンによる音程練習	プリントによる音程問題（7 0分）	
第 5回	リズムの読み方(四分音符と八分音符および休符について）プリント回答配布とリズム唱、即興リズムの練習	リズムの分割、拡大と音価(音の長さ)に関するプリント問題（7 0分）	
第 6回	リズムの読み方（付点八分音符と十六分音符および休符について）プリント回答配布とリズム唱の練習	付点リズムの音価に関するプリント問題(6 0分)	
第 7回	リズムの読み方（シンコペーションのリズムについて）プリント回答配布とシンコペーションの楽譜のリズム唱練習	シンコペーションに関するプリント問題(6 0分)	
第 8回	2 声の合唱曲(音の重なりについて) 事前学習で練習したパートのどちらかをペアになって合わせる。	2 声の課題楽譜を見てどちらのパートも歌えるように練習（6 0分）	
第 9回	3 声の合唱曲(音の重なりと役割について) 事前学習で練習したパートのいずれかを 3 人グループで合わせる。	3 声の課題楽譜を見ていずれのパートも歌えるように練習（6 0分）	
第10回	4 声の合唱曲(音の重なりと役割、声量のバランスについて)事前学習で練習したパートのいずれかを 4 人グループで合わせる練習	4 声の課題楽譜を見ていずれのパートも歌えるように練習（6 0分）	
第11回	4 声の合唱曲（デュナーミク・強弱法について）	課題楽譜を見て強弱のつけ方を工夫して歌う練習(6 0分)	

第12回	4声の合唱曲（アゴーギグ・速度法について） 事前学習で工夫したアゴーギグを実際に歌う中で活かして練習する。より適切なアゴーギグのつけ方についていろいろと試す中で見つける。わからない時は実際に指導者が歌いその違いについて感じ取る。	課題楽譜を見てアゴーギグ（速度を微妙に速めたり遅めたりする方法）のつけ方を工夫して練習する。（60分）
第13回	4声の合唱曲発表 各グループで練習した曲を発表しあう。	グループで発表に向けて練習する。（90分）
第14回	伴奏法（呼吸によるアインザッツの合わせ方） 練習したコードによる簡易伴奏を弾き歌の伴奏をする。実際にアインザッツ（歌いはじめ）の合わせ方を練習する。	左手は根音（ベースとなる音）右手でコードを弾くスタイルの楽譜の練習（90分）
第15回	伴奏法（ピアノと合唱の役割とバランス） コードによる簡易伴奏で合唱の練習をする。（実技試験） 伴奏法と歌唱法における実技をこれまでの学習内容（デュナーミク、アゴーギグ、アインザッツ他）を活かした演奏となっているか評価する。学生間でも相互評価を行い、評価票をまとめて学生に返却。	前時に用いた練習曲でアゴーギグやデュナーミクを意識した伴奏を練習する。（90分）
定期試験	あり 楽典に関する筆記試験（音価に関する記号、強弱・速度に関する記号、演奏に関する記号）	
フィードバックの方法：		
テキスト：ジャズコーラス『ディズニー名曲集』ヤマハミュージックメディアより適宜プリントし配布		
参考書・参考資料等：『音楽家の基礎練習』音楽の友社、『『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『新ソルフェージュ単声～多声のリズムやメロディーと伴奏付き視唱』教育芸術社		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：筆記による定期試験（30％）と毎授業での取り組み授業前後での実技向上の割合（20％）、及び授業最終回での実技試験（50％）から評価する。		

授業科目名：1100210611 障害者スポーツ 1 年前期	必修：	単位数： 1単位	担当教員名：岩井 幸博 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：1. 3. 5. 6			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 ・ 障害者スポーツ種目のルールを理解し、技能を高める ・ 障害者スポーツの意義や理念などを理解し、説明できる ・ パラリンピック、デフリンピック、スペシャルオリンピックスについて説明できる 【テーマ】 障害者スポーツの意義や理念を理解し、障害者スポーツとして実施されている各種目を実技形式で学ぶ。			
授業の概要： 障害者スポーツの意義や理念、成り立ち等を講義し、障害者スポーツとして実施されている各種目を実技形式で学ぶ。実技を通して障害者スポーツに親しみ、その楽しさ・面白さを経験する。また、障害に合わせた用具やルールの工夫などについて理解を深め、支援の仕方を身につけるとともに今後の障害者スポーツへの関わり方を考える。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	オリエンテーション ・ 障害者スポーツについてディスカッションする	興味のある障害者スポーツについて事前に調べておく (60 分)	
第 2回	風船バレーボール ・ いろいろな姿勢でボールをつく動作を楽しむ (立位や座位)	風船バレーボールで使用する用具やルールなどを事前に調べる (60 分)	
第 3回	シットボール ・ ルールを理解し、様々なボールで試合を実施する	シットボールのルールや映像を調べ、確認する (60 分)	
第 4回	シッティングバレーボール ・ ルールと基礎技能を確認し、試合を実施する	シッティングバレーボールのルールや映像を調べ、確認する (60 分)	
第 5回	ボッチャ① ・ 用具、ルールを確認する チーム戦を行う	ボッチャのルールを調べる (60 分)	
第 6回	ボッチャ② ・ いろいろな投球方法を身につける 個人戦を行う	どのような投球方法があるか、調べる (60 分)	
第 7回	ボッチャ③ ・ ゲームを通して他者と交流する 審判法を理解する	個人戦、団体戦の映像を視聴する (60 分)	
第 8回	フライングディスク① ・ スローの技術を確認し、ストレート、カーブ、スキップスローなどの技術を習得する。	フライングディスクについて調べる (60 分)	
第 9回	フライングディスク② ・ アキュラシー・ディスタンスを体験する	フライングディスクの競技について調べる (60 分)	
第10回	ラダーゲッター ・ 用具、ルールを確認し、投げる遊びを体験する	ラダーゲッターの用具、ルールを調べる (60 分)	
第11回	ブラインドサッカー① ・ アイマスクを着用し、サッカーの基本技能を確認する	ブラインドサッカーのルールを調べる (60 分)	
第12回	ブラインドサッカー② ・ アイマスク着用の上、試合を実施する	見えない中で何を頼りに動くのか、考える (60 分)	
第13回	ユニバーサルホッケー、シェーズホッケー、スティックホッケー	ユニバーサルホッケー、シェーズホッケーのルールや映像を	

・用具、ルールの確認と試合を実施する 第14回 車椅子を使ったスポーツの体験【スラローム】 ・車椅子の操作技術を学ぶ 車椅子スラローム、バスケット、バドミントンなどのルールを確認し、実践する 第15回 授業の振り返りとまとめ ・これまでの種目をすべて実施し、振り返りを行う ・各自授業の感想を発表し、ディスカッションを行う 定期試験 レポート課題として授業の振り返りとまとめを提示する。	確認する (60 分) 車椅子を使用したスポーツについて調べる (60 分) 各回で取り扱った種目について感想をまとめておく (60 分)
フィードバックの方法：毎回の授業の最後に感想を述べ、感想に対してコメントする。 レポート課題にはコメントを付して返却する。 遠隔授業の場合：状況によっては遠隔授業に切り替える場合がある。その場合は、Microsoft Teams を使用して、リアルタイムまたはオンデマンド型で実施する。	
テキスト：なし	
参考書・参考資料等： ・『障害者スポーツ指導教本―初級・中級』日本障害者スポーツ協会（編集） ・公益財団法人 日本障害者スポーツ協会ホームページ	
オープンな教育リソース：	
学生に対する評価： 授業運営への積極的な参加、受講態度（60％）：観察によって評価する。 障害者スポーツのルールの理解度（30％）：各種障害者スポーツのルールなどを把握しているか試合を通して評価する レポート課題（10％）：レポート内容を評価する	

授業科目名：1100210711 海外幼児教育短期留学（選択） 1・2年前期		必修：	単位数： 1単位	担当教員名：笹尾 雅美 担当形態：演習 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等				
学習成果該当番号：1. 3. 4. 5. 6. 7. 8				
授業の到達目標及びテーマ：				
【到達目標】				
1. オーストラリアの語学学校に短期留学することにより、英語の読む・聞く・話すスキルの上達と、実際の生活の中で英会話を実践することにより、英語のコミュニケーションスキルを身につける。				
2. 保育に関する特別講義と託児所や小学校の見学・文化研修に関する演習を行うことにより、オーストラリアの保育現場の理解を深める。				
【テーマ】				
1. 海外留学を通じて幼児教育の視野を広げ、多文化理解を深める。				
授業の概要：				
1. 出発前の事前指導において、渡航の準備、海外での生活や多文化理解について学ぶ。				
2. 提携校のプログラムに参加することにより、英語研修とオーストラリアの幼児教育について総合的に学ぶ。託児所等の訪問やホームステイなどを体験的に学ぶ。				
3. 帰国後の事後指導において、振り返りを行うことにより、英語学習とオーストラリアの幼児教育に関する理解の定着とグローバルな視点を養う。				
授業計画：				
回数	内容			準備学習
第 1回	出発前の事前指導①：オーストラリア研修の概要を把握する。小テストを実施する。			オーストラリアについて下調べをする。（60分）
第 2回	出発前の事前指導②：多文化社会における保育・幼児教育について理解する。小テストのフィードバックをする。			オーストラリアの保育・幼児教育について下調べをする。（60分）
第 3回	オリエンテーション：短期留学における研修目的と日程、及び研修内容の確認、インターネットアクセスの設定、ホームステイなどの注意事項を確認する。			英語で自己紹介や日常動作を伝えられるように準備する。（60分）
第 4回	グリフィス大学にて、歓迎式とオリエンテーション、諸手続きの説明とIDカード用の写真撮影、キャンパスツアー			
第 5回	午前：英語研修 午後：託児所訪問			
第 6回	午前：英語研修 午後：特別講義「オーストラリアの幼児教育について」			
第 7回	午前：英語研修 午後：英語研修			
第 8回	午前：英語研修 午後：自由研修			
第 9回	午前・午後：カランビン野生保護センター訪問（動物園）			
第10回	ホームステイ先の家族と自由行動			
第11回	午前：英語研修 午後：現地小学校訪問			
第12回	午前：LOGAN CITY SPECIAL SCHOOL 訪問 午後：アボリジニ文化研修			
第13回	午前：英語研修 午後：「オーストラリアの幼児教育について」			
第14回	帰国後の事後指導①：オーストラリア研修の振り返りを行い、英語研修・幼児教育に関する講義・託児所等訪問・ホームステイ体験に関する発表会を行い、講評する。			短期留学の経験を振り返り発表会の準備をする。（120分）
第15回	帰国後の事後指導②：海外幼児教育短期留学の経験に基づ			オーストラリア短期留学を

試験	いてレポート作成・小テストを行う。 現地研修終了時の試験成績、研修後の発表、レポート、小テストを定期試験とする。	テーマに、レポート作成の準備をする（90分）
フィードバックの方法：		
テキスト：なし（授業の中で、適宜資料を配布する）		
参考資料等：外務省～海外旅行のトラブル回避マニュアル～海外安全虎の巻		
オープンな教育リソース:文部科学省「5分でわかる！留学安全対策動画 byトビタテ！留学 JAPAN https://www.youtube.com/watch?v=5OjDzu2ZISg		
学生に対する評価：1～3を総合して評価する 1. 事前指導における取り組みと準備学習 10% 2. 研修全日程の修了（修了した者に対して、提携校より修了証が授与される） 80% 3. 事後指導における発表、レポート、小テスト 10%		

授業科目名：1211110811 体育講義 1 年前期	必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：岩井 幸博 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：教養教育科目 体育 幼：教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める教科 保：教養科目 体育		
学習成果該当番号：1. 4. 5. 6			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ・生涯の運動・スポーツライフを考えることができる。 ・運動遊びやスポーツが子どもにどう影響するかを学び、保育者として人に説明できる。 ・子どもに適した運動を考えることができる。 【テーマ】 運動やスポーツに関する事柄を①自分自身のこととして、②親・保育者として、③子どもとして、の三つの視点から学ぶ。また生涯を健康に過ごすためには運動が重要であることを理解し、その意識を高める。			
授業の概要： 生涯スポーツや障害者スポーツについて映像を元に講義する。運動やスポーツについては幅広く取り扱い、その内容を自分自身、親・保育者、子ども、の三つの視点から捉える。体育実技の授業内容ともリンクさせ、体育実技で撮影した動きの映像観察を通して運動する自分を客観視し、改善を図る。また運動会や体育祭などの歴史や意義について理解し、行事である体育祭種目の企画立案などを行う。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	オリエンテーション ・運動経験振り返りシートを作成する	自身の幼児期から現在までの運動経験を振り返る（60 分）	
第 2回	現在の生活習慣について・障害者スポーツの紹介① ・前回運動経験振り返りシートについてフィードバックする ・自己と他者の生活習慣の比較を行い、改善できる習慣を探る ・障害者スポーツの理念と意義を理解する	障害者スポーツとは何か調べる（60 分）	
第 3回	運動の好き嫌いについて・障害者スポーツの紹介② ・運動経験振り返りシートを用いて、自己と他者の運動の好き嫌いの理由等を比較し、理解する。 ・障害者スポーツの競技の種類やルールについて理解する ・障害者スポーツ大会のボランティアについて説明する	これまでの経験から自分自身の障害者スポーツとの関わりを振り返る（60 分）	
第 4回	オリンピック・パラリンピックについて ・歴史や起源、競技の種類や開催地等を知る	オリンピック、パラリンピックの歴史について調べる（60 分）	
第 5回	体力と運動能力について ・体力と運動能力の定義とは何かを知る ・一般的な人の体力・運動能力とアスリートの体力・運動能力との比較から、人間の身体について理解する	体力・運動能力とは何か、自分の考えをまとめる（60 分）	
第 6回	現代の子ども、大人の体力について① ・大人のからだの問題とは	これから年齢を重ねるにあたって起こるからだの問題を考えておく（60 分）	
第 7回	現代の子ども、大人の体力について② ・子どものからだの問題 子どもの体力、食事、睡眠について ・日本だけでなく世界でも問題に？グローバルな視点で捉える	現代の子どものからだのおかしさとは何か、日本だけかあるいは世界共通かを調べる（60 分）	

第8回	運動神経が良い悪いとは何か？ ・映像を元に運動ができる・できないについて考える（レスポンスシートに記入し、提出する）	運動神経が良い悪いとは何かを考える（60分）
第9回	運動するための基本的動作について ・前回レスポンスシートについてコメントし、フィードバックする ・幼児期に経験しておきたい基本的な動作とは何かを理解する	基本的な動作とは何かを調べる（60分）
第10回	運動会・体育祭の起源と意義について ・運動会、体育祭は必要か ・運動会・体育祭の運営と種目の企画 ・体育祭種目の企画書を練り、提出する	運動会、体育祭種目を考える（60分）
第11回	運動時の音楽について ・運動時の音楽の効果 ・幼児向けの曲について ・音楽の収集、管理、編集について	自分が運動時に聞きたい音楽はどんなものか？幼児だったらどんな音楽が適切かを考える（60分）
第12回	いろいろなスポーツ種目について ・第11回に提出した体育祭種目の企画書についてフィードバックする ・ニュースポーツの紹介	いままで経験したことのないスポーツ種目について調べる（60分）
第13回	自分自身の動きの客観視① ・体育実技における幼児ダンステストの映像観察 映像を観察し、自己分析を行う レスポンスシートに記入し提出する	体育実技における幼児ダンスのテストを受けた感想をまとめておく（60分）
第14回	自分自身の動きの客観視② ・体育実技における幼児ダンステストの映像観察 映像を観察し、自己分析を行う レスポンスシートに記入し提出する	体育実技における幼児ダンスのテストを受けた感想をまとめておく（60分）
第15回	授業の振り返りとまとめ ・第13・14回のレスポンスシートについてフィードバックする ・授業の振り返りとまとめを行う ・レポート課題の内容を提示する	各回で取り上げた内容について復習する（60分）
定期試験	第15回に提示するレポート課題を試験期間最終日までに提出とする。	
フィードバックの方法： ・毎回の授業の感想やレスポンスカードをまとめて、Microsoft Teamsを使用して全員に共有し、口頭でコメントする。 ・レポート課題は採点次第、コメントを付して返却する		
ICT活用について： 学生自身のスマートフォンを用いて、双方向型の授業（アンケートやホワイトボードの活用等）を実施する。		
遠隔授業の場合： 状況によっては遠隔授業に切り替える場合がある。Microsoft Teamsを使用して、リアルタイムまたはオンデマンド型で実施する。		
テキスト： ・適宜プリント等資料を配布する。		
参考書・参考資料等： ・『子どもに体力をとりもどそう』宮下充正著、杏林書院、 ・『幼児期運動指針ガイドブック』文部科学省		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価： ・授業に積極的に取り組む態度等の評価（15％）：観察によって評価する ・各回の課題評価（25％）：提出物の内容によって評価する ・レポート内容の評価（60％）：第15回に提示するレポートの提出および内容によって評価する		

授業科目名：1211110912 体育実技 1 年前期	必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：岩井 幸博 担当形態：実技 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：教養科目 体育 幼：教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める教科 保：教養科目 体育		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 6. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ・生涯にわたって運動やスポーツに親しめる力を身につける。 ・仲間とコミュニケーションを取り、身体を動かす心地よさ、楽しさを感じることができる。 ・恥ずかしがらずに身体表現することができる。 【テーマ】 ・いろいろな運動遊びやスポーツ種目、伝承遊びなどを実践する。 ・運動やスポーツを通して、他者とコミュニケーションを取る。 ・毎回保育現場で踊る幼児ダンスを習得する。			
授業の概要： 人生を健康で豊かに過ごす為には、運動習慣が不可欠である。体育実技では、生涯を通して運動する習慣を身につける為に、さまざまな運動やスポーツ種目に取り組み、仲間と共にからだを動かす心地よさ、楽しさを体感する。その経験を今後の日常生活の運動習慣の形成につなげる。また、保育者養成の観点から子どもに運動の楽しさを伝えることができる人物の育成を目指す。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	ガイダンス（授業概要・注意事項説明）・幼児ダンス① ・体育実技で大切にすること、体育館の使い方等を理解する。 ・運動遊びを介して仲間と交流する。 ・『ぼくのミックスジュース』を踊る	教科書pp48-50、『ぼくのミックスジュース』のダンスを振り起こす (60分)	
第 2回	幼児ダンス②・基本ステップ・ソフトバレーボール① ・前回ダンスを復習で踊る ・『あ・い・う・え・おにぎり』を踊る ・基本ステップを習得する (歩、ギャロップ、スキップ) ・ソフトバレーボール① 基本的な技能を確認する	教科書 pp31-35、『あ・い・う・え・おにぎり』のダンスを振り起こす (60 分)	
第 3回	幼児ダンス③・基本ステップ②・ソフトバレーボール② ・前々回、前回ダンスを復習で踊る ・『すきすきおかあさん』を踊る ・基本ステップを習得する ・ソフトバレーボール② ラリーを続ける (ビーチボールを使用する)	教科書pp136-138、『すきすきおかあさん』のダンスを振り起こす (20分)	
第 4回	幼児ダンス④・お手玉①・ソフトバレーボール③ ・前々回、前回ダンスを復習で踊る ・『アイアイ』を踊る ・伝承遊び お手玉①よせ玉 拾い技、ゆり玉 振り技を理解する ・ソフトバレーボール③ 試合を行う	教科書pp56-59、『アイアイ』のダンスを振り起こす (60分)	
第 5回	幼児ダンス⑤・お手玉②・ソフトバレーボール④ ・前々回、前回ダンスを復習で踊る ・『ドレミの歌』を踊る ・伝承遊び お手玉② 3つ玉ジャグリングを練習する ・ソフトバレーボール④ 試合を行う	教科書pp96-100、『ドレミの歌』のダンスを振り起こす (60分)	
第 6回	幼児ダンス⑥・お手玉③・バスケットボール① ・前々回、前回ダンスを復習で踊る	教科書pp104-107、『ほしぞらカーニバル』のダンスを振り起こす	

	・『ほしぞらカーニバル』を踊る ・伝承遊び お手玉④ ジャグリングの練習をする ・バスケットボール① 基本的な技能（ドリブル、パス、シュート）を遊びの中で習得する	り起こす（60分）
第7回	幼児ダンス⑦・長なわとび①・バスケットボール② ・前々回、前回ダンスを復習で踊る ・『虫歯建設株式会社』を踊る ・長なわとび① むかえなわ、かぶりなわ ・バスケットボール② 基本的な技能を活用する	教科書pp108-111、『虫歯建設株式会社』のダンスを振り起こす（60分）
第8回	幼児ダンス⑧・長なわとび②・バスケットボール③ ・前々回、前回ダンスを復習で踊る ・『ドラネコ・ロックン・ロール』を踊る ・長なわとび② むかえなわ8の字跳び、ダブルダッチを経験する	教科書pp75-79、『ドラネコ・ロックン・ロール』のダンスを振り起こす（60分）
第9回	幼児ダンス⑨・長なわとび③・サッカー① ・前々回、前回ダンスを復習で踊る ・『おさかな天国』を踊る ・長なわとび③ 回し手を経験する ・サッカー① 蹴る遊び、ボールを蹴る、止める動作を理解する。スライドサッカーを実施する	教科書pp40-43、『おさかな天国』のダンスを振り起こす（60分）
第10回	幼児ダンス⑩・長なわとび④・サッカー② ・前々回、前回ダンスを復習で踊る ・『ぼくらのロコモーション』を踊る ・長なわとび④ いろいろな跳び方をする ・サッカー② 蹴る遊び、パスを主とした試合を行う	準備学習：教科書pp112-115、『ぼくらのロコモーション』のダンスを振り起こす（60分）
第11回	幼児ダンス⑪・サッカー③ ・前々回、前回ダンスを復習で踊る ・『アイスクリームのうた』を踊る ・サッカー③ 試合を行う	教科書pp18-21、『アイスクリームのうた』のダンスを振り起こす（60分）
第12回	プレイソングテスト全11曲・ドッジボール ・前々回、前回ダンスを復習で踊る ・プレイソングテスト全11曲(自己評価シートの記入) ・幼児ダンスの習得度をテストする ・ドッジボール ルールの確認と試合	今まで習ったダンスの振り付けを確認、練習する。振り付けは、教科書、共有ドライブの映像教材を活用するとよい（60分）
第13回	体育祭種目の企画と実施① ・過去の体育祭種目の実施① ・学生が企画した体育祭種目の練習	今まで経験してきた運動会・体育祭種目を振り返る（60分）
第14回	体育祭種目の企画と実施② ・過去の体育祭種目の実施② ・学生が企画した体育祭種目の練習	前回実施した種目内容を振り返り、ルールの改善点などを考える（60分）
第15回	体育祭種目の練習と授業の振り返り ・体育祭種目の練習、授業の振り返りを行う ・授業評価アンケート	体育祭種目実施上の注意点や作戦などを考える（60分）
定期試験	前期体育実技の授業内容を振り返り、レポート提出を前期試験期間に課す。	
フィードバックの方法： ・実技課題に関しては観察し、即時口頭でフィードバックする。 ・幼児ダンスのテストについては、終了後に振り返りを行い全体に対してコメントする。 ・レポート課題はTeamsで提出することとし、コメントを付して返却する。受講者からの振り返りは匿名でPDFにまとめ、公表する。		
ICT活用について：自主学習支援としてテスト映像はMicrosoft streamにアップロードし、受講生は		

いつでも閲覧できるようにする。スマートフォン、タブレット、パソコンから各自アクセスすることで、復習や振り返りを行えるように設定する。また、テストまでのダンスについては、昨年の様子や映像教材を視聴できるように Microsoft stream にアップロードする。受講生はいつでも映像を確認、視聴し予習、復習できるようにする。

遠隔授業の場合：状況によっては遠隔授業に切り替える場合がある。Microsoft Teamsを使用して、リアルタイムまたはオンデマンド型で実施する。

テキスト：・『プレイソング2』 田中(賀来)良江・豊田泰代著、チャイルド本社

参考書・参考資料等：

- ・幼児ダンスや運動遊び系の書籍（本学図書館で借りられます）
- ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省
- ・『保育所保育指針解説』厚生労働省
- ・参考資料として、幼児ダンスの映像教材を Microsoft stream にアップロードする。受講生はスマートフォン、タブレット、パソコンから閲覧することで幼児ダンスの予習・復習を行えるように設定する。

オープンな教育リソース：

学生に対する評価：

- ・授業に積極的に参加する意欲や態度（45％）：毎回の授業において観察によって評価する
- ・幼児ダンステストの評価（35％）：第12回授業時にテストする。評価は、振りを覚えているか、恥ずかしがらずに身体表現できているか、子どもの前で踊れるか等を観察によって評価する
- ・実技課題お手玉のジャグリングの評価（10％）：課題への取り組みを回数や動きの観察によって評価する
- ・レポート内容の評価（10％）：第15回に授業の振り返りを行い、前期試験期間中に提出を課すレポートの内容を評価する

授業科目名：1311111012 英語コミュニケーションⅠ 1年後期		必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：奥 明子、猪俣 佳瑞美 担当形態：演習 オムニバス
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		卒：教養教育科目 語学 幼：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める教科 保：教養科目 外国語		
学習成果該当番号：5				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】英語を学ぶことを通して、他国の人や文化を尊重しグローバルな視点で、子ども、職場への理解を深めることを目標とする。 【テーマ】日常英会話として役立つ英語表現を身につけるために、保育園や幼稚園での実際の英語使用場面を想定しながら英語の基礎を学ぶ。				
授業の概要： テキスト『Happy English for Childcare：保育のための基礎英語』を使用し、基本的に1 Unitを2回の授業で扱う。1回目には主に、リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習を行い、2回目の授業では主に、英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習を実施する。準備学習として、指定箇所を目を通し、知らない単語の意味を調べておくこと。また授業後には復習をしっかりと行うこと。				
授業計画：授業には、必ず英和辞書を持参してください。 全ての講義は、学生参加型のアクティブ・ラーニング形式で行う。そのため、学生はペアやグループに与えられたタスク（課題）に挑戦し、導き出した答えをクラス全体に発表する、という活動に取り組む。そのため、主体的かつ積極的に講義に参加することが期待される。講義内で実施した課題の発表に対して、講師はフィードバックを行い、英語に関する理解が深められるようアドバイスを行う。				
回数	内容			準備学習
第1回	オリエンテーション 授業の説明 Pre-unit Please Speak More Slowly 挨拶・自己紹介 英語でコミュニケーションをするときの基本表現を学ぶ			60分：p1-3 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第2回	Unit1-1 Hi, I'm Yuri Tanaka 人に何かを頼む表現 保育時間の表現などを学ぶ リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習			60分：p4-5 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第3回	Unit1-2 Hi, I'm Yuri Tanaka 人に何かを頼む表現 保育時間の表現などを学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習、講師からのフィードバック			60分：p6-7 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第4回	Unit2-1 Where Is the Multi-purpose Room? 園内の案内 位置を伝える表現を学ぶ リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習			60分：p9-10 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第5回	Unit2-2 Where Is the Multi-purpose Room? 園の構成員 戸外での道案内を学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習、講師からのフィードバック 『英語クリスマスカード』作成の説明			60分：p11-12 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第6回	Unit3-1 Good Morning. How Are You Today? 登園時の会話 今日の調子を聞く・答える表現を学ぶ リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習			60分：p14-15 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第7回	Unit3-2 Good Morning. How Are You Today? 持ち物 数字 手遊び歌を学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英語による歌の練習			60分：p16-17 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第8回	Unit4-1 What Color Do You Like? 工作時間の会話 好きなもの／嫌いなものを聞く whatの表			60分：p19-20 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと

第9回	現 リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習 『英語クリスマスカード』の回収 Unit4-2 What Color Do You Like?	60分：p21-23 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第10回	工作やお絵かきで使う道具に関する英語を学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習、講師からのフィードバック Unit5-1 There's a Ladybug on the Leaf	60分：p24-25 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第11回	園外散歩での会話 場所を表す表現を学ぶ リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習 Unit5-2 There's a Ladybug on the Leaf	60分：p26-27 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第12回	集団で行う園活動 教室内のものの場所を示す英語を学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習、講師からのフィードバック Unit6-1 It's Time to Play Outside	60分：p29-30 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第13回	園庭での会話 人に何かするよう／しないように言う表現を学ぶ リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習 Unit6-2 It's Time to Play Outside	60分：p31-33 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第14回	遊具の名前を示す英語を学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習、講師からのフィードバック Unit1-3までのまとめ 小テスト 答え合わせ後に解説	60分：授業で扱ったunit1-3内容を見直し、不明な点があれば質問できるようにしておくこと 結果に対し、講師からのフィードバックを行う
第15回	Unit4-6までのまとめ 定期試験について	60分：授業で扱ったunit4-6内容を見直し、不明な点があれば質問できるようにしておくこと
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を課す	
フィードバックの方法：		
テキスト：『Happy English for Childcare：保育のための基礎英語』（土屋麻衣子 著） 金星堂		
参考書・参考資料等：必要に応じてプリントを配布する		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価： 作品提出20%、定期試験40%・小テスト30%、授業態度10%で評価する。		

授業科目名：1311111121 英語コミュニケーションⅡ 2年前期		必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：奥 明子、猪俣 佳瑞美 担当形態：演習 オムニバス
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		卒：教養教育科目 語学 幼：教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める教科 保：教養科目 外国語		
学習成果該当番号：5				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】英語を学ぶことを通して、他国の人や文化を尊重しグローバルな視点で、子ども、職場への理解を深めることを目標とする。 【テーマ】日常英会話として役立つ英語表現を身につけるために、保育園や幼稚園での実際の英語使用場面を想定しながら英語の基礎を学ぶ。				
授業の概要：英語コミュニケーションⅠから引き続き、テキスト『Happy English for Childcare：保育のための基礎英語』を使用する。基本的に1Unit を2回の授業で扱う。1回目には主に、リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習を行い、2回目の授業では主に、英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習を実施する。準備学習として、指定箇所に目を通し、知らない単語の意味を調べておくこと。また授業後には復習をしっかりと行うこと。				
授業計画：授業には、必ず英和辞書を持参してください。 全ての講義は、学生参加型のアクティブ・ラーニング形式で行う。そのため、学生はペアやグループに与えられたタスク（課題）に挑戦し、導き出した答えをクラス全体に発表する、という活動に取り組む。そのため、主体的かつ積極的に講義に参加することが期待される。講義内で実施した課題の発表に対して、講師はフィードバックを行い、英語に関する理解が深められるようアドバイスをを行う。				
回数	内容			準備学習
第 1回	オリエンテーション 春休みにあったことを英語で伝える			60分：春休みに行ったことを英語で伝える場合、どのように表現できるか考えてみること
第 2回	Unit7-1 She Is Allergic to Eggs 保護者からの相談 食に関する好き嫌い・アレルギーの有無を伝える表現を学ぶ リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習			60分：p34-35 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第 3回	Unit7-2 She Is Allergic to Eggs 手洗いや歯磨き 食材の名前を伝える表現を学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習			60分：p36-37 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第 4回	Unit8-1 You Should Go to the Bathroom お昼寝時間の会話 しなければならないこと・する必要があることを伝える表現 リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習			60分：p39-40 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第 5回	Unit8-2 You Should Go to the Bathroom お昼寝に関する表現 英語圏のジェスチャー 手遊び歌を学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習			60分：p41-43 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第 6回	Unit9-1 We Made Masks Today 降園時の会話 1日の活動と様子を伝える表現（動詞の過去形）を学ぶ リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習			60分：p44-45 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第 7回	Unit9-2 We Made Masks Today 動詞の過去形 クリスマスについて伝える英語表現を学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習 『英語のアルファベットかるた』作成に向けての説明			60分：p46-47 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第 8回	Unit10-1 If It Rains, What Happens? 園行事予定についての会話 「もし～なら」という仮定の表現を学ぶ リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習 『英語のアルファベットかるた』用英単語下書き用紙の回収			60分：p49-50 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと かるた用の英単語をまとめてくる

第9回	Unit10-2 If It Rains, What Happens? 園行事の英語名 体操の名称を学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習	60分：p51-53 指定箇所を目を通し、知らない単語を調べておくこと
第10回	Unit11-1 What Shall We Do Today? ネイティブとの打ち合わせ Shall I / we ...? と Will you ...? を用いた表現と応答を学ぶ リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習	60分：p54-55 指定箇所を目を通し、知らない単語を調べておくこと
第11回	Unit11-2 What Shall We Do Today? 時刻を表す英語 を学ぶ 英語で歌を歌う練習 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習 添削した『英語のアルファベットかるた』用英単語下書き用紙を返却	60分：p56-58 指定箇所を目を通し、知らない単語を調べておくこと
第12回	Unit12-1 I Feel Feverish 体調不良の園児との会話 病気やけがの症状を伝える表現を学ぶ リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習	60分：p59-60 指定箇所を目を通し、知らない単語を調べておくこと
第13回	Unit12-2 I Feel Feverish 医療品の英語 身体の一部・家系図を伝える表現を学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習 『英語のアルファベットかるた』を回収する	60分：p61-63 指定箇所を目を通し、知らない単語を調べておくこと 『英語のアルファベットかるた』の作成
第14回	Unit7-9までのまとめ 小テスト 答え合わせ後に解説	60分：授業で扱ったunit7-9内容を見直し、不明な点があれば質問できるようにしておくこと
第15回	Unit10-12までのまとめ 期末試験について	60分：授業で扱ったunit10-12内容を見直し、不明な点があれば質問できるようにしておくこと
定期試験 定期試験期間中に筆記試験を課す		
フィードバックの方法：		
テキスト：『Happy English for Childcare：保育のための基礎英語』（土屋麻衣子 著） 金星堂		
参考書・参考資料等：必要に応じてプリントを配布する		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：作品提出20%、定期試験40%・小テスト30%、授業態度10%で評価する。		

授業科目名：1401211211 情報機器操作入門 1 年前期	必修：（卒）・幼・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：清水 文也 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める教科		
学習成果該当番号：4. 7			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】保育の現場や学生生活で必要とされる情報機器操作の基礎を身につけることを目標とする。メール、学内ネットワーク、貸出用パソコンなど、学内の情報環境を円滑に活用できる。 【テーマ】①園児の保護者や関係者へのお便りやビジネス文書、保育施設内の掲示物、大学でのレポートなどの作成に役立つ基本的な文書作成ができる。②保育の現場で実施することを想定し、プレゼンテーションソフトを活用して、研究発表やプレゼンだけではなく様々なコンテンツが制作できる。			
授業の概要：文書作成とプレゼンテーションソフトを用いて、様々な文書作成の課題を完成させることによって、学生として、保育士として必要とされる基本的な情報機器操作の知識と技術、表現力を身につける。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	文字の入力と変換 ・シラバス概要及び受講上の注意事項を説明 ・学内情報環境の説明（ログインの確認） ・キーボード入力（タイピングサイトでの練習）	PCキーボードについて下調べをする。また、各自に配布されたPCログイン用のIDとパスワードの通知書を持参する(60分)	
第 2回	Windows の基本操作 ・ファイル&フォルダー操作演習 （作成、コピー、削除、移動、名前変更） ・メールの送受信とマナー	Windows OS について下調べをする(60分)。	
第 3回	Word①：ページ設定と印刷 ・ページ設定（文書全体の設定）の演習 ・書式設定（文字の修飾）の演習 ・練習問題「送付状」	「ビジネス文書」について下調べをする(60分)。	
第 4回	Word②：表の作成と編集 ・表の挿入方法と編集の演習 表（行）と表（列）の「結合と分割」 ・練習問題「案内書 1」	「表」について下調べをする(60分)。	
第 5回	Word③：書式設定 ・書式設定（箇条書き・均等割り付け・ルビ） ・ページレイアウトの設定（改ページ） ・ヘッダーとフッターの挿入方法 ・練習問題「案内書 2」	「書式設定」について下調べをする(60分)。	
第 6回	Word④：画像、ワードアート、図形の利用 ・画像の挿入と位置調整方法 ・ワードアートの挿入方法と編集 ・図形の挿入と変形方法の演習 ・練習問題「募集案内」	「図解表現」を用いたビジネス文書について下調べをする(60分)。	
第 7回	Word⑤：レポート編集機能 ・レポート見出し設定方法 ・文章校正（自動文章チェック機能）方法 ・練習問題「レポート編集」	「レポート」について下調べをする(60分)。	

第 8回	PowerPoint①：発表型スライド作成 ・研究発表等に必要な機能 ・練習問題「保育実習」	「発表方法」について下調べをする(60分)。
第 9回	PowerPoint②：提案型スライド作成 ・企画等の提案に必要な機能 ・練習問題「ワークライフバランス」	「プレゼンテーション」について下調べをする(60分)。
第10回	PowerPoint③：コンテンツ型スライド作成 ・画像＋アニメ＋効果音挿入方法 ・練習問題「電子紙芝居」	「動画制作」について下調べをする(60分)。
第11回	コンテンツ制作①：クイズ形式のスライド制作 ・スライド制作（アニメーション＋効果音） ・問題の作成	テーマは自分で考えて、それに自分でベスト3を決定しておく(60分)。
第12回	コンテンツ制作②：クイズ形式のスライド制作 ・スライド制作（アニメーション＋効果音） ・問題の作成	テーマは自分で考えて、それに自分でベスト3を決定しておく(60分)。
第13回	制作発表①：制作したコンテンツの発表 ・クイズ形式で他の学生も参加型で行う。	スライドの仕上げと発表のリハーサルを行っておく(60分)。
第14回	制作発表②：制作したコンテンツの発表 ・クイズ形式で他の学生も参加型で行う。	スライドの仕上げと発表のリハーサルを行っておく(60分)。
第15回	制作発表③：制作したコンテンツの発表 ・クイズ形式で他の学生も参加型で行う。 ・総評とまとめ	スライドの仕上げと発表のリハーサルを行っておく(60分)。
定期試験 定時試験期間中に筆記試験を実施する。全15回を対象範囲として記述式で出題する。		
フィードバックの方法：フィードバックとして課題実施後に解答の解説を行う。		
テキスト：テキストは使用しない。教材は各回に配布する。		
参考書・参考資料等：杉本くみ子（著）『30 時間アカデミック情報リテラシーOffice2019』実教出版。		
オープンな教育リソース：マナビジョン無料タイピング (https://manabi.benesse.ne.jp/gakushu/typing/)		
学生に対する評価：演習課題（70%）、受講態度（20%）、定期試験（10%）を目安に、総合的に評価する。		

授業科目名：1401211322 情報機器操作応用 2年後期	必修：幼	単位数： 1単位	担当教員名：清水 文也 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
学習成果該当番号：4. 7			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 保育の現場や卒業研究において活用できる実践的な情報機器操作を身につけることを目標とする。 【テーマ】 ①幼稚園や保育所などで使われるお便り、保護者や子どもたちへの伝達手段としての文書を、情報機器を用いて作成できるようになる。②先進的な幼稚園で実施されている幼児用プログラミング学習を参考に、自分自身でもプログラミングを体験して思考力を向上させるとともに、今後、園児へのプログラミングの指導方法や教材制作の参考にする。			
授業の概要：Word や PowerPoint など一年次に学習したソフトウェアの復習、保育現場で作成する文書を想定して様々な文書を作成する。また、体験的にブロック組み立て型プログラミングも学習する。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	パソコン基本操作の復習 ・フォルダー&ファイル操作の復習課題 ・文書作成復習課題	Windowsの操作やWordについて復習しておく(60分)。	
第 2回	表計算演習① ・データ入力、数式入力 ・練習問題「販売管理表」	Excel基本機能について下調べをする(60分)。	
第 3回	表計算演習② ・基本関数（合計と平均） ・練習問題「保育請求書」	Excel関数について下調べをする(60分)。	
第 4回	表計算演習③ ・グラフ作成の基礎 ・棒、イラストグラフ、複合グラフ	グラフについて下調べをする(60分)。	
第 5回	幼保実務文書作成① ・サンプル「成長記録表」をもとに作成する Excelの表とグラフを用いて作成する	Excel「条件付き書式」について下調べをする(60分)。	
第 6回	幼保実務文書作成② ・サンプル「月指導計画表」をもとに作成する Wordの表を用いて作成する	「月指導計画表」について下調べをする(60分)。	
第 7回	幼保実務文書作成③ ・サンプル「園内MAP」をもとに作成する PowerPointに図形や画像を用いて作成する	「園内MAP」について下調べをする(60分)。	
第 8回	幼保実務文書作成④ ・サンプル「動画作品企画書」をもとに作成する Wordの表を用いてフォーマット文書作成する	「動画作品企画書」について下調べをする(60分)。	
第 9回	幼保実務文書作成⑤ ・サンプル「ワードパズル」をもとに作成する PowerPointに図形や画像を用いて作成する	「ワードパズル」について下調べをする(60分)。	
第10回	幼保実務文書作成⑥ ・サンプル「登園届と意見書」をもとに作成する Wordの表を用いて作成する	「登園届と意見書」について下調べをする(60分)。	

第11回	幼保実務文書作成⑦ ・サンプル「クラスだより」をもとに作成する PowerPointに図形や画像を用いて作成する	「クラスだより」について下調べをする(60分)。
第12回	幼保実務文書作成⑧ ・サンプル「運動会プログラム」をもとに作成する PowerPointに図形や画像を用いて作成する	「運動会プログラム」について下調べをする(60分)。
第13回	幼保実務文書作成⑨ ・サンプル「遠足案内書」をもとに作成する Wordに画像を用いて作成する	「遠足案内書」について下調べをする(60分)。
第14回	課題解決型プログラミング演習① ・プログラミングサイト「アルゴリズム」で演習 操作方法と初級問題	幼児用プログラミングについて下調べをする(60分)。
第15回	課題解決型プログラミング演習② ・プログラミングサイト「アルゴリズム」で演習 初級～中級問題	幼児用プログラミングについて下調べをする(60分)。
定期試験 定時試験期間中に筆記試験を実施する。全15回を対象範囲として記述式で出題する。 フィードバックの方法：フィードバックとして課題実施後に解答の解説を行う。		
テキスト：テキストは使用しない。教材は各回に配布する。		
参考書・参考資料等：杉本くみ子（著）『30 時間アカデミック情報リテラシーOffice2019』実教出版。		
オープンな教育リソース：アルゴリズム (https://algo.jeita.or.jp/)		
学生に対する評価：演習課題（70%）、受講態度（20%）、定期試験（10%）を目安に、総合的に評価する。		

授業科目名：2111111410 保育の環境（音楽表現） 1年通年	必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：桑原 章寧、津布楽 杏里、 浅香 真理子												
		担当形態：演習 オムニバス													
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 基礎技能科目 幼：その他の科目 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容の理解と方法														
学習成果該当番号：1, 2, 4, 5, 6, 7															
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ○ 音探しを通して、子どものまわりの音響に対する興味とその発達について理解する。 ○ 音遊びを通して、子どもの音に対する興味とその発達について理解する。 ○ 体を使った表現遊びについて理解する。 ○ 表現活動をより良くしていくために必要な音楽的知識を身に付ける。 ○ 実際の歌唱活動を通して子どもの声帯の発達や年齢に応じた曲の選択について理解する。 【テーマ】 子どもは環境によってどのような音楽的発達をするのだろうかということを体験を通して学ぶ。															
授業の概要： 子どもの周りにある音、例えば教室にいて聞こえるエアコンの動いている音、せみの声、人が動いた時の音、ドアが開閉する時の音などを注意深く聴いて発表する。その際、擬音語を用いることで音の質を表現する。音や声だけでなく、様々な表現方法があることを理解する。 自分の体や楽器以外の物を使用して音遊びを楽しむ。また、身の回りにある音の出るものを使ってリズム遊びをする。さらに、拍回しやリズムしりとり、ピアノの連弾や打楽器を用いた遊びを通して自身の音やリズムへの興味を高めながら、音楽との関わりに関する子どもの発達について理解する。子どものための新しい歌に触れる体験を通して、子どもにとって必要な歌とはどのようなものなのかを考えていく。 わらべ歌による声の発達について理解する。(2音構成のわらべ歌、3音構成のわらべ歌、4音構成、5音構成・ペンタトニックスのわらべ歌)また遊び歌として伝承されてきたわらべ歌で実際に遊び、子どもの生活の中で歌がどのような役割をもってきたのかを理解する。童謡を歌う中で子どもの声域を理解し、無理のない自然な声の出し方について理解する。 これらの活動を通して、音に対する興味を深め、子どもの身の回りの音環境と音楽的発達とのかかわり方について理解する。 本授業では子どもの心身の発達及び子どもを取り巻く環境に留意し、身近な自然やものの音・音色、人の声や音楽等に親しむ経験を通して子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。そのために、複数の担当教員により教材活用を教授し、保育現場で子どもの感性を養うための遊びを展開することのできる力を身に付けていく。															
授業計画： <table><tr><th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr><tr><td>第 1回</td><td><u>領域「表現」について</u> 領域「表現」のねらいと内容について理解する。幼稚園教育要領と保育所保育指針に書かれている事柄を知る。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。</td><td>幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「表現」部分を読んでおく。(60分)</td></tr><tr><td>第 2回</td><td><u>身の周りの音 1</u> 耳をすまして聴こえた音を、擬音語を用いて発表する。 聴こえた音を自然の音、人工的な音、気持ちのよい音、いやな音などにわけ。 プリント提出による評価・確認。人工音と自然音の区別ができたか確認し、朱書きして返却。</td><td>調べるポイントを決め、予想される音環境をまとめる。(60分)</td></tr><tr><td>第 3回</td><td><u>身の回りの音 2</u> 身の回りにある音をできるだけたくさん集めて発表する。 プリント提出による評価・確認（より緻密に音環境を予想できているか確認、コメントによるフィードバックをする</td><td>自分の寝る部屋で就寝前に聴いた音、起床後に聴いた音をまとめる。(60分)</td></tr></table>				回数	内容	準備学習	第 1回	<u>領域「表現」について</u> 領域「表現」のねらいと内容について理解する。幼稚園教育要領と保育所保育指針に書かれている事柄を知る。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「表現」部分を読んでおく。(60分)	第 2回	<u>身の周りの音 1</u> 耳をすまして聴こえた音を、擬音語を用いて発表する。 聴こえた音を自然の音、人工的な音、気持ちのよい音、いやな音などにわけ。 プリント提出による評価・確認。人工音と自然音の区別ができたか確認し、朱書きして返却。	調べるポイントを決め、予想される音環境をまとめる。(60分)	第 3回	<u>身の回りの音 2</u> 身の回りにある音をできるだけたくさん集めて発表する。 プリント提出による評価・確認（より緻密に音環境を予想できているか確認、コメントによるフィードバックをする	自分の寝る部屋で就寝前に聴いた音、起床後に聴いた音をまとめる。(60分)
回数	内容	準備学習													
第 1回	<u>領域「表現」について</u> 領域「表現」のねらいと内容について理解する。幼稚園教育要領と保育所保育指針に書かれている事柄を知る。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「表現」部分を読んでおく。(60分)													
第 2回	<u>身の周りの音 1</u> 耳をすまして聴こえた音を、擬音語を用いて発表する。 聴こえた音を自然の音、人工的な音、気持ちのよい音、いやな音などにわけ。 プリント提出による評価・確認。人工音と自然音の区別ができたか確認し、朱書きして返却。	調べるポイントを決め、予想される音環境をまとめる。(60分)													
第 3回	<u>身の回りの音 2</u> 身の回りにある音をできるだけたくさん集めて発表する。 プリント提出による評価・確認（より緻密に音環境を予想できているか確認、コメントによるフィードバックをする	自分の寝る部屋で就寝前に聴いた音、起床後に聴いた音をまとめる。(60分)													

	が、実際の体験を重視するためどれだけ多くの音環境を予想できたかという量的評価に留める。) 耳をすまして聴こえてくる音	
第4回	<u>オノマトペについて</u> オノマトペについて理解を深め、ある事柄について多くの表現があることを知る。また、オノマトペを使用した遊びに触れ、新たな表現方法を考案していく。	オノマトペについて調べる。子どもとオノマトペの関係性について考える。(60分)
第5回	<u>お気に入りの曲紹介</u> 生活の中にある身近な曲のよさを他者に伝えることで、その曲の良さを改めて知る。 発表から曲の良さの捉え方を評価する。例えば(ア)単に好き嫌いのみを書いている。(イ)好き嫌いの理由を書いている。(ウ)他の曲と比べて共通する点、異なる点を示し曲のよさを主観的な立場と客観的な立場いずれからも書いている。という3段階に分けて評価し、(ウ)のような表現方法が望ましいことを理解させる。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	お気に入りの曲を選曲し、その良さをプリントに書く。(60分)
第6回	<u>体だけを使った表現</u> 自分の体だけを使って音を出す方法を考える。なるべく多くの表現方法を考え、表現の多彩さを知る。また、他者の表現方法を参考にして、そこから新たな表現方法を考案していく。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	体を使って音を出す表現方法を考え、実際にやってみる。(60分)
第7回	<u>楽器を用いた表現活動1</u> 楽器を用いた表現活動について考える。子どもにとって望ましい楽器は何か、また表現方法について理解を深める。様々な楽器の使い方を知る。楽器を使った音遊びを通して、それぞれの楽器の特性を知る。 プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	幼児に適した楽器について調べる。(60分)
第8回	<u>楽器を用いた表現活動2</u> 楽器を用いた表現活動について考える。子どもにとって望ましい楽器は何か、また表現方法について理解を深める。様々な楽器の使い方実際にやってみる。音の出し方が奏法によって変わることを実際に体験し発表する。 プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	それぞれの楽器の成り立ちや構造について調べる。(60分)
第9回	<u>リズムを意識した表現活動1</u> リズム遊びを通して様々なリズムがある事を知る。子どもにとって表現しやすいリズムや盛り上がるリズムを知り、実際に体験してみる。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	子どもの歌からリズムだけを抜き出し、表現してみる。(60分)
第10回	<u>リズムを意識した表現活動2</u> 様々なリズムを組み合わせ、心地よいリズムとはどのようなものなのかを知る。リズムがそろった時の充実感を体験する。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	リズム遊びについて調べる。(60分)
第11回	<u>身体を使った表現活動1</u> 手遊びや身体を使った遊びを通して、子どもの日常にあふれている身体的活動について知る。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	知っている手遊びなどをまとめる。(60分)
第12回	<u>身体を使った表現活動2</u> 身体的活動を伴った遊びや手遊びを考える。できるだけ多	新たな手遊びなどを考える。(60分)

	くのパターンを考案し、自らの表現方法を確立していく。 また、発表を通して他者の表現から学ぶ。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	
第13回	音楽的知識 1 表現活動に必要な最低限の音楽的知識を知る。子どものための歌の楽譜を参考にして、頻出する音符、音楽記号、音楽用語等について理解を深める。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	これまでに学んだ音楽的知識について振り返る。 (60分)
第14回	音楽的知識 2 前回学んだ音楽記号等について理解を深め、実際に演奏してみる。音楽記号等の有無を経験し、何故その記号や音楽的指示があるのかを考える。内容について評価コメントを書き返却。	子どものための歌に頻出する音符、音楽記号を列挙する。(60分)
第15回	現場で頻出する子どものための歌 今日、保育現場でよく歌われている子どものための歌について理解を深める。実際に体験してみるにより、多く歌われている理由を考える。	現場で多く歌われているだろう子どものための歌を列挙する。(60分)
定期試験	定期試験期間中を締切とするレポート課題を実施。	
第16回	わらべ歌で遊ぼう 2音構成のわらべ歌遊びを通して、子どもの自然な声の出し方や発達について理解する。 プリント提出による評価・確認。	できるだけ多くのわらべ歌を調べてまとめる。 (60分)
第17回	わらべ歌で遊ぼう 2 3音構成のわらべ歌遊びを通して、子どもの自然な声の出し方や発達について理解する。 プリント提出による評価・確認。	事後学習として活動の感想をプリントにまとめる。 (60分)
第18回	わらべ歌で遊ぼう 3 4音構成のわらべ歌を通して、より複雑な音構成について理解する。 他の学生が調べたわらべ歌を紹介しあうことでより多くのわらべ歌を共有させる。	授業でまだ紹介されていないわらべ歌について調べる。(60分)
第19回	わらべ歌で遊ぼう 4 5音構成のわらべ歌を通して、より複雑な音構成について理解する。 プリント提出による評価と課題を記述し返却する。	事後学習として子どもの成長にわらべうたはどのような役割があるか考察しプリントにまとめる。 (60分)
第20回	わらべ歌で遊ぼう 5 グループごとにわらべ歌を1曲選び、遊び方を説明し発表する。 プリント提出による確認、評価をし学生へフィードバックする。	事後学習としてそれぞれの選んだわらべうたのよさについてプリントにまとめる。(60分)
第21回	童謡の音域 童謡の音域と子どもの声帯の発達を理解する。 プリント提出による評価・確認。	子どもの声と大人の声の違いについて考えプリントにまとめる。(60分)
第22回	童謡の描く世界 童謡のもつイメージや情緒を歌詞と旋律から感じ取る。 プリント提出による評価・確認。	「赤い鳥」運動について調べプリントにまとめる。(60分)
第23回	童謡の歴史 これまでの童謡を概観し時代によって変わり行くもの(歌詞の内容)と変わらないもの(子どもが歌うことで想像する世界)があることを理解する。 プリント提出による評価・確認。	自分が心に残っている童謡について調べプリントにまとめる。(60分)
第24回	子どもと歌	現代の子どもたちはどの

	子どもの周りにある歌とその役割について歌唱活動を通して理解を深める。	ような歌を歌っているか調べる。(60分)
第25回	はねるリズムを使った童謡 おすもうくまちゃん、おなかのへるうた、おんまはみんな、かわいいかくれんぼ、グッドバイ、げんこつやまのためき、せんせいとおともだち等の歌唱活動を通してはねるリズムを理解する。	事後学習として付点八分音符と十六分音符の記譜を理解し、リズムが打てるようにする。(60分)
第26回	3拍子の童謡 こいのぼり、せいくらべ、気のいいあひる、きくの花、おしゃべりあひる、お家忘れて、あかちゃん、ぞうさん、たのしいワルツ等の歌唱活動を通して3拍子の曲に共通する曲想について理解する。	3拍子の童謡について調べる。(60分)
第27回	生活、季節に関する童謡 朝のあいさつ、おべんとう、はをみがきましょう、おかえりのうた等の生活に関する歌と雨降りお月さん、あわてんぼうのサンタクロース、サンタクロースがやってくる、うみ、うれしいひなまつり、十五夜お月さんなどの季節に関する歌の歌唱を通して生活や季節を素材とした童謡があり、時季によって歌われる歌も変化することを理解する。 発表による評価・確認。	季節の歌を調べる。(60分)
第28回	輪唱の歌 生活の中で遊び歌として歌われている輪唱曲について、歌唱活動を通して理解し、輪唱のための楽曲構造を理解する。 例：朝のあいさつ、かえるの合唱、かえるの夜回り、鐘がなる、こぶたぬきつねこ、さよなら、雪の踊り等	これまで経験してきた輪唱曲について振り返る。(60分)
第29回	ゲームの歌 動作化やゲームとして楽しめる歌を、実際に動作化、ゲーム化しながら活動し、生活の中で何もなくとも歌い楽しむことができることを理解する。例：アイアイ、アルプス一万尺、大きなくりの木の下で、すうじのうた、ピクニック、ホイマシペーター、やきいもグーチャーパー等	知っているゲーム化した歌について調べる。(60分)
第30回	子どもと音環境 これまで活動を通して学んだ音楽から、子どもの身の周りにはどのような音環境があり、どのような楽器を使って楽しむことができるか、どのような種類の歌がありどのような場面で歌われているかについて学んだ内容をまとめる。	実際の保育現場を想像し、音楽が伴う場面を列挙する。(60分)
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を実施。	
フィードバックの方法：実施回に記載		
テキスト：後期（16回～30回）神原雅之監修『幼児の音楽教育』教育芸術社、 声楽教本（教育芸術社）、今川恭子編著『おんがくのしくみ』教育芸術社		
参考書・参考資料等：小泉恭子著『いろいろな音をさがして遊ぼう』明治図書、厚生労働省『保育所保育指針』、文部科学省『幼稚園教育要領』、『こどものうたベストテン』ドレミ楽譜出版、永田栄一著『日本のわらべ歌遊び35』、神原雅之編著『リズムにどっぷり！リトミック77選』明治図書		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：		
前期：定期試験は授業のまとめとしてレポート課題による振り返りをする。子どもの音環境の観点から理解を深めたかの評価（50％）、自由な発想から音作りを楽しむ子どもへの理解を深めた発表、実演からの評価（25％）、準備学習として出された課題に取り組んでいたかの評価（25％）		
後期：定期試験からの評価（50％）、授業中に行う歌唱試験・発表・演奏からの評価（25％）、準備学習として出された演奏課題に取り組んでいたかの評価（25％）		

*最終成績は前期と後期の平均とする。

授業科目名：2111211510 器楽（基礎） 1年通年	必修：卒・幼・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：津布楽 杏里、森本 加奈、 遠山 亜希、中 美知子、大村 新 担当形態：演習 分担
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 基礎技能科目 幼：その他の科目		
学習成果該当番号：1. 2. 4. 5. 6. 7			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 バイエル未習者に対しては、1年間でバイエル教則本 100 番台が弾けることを目標とし、バイエル教則本既習者に対しては、個々の能力にあった教材を選択し、さらなる表現能力の向上を目指す。これに加えて保育現場での実習を踏まえ、1年次においても弾き歌い曲を課題とし、演奏技術を身につける。このような技能を獲得し、幼稚園教育要領「領域 表現」に示された、「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう」子どもの活動を保障することができるようになる。 【テーマ】 幼児教育において、ピアノ伴奏は、子どもの表現を引き出し、高めるための重要な役割を担っている。また、音楽は歌や踊りなどの活動になくてはならないものである。本科目では、演奏実習を通して、ピアノに関する基本的な知識や技術を身につけ、保育の中で扱う教材の伴奏法や、その教材の展開に必要な知識を習得させることをねらいとする。			
授業の概要：個人の習熟度や経験をふまえて課題を設定する。毎回課題として出された曲をレッスンまでに譜読みし、練習することで指使い、触鍵(タッチ)、ペダルの使い方等の技術と、曲の構成(旋律の反復と対照)について学ぶ。このような授業を通して、保育の現場にふさわしいピアノの音色や強弱といったニュアンスを感じ取ることができる技能を身につける。グループレッスン（コロナ感染状況によっては変更有）の授業形態をとることで、他人の演奏から相互に学び高め合う効果も期待できる。			
授業計画：			
回数	内容		準備学習
第 1回 ～ 第 5回	<u>個のレベルに応じたピアノ曲</u> 初心者においては最低バイエル 30 番程度まで進んでいること。正しい姿勢と指の使い方を知る。左手、右手の運指は上行形、下行形、同じ動き方。		準備学習として毎回課題として出される曲を次回レッスンまでに練習してくること。(毎回60分以上)
第 6回 ～ 第10回	<u>個のレベルに応じたピアノ曲</u> 初心者においては最低バイエル50番程度まで進んでいること。左右対照の指使い（右手が上行形、左手が下行形）触鍵(タッチ)の違いによるニュアンスの違いを感じる。		
第11回 ～ 第15回	<u>個のレベルに応じたピアノ曲</u> 初心者においては最低バイエル60番程度まで進んでいること。旋律の反復と対照を理解して弾く。A・Bの二部形式、A・B・Aの三部形式を理解して弾く。ブルグミュラーの曲ではペダルの記譜とその使い方を理解する。		
定期試験	あり（実技）		
第16回 ～ 第20回	<u>個のレベルに応じたピアノ曲</u> 生活の歌（おはよう、お弁当、歯をみがきましょう、おかたづけ、おかえりの歌）、初心者においては最低バイエル75番程度まで進んでいること。保育の現場でふさわしい音量と強弱を理解する。		
第21回 ～ 第25回	<u>個のレベルに応じたピアノ曲</u> 弾き歌い曲 初心者においては最低バイエル90番程度まで進んでいること。		

26回 ～ 第30回	個のレベルに応じたピアノ曲 弾き歌い曲 初心者においては最低バイエル100番程度まで進んでいること。	
定期試験 あり（実技）		
フィードバックの方法：毎回の授業で、前回授業中に実践した奏法等の定着を確認する。		
テキスト：『バイエル全訳』音楽之友社、『幼児のための音楽教育』教育芸術社、『弾き歌いピアノ曲集』ドレミ出版、『保育者のためのマーチ曲集』東京国際芸術協会		
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』、『ブルグミュラー 25の練習曲』、『ソナチネアルバム』、『ソナタアルバム』、『連弾曲集』		
オープンな教育リソース： つぶあん・YouTube		
学生に対する評価：レッスン担当者による実技試験（前期・後期）を行い評価する。試験曲は任意のピアノ曲1曲とする。試験はすべて暗譜で行い、グループごとにレッスン担当教員が評価する。また、個人別課題曲への取り組み状況（準備学習）をその演奏から評価する。最終的には、定期試験及び準備学習への取組状況と授業時の実技、授業態度及び意欲の総合的評価とする。後期終了までに最低バイエル100番台に入り、弾き歌い3曲を行うこと。 定期試験時の実技試験：50% 授業までの取り組みと授業時の実技、態度及び意欲：50%		

授業科目名：2102211620 声楽 2年通年（前期）	必修：（卒）・（幼）・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：浅香 真理子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：1. 2. 4. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 保育現場で幼児に歌うことの楽しさを指導する指導法の習得を目的とする。また、歌唱する際に必要となる楽譜の読解力を身につける。人前で弾き歌いできるようにする。 【テーマ】 楽譜がよめる。みんなの前で歌う、弾き歌いができる。			
授業の概要： 歌唱のための呼吸法や発声法の習得、簡単な伴奏法の習得、唱歌や童謡の歌唱指導、弾き歌いの際に必要な音符や休符、音楽用語、音階の仕組みの理解や使い方を学ぶ。また、授業中に歌唱発表、弾き歌いの発表を行うため、個々の練習を準備学習として課す。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	<u>長調と短調</u> 長調の曲「チューリップ」と短調の曲「ひなまつり」を全員で歌う。調の違いを理解し、歌詞を暗記する。 各個人の好きな弾き歌いの曲を練習する。	ピアノ伴奏部分の右手、左手、両手をそれぞれ5回ずつ練習し、弾き歌いができるようにする。(30分)	
第 2回	<u>ハ長調</u> ハ長調の音階のしくみを理解し、弾き歌いの曲を決めて練習する。 例「おはようのうた」	ピアノ伴奏部分の右手、左手、両手をそれぞれ5回ずつ練習し、弾き歌いができるようにする。(30分)	
第 3回	<u>ト長調</u> ト長調の音階のしくみを理解し、弾き歌いの曲を練習する。 例「うみ」	ピアノ伴奏部分の右手、左手、両手をそれぞれ5回ずつ練習し、弾き歌いができるようにする。(30分)	
第 4回	<u>ニ長調</u> ニ長調の音階のしくみを理解し、弾き歌いの曲を練習する。例「ピクニック」	ピアノ伴奏部分の右手、左手、両手をそれぞれ5回ずつ練習し、弾き歌いができるようにする。(30分)	
第 5回	<u>ヘ長調</u> ヘ長調の音階のしくみを理解し、弾き歌いの曲を練習する。例「バスごっこ」	ピアノ伴奏部分の右手、左手、両手をそれぞれ5回ずつ練習し、弾き歌いができるようにする。(30分)	
第 6回	<u>変ロ長調</u> 変ロ長調の音階のしくみを理解し、弾き歌いの曲を練習する。例「旅立ちの日に」	ソプラノ、アルト、テノール、バスパートに分かれて、ハモリの練習をする。(30分)	
第 7回	<u>唱歌や童謡の歌唱指導（あいさつのうた）</u> 例「おかえりのうた」	弾き歌いの練習をする。(30分)	
第 8回	<u>唱歌や童謡の歌唱指導（季節のうた）</u> 例「アイスクリームのうた」	弾き歌いの練習をする。(30分)	
第 9回	<u>唱歌や童謡の歌唱指導（行事のうた）</u> 例「ジングルベル」	弾き歌いの練習をする。(30分)	
第10回	<u>唱歌や童謡の歌唱指導（わらべうた）</u> 例「ずいずいずっころばし」	弾き歌いの練習をする。(30分)	

第11回	<u>唱歌や童謡の歌唱指導（愛唱歌）</u> 例「犬のおまわりさん」	弾き歌いの練習をする。（30分）
第12回	<u>弾き歌いの発表</u>	発表の準備として、個人で歌とピアノ伴奏の練習をしてから発表に臨む。（60分）
第13回	<u>歌唱発表</u>	準備として、歌のパートを決めてパートナーと練習をする。（60分）
第14回	<u>唱歌や童謡の歌唱指導（アニメソング）</u> 音楽用語などのまとめプリントを配布。	音符、休符の種類、音楽用語の確認と復習をする。（30分）
第15回	<u>プリントの答え合わせ</u>	間違ったところの確認と復習をする。（30分）
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を行う	
フィードバックの方法：歌唱発表の内容に応じた評価（声や言葉がしっかり聞き取れるか、楽譜どおりに音程やリズムが取れているか、また姿勢など）をして、発表後その場で伝える。		
テキスト：声楽教本（教育芸術社）、幼児の音楽教育（教育芸術社）、 おんがくのしくみ（教育芸術社）		
参考書・参考資料等：基礎楽典（全音楽出版）		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：歌唱発表(50%)と定期試験(45%)、授業態度(5%)を総合して評価する。		

授業科目名：2102211620 声楽		必修：（卒）・（幼）・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：浅香 真理子
2年通年（後期）				担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等				
学習成果該当番号：1. 2. 4. 5. 6. 7. 8				
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 保育現場で幼児に歌うことの楽しさを指導する指導法の習得を目的とする。また、歌唱する際に必要となる楽譜の読解力を身につける。人前で弾き歌いできるようにする。 【テーマ】 楽譜が読める。一人で歌い、弾き歌いできる。				
授業の概要： 歌唱のための呼吸法や発声法の習得、簡単な伴奏法の習得、唱歌や童謡の歌唱指導、弾き歌いの際に必要な音符や音楽用語の理解、伴奏に必要な主要三和音の作り方を習得する。 授業中に歌唱試験を行うため、個々の練習を準備学習として課す。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第16回	<u>弾き歌い指導</u> 季節の歌や、ご挨拶の歌の歌詞の確認と暗譜。楽譜中の音楽用語を取り出して、意味と読み方の確認をする。		毎回の事後学習として楽譜の内容を忠実に表現できるように練習する。(30分)	
第17回	<u>歌唱試験曲の譜読み</u> 声質や音の高さから自分の声に合ったパートを見つける。		決めたパートを練習し、まずは一人で歌えるようにする。(30分)	
第18回	<u>歌唱指導</u> 試験曲をパートごとに歌いこみ、できるようになったら、今度は違うパートと一緒に合わせてみる。		他のパートの人と一緒に練習して、ハモリが表現できているか確認する。(30分)	
第19回	<u>歌唱指導</u> 試験曲を歌い込み、楽譜から表現できるようにする。		試験曲の練習をして、暗譜する。(30分)	
第20回	<u>歌唱発表</u> 暗譜して、歌唱発表する。		できなかった箇所を確認して、練習する。(30分)	
第21回	<u>歌唱発表</u> 歌唱発表後、自分のできないところを認識する。		歌の練習をする。(30分)	
第22回	<u>唱歌や童謡の歌唱指導（愛唱歌）</u> ハ長調のしくみと主要三和音を理解して伴奏をつける練習をする。		作曲した曲を弾き歌いできるように練習する。(30分)	
第23回	<u>唱歌や童謡の歌唱指導（わらべうた）</u> ト長調のしくみと主要三和音を理解し、伴奏を作曲する。		作曲した曲を弾き歌いできるように練習する。(30分)	
第24回	<u>唱歌や童謡の歌唱指導（季節の歌）</u> ニ長調のしくみと主要三和音を理解して伴奏を作曲する。		作曲した曲の伴奏部分を練習し、弾き歌いできるようにする。(30分)	
第25回	<u>唱歌や童謡の歌唱指導（アニメソング）</u> ヘ長調のしくみと主要三和音を理解し、伴奏を作曲する。		作曲した曲を弾き歌いできるように練習する。(30分)	
第26回	<u>唱歌や童謡の歌唱指導（あいさつのうた）</u> 変ロ長調のしくみと主要三和音を理解して伴奏を作曲する。		作曲した曲を弾き歌いできるように練習する。(30分)	

第27回	いろいろな曲の伴奏部分を作曲して、歌い、どのように聞こえるかを確認する。	発表の準備として、個人で弾き歌いの練習をする。(30分)
第28回	<u>伴奏部分の作曲指導</u>	弾き歌いの練習をする。(30分)
第29回	<u>唱歌や童謡の伴奏指導</u> 伴奏部分の答え合わせをする。	弾き歌いの練習をする。(30分)
第30回	<u>唱歌や童謡の伴奏指導</u> 主要三和音の復習と伴奏作曲のまとめを行う。	毎回の事後学習として楽譜の内容を忠実に表現できるように練習する。(30分)
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を行う	
フィードバックの方法：歌唱発表の内容に応じた評価（声や言葉がしっかり聞き取れるか、楽譜どおりに音程やリズムが取れているか、また姿勢など）をして、発表後その場で伝える。		
テキスト：声楽教本（教育芸術社）、幼児の音楽教育（教育芸術社）、 おんがくのしくみ（教育芸術社）		
参考書・参考資料等：基礎楽典（全音楽出版）		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：歌唱発表(50%)と定期試験(45%)、授業態度(5%)を総合して評価する。		

授業科目名：2102211720 器楽（応用） 2年通年	必修：（幼）	単位数： 1単位	担当教員名：桑原 章寧、津布楽 杏里、森本 加奈、遠山 亜希、中 美知子、大村 新 担当形態：演習 分担
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：その他の科目		
学習成果該当番号：1. 2. 4. 5. 6. 7			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 幼児教育において、ピアノ伴奏は、子どもの表現を引き出し、高めるための重要な役割を担っている。本科目では、演奏を通して、ピアノに関する実践的な知識や技術を身につけ、保育の中で扱う教材の伴奏法や、その教材の展開に必要な知識を習得させることをねらいとする。具体的にはピアノ曲 2 曲以上、行進曲 2 曲以上、弾き歌い曲 20 曲以上が弾けること。そのためには日々の練習が重要である。 【テーマ】 幼稚園教育要領「表現」には「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。」と示されている。このような子どもの活動を保障するために、弾き歌いの活動を通して、弾きながら歌うことに慣れ、初見の楽譜でも簡単な伴奏を付けて歌えるようにする。また自分が弾く歌だけでなく、他人の演奏から歌を知ること大切である。さらに現場のさまざまな場面で弾かれる行進曲などの習得も目指す。			
授業の概要：それぞれのレベルに応じた課題曲を演奏することで、演奏技能を高める。音楽用語や解釈について意見を発表し、よりよい奏法について考える。さまざまなテキストを用い多くの楽曲に触れ、豊かな音楽性を養う。また現場を想定して、実際に歌われている曲の演奏方法を習得する。グループレッスン（コロナ感染状況により変更有）の授業形態をとることで、他人の演奏から相互に学び高め合う効果も期待できる。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1 回 ～ 第 5 回	<u>個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲）</u> 楽譜に書かれている通りの演奏を目指す。何よりも指使いに留意する。その他、強弱やフレージングも正確に弾き分けること。弾き歌い曲は生活の歌を中心に多くの曲を知り演奏する。	準備学習として毎回課題として出される曲を次回レッスンまでに練習し、授業に臨むこと。その際、楽譜に書かれている音楽用語等についても調べること。レッスン後は学習した演奏法、注意された箇所の復習及び習得を目指すこと。知らない楽曲についてはCD等を活用し、事前に曲を知ること。（60分程度）それが練習を行う意欲につながる。	
第 6 回 ～ 第 10 回	<u>個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲）</u> 任意の楽曲について、その背景を知る。作曲者、作曲年代等から楽曲の特徴を考察する。弾き歌い曲は広く知られている歌を中心に、季節も考慮して選曲していく。		
第 11 回 ～ 第 15 回	<u>個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲）</u> 任意の楽曲における様々な音型からイメージできる内容について考察する。演奏曲の題名から楽曲の雰囲気想像し演奏に結びつける。弾き歌い曲は教育実習で弾く曲を中心に演奏する。		
定期試験	課題曲：任意のピアノ曲：1曲、弾き歌い曲：1曲、 行進曲：1曲 全3曲		
第 16 回 ～ 第 20 回	<u>個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲）</u> 楽譜には明確に書かれていない強弱、テンポの揺れを意識しながら演奏する。弾き歌い曲は教育実習で弾く曲を、現場を想定しながら演奏する。園生活の弾き歌い曲について、一日の流れを把握して演奏する。		

第21回 ～ 第25回	<u>個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲）</u> 楽譜に指示されていることを踏まえ、自らの解釈も大切にして演奏を構築する。弾き歌い曲は教育実習から学んだことを活かして選曲及び演奏をする。季節も考慮して選曲する。
第26回 ～ 第30回	<u>個のレベルに応じたピアノ曲（弾き歌い曲、行進曲）</u> 子どもにも広く知られている楽曲を演奏する。ペダルの使い方を再考し、効果的な使用法を追及する。弾き歌い曲は知らない歌を中心に選曲する。知らない曲を演奏することで、楽譜から音楽を読みとる力を養う。あらゆるジャンルの歌について抵抗感をなくす。
定期試験	課題曲：任意のピアノ曲：1曲、弾き歌い曲：1曲、 行進曲：1曲 全3曲
フィードバックの方法：毎回の授業で、前回授業中に実践した奏法等の定着を確認する。	
テキスト：『弾き歌いピアノ曲集』（ドレミ楽譜出版社）、『幼児のための音楽教育』（教育芸術社）、『ブルグミュラー 25の練習曲』（全音楽譜出版社）等	
参考書・参考資料等：ソナチネアルバム、ソナタアルバム、『幼稚園教育要領解説』等	
オープンな教育リソース： つぶあん・YouTube	
学生に対する評価：年間でピアノ曲2曲、弾き歌い曲20曲以上、行進曲2曲を行うこと。試験曲は任意のピアノ曲、弾き歌い曲、行進曲をそれぞれ1曲とする。試験はすべて暗譜で行い、グループごとにレッスン担当教員が評価する。定期試験（前期・後期）の結果、授業までの取り組み（準備学習実施状況）、授業態度及び意欲を総合的に評価する。	
定期試験：50%、授業までの取り組みと授業での実技、態度及び意欲：50%	

授業科目名：2111111812 保育の環境（造形表現） 1 年後期		必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：森田 信子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		卒：専門教育科目 基礎技能科目 幼：その他の科目 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容の理解と方法		
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ・身近な素材を使った造形作品を制作したり、基礎的な造形活動ができたりするようになる。 ・共同制作の計画をたて、役割分担から、作品完成まで行えるようになる。 ・子どもの発達段階を踏まえて、季節・行事・物語等の壁面制作ができるようになる。 【テーマ】 造形表現を通して、子どもに身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験をする。子どもの表現や遊びを豊かに展開する支援のできる保育者養成のため、必要な知識や技術を実践的に習得する。				
授業の概要： ・子どもの発達段階や育みたい力を踏まえた上で、基礎的な保育造形活動や表現技法を体験する。（色水・自然物・スタンプ・段ボールなどを使用した造形など） ・共同でテーマを考え、材料・経費・役割分担等を計画・実行し、制作し、展示を行なう。 ・保育の現場を想定した壁面切り紙の制作を行なう。 ・子どもの心身の発達及び子どもを取り巻く環境に留意し、造形表現を通して、子どもに身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験から、子どもの遊びを豊かに展開することのできる保育者養成のため、必要な知識や技術を実践的に習得する。保育教材の作成と活用の技術を身に付け、保育現場で子どもの遊びを具体的に展開できる力を高めていく。				
授業計画：				
回数	内容			準備学習
第 1回	基礎的な保育造形活動や表現技法を体験する ①－Ⅰ 「染め紙を楽しむ」 ・色水がみせるにじみや模様の、美しさや楽しさを体験する。 「染め紙から広がる造形活動」 ・染め紙からどのような造形表現ができるかを考え、その造形活動を現場で行う想定でグループで教材研究する。 ＊フィードバックとしてより良い教材となるよう改善点を伝える。			保育所保育指針 幼稚園教育要領の造形表現の所を読んでおく。（6 0分）
第 2回	基礎的な保育造形活動や表現技法を体験する ①－Ⅱ 「染め紙から広がる造形活動」 ・準備してきた染め紙を使用する造形活動を幾つか実際に体験する（・造形遊び・箱作り・ステンドグラス風・トレー・鯉のぼり・提灯作りなど）⇒教材研究を深め、グループで発表をする。 ＊フィードバックとしてグループごとに解説をする。			前回染めた紙を使用して展開する造形活動を実際制作するのに必要ものの準備。（6 0分）
第 3回	基礎的な保育造形活動や表現技法を体験する ② 「紙工作の基本」 ・ハトメ鋏、飛び出す仕組み、仕掛け、折り方などを学び、誕生日カードなどを作れる技術を身につける。			染め紙から展開した造形活動について、配布されたプリントにまとめてくる。（6 0分）
第 4回	基礎的な保育造形活動や表現技法を体験する ③ 「お野菜スタンプ」 ・野菜の切り口でスタンプし、その形や模様を自由に楽しむ。 ・お野菜スタンプの形をいかして作品制作をする。			お野菜スタンプの活動について、配布されたプリントにまとめてくる（6 0分）
第 5回	共同制作 ①－Ⅰ（構想・計画・役割分担） ・現場でのお店屋さんごっこを想定して、グループごとに何屋さんにするか、材料、経費、役割分担などを決定し計画を立てる。 具体的にどのようなものを制作するのかなど決める。			大学祭に遊びに来る幼児のためのお店屋さんごっこに向けて情報を集めてくる。（6 0分）
第 6回	共同制作 ①－Ⅱ（制作） ・お店の商品となるものの工作をグループごとに協力して進める。			担当した制作の材料や情報を集め制作準備をする（6 0分）
第 7回	共同制作 ①－Ⅲ（制作）			グループごとに制作を進めて

第8回	・活動内容の分かり易さ、楽しさ、見た目の美しさ、安全性、耐久性を試し、工夫を重ね、情報を共有しながら制作を進める。 共同制作 ①－Ⅳ ・当日の係決めをする。接し方、説明の仕方、並ばせ方、始め方、終わり方など、共通理解を深めておく。	くる。(60分)
第9回	・当日の係決めをする。接し方、説明の仕方、並ばせ方、始め方、終わり方など、共通理解を深めておく。 ＊フィードバックとしてお店の紹介をして講評する。	グループごとに準備が終わる程度まで制作を進めてくる。(90分)
第10回	大学祭での幼児との活動経験から学びを深め共有する。 ・片付けなども大切な教育活動であることを踏まえながら、文化祭での活動の片付けなど後始末も行う。 ・幼児が楽しめるよう行った自分たちの活動から、良かった点改善すべき点など意見を出し合いまとめる。	グループごとに後片付けを済ませておく。実際に子どもと関わって気づいた点などをまとめておく。(60分)
第11回	基礎的な保育造形活動や表現技法を体験する ④ 「もぐもぐおしゃべりくん」 ・紙袋から簡単なパペットを制作する。	手作り人形などの実践について調べてくる。画材やハサミのりの他に毛糸、色紙、ボタンなどの材料を集めるなどの準備し、持参する。(60分)
第12回	季節・行事・物語をテーマとした壁面制作 ①－Ⅰ (構想・下描き) ・画面構成を考えながら下描きをする。(背景、メイン、サブメインなど構成を考えながら) ・図案のみならず、どのようなことを伝えたいのか、壁面に込めるテーマやメッセージを明らかにする。 ＊フィードバックとして下書きの構図に手直しを入れて返却する。	どのような図案がよいか下調べをして大まかに構想してくる。(60分)
第13回	季節・行事・物語をテーマとした壁面制作 ①－Ⅱ (制作) ・制作手順などを知り、効率よく質の高い壁面制作に取り組む。 ・決めた図案をそのまま制作するのではなく、より良い作品になるよう構成し直ししながら進めていく。	制作に必要な材料や画材や道具を準備し持参する。(60分)
第14回	季節・行事・物語をテーマとした壁面制作 ①－Ⅲ (制作) ・メインキャラクターの制作に取り掛かる。	完成に間に合わせられる必要量の制作を進めてくる。(60分)
第15回	季節・行事・物語をテーマとした壁面制作 ①－Ⅳ (講評) ・サブキャラクター、その他の制作を終える。出来るだけ高い質を目指す。 ・作品提出し、互いによい点、工夫点など学び合う。 ＊フィードバックとしてコメントを返す。	完成に間に合わせられる必要量の制作を進めてくる。(60分)
第16回	季節・行事・物語をテーマとした壁面制作 ② ・半立体の花の壁面装飾の制作をする。 ・卒業と入学に合わせて、校内の装飾するために花を活用し、今まで学んだことをいかして壁面装飾を感性させる。 ＊実際に卒業と入学に合わせて校内を装飾する。	事前にどのような装飾を作りたいか調べたり、試しに制作したりする。(60分)
定期試験	定期試験としての作品提出を課す。	
フィードバックの方法：実施回に記載済		
テキスト：保育所保育指針解説 、 幼稚園教育要領解説		
参考書・参考資料等：プリント・子どもの作品（絵や工作）などを参考資料とする。		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価： ・授業態度（事前事後課題を行い主体的に授業に取り組んでいるかなど）30% ・作品・発表・テスト（授業の目的を理解して制作しているか・創意工夫・完成度の高さ）60% ・レポート（基礎造形の知識を習得しているか・素材や道具を理解しているか）10% ・発表と作品やプリント、授業の準備・態度、定期試験に代わる作品提出と技術テストにより評価する		

授業科目名：2111211911 基礎造形 1 年前期		必修：卒・幼・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：森田 信子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		卒：専門教育科目 基礎技能科目 幼：その他の科目 保：保育に関する科目		
学習成果該当番号：1. 2. 4. 8				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ・保育現場を踏まえた準備・演習・清掃をイメージし、実践できるようになる。 ・保育現場における絵画や造形の基礎的な技法や制作法を理解し、創作ができるようになる。 【テーマ】 ・子どもの表現に寄り添い、安心して創作する支援のできる保育者としての感性を育み、技術を身につける。				
授業の概要： ・保育者としての感性を育んだり、描写や造形の基礎力をつけたりするための演習を行う。 ・切り紙、フロッタージュ、イラスト、色塗り、新聞紙による造形、身近材による工作などを身につける。 ・習得した基礎的技術や豊かになった感性をいかして、現場で生かせるペーパーアート制作をする。 ※リモートでの授業となった場合も素材や技法などを変えて、概ね同等の内容を実施する。				
授業計画：				
回数	内容			準備学習
第 1回	基礎造形Ⅰの概要理解 ・シラバスと保育所保育指針を読み、授業の流れと内容を掴む。 ・子どもの表現や感性を育む為にどのような力を身につけたいか考える。 ・教材の配布。設備、道具の使い方を理解する。			保育所保育指針 幼稚園 教育要領の造形表現に関する部分を読む(60分)
第 2回	感性を働かせて表現を楽しむ ①② ① 「春のいいものみつけた」 ・心のままに自然素材を貼り、壁飾りを制作する。保育者の狙いや準備を理解し、同時に子どもの気持ちも体験する。 ② 「自然素材との出会いを深める」 グループワーク ・気づきや発見をもとに自然素材を並べたり組み合わせたりする。 ・フロッタージュの体験。コラージュやトレーシングペーパーの写しを楽しむ。 ＊フィードバックとしてグループごとに講評する。			葉や花など、春を楽しみながら自然物を収集し持参する。 (60分)
第 3回	感性を働かせて表現を楽しむ ③ ③ 「おってチョキチョキひらいて発見！」 ・切り紙を楽しみ、切り紙からできた形を使って感覚的に表現する。 ・形を見立てて発想したことを表現する。 ・自由に切る楽しさを味わい、イメージしながら創作する。 基礎的技術の習得 ①－Ⅰ ① 「切り紙の展開・折り方・切り方を習得する」 5角形(星形)6角形(花形)蛇腹折りなどの制作ができるようになる。			事後：切り紙の実技テストに向けて練習する。 (60分)
第 4回	感性を働かせて表現を楽しむ ④ ④ 「オイルパステル画」 ・オイルパステルによる表現。感性と身体感覚をいかして線や形、色で表現することを体験する。 基礎的技術の習得 ①－Ⅱ 「切り紙のテスト」 指定された切り紙を時間内に切る。 ＊フィードバックとしてコメントを返す。基準に満たない場合は再試験の機会を与え、身につくまで指導する。			事後：作品を完成させて次回持参する。 (60分)
第 5回	感性を働かせて表現を楽しむ ⑤ グループワーク ⑤ 「新聞紙で広がる遊び」 ・新聞紙を使った様々な創作活動や造形遊びをグループごとにテーマを			

	設定し体験する。	
	基礎的技術の習得 ②	
	② 「椰子の木」や「はしご」などの新聞紙を使用した工作やいくつかの遊び方を知って、できるようになる。	
第 6回	保育教材の作成 ①-I	
	「身近材を利用した工作」	
	・身近な素材（紙皿・紙コップ・牛乳パック・ペットボトル・段ボール	
	・アルミホイル・プラスチックカップなど）の特性をいかした、現場	
	で遊べたり、身につけられたり、飾れたりするものなどを制作する。	画材や自分の担当した様々な材料を集めてくる。
	・指導要領に照らし合わせて、制作のねらいを意識して子どもにとって	(15分)
	よい制作が何なのかを考える。	3・4・5歳の工作実例を
		収集・担当教材の制作の
第 7回	保育教材の作成 ①-II	準備をしてくる。
	「身近材を利用した工作」	(45分)
	・前回からの制作の続きをし、現場で指導する場合の流れを、準備や注	必要に応じて試作や制作
	意点なども踏まえながらまとめ、発表する。	の続きをしてくる(30分)
	*フィードバックとしてコメントを返す。	指導要領の造形表現の狙
第 8回	基礎的技術の習得 ③-I	いをまとめてくる。
	・簡単な図形からイラストへ	(30分)
	・保育園の生活の様子を表現したイラスト	いくつかの園児の生活の
第 9回	基礎的技術の習得 ③-II	様子を見ながら描けるよ
	・お便りなどを想定した、園児の生活を描くイラストのテストを行う。	うに練習する。(60分)
	*フィードバックとして返却時に改善点コメントを返す。	3つの園児の生活の様子
第10回	保育教材の作成 ②-I	を何も見ずに描けるよう
	「ペープサートの創作」	に練習する(60分)
	・制作するキャラクターを決めて制作開始。	制作したいペープサート
第11回	保育教材の作成 ②-II	を考えてくる。
	「ペープサートの創作」	(60分)
	・下描きをペンでなぞり着彩していく。	事後：終わっていない
第12回	保育教材の作成 ②-III	分は下描きを完成して
	「ペープサートの創作」	くる。(60分)
	・丈夫なペープサートの作り方を理解し、制作をする。	制作を自宅で進めてお
	*フィードバックとして途中経過を確認し、それぞれ改善点を伝える。	く。(60分)
第13回	保育教材の作成 ②-IV	
	「ペープサートの創作」	完成させられるよう制作
	・ペープサートを完成させる。	を進めておく。
第14回	作成した保育教材活用練習	(60分)
	「ペープサートを演じる」（脚本課題）	発表のために上手く演じ
	・演じ方を学び、台本を作成する。演じる練習をする。	られるようになるまで練
第15回	作成した保育教材活用練習	習をする。(60分)
	「ペープサートを演じる」（発表・鑑賞・評価）グループワーク	
	・ペープサートを使つての演技を発表する。	
	・互いによりよくするためのアドバイスを伝え合う。	
	*フィードバックとしてコメントを返す。	
	定時試験 定期試験としての作品提出を課す。	
	フィードバックの方法：	
	・作品の全体講評。・作品についてはコメントによる個別指導。・目標に達成しない場合は技術指導	
	と再テストの機会。・作品展示等。	
	テキスト： 保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説	
	参考書・参考資料等： 授業計画によって準備したプリント・画集・子どもの作品（絵や工作）を参考資料とする。	
	学生に対する評価：	
	・授業態度（事前事後課題を行い主体的に授業に取り組んでいるかなど）30%	
	・作品・発表・テスト（授業の目的を理解して制作しているか・創意工夫・完成度の高さ）60%	
	・レポート（基礎造形の知識を習得しているか・素材や道具を理解しているか）10%	
	・発表と作品やプリント、授業の準備・態度、定時試験に代わる作品提出と技術テストにより評価する。	

授業科目名：2111112012 保育の環境（身体表現） 1 年後期	必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：豊田 泰代 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 基礎技能科目 幼：その他の科目 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容の理解と方法		
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 6			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 コミュニケーションをうまく取れない子どもが増えつつある現代において、この授業ではダンスの持つ特性を生かし、身体での表現（ノンバーバルコミュニケーション）の能力を磨く。また身体表現を通して子どもの生活と遊びを豊かにするために必要な知識や技術を実践的に習得することを目的とする。 【テーマ】 イメージや感性を磨き様々なダンスを踊ることで「なりきる」楽しさを味わい身体をほぐして気持ちと身体を開放していく。			
授業の概要： 本授業では、子どもの心身の発達及び子どもを取り巻く環境に留意し、身体で表現する楽しさを味わうことから子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。また、ノンバーバルなコミュニケーション方法である身体表現を深め、身体で表現する楽しさを味わう。そのために童謡にあわせた幼児ダンスを踊ることを通して、リズム音楽や身体表現の基礎的技能を身につけること、見立てやごっこ遊び等を通して、身体表現の基礎的技能を身につけ豊かな感性を磨き、保育現場で役立つ力を高めていく。また、ダンスの創作方法についても学び、実際の創作を通して、現場で役に立つ力を高めていく。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	【オリエンテーション（授業の目的と方法）】 本授業の目的と方法について理解する。保育者として前に立つ場合の踊り方を意識する。 幼児ダンス：おつかいありさん、ぴよんぴよんバッタ、ひよっこりひょうたん島 わらべうた・伝承遊び：貨物列車から連なり遊びの展開	準備学習：幼児ダンス振り起し（10 分） 事後学習：幼児ダンス復習（10分）ノート（10分）	
第 2回	【乳幼児の発達の身体表現】 乳幼児の発達をとらえた身体表現を体験する。 幼児ダンス：ごろ・ころ・ゆら、おしりフリフリ、かみなりさまの踊り（盆踊り ver.） わらべうた・伝承遊び：あぶくたった	準備学習：幼児ダンス振り起し（10 分） 事後学習：幼児ダンス復習（10分）ノート（10分）	
第 3回	【手遊びから身体表現へ】 手遊びから身体表現へ発展する方法を体験する。 幼児ダンス：じゃんけんではよう、きのこ わらべうた・伝承遊び：ことろことろ	準備学習：幼児ダンス振り起し（10 分） 事後学習：幼児ダンス復習（10分）ノート（10分）	
第 4回	【おはなしから身体表現へ】 お話から身体表現へ発展する方法を体験する。変身遊びを通してなりきることの楽しさを体験する。（かっぱの皿作り） 創作ダンス：曲を持ちよりグループ作品曲を話し合う。 幼児ダンス：だんご虫の冒険、かっぱなにさま!!かっぱさま!! わらべうた・伝承遊び：とおりゃんせ	準備学習：幼児ダンス振り起し（10 分） 作品の選曲（60 分） 事後学習：幼児ダンス復習（10 分）ノート（10 分） かっぱ皿作り（30 分）	
第 5回	【ダンスアレンジ方法】 具体例からダンスのアレンジ方法について理解する。 創作ダンス：曲を持ちよりグループ作品の曲を決定する。 幼児ダンス：虫のおながくたい、かっぱ（簡単 ver.） わらべうた・伝承遊び： ゴム跳び遊び（いろはにこんぺいと、入って出て、アルプス一万尺）	準備学習：幼児ダンス振り起し（10 分） 作品の選曲（60 分） 事後学習：幼児ダンス復習（10 分）ノート（10 分）	

第6回	【創作①作品創り】 創作方法（ダンステクニック）について理解する。またダンスにおける小道具の効果を知る。 グループワーク①創作活動（どうよう曲：1番まで振付け） 幼児ダンス： わたあめ雲、かみなりさまの踊り（鳴子）	準備学習：幼児ダンス振り起し（10分） 作品の構想（60分） 事後学習：幼児ダンス復習（10分）ノート（10分）
第7回	【創作②作品創り】 創作作品の予算や衣装について学ぶ。 グループワーク②創作活動（どうよう曲：2番まで振付け） 幼児ダンス： 大きくなったら、ゆきだるまのだるりん	準備学習：幼児ダンス振り起し（10分） 作品構想（60分） 事後学習：幼児ダンス復習（10分）ノート（10分）
第8回	【創作③作品創り】 舞台の流れや係（裏方）について理解する。MCを考える。 グループワーク③創作活動（どうよう曲：構成・フォーメーションを考える） 幼児ダンス： 不思議なポケット	準備学習：幼児ダンス振り起し（10分） 衣装構想作成（60分） 事後学習：幼児ダンス復習（10分）ノート（10分）
第9回	【創作④作品創り・リハーサル】 グループワーク④創作活動（どうよう曲：構成・フォーメーションを整える、衣装を仕上げる）、舞台上リハーサル、他グループの作品把握	準備学習：創作作品の練習（20分） 衣装作成（60分） 事後学習：ノート（10分）
第10回	【創作⑤作品の踊りこみ・発表】 グループワーク⑤創作活動（どうよう曲：仕上げ）作品の踊りこみ・全体の仕上げを行い、授業内で発表する。	準備学習：創作作品の練習（20分）
第11回	【創作⑥鑑賞】 創作ダンスの発表・鑑賞を通して作品の構成・衣装・うごきなどを客観的に振り返る。 ICT活用：Teams 課題の振り返りシートへ入力する。 フィードバックの方法は、指導者が各グループへコメントを返すこと、学生同士意見交換すること、また作品発表の様子を映像に撮りそれらを各自で観返す。	準備学習：発表動画鑑賞（30分） 事後学習：ノート（10分）
第12回	【運動会用ダンスの体験①旗のダンス】 旗のダンスを体験し、手具ダンスの特徴を知る。 既存曲ダンスの体験： おどろうよ、世界中の子どもたちがわらべうた伝承遊びの体験： かごめかごめ、羽子板	準備学習：幼児ダンス振り起し（10分） 旗の作成（30分） 事後学習：幼児ダンス復習（10分）ノート（10分）
第13回	【運動会用ダンスの体験②パラバルーン】 パラバルーン（構成・うごき・方法）を体験して理解する。（夢をかなえてドラえもん）。 わらべうた伝承遊びの体験： たけのこいっぽん、たこあげ	準備学習：パラバルーンを調べる（20分） 事後学習：ノート（10分）
第14回	【運動会用ダンスの体験③ぼんぼんのダンス】 ぼんぼんの作り方を知り、ぼんぼんのダンスを体験する。 既存曲ダンスの体験： 赤鬼と青鬼のタンゴ、ドキドキドン！一年生、おひさまとダンス わらべうた伝承遊びの体験： 大波小波	準備学習：幼児ダンス振り起し（10分） 事後学習：幼児ダンス復習（10分）ノート（10分）
第15回	【まとめ】 復習として授業内で行った幼児ダンスのテストを行う。	準備学習：幼児ダンス練習（60分）
定期試験	ダンステスト、ノート提出を定期試験とする。	

フィードバックの方法：創作させた作品に関して、指導者が各グループへコメントを返すこと、学生同士意見交換すること、また作品発表の様子を映像に撮りそれらを各自で観返すことを通して行う。またホワイトボードの記載内容の写真、配布されたプリントのPDFデータ、幼児ダンスの動画はいつでも閲覧・復習できるように Teams の共有フォルダにアップロードする。

テキスト：なし

参考書・参考資料等：『身体表現遊びプレイソング』 賀来良江，チャイルド本社，1992.
『身体表現遊びプレイソング2』 田中（賀来）良江・豊田泰代，チャイルド本社，2005.
必要に応じて自作プリント『楽しく踊ろう』を配布

オープンな教育リソース：豊田泰代 【とよたやすよの幼児ダンスTV】 Yasuyo Toyota
チャンネルURL：<https://www.youtube.com/channel/UCkmMAkKzhezj3PuzR9eMoFw>

学生に対する評価：保育現場において必要な身体を用いた表現力の向上がみられたかをはかるために以下の4項目を総合的に評価して成績を判定する。授業の取り組み（30%）、創作活動（創作・発表・振り返り）（30%）、ダンステスト（20%）ノート・提出物等（20%）

授業科目名：2111212122 幼児体育	必修：卒・幼・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：岩井 幸博
2 年後期			担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 基礎技能科目 幼：その他の科目		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 5. 6. 8			
授業の到達目標及びテーマ：			
【授業の到達目標】			
・乳幼児期に経験すべき基本的な動作を説明することができる。			
・様々な幼児ダンスや運動遊びを指導することができる。			
・伝承遊びや遊具を使った遊びを指導することができる。			
【テーマ】			
乳幼児期に経験すべき基本的な運動動作を多種多様な幼児ダンス、運動遊び、伝承遊び、遊具を用いた遊び等の中で経験し、さらに子どもに対する指導法、援助法を身につける。			
授業の概要：			
運動遊びや幼児ダンスの知識や技術を発表しあい、共有する。学生は2～3名のグループに分かれ、幼児ダンス・運動遊びの模擬授業を行う。その際、幼児ダンス振付の図や運動遊びのルールなどが記載された資料を作成し、配布する。発表を通して、運動場面の設定の仕方、指導法や補助法を学ぶ。幼児ダンスや運動遊びによってどのような運動動作や感覚を経験できるか、何が育つかを考える。			
また、伝承遊びやいろいろな素材を使った遊具の遊び等を体験し、幼児への運動指導法、補助法を実践する。さらに授業内容をノートに記録し、現場に出てからの指導書として使用できるように作成する。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	ガイダンス（授業の進め方、発表・資料作成・ノート作成についての説明）	幼児ダンスや運動遊びについて予習しておく（60分）	
	・幼児ダンス『ゴリラのゴリちゃん』を踊る		
	・幼児ダンス・運動遊び発表グループと日程の決定		
第 2回	幼児ダンス・運動遊びの紹介・伝承遊び『独楽回し』	前回幼児ダンスの振りを復習する。こま回しのひもの巻き方や投げ方を調べる（60分）	
	・前回の幼児ダンスの復習		
	・幼児ダンス『しりとろうた』を踊る		
	・運動遊び『ジャンケン系のゲーム』を行う		
	・伝承遊び『独楽回し』ひもの巻き方、こまの持ち方、投げ方を習得する		
第 3回	幼児ダンス・運動遊び発表①・伝承遊び『けん玉』	前回幼児ダンスの振りを復習する。こま回しの歴史や起源を調べる（60分）	
	・前々回、前回の幼児ダンスの復習		
	・幼児ダンス・運動遊び発表① グループ発表を行う		
	・伝承遊び『けん玉』持ち方・遊び方を理解し、技を習得する		
第 4回	幼児ダンス・運動遊び発表②・伝承遊び『皿回し』	前回幼児ダンスの振りを復習する。けん玉の歴史や起源を調べる（60分）	
	・前々回、前回の幼児ダンスの復習		
	・幼児ダンス・運動遊び発表② グループ発表を行う		
	・伝承遊び『皿回し』微細な手の使い方を体験する		
第 5回	幼児ダンス・運動遊び発表③・伝承遊び『竹馬』	前回幼児ダンスの振りを復習する。皿回しについて調べる（60分）	
	・前々回、前回の幼児ダンスの復習		
	・幼児ダンス・運動遊び発表③ グループ発表を行う		
	・伝承遊び『竹馬』竹馬の乗り方、補助の仕方を学ぶ		
第 6回	幼児ダンス・運動遊び発表④・『鉄棒』を使った遊び①	前回幼児ダンスの振りを復習する。竹馬について調べる（60分）	
	・前々回、前回の幼児ダンスの復習		
	・幼児ダンス・運動遊び発表④ グループ発表を行う		
	・『鉄棒』を使った遊び①		
	鉄棒の設置の仕方、遊びの種類、補助方法を学ぶ		

第7回	幼児ダンス・運動遊び発表⑤・『鉄棒』を使った遊び② ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表⑤ グループ発表を行う ・『鉄棒』を使った遊び② 遊びの種類、補助方法を学ぶ	前回幼児ダンスの振りを復習する。鉄棒の遊び方や技について調べる (60分)
第8回	幼児ダンス・運動遊び発表⑥・『スラックライン』① ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表⑥ グループ発表を行う ・『スラックライン』① 設置、補助法を学び、バランス遊びを体験する	前回幼児ダンスの振りを復習する (60分)
第9回	幼児ダンス・運動遊び発表⑦・『スラックライン』② ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表⑦ グループ発表を行う ・『スラックライン』② バランス遊びを通して、バランス感覚を養う 補助法を習得する	前回幼児ダンスの振りを復習する (60分)
第10回	幼児ダンス・運動遊び発表⑧・『跳び箱』を使った遊び ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表⑧ グループ発表を行う ・『跳び箱』を使った遊び 設置方法、安全面の確保について理解する。跳び箱を使った様々な遊びを体験する。	前回幼児ダンスの振りを復習する (60分)
第11回	幼児ダンス・運動遊び発表⑨・『マット』を使った遊び① ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表⑨ グループ発表を行う ・『マット』を使った遊び① マットを用いて基本的な動作を含んだ遊びを体験する	前回幼児ダンスの振りを復習する (60分)
第12回	幼児ダンス・運動遊び発表⑩・『マット』を使った遊び② ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表⑩ グループ発表を行う ・『マット』を使った遊び② マットを用いて基本的な動作を含んだ遊びを体験する	前回幼児ダンスの振りを復習する (60分)
第13回	幼児ダンス・運動遊び発表⑪・『ボール』を使った遊び① ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表⑪ グループ発表を行う ・『ボール』を使った遊び① 様々な種類のボールを使って、投げる、捕る、蹴るなどの遊びを学ぶ	前回幼児ダンスの振りを復習する (60分)
第14回	幼児ダンスメドレー・『ボール』を使った遊び② ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・今まで踊った幼児ダンスのメドレーを踊る ・『ボール』を使った遊び② 様々な種類のボールと他の遊具を組み合わせた遊びを考え、実践する	前回幼児ダンスの振りを復習する (60分)
第15回	授業の振り返りとまとめ ・授業の振り返りとまとめ ・幼児ダンス、運動あそびノート提出日の指定	幼児ダンス、運動遊びの資料の確認、ノート作成をすすめる (60分)
定期試験	定期試験期間中に各授業で配布したプリント、課題等の達成度、感想等を記載したノート（ファイル）の提出日を設け、提出することを定期試験とする。	

フィードバックの方法：各回で発表した幼児ダンス、運動遊びについて発表後すぐにフィードバックを行う。具体的には学生同士の相互評価として良かった点、改善点などの意見を述べる時間を設け、かつ教員から良かった点、改善点などをコメントする。ノートは内容の評価し、コメントを付して返却する。

ICT活用について：学生同士の相互評価は双方向型としてMicrosoft Teamsを活用する。自主学習支援として幼児ダンス、運動遊びの様子は映像で記録し、学生が視聴できるようにMicrosoft streamで公開する。幼児ダンスの振りの確認、運動遊びのルール確認など実施した様子から振り返りを各自が行う。

遠隔授業の場合：状況によっては遠隔授業に切り替える場合がある。Microsoft Teamsを使用して、リアルタイムまたはオンデマンド型で実施する。

テキスト：

- ・授業発表者がプリントを作成し、発表する。
- ・授業内容に関するプリントを適宜配布する。

参考書・参考資料等：

- ・『0歳からはじめるうごきづくり』太田昌秀・豊田泰代・久保景子著，幻冬舎ルネッサンス，2008.
- ・『身体表現遊びプレイソング2』田中（賀来）良江・豊田泰代，チャイルド本社，2005.
- ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省
- ・『保育所保育指針解説』厚生労働省
- ・『幼児期運動指針』文部科学省

発表資料作成にあたって（幼児ダンス、運動遊びの参考図書及び音楽CDについて）

- ・本学図書館の資料を利用する
- ・居住地域にある図書館を利用する
- ・インターネットで手に入る資料を利用する

オープンな教育リソース：

学生に対する評価：

- ・授業に取り組む姿勢、態度、仲間への補助や指導の実施等の評価（20％）：観察によって評価する
- ・実技課題の習熟度の評価（20％）：観察によって評価する
- ・幼児ダンス・運動遊びの発表の評価（30％）：資料作成と配布、発表の準備、内容等を学生の相互評価および教員による評価より総合的に判断する
- ・ノート（ファイル）提出の評価（30％）：授業内容に関するノート（ファイル）を作成し、提出する。配布プリントの貼付、授業内容と感想、課題の到達度の記述、現場で活用できるノートとして作成されているかなどを評価する

授業科目名：2111112211 保育の環境（言語表現） 1 年前期		必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：山本 伸一 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		卒：専門教育科目 基礎技能科目 幼：その他の科目 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容の理解と方法		
学習成果該当番号：2. 4. 6. 7. 8				
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境、また保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活や遊びを豊かにするための児童文化財（絵本、紙芝居、ストーリーテリングなど）を活用する技術を修得する。 【テーマ】 児童文化財のジャンルと教育的役割、発達過程と絵本、ストーリーテリング、言葉遊び（なぞなど、同義語・対義語のクイズ、回文、遊び歌）への知見を深め、実践を行う。				
授業の概要： この授業では、まず乳幼児の発達過程を踏まえた児童文化財全般について、それぞれのジャンルの意義を概観する。その後日本語の音節について理解を深め、手遊び、わらべ歌などの歌詞を収集したり覚えたりしながら、実際に身体を動かすことで遊び方の技術を修得する。また、なぞなど、同義語・対義語のクイズ、回文などを用いた言葉遊びに関する教材も主体的に収集し、その成果を発表し合っ共有する。そのほか、絵本や紙芝居、ストーリーテリング（お話）の実践を通して音声言語技術の向上につとめ、保育の現場で効果的に活用できるようにする。 さらに、劇やペープサートのための脚本作りや、発表の場における動きや発声などに関する注意点なども、グループワークを通して実践的に学ぶ。最終回の授業では、総括として劇の発表を行う。 保育者にとって必要な用語や漢字も学習し、記録の作成に応用できるような力も身につける。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第 1 回	児童文化財の内容と意義 児童文化財の概念や、児童文化財の種類（言葉遊びであるしりとり、伝言ゲーム、かるたとりなども含む）や特徴を理解する。また、簡単な自己紹介を通して、自身の言葉や話し方についての課題を明らかにする。毎回、振り返りシートに、授業や発表を通しての自身の気づきを記入する。 この回から第 14 回まで、毎回漢字テストを実施〔『保育の基本用語』より出題〕。		教科書『保育の環境（言語表現）言葉の楽しみ』第 1 編の 1 を読んでおく。以下、通読しておく箇所のみ記載する。簡単な自己紹介のための準備。漢字テスト〔1 回目〕対策。（60 分）	
第 2 回	日本語の音節とリズム 日本語の音節を理解する。また、日本語のリズムは 2 音基調 8 音節句であることを知り、音律の意義と 7 音・5 音の必然性について確認する。		教科書・第 1 編の 2。心地良いリズムを持つ言語表現を探してくる。漢字テスト〔2 回目〕対策。（60 分）	
第 3 回	なぞなぞ 発達過程に相応しい幼児用のなぞなぞを収集し、整理する。保育者役と幼児役を交互に行いながら、なぞなぞを使う場の設定、前置き、指示や説明の仕方を考える。なぞなぞ遊びの楽しみ方、言葉に対する興味・関心の惹き方についても検討する。		教科書・第 4 章。幼児向けのなぞなぞやクイズを集め、それらを保育現場で、いつ、どのように活用するか、を想定してくる。漢字テスト〔3 回目〕対策。（60 分）	
第 4 回	楽しみながら言葉をやり取りする方法 同義語・類義語や対義語の一覧表をもとに、それらを用いたクイズの出し方を話し合う。また反対言葉、回文、頭韻歌などについて理解し、保育者役と幼児役を交互に行いながらクイズを出し合い、効果的な言葉の獲得方法や楽しみ方を学ぶ。		教科書・第 5 章。保育所を終えるまでに幼児に身に付けてほしい同義語・類義語や対義語を挙げ、効果的な指導法を考案する。漢字テスト〔4 回目〕対策。（60 分）	

第5回	手遊び1 乳児から5歳児まで、発達過程に応じた手遊びがあることを学ぶ。乳児を膝の上に乗せて手遊びを行う際の注意点についても話し合う。	教科書・第2編1章の1・2。乳児用、幼児用手遊びにはどのようなものがあるか、インターネットなどを利用して調査する。漢字テスト〔5回目〕対策(60分)
第6回	手遊び2 自分たちで探し集めた手遊びについて、言葉、音楽(リズム)、動作などの観点から、教材としての価値をグループごとに検討する。また、手遊びの目的、場の設定、留意点などについても話し合ったうえで、発表を行う。	教科書・第2編第1章・3。手遊びに関する、グループ発表のための練習。漢字テスト〔6回目〕対策。(60分)
第7回	わらべ歌 図書館資料やインターネットを利用して、各自で集めてきたわらべ歌について、その価値を理解する。	教科書・第2編第2章。本学附属図書館や地域の図書館を利用して、わらべ歌に関する資料を持参する。漢字テスト〔7回目〕対策。(60分)
第8回	紙芝居1 グループで、いくつかの紙芝居を演じたり、鑑賞したりすることを通して、その目的や価値について話し合う。	教科書・第3章の1。本学や地域の図書館を利用して、紙芝居を1作品選び、持参する。事前に紙芝居の練習をしておく。漢字テスト〔8回目〕対策。(60分)
第9回	紙芝居2 グループで選んだ紙芝居について、人物の台詞や抜き方、間などに留意して発表を行う。描かれた場面の状況や、人物の心情を効果的に表現できるような読み方について話し合う。	教科書・第3章の2。グループで発表の練習を行う。紙芝居の演じ方のポイントを整理する。漢字テスト〔9回目〕対策。(60分)
第10回	ストーリーテリング1 ストーリーテリングの概要を学び、お話の覚え方や演じ方を理解する。	教科書・第6章。教科書に掲載されているお話を、滑舌良く朗読できるようにしておく。漢字テスト〔10回目〕対策。(60分)
第11回	劇1 物語や童話を劇にするため、脚本を作成する方法を理解する。	教科書・第7章。劇に使う作品を用意する。漢字テスト〔11回目〕対策。(60分)
第12回	紙芝居発表会に向けて 紙芝居発表会に向けて、「紙芝居レポート」の書き方について理解する。この際入学前紙芝居レポートを活用して、レポート書き方を理解する。	演じる紙芝居についての作品研究をおこない、「言葉の指導」観点で作品の価値を考える。(60分)
第13回	紙芝居を演じる1 一人ひとりが紙芝居を演じる。相互評価を行い、互いの演じ方の優れた点に気付くようにする。	作成した「紙芝居レポート」をもとに、紙芝居を演じる練習を行う。(60分)
第14回	紙芝居を演じる2 一人ひとりが紙芝居を演じる。相互評価を行い、互いの演じ方の優れた点に気付くようにする。	作成した「紙芝居レポート」をもとに、紙芝居を演じる練習を行う。(60分)
第15回	紙芝居を演じる3 一人ひとりが紙芝居を演じる。相互評価を行い、互いの演じ方の優れた点に気付くようにする。	作成した「紙芝居レポート」をもとに、紙芝居を演じる練習を行う。(60分)
定期試験	定期試験期間中にレポート試験を行う。	

フィードバックの方法：

毎回の振り返りシートに関しては、回収後に記述内容を確認したうえで、次の授業時に返却して解説する。

漢字テストは、実施後に回収し、次回以降の授業時に返却。フィードバックとして解答の解説を行う。

授業形態は、対面授業で行う。遠隔授業は必要な状況においては、下記の授業計画に示す内容でオンデマンドまたはリアルタイムオンラインで授業を行う。

テキスト：『保育の環境（言語表現） 言葉の楽しみ』神谷爲義 貞静学園短期大学
『保育の基本用語』長島和代編 わかば社

参考書・参考資料等：『えほんのせかい こどものせかい』松岡享子 日本エディタースクール出版部、
『保育所保育指針』厚生労働省、 そのほか授業に必要な文書などは、印刷配布する。

オープンな教育リソース：

学生に対する評価：次の3点を総合的に評価して、成績を判定する。

- ①レポート試験（50%）
- ②授業内の演習における取り組み状況（20%）
- ③課題の提出状況・内容、漢字テストの振り返り（30%）

実務家教員による授業科目：幼稚園教員養成課程を卒業し、幼稚園並びに小学校教諭として長年勤務してきた。その間に大学院において学校教育を専攻し、研鑽を積み、小学校並びに幼稚園教諭専修免許状を取得している。幼少接続を専門的に研究しており、研究成果と経験を生かし、保育の環境（言語表現）を担当する。

授業科目名：2211112312 教育原理	必修：卒・幼・保	単位数：	担当教員名：姜 華
1 年後期		2単位	担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 基礎理論科目 幼：教育の基礎的理解に関する科目 教育の理念ならびに教育に関する歴史及び思想 保：保育の本質・目的に関する科目 教育原理		
学習成果該当番号：1. 4. 5. 6			
授業の到達目標及びテーマ			
【授業の到達目標】 ①教育の諸概念と教育の理念・目的について、特に乳幼児教育・保育と関連づけながら基礎的な知識を理解する。 ②家族や社会による教育の歴史、近代教育制度の成立と展開の歴史、歴史的な視点から見た現代社会の教育課程について、特に乳幼児教育・保育と関連づけながら説明できる。 ③家庭や子どもに関わる教育の思想、学校や学習に関わる教育の思想、代表的な教育家の思想について把握する。			
【テーマ】 教育の意義と目的、教育の歴史、「教える」という仕事、社会教育と生涯学習、地域社会と学校、現代日本の教育課題			
授業の概要			
まず、現在の考えられている教育の意義や目的について、乳幼児の保育・教育も含めて理解する。次に現在の教育を成り立たせるにいたった国内外の教育思想を取り上げて、子ども観・教育観の変遷をたどる。その後、教育制度について教育法規や教育行政の基礎的事項に触れながら検討し、特に乳幼児保育・教育については欧米との比較を通して今日の教育のあり方を解説する。また特に実際の保育・教育では、環境を通して行うという日本の幼児教育の基本を踏まえ、実践を見直して改善を図ることの大切さを理解させ、生涯にわたって学び続けてキャリアアップを図る気持ちをもてるようにする。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1 回	【子どもの発達と教育の目的】 近代以前と近代以降で、教育の目的がどのように変わってきたかについて理解する。発達をめぐっては、「内から引き出す」のか、「外から与える」のかという二つの考え方があることを把握する。	テキストの6頁から15頁までを読んで、わかりにくいことや疑問に思うことをチェックしておくこと。(60分)	
第 2 回	【教育とは何か】 人間とは何かを考えるうえで、教育とは何かを考察する。また、教育という概念を「形成」や「教化」などといった類似した概念と比較することを通して、教育とは何かについて探究する。	テキストの18頁から26頁までを読んで、わかりにくいことや疑問に思うことをチェックしておくこと。(60分)	
第 3 回	【学校の歴史】 まず、なぜ学校が生まれたのかを考えたあと、すべての子どもが学校に通うようになった要因を探る。そうした学校に通う公教育制度の成立の歴史と、その成立の要因となった思想家たちの考え方を通して、公教育の理念を理解する。	テキストの28頁から37頁までを読んで、わかりにくいことや疑問に思うことをチェックしておくこと。(60分)	
第 4 回	【海外の教育史（古代ギリシアの教育思想）】 ソクラテス、プラトン、アリストテレスらの知の巨人たちの思想を基礎的なレベルにおいて確認し、西洋教育思想の源流を把握する。それを通して、現在の私たちの教育観を逆照射する。	テキストの40頁から50頁までを読んで、わかりにくいことや疑問に思うことをチェックしておくこと。(60分)	
第 5 回	【海外の教育史（近代の教育思想）】 現代の日本の私たちが当たり前のものとして経験してきた、学校をはじめとした教育システムや、教育についての見方や考え方がどのような思想的背景のもとでつくられてきたかについて、詳細に理解する。	テキストの52頁から61頁までを読んで、わかりにくいことや疑問に思うことをチェックしておくこと。(60分)	
第 6 回	【海外の教育史（近代教育学の成立）】 学校や教育内容や時間割など、私たちが当たり前のものとして受け入れているものは、いつごろから整備されてきたのかを知るために、主に19世紀から20世紀の西洋の歴史を学ぶ。	テキストの64頁から75頁までを読んで、わかりにくいことや疑問に思うことをチェックしておくこと。(60分)	

第7回	【日本の教育史】 近世から近代にかけて日本の教育制度と教育文化について理解する。特に近世では文字文化の普及を支えた教育機関、近代では国民を育成するための機関としての学校教育を中心に解説する。	テキストの78頁から87頁までを読んで、わかりにくいことや疑問に思うことをチェックしておくこと。(60分)
第8回	【教育課程と授業の計画】 学校での「考えるという仕事」がどのように動き出すかについて学習する。この仕事は、「計画づくり」と呼ばれる「教育課程の編成」であるが、このことに関する意義や基本的な考え方について説明する。	テキストの90頁から101頁までを読んで、わかりにくいことや疑問に思うことをチェックしておくこと。(60分)
第9回	【教育課程と授業の実践】 とすれば、授業は教育課程に基づいた固定的なもの、そして子どもにとって受動的なものと思えがちであるが、実はそれは間違いであることを、授業づくりに焦点を当てて考える。	テキストの104頁から113頁までを読んで、わかりにくいことや疑問に思うことをチェックしておくこと。(60分)
第10回	【教育評価】 教育評価のあり方は、学習指導の多様化にともない多種多様になり、明確な整理がなされない状況になりつつあるだけに、学習指導を改善するためにも、明確な理解が必要不可欠になっている。教育評価を理解したうえで、そのあるべき姿について、ディスカッションを交えながら展望する。	テキストの116頁から127頁までを読んで、わかりにくいことや疑問に思うことをチェックしておくこと。(60分)
第11回	【学校・学級の経営】 学校や学級を経営するといった場合、それは何を指して、どのように行われるのかについて説明する。その際に、「教える」と「学ぶ」という言葉をキーワードにしながら考える。	テキストの130頁から140頁までを読んで、わかりにくいことや疑問に思うことをチェックしておくこと。(60分)
第12回	【学び続ける教師になるために】 教職の専門性というのは、かつての「教える職業」から「学ぶ専門性」というものへ質的に転換してきている。それは本当なのか、もし本当ならば、その理由は何かについて、ディスカッションを交えながら考える。	テキストの142頁から152頁までを読んで、わかりにくいことや疑問に思うことをチェックしておくこと。(60分)
第13回	【社会教育と生涯学習】 「社会教育」という言葉は、近年では「生涯教育」や「生涯学習」と同じような意味でも使われているが、わが国では「生涯学習」の考え方が導入される以前から培われてきた日本固有の教育の理念であり、取り組みである。したがって、社会教育に焦点をあてながら解説したうえで、学校教育との連携について、ディスカッションを交えながら学ぶ。	テキストの154頁から166頁までを読んで、わかりにくいことや疑問に思うことをチェックしておくとともに、6頁から63頁までを復習しておくこと。(60分)
第14回	【地域社会と学校】 地域と学校の連携について学ぶ。より具体的にいえば、まず、大別して三つのタイプの連携を確認したうえで、地域と学校が連携する際の制度の概要を詳しく説明する。次に、「地域学校労働活動」という今後の重要な動向についても目を向け、未来のあるべき連携の姿についてディスカッションを交えながら展望する。	テキストの168頁から177頁までを読んで、わかりにくいことや疑問に思うことをチェックしておくとともに、64頁から129頁までを復習しておくこと。(60分)
第15回	【現代日本の教育問題】 学校教育に大きな影響を及ぼしている「現代社会の教育問題」について学ぶ。その際に、まず、社会問題にもなっている「いじめ・不登校問題」と取りあげ、次に悪循環が心配される「子どもの貧困問題」、そして急速に進歩・発展する「国際化・情報化への対応」について考察したうえで、教育のあるべき姿についてディスカッションを交えながら展望する。	テキストの180頁から189頁までを読んで、わかりにくいことや疑問に思うことをチェックしておくとともに、130頁から179頁までを復習しておくこと。(60分)
定期試験 定期試験期間中に筆記試験を行う。		
フィードバックの方法：理解度を確認する意味で、コメントシートを毎回提出させ、それを評価するとともに、必要な指導助言を書き添えてフィードバックする。		
テキスト：『よくわかる！ 教職エクササイズ① 教育原理』 ミネルヴァ書房		
参考書・参考資料等：①『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） ②『保育所保育指針解説』（フレーベル館） ③『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）		

オープンな教育リソース：

学生に対する評価：毎回提出されるコメントシートと定期試験の成績を総合的に評価する。配点は、基本的に、コメントシートへの取り組み（70％） 定期試験（30％）である。

授業科目名：2211112421 保育原理 2年前期	必修：卒・幼・保	単位数： 2単位	担当教員名： 小山 玲子 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 基礎理論科目 幼：大学が独自に設定する科目 保：保育の本質・目的に関する科目 保育原理		
学習成果該当番号：1. 3. 5. 6. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】①保育の意義及び目的を理解する②保育に関わる法令や制度を理解する。③保育の歴史・思想の歴史と現代論の特質を理解する④保育所保育指針における保育の基本を理解する。 【テーマ】保育所保育を中心に、その原理・制度・歴史・方法などがテーマとなる。			
授業の概要：近年、保育士の役割は多様になっている。本授業は「保育とは何か」といった疑問から、保育の歴史・制度・保育内容などの知識を習得し、その中で保育の意義、原理、原則を理解していく。また、現代家族を概観し、保育所の社会的役割、保育ニーズ、健やかな子どもの成長を育む保育について検討する。さらに保育計画や評価の方法などを通して、保育所の実際を学んでいく。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	<u>保育の意味と意義</u> 保育の概念、保育の社会的役割と責任、保育の対象、子どもの最善の利益について理解する。	[復習]第1章についてのワーク(配布プリント)の記入(60分)	
第 2回	<u>子どもを取り巻く環境の変化とは</u> 家庭環境・社会環境の変化、保護者の子育て意識の変化 保育のニーズの多様化について考える。保育所保育指針と幼稚園教育要領の改訂の変遷を概観し、現在に至った経緯を理解する。	テキスト第2章の通読(60分)	
第 3回	<u>西洋の保育の歴史と思想①</u> 中世から近代にかけての子どもの捉え方、近代における子どもの発見、代表的な近代西欧保育思想とその変遷について理解する。	テキスト第3章1節の通読(30分) [復習]ワーク(配布プリント)の記入(30分)	
第 4回	<u>西洋の保育の歴史と思想②</u> 中世から近代にかけての子どもの捉え方、近代における子どもの発見、代表的な近代西欧保育思想とその変遷について理解する。	テキスト第3章2節の通読(30分) [復習]ワーク(配布プリント)の記入(30分)	
第 5回	<u>日本の保育の歴史と思想</u> 代表的な保育思想・保育施設の歴史とその変遷について理解する。	テキスト第3章3節の通読(30分) [事後学習]第3～5回の授業の中で、興味を持った教育思想家をレポートにまとめ提出する(60分)	
第 6回	<u>保育における「子ども理解」</u> 子ども理解・カウンセリングマインド・子どもを見るまなざし・子どもの発達の捉え方、保育所保育指針・幼稚園教育要領における発達の捉え方を理解する。 ※確認テストを実施する(第3～5回の内容)	テキスト第4章の通読(60分)	
第 7回	<u>保育環境とは</u> 環境による保育(保育所保育指針・幼稚園教育要領における環境の捉え方)、物的環境に込められた保育者の願い、人的環境としての保育者、環境構成について、メディアと環境との関係について考える。 ※確認テストの振り返りを行う	テキスト第5章の通読(30分) [復習]ワーク(配布プリント)の記入(30分)	

第 8回	<u>保育の内容、保育の方法・形態</u> 「保育内容」の根拠と実際の保育内容、ねらい・内容・領域の捉え方、保育所保育指針・幼稚園教育要領の構成と特徴を理解する。 保育方法の原理、保育の形態(自由保育と一斉保育・設定保育・チーム保育・コーナー保育・統合保育。多文化共生保育。異年齢保育・担当制保育等)と子どもの活動、遊びによる総合的な指導について考える。	テキスト第6・7章の通読(30分) [復習]ワーク(配布プリント)の記入(30分)
第 9回	<u>保育の計画と評価</u> 保育における計画と実践の原理、実践から計画、改善などの必要性を検討する。保育の記録と評価、循環する保育実践とカリキュラム・マネジメント、苦情解決の原則と仕組みを学ぶ。	テキスト第8章・第9章の通読(60分) [復習]ワーク(配布プリント)の記入(30分)
第10回	<u>家庭援助と子育て支援、保育に関する法制度</u> 子育て支援の背景、子育て支援センターとしての保育所・幼稚園の役割を理解する。相談援助者としての保育者のあり方・最新の保育制度について学ぶ。	テキスト第10章の通読(30分) [復習]ワーク(配布プリント)の記入(30分)
第11回	<u>家庭・小学校との連携</u> 家庭との連携の必要性和連携の方法、保育園と幼稚園との連携・幼保小の連携の必要性並びに連携の実際を学ぶ。幼児期に育みたい資質と小学校教育への接続を理解する。	幼稚園、保育所で行われている小学校との連携実例をレポートにまとめ提出する(90分)
第12回	<u>子どもの安全・虐待・特別な配慮を要する子どもへの対応</u> 安全教育・防災教育等危機管理全般に関すること、虐待対応の基本、配慮を要する子どもへの対応、集団生活の中での障がいのある子どもの保育について理解する。	テキスト第12章の通読(30分) [復習]ワーク(配布プリント)の記入(30分)
第13回	<u>保育者の専門性</u> 保育者の倫理観・子どもの人権・プライバシーの保護、保育者の専門性を考える。保育の質の向上を目指し、保育の評価と保育者の研修について検討する。 ※確認テストを実施する(第10～13回の内容)授業内に採点確認	テキスト第13章の通読(30分) [復習]ワーク(配布プリント)の記入(30分)
第14回	<u>諸外国の保育の現状と課題</u> フランス・ドイツ・アメリカ・イギリス・イタリア・フィンランド・スウェーデン・アメリカ等諸外国の保育制度や保育内容を学ぶ。	興味を持った国の保育についてレポートにまとめ提出する(90分)
第15回	<u>保育の現状と課題</u> 待機児童の現状・保育の民営化・地域型保育所・認証保育所・保育の質と第三者評価・幼保一元化等、保育園・幼稚園現代日本における保育の現状を把握し、課題について検討する。	テキスト第14章の通読(30分) [復習]ワーク(配布プリント)の記入(30分)
定期試験 定期試験期間中に筆記試験を実施する ・毎回授業内で2～4人でのディスカッションを行う。 フィードバックの方法：レポートについては提出後評価し、コメントを加えて返却する。 ワークシートは授業内で使用し検討及び助言をし、確認テストについては説明をしながら採点を行う。		
テキスト：『最新 保育原理』 島田ミチコ監修 上中修編著 教育情報出版 『保育所保育指針』(厚生労働省 フレーベル館)		

『幼稚園教育要領』（文部科学省 フレーベル館）適宜プリントを配布	
参考書・参考資料等	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省 フレーベル館）
	『保育所保育指針解説』（厚生労働省 フレーベル館）
オープンな教育リソース：	
学生に対する評価：以下の3点を総合的に評価して成績を判定する。 定期試験50％・授業への取り組み20％・課題30％を総合的に評価する。	

授業科目名：2200112521 子ども家庭福祉 2年前期		必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：笹尾 雅美 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		保：保育の本質・目的に関する科目 子ども家庭福祉		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 5. 6. 7. 8				
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 1. 現代社会における子ども家庭福祉の理念と概念、そして歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体制等について理解する。 4. 児童家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 【テーマ】 1. 権利主体としての子どもを捉えていく視点を養うこと。 2. 子ども家庭福祉サービスにより、子育て家庭の問題状況がどのように解決・緩和されているかを理解し、課題を明確にすること。				
授業の概要：子ども家庭福祉は、社会の変化に伴いその姿を変えるものである。日本における子ども・家族・社会の変化と、それに伴う子ども家庭福祉の歴史的変遷について、法律、制度、実施体制などに焦点をあてて学ぶ。特に、子ども家庭福祉の一分野としての保育の役割について、理解を深める。さらに現代社会における子どもに関する問題に焦点をあて、求められる子ども家庭福祉や今後の課題についてグループ学習により理解を深める。学習を通して、子ども家庭福祉の根底である子どもの「人権」に対する理解を深め、保育者としてふさわしい子ども家庭福祉の視点を養う。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第1回	子ども家庭福祉の理念と概念について理解する。 ・子ども家庭福祉を学ぶ際の4つの視点（理念、政策、実践、運営）から全体像を把握し、児童の最善の利益について、グループディスカッションを行う。		教科書pp. 1-13を読んで、児童の最善の利益について、説明できるように下調べをする（60分）。	
第2回	子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向について理解する。 ・視聴覚教材を用いて、欧米の子ども家庭福祉の特徴を概観し、ニーズの変化や担い手の変化をとらえる。		教科書pp. 15-26を読んで、疑問点等を挙げることにより、子ども家庭福祉の歴史について関心を高める（60分）。	
第3回	子どもの人権擁護について理解する。 ・子どもの人権擁護のしくみがどのように構築されてきたのかを理解し、児童の権利に関する条約およびその具体化に向けた取り組みとして、「子どもの権利ノート」についてグループ学習とプレゼンテーションを行う。		教科書pp. 27-38を読んで、子どもの権利ノートに関して、下調べをする（60分）。	
第4回	子ども家庭福祉の制度と実施体制について理解する。 ・子ども家庭福祉サービスが提供されるまでの仕組みとして、基本理念、実施主体、施設、機関等を定める法律や制度について学ぶ。		教科書pp. 39-52を読んで、児童福祉法について、下調べをする（60分）。	
第5回	子ども家庭福祉の施設と専門職について理解する。 ・保育所をはじめとする児童福祉施設の種類やその目的および役割を知り、子ども家庭福祉の機関・施設に配置されている専門職倫理について、ワークシートで学ぶ。		教科書pp. 53-68と全国保育士倫理綱領を読んで、専門職としての意識を高める（60分）。	
第6回	少子化と地域子育て支援について理解する。 少子高齢化の要因や子育て支援が必要とされる背景を学び、子育て家庭のニーズに対応する地域の子育て支援の実践について、グループ学習を行う。		教科書pp. 69-82を読んで、子育てに関するサービスや制度について調べ、説明できるようにする（60分）。	
第7回	母子保健と子どもの健全育成について理解する。 ・「母子保健」「子どもの健全育成」の視点から、妊娠～学童期までの支援体制を学び、子どもの健全育成の実践につい		教科書pp. 83-98を読んで、居住地域の子どもの健全育成について、資料を準備する（60分）。	

第8回	て学修し、リアクションペーパーによる振り返りを行う。 多様な保育ニーズについて理解する。 ・子ども・子育てを社会全体で支援するしくみである子ども・子育て支援制度の概要を学び、多様な保育ニーズと課題に気付く。リアクションペーパーにコメントをつけて返す。	教科書pp. 99-110と配布資料を読み、認可保育所、幼稚園、認定こども園、認可外保育施設等について、下調べをする(60分)。
第9回	子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止について理解する。 ・子どもの養育環境の基盤である家庭の中で生じている子ども虐待・ドメスティックバイオレンスの現状と子どもに及ぼす影響、そして防止のための取り組みについて理解する。新聞記事を読んでレポートを作成する。	教科書pp. 111-124を読んで、子ども虐待とドメスティックバイオレンスに関する新聞の記事やニュースに関心をもつ(60分)。
第10回	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応について理解する。 ・貧困の現状や貧困のなかで子ども期を過ごすということが子どもにどのような影響をもたらすのかを学ぶとともに、格差を解消するための保育所の可能性について、グループディスカッションを行う。	教科書pp. 125-140を読んで、子どもの貧困について、下調べをする(60分)。
第11回	社会的養護について理解する。 ・社会的養護の概要やその方向性等を振り返るとともに保育士としても携わりうる社会的養護下の子どもたちへのかかわりについて、グループディスカッションを行うことにより、保育士の役割を深く理解する。	社会的養護の授業で学んだことを振り返り、教科書pp. 141-152を読んで、要保護児童について下調べをする(60分)。
第12回	障害のある子どもへの対応について理解する。 ・障害児への支援の変遷について振り返ることにより、ノーマライゼーションの理念を学修し、障害児支援のポイントについて、グループディスカッションを行う。	教科書pp. 153-166を読んで、ノーマライゼーションについて下調べをする(60分)。
第13回	少年非行等への対応について理解する。 ・非行の現状や特別な支援の制度について学び、少年たちにより良い環境を提供し成長をうながす育ち直しの支援の意味や仕組みを学ぶ。	教科書pp. 167-178を読んで、少年院や児童自立支援施設について、下調べをする(60分)。
第14回	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進について学ぶ。 ・出生数および合計特殊出生率の年次推移を理解し、エンゼルプラン、新エンゼルプラン、次世代育成支援等の少子化対策の背景や流れを学び、今後の子育て支援の課題について、グループディスカッションを行う。	教科書pp. 179-190を読んで、これまでの少子化対策の流れについて、下調べをする(60分)。
第15回	地域における連携・協働とネットワークについて学ぶ。 保育所保育指針と全国保育士会倫理綱領より、保育の実践場面における「連携・協働」、「ネットワーク」について学び、実際の現場で求められる保育士像について、プレゼンテーションをする。	教科書pp. 191-202を読んで、連携・協働、ネットワークについて、下調べをする(60分)。
定期試験 定期試験期間中に筆記試験を課す。		
フィードバックの方法：第3回、第15回のプレゼンテーションのあとに講評する。第10回に、第9回で提出されたレポートにコメントをつけて返す。		
授業実施形態：対面授業を基本とするが、状況に応じて遠隔授業に変更する場合がある。		
テキスト：公益財団法人 児童育成協会「子ども家庭福祉」中央法規、2019		
参考書・参考資料等：厚生労働省（編）保育所保育指針解説 株式会社フレーベル館、2018 自作資料を印刷配布する。		
オープンな教育リソース：「e-GOV 法令検索」 https://elaws.e-gov.go.jp/		
学生に対する評価：準備学習及び授業への取り組み（主に、グループディスカッションやプレゼンテーションに関するリアクションペーパー）（20％）、ワークシート等の提出状況と内容（20％）、定期試験（60％）を総合して評価する。		

授業科目名：2200112611 社会福祉	必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：笹尾 雅美 担当形態：講義 単独
1 年前期			
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の本質・目的に関する科目 社会福祉		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ：			
【到達目標】			
1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭福祉の視点を養う。			
2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。			
3. 社会福祉における相談援助について理解する。			
4. 社会福祉における利用者の保護に関わるしくみについて理解する。			
5. 社会福祉の動向と課題について理解する。			
【テーマ】			
基本的人権の尊重を基盤に、社会福祉の歴史・法律・組織・技術を広い視点で学ぶ。			
授業の概要：			
社会福祉の基本的視点や枠組みの理解のため、社会福祉の歴史の変遷や制度、実施体系等を学ぶ。社会福祉における子ども家庭福祉の視点や少子高齢社会における社会福祉の動向と課題について理解する。利用者の保護に関わるしくみについて幅広く学び、社会福祉の相談援助の事例から保育士に求められるソーシャルワークの基礎や今後の社会福祉サービスにおける利用者主体の仕組みを学修する。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	社会福祉の理念と歴史の変遷について理解する。 ・社会福祉とは何か、そしてそれがどのような理念で実践され、人々の生活や生命への介入を果たしているのかを学ぶ。欧米や日本における社会福祉の成立と展開について理解する。	教科書pp.1-12を読んで、私たちの日常生活を支える社会福祉に関して、下調べをする(60分)。	
第 2回	子ども家庭支援と社会福祉について理解する。 ・子育て家庭にとって最も身近な社会福祉の専門職である保育士について学ぶ。子どもの最善の利益を考慮した保育の展開と地域の社会資源と連携しながら家庭を支援していくことの重要性について理解する。	教科書pp.13-26を読んで、専門職としての保育士について下調べをする(60分)。	
第 3回	社会福祉の制度と法体系について理解する。 ・日本の社会福祉の法制度の体系を整理し、制度・法律の種類、位置づけ、役割についての基礎知識を身につける。また、保育にかかわるうえで知っておくべき主要な社会福祉の制度・法律について理解する。	教科書pp.27-38を読んで、社会福祉法や児童福祉法等について、下調べをする(60分)。	
第 4回	社会福祉行政と実施機関、社会福祉施設等について理解する。 ・行政機関と諸制度との関連について学ぶ。特に保育とかかわりがある厚生労働省、福祉事務所、児童相談所等の機能と役割について資料を用いて理解する。	教科書pp.39-54を読んで、社会福祉施設について、関心を高める(60分)。	
第 5回	社会福祉の専門職について理解する。 ・社会福祉の資格の定義や役割・機能等に関して、e-GOV法令検索を用いて、根拠となる法律から学ぶ。さらに、児童福祉施設に配置されている専門職、及びその他の専門職との連携・協働の意味について理解する。	教科書pp.55-66を読んで、保育士資格について、下調べをする(60分)。	
第 6回	社会保障および関連制度の概要について理解する。 ・社会保障制度と子育て世帯の現状について学び、そのうえで、子育て世帯の問題状況について、グループディスカッションを行う。	教科書 pp.67-78を読んで、子育て世帯を取り巻く現状について、下調べをする(60分)。	
第 7回	相談援助の理論について理解する。 ・保育士が子どもの家族と関わる際に用いる相談援助技術の理論について、その成り立ちや理論の発展過程について概略を学ぶ。さらに、現場実践で相談援助技術を展開するうえでの要件や留意点、人	教科書 pp.79-90を読んで、保育現場の相談について下調べをする (60分)。	

第 8回	の行動や取り巻く環境の多様性について、理解する。 相談援助の意義と機能について理解する。 ・振り返りの小テストを行う ・相談援助の意義と機能について理解する。専門職として行う「相談援助」のもつ意義とその使命を果たすために求められる利用者へのまなざしや態度、基盤とする価値・倫理、原則について学ぶ。	教科書 pp.91-102を読み、相談援助の原則について、下調べをする(60分)。
第 9回	相談援助の対象と過程について理解する。 ・相談援助の対象と相談援助の過程を学ぶ。さらに、援助者としての態度や、援助者として意識していきたい視点について、グループディスカッションを通じて、意識の向上を図る。	教科書 pp.103-114を読んで保育における相談援助について、下調べをする(60分)。
第10回	相談援助の方法と技術について理解する。 ・保育の専門性を活かした相談援助の方法・技術の必要性について理解する。保育現場において保育者が相談援助の方法と技術を用いた支援を行うことの強みと関係機関との連携における課題についてグループディスカッションを通じて、理解を深める。	教科書 pp.115-128を読んで保育現場における保育者の相談援助の方法・技術について説明できるように、下調べをする(60分)。
第11回	社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみについて理解する ・福祉サービスの提供にあたっては、利用者主体ということがいわれるように、何よりも利用者の利益や権利が守られる必要がある。利用者保護に関わる制度に関して、グループ学習とプレゼンテーションを行う。	教科書 pp.129-140を読んで保育所における苦情対応について、下調べをする(60分)。
第12回	少子高齢化社会における子育て支援について理解する。 ・統計資料を通じて、少子化の現状を確認したうえで、これまでの少子化対策の展開と少子化対策における保育所の役割について理解する。	教科書 pp.141-152を読んで人口動態と少子化の現状について、下調べをする(60分)。
第13回	共生社会の実現と障害者施策について理解する。 ・障害のある人もない人も、それぞれの個性と能力を活かしながら生活できる共生社会の実現に向けた取り組みについて学ぶ。共生社会の実現に向けた保育士への期待について、レポートを作成する。	教科書 pp.153-164を読んで障害のとらえ方について、説明できるように下調べをする(60分)。
第14回	在宅福祉・地域福祉の推進について理解する。 ・地域福祉の考え方やその実践方法を学ぶ。それをふまえた上で、子ども、保護者や地域住民、隣接諸領域の専門職に対する保育士の関わり方について理解する。	教科書 pp.165-176を読んで居住地域の子育て支援サービスについて、下調べをする(60分)。
第15回	諸外国の社会福祉の動向について理解をする。 ・諸外国の社会福祉の概要について学ぶ。 ・授業のまとめを行うことにより、社会福祉の主な「視座」(望ましい姿に関する考え方)を示し、子ども家庭福祉の視点を養う。	教科書 pp.177-188を読んで関心のある諸外国の保育・幼児教育について下調べをする(60分)。
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を行う	

フィードバックの方法：第 9 回に、第 8 回で行った小テストの返却と解説をする。第 14 回で、第 13 回に提出されたレポートにコメントをつけて返却する。第 9、10、11 回のグループディスカッション及びプレゼンテーションの後に、講評を行う。		
授業実施形態：対面授業を基本とするが、状況に応じて遠隔授業に変更する場合がある。		
テキスト：公益財団法人児童育成協会（監修）松原康雄、坪洋一、金子充（編集）「社会福祉」中央法規、2023		
参考書・参考資料等：自作資料を印刷配布する。		
オープンな教育リソース：「e-GOV 法令検索」 https://elaws.e-gov.go.jp/		
学生に対する評価：準備学習及び授業への取り組み（主に、グループディスカッションやプレゼンテーションに関するリアクションペーパー）（20％）、ワークシート等の提出状況と内容（20％）、定期試験（60％）を総合して評価する。		

授業科目名：2200112722 子ども家庭支援論 2年後期		必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：笹尾 雅美 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		保：保育の本質・目的に関する科目 子ども家庭支援論		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 5. 6. 7. 8				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。 【テーマ】 保育者による家庭支援についての基礎的知識の習得を目指す。また、多様な家庭の子育てについて理解し、それぞれの家庭に応じた保育実践のあり方を学習する。				
授業の概要： 少子化、核家族化、家庭や地域の子育て機能の弱体化、経済的問題、女性の社会進出により、子どもを巡る社会的環境はめまぐるしく変化している。このような背景から、保育ニーズは拡大し、多様な課題がある。保育者は、子どもの健やかな育ちをサポートする者として社会的に重要な役割を担っており、子育て家庭を側面的に支える専門職である。本授業では家庭や地域における子育ての課題を知り、支援が出来るようになることを目的とする。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第1回	子ども家庭支援の意義と必要性について理解する。 ・児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領にある子ども家庭支援の目的と機能について学ぶ。また、子ども家庭を支援する必要性を学び、保育士等が備えるべく子ども家庭支援の専門性について理解する。		教科書pp. 12-21を読んで、子ども家庭を支援することについて、下調べをする(60分)。	
第2回	「子育て」と「子育て」における価値の変容と不変性について理解する。 ・児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されている子ども家庭支援の目的と機能について学び、グループディスカッションを行う。		教科書pp. 22-37を読んで、戦後の家族と子どもに関する出来事について、下調べをする(60分)。	
第3回	少子社会と家族について理解する。 ・出生数及び合計特殊出生率の年次推移を通じて少子化の要因を理解し、少子化が家族や社会全体に及ぼす影響について、グループディスカッションを行う。		教科書pp. 38-48を読み、少子化と少子化が子育てに及ぼす影響について、下調べをする(60分)。	
第4回	少子化対策から子ども・子育て支援新制度への経緯について理解する。 ・少子化、児童虐待、待機児童等の状況をふまえて、子ども子育て支援新制度の創設に至る経緯を学修する。		教科書pp. 49-59を読み、これまでの少子化対策を概観し、待機児童について、下調べをする(60分)。	
第5回	子どもと家族の変容 ①夫婦と親子について理解する。 ・子どもと家族の変容について夫婦や親子関係に着目して子育て不安や育児ストレスの原因や解消について学び、グループディスカッションと発表をする。		教科書pp. 61-72を読み、子育て不安や育児ストレスについて、下準備をする(60分)。	
第6回	子どもと家族の変容 ②きょうだいと祖父母について理解する。 ・子どもにとってのきょうだいと祖父母の存在や関係の変容について、グループで事例検討を行う。		教科書pp. 73-84を読み、きょうだいや祖父母に関する事例について検討し、説明できるようにする(60分)。	
第7回	「ヒト」の持つ育ちの可能性について理解する。 ・赤ちゃんが生まれながらに持っている力についてグループ学習を行い、「ヒト」の持つ育ちの可能性について理解を深める。		教科書pp. 85-95を読み、動物の子育てについて、紹介できるように下調べをする(60分)。	
第8回	ファミリー・ウォッチング：フィールドワークについて学修する。		教科書 pp. 96-108 を読み、実際に町で、ファミリー・ウォ	

第9回	・町で行ったファミリー・ウォッチングの経験をワークシートに記録して、プレゼンテーションを行う。 親と子・家族の関係形成とその発達(虐待の予防的支援)について理解する。	ッチングを行い、発表の下準備をする(60分)。 教科書pp. 109-124の事例を読み、愛着形成と虐待の予防における保育者の役割について下調べをする(60分)。
第10回	・事例検討により、親子の愛着形成を支援する保育者の役割に気づき、虐待の予防的支援に関する視点を養う。 私の子ども時代：子どもの生活と遊びの再考について学修する。	教科書pp. 125-137を読み、自分の遊び体験と心身の成長との関係について、下調べをする(60分)。
第11回	・自分の遊び体験について、ワークシートを用いて分析し、子どもの心身の健康と生活について学修する。 子どもの成長と地域の子どもの子育て資源について学修する。	教科書pp. 140-154を読み、子育てに関する居住地域の社会資源について、下調べをする(60分)。
第12回	・地域において、妊娠、出産時期から小学生期の間に行われている援助について、グループ学習を行う。 多様な子ども・家庭支援と地域との連携①子育てのストレスと子どもの発達援助・発達障害について理解する。	教科書pp. 155-168を読んで、居住地域の子育て広場について調べて、説明できるようにする(60分)。
第13回	・子育て家庭のニーズに関して、顕在的ニーズと潜在的ニーズに応じて地域の社会資源と連携しながら対応することを学び、保育ソーシャルワークの視点を養う。 多様な子ども・家庭支援と地域との連携②虐待(要保護児童・家庭支援)について理解する。	教科書pp. 169-182を読んで、多様化する子どもや家族への支援について、下調べをする(60分)。
第14回	・保育所等は地域の子育て家庭への支援を行うために、他の関係機関と連携しながら専門性をもって取り組む必要があることを理解し、保育者の役割について、グループディスカッションを行う。 諸外国の子ども・家庭支援について理解する。	教科書pp. 183-194を読み、世界の子どもの子育てについて文献や資料を集め、説明できるようにする(60分)。
第15回	・世界の子どもや子育てについて、文献資料を用いて調べて、プレゼンテーションを行うことにより、子ども家庭支援において、広い視野と柔軟性のある判断力を身につける。 子育て支援の現状と課題についてまとめる。	教科書pp. 195-199までを読んで、振り返りを行う。(60分)
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を課す。	

フィードバックの方法：第8回と第14回のプレゼンテーションのあとに講評する。第8回と第10回で行ったワークシートは、次回にフィードバックを行う。		
授業実施形態：対面授業を基本とするが、状況に応じて遠隔授業に変更する場合がある。		
テキスト：土谷みちこ（編著）「子ども家庭支援論」青踏社、2020		
参考書・参考資料等：厚生労働省（編）保育所保育指針解説 株式会社フレーベル館、2018 文部科学省（編）幼稚園教育要領解説 株式会社フレーベル館、2018		
オープンな教育リソース：「e-GOV 法令検索」 https://elaws.e-gov.go.jp/		
学生に対する評価：準備学習及び授業への取り組み（主に、グループディスカッションやプレゼンテーションに関するリアクションペーパー）（20％）、ワークシート等の提出状況と内容（20％）、定期試験（60％）を総合して評価する。		

授業科目名：2200112811 社会的養護Ⅰ	必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：笹尾 雅美 担当形態：講義 単独
1 年前期			
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の本質・目的に関する科目 社会的養護Ⅰ		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 1.現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2.児童の権利擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3.社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4.社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。 【テーマ】 社会的養護課題と将来像の実現に向けた取り組みについて理解する。			
授業の概要：社会的養護の基本体系を理解するために、①社会的養護の歴史や理念、体系を学ぶ。②現代社会における社会的養護の役割（児童福祉サービスにおける入所・通所サービス、施設を活用したショートステイなどの在宅福祉サービス、里親や養子縁組などの家庭養護サービス、社会的養護サービスに関連する予防、相談、情報提供等）を学ぶ。③社会的養護に携わる社会福祉専門職が求められる技術と方法を習得し、施設保育士の役割について考察を深めることにより、専門性を養う。④社会的養護の対象・形態・専門職の実際、家族や関係機関との連携を学ぶことにより、実践力を養う。⑤子どもの保育に関わる社会的養護の現状と課題等を考察する。			
授業計画：			
回数	内容	準備学修	
第 1回	社会的養護の理念と概念について理解する。 ・「社会的養護とは何か」を理解し、その根本的な考え方である理念や原理について学修する。	《事後学習》 教科書pp. 2-12を読んでおくこと(60分)。	
第 2回	社会的養護の歴史の変遷について理解する。 ・視聴覚教材を用いて欧米及び日本の歴史を振り返り、社会がどのような方法で児童を養護してきたのかを学修する。	教科書pp. 14-24を読んで、子ども観の変遷について、下調べをすること(60分)。	
第 3回	子どもの人権擁護と社会的養護について理解する。 ・児童の権利に関する条約を学び、子どもの最善の利益について小レポートを作成する。	教科書pp. 26-36を読んで、子どもの権利について、下調べをすること(60分)。	
第 4回	社会的養護の基本原則について理解する。 ・「家庭養育優先原則」の根拠となる児童の権利に関する条約と児童福祉法の理念についてグループ学習を行い、社会的養護の基本原則について学修する。	教科書pp. 38-47を読んで、児童の権利に関する条約について、下調べをすること(60分)。	
第 5回	社会的養護における保育士等の倫理と責務を学修する。 ・参考資料「全国保育士会倫理綱領」(p. 182)について、ワークシートで学び、保育者の倫理に関して理解する。	教科書pp. 50-60を読んで、保育士の倫理について、下調べをすること(60分)。	
第 6回	社会的養護の制度と法体系について理解する。 ・「措置制度」とその背景原理、児童福祉法の概要、関連法規について学び、社会的養護の制度や法体系を理解する。小テストを行う。	教科書pp. 62-72を読んで、児童福祉法について、下調べをすること(60分)。	
第 7回	社会的養護のしくみと実施体系について理解する。 ・児童相談所から社会的養護の施設や里親家庭に至るまでのソーシャルワーク過程、そして社会的養護の施設等の目的と概要、今後の課題について学修する。小テストの返却と答え合わせを行う。	教科書pp. 74-84を読んで、施設養護について、下調べをすること(60分)。	
第 8回	社会的養護とファミリーソーシャルワークを理解する。 ・ファミリーソーシャルワークについての基本的な視点や考えを確認したうえで、社会的養護においてソーシャルワークの考え方がどのように展開されるのかを確認する。	教科書pp. 86-94を読んで、エンパワメントについて、下調べをすること(60分)。	

第9回	社会的養護の対象と支援の在り方について理解する。 ・社会的養護の対象となる子どもや家庭について理解を深めるために、予防的支援、在宅措置、代替養育を必要とする子どもたちや家族がどのようなニーズを抱えているかを確認する。	教科書pp. 98-106を読んで代替養育のプロセスについて、下調べをすること(60分)。
第10回	家庭養護と施設養護について理解する。 ・社会的養護施策の動向や、里親やファミリーホームといった家庭養護と施設養護の現状と課題、家庭養護と施設養護の共通点と相違点に関して学修する。リアクションペーパーによる振り返りを行う。	教科書pp. 110-120を読んで家庭的養護の利点と課題について、下調べをすること(60分)。
第11回	社会的養護にかかわる専門職について理解する。 ・現場で働く専門職や実施者の業務内容、求められる専門性について学修する。現場で働く際には、さまざまな施設や機関の職員と連携することになるので、保育士と連携する職種について理解する。リアクションペーパーにコメントを返す。	教科書pp. 122-132を読んで社会的養護の施設で働く職員について、下調べをすること(60分)。
第12回	社会的養護に関する社会的状況について理解する。 ・諸外国における社会的養護の状況を参考に、養子縁組を含む社会的養護の在り方について考える。 ・子どもが育つ基盤である家庭と社会的養護について理解し、社会的養護の今後のあり方についてグループディスカッションをする。	教科書pp. 134-143を読んで社会的養護の今後の在り方について、自分の意見をまとめること(60分)。
第13回	施設等の運営管理の現状と課題について理解する。 ・社会的養護に関する施設は、様々な考え方によって設立され、運営されているが、「子どもの最善の利益」「すべての子どもを社会全体で育む」という共通の基本理念があることを理解する。	教科書pp. 146-156を読んで児童福祉施設の職員配置基準について、下調べをすること(60分)。
第14回	被措置児童等の虐待防止の現状と課題について理解する。 ・児童福祉施設に入所する子どもへの虐待の現状と課題について理解し、被措置児童の虐待の発生原因と課題について、グループディスカッションをする。	教科書pp. 158-168を読んで被措置児童等の虐待について、下調べをすること(60分)。
第15回	社会的養護と地域福祉の現状と課題を学ぶ。 ・地域福祉とは何かについて理解し、社会的養護関係の児童福祉施設がもつ地域支援の機能を学ぶ。 ・親子関係再構築のための支援や施設を退所した児童の自立支援のあり方についてまとめる。	教科書pp. 170-180を読んで児童の自立支援について、下調べをすること(60分)。
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を課す。	

フィードバックの方法： 第4回に、第3回で提出されたレポートにコメントをつけて返却する。第6回に、第5回で提出されたワークシートについて講評して返却する。第7回に、第6回で行った小テストの解説を行う。第11回に、第10回のリアクションペーパーにコメントをつけて返す。	
授業実施形態：対面授業を基本とするが、状況に応じて遠隔授業に変更する場合がある。	
テキスト：公益財団法人 児童育成協会（監修）相澤仁、林浩康（編集）「社会的養護Ⅰ」中央法規、2023	
参考書・参考資料等：厚生労働省資料「社会的養育の推進に向けて（令和4年1月）」	
オープンな教育リソース：「e-GOV 法令検索」 https://elaws.e-gov.go.jp/ 【厚生労働省】AKB48 峯岸みなみさんがナビゲート！「知りたい、聞きたい 児相のしごと」 - Bing video	
学生に対する評価：準備学習及び授業への取り組み（主に、グループディスカッションやプレゼンテーションに関するリアクションペーパー）（20%）、ワークシート等の提出状況と内容（20%）、定期試験（60%）を総合して評価する。	

授業科目名：2201112911 保育・教職論 1 年前期	必修：（卒）・幼・保	単位数： 2単位	担当教員名：姜 華 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教育の基礎的理解に関する科目 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） 保：保育の本質・目的に関する科目 保育者論		
学習成果該当番号：3. 4. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 本学の学生は全員が保育者を目指していることに鑑み、幼稚園教諭及び保育士の有り方について総合的に理解できるようにする。教職においては教職の意義、教員の役割、教員の役割・資質能力、職務内容、学校運営等について理解するとともに、保育者においてもその役割と倫理、制度的な位置付け、専門性、協働、研修等について理解して、現代の幼児教育及び保育をめぐる社会的な問題も考える。このことを通して教職及び保育者への意欲を高める。 【テーマ】 教員・保育者の意義と役割、教員・保育者の職務内容、教員・保育者の協働と連携、教員・保育者の研修とキャリア形成			
授業の概要：この授業は、幼児教育を施す教員及び養護と幼児教育を施す保育者の両方の職の有り方を教授するものである。両者の職には多くの共通点があるものの、またそれぞれの目的によって相違するところも数知れず存在する。そこで、上記のテーマ別に教職について教授した後保育者について教授し、その共通点や相違点が明確になるように授業を展開する。なお職の有り様を論ずるためには、それが学校教育法や児童福祉法をはじめとした様々な法令に基づくことに注目させる。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	教職の意義 公教育の目的とその担い手である教員の存在意義について、他の職業との比較を通して話し合い、その内容をまとめる。	復習：配布資料を読み直し、本時の学習内容をまとめる。 (60分)	
第 2回	幼稚園教諭の役割 教師の仕事の実態、教職の職業的特徴について知るとともに、学校教育法に規定されている幼稚園の目的、家庭・地域への教育支援、幼稚園教諭の職務など踏まえてその特徴をまとめる。	テキスト第 1 講「保育者の役割・職務内容」Step 2 の通読 (60 分)	
第 3回	保育者の役割 教師の役割と比較しながら、児童福祉法に定められた保育所、保育士、保育所保育士の役割について資料をもとに話し合い、理解できたことをまとめる。	テキスト第1講「保育者の役割・職務内容」Step 1 の通読 (60分)	
第 4回	保育者の倫理 専門職としての一般的な専門的倫理の考え方を知り、「全国保育士会倫理綱領」をもとに保育士としての倫理について話し合う。	テキスト第 2 講「保育者の倫理」の通読（60分）	
第 5回	教員の職務の全体像 幼稚園教諭の立場から学級経営の有り方を話し合うとともに、幼稚園教員の職名と職務を知って教員の職務の全体像を理解する。	幼稚園教諭の職務内容について、自分なりに調べてまとめる。テキスト第 3 講「保育者の資格と責務」Step 2 の通読 (60分)	
第 6回	保育士の職務の全体像 保育士の職場としては保育所、児童養護施設、障害児入所施設などさまざまな施設があることを知り、そのうちの保育所保育士の職務について仕事の概要をまとめる。	保育士の職務内容について、自分なりに調べてまとめる。テキスト第 3 講「保育者の資格と責務」Step 1 の通読 (60分)	
第 7回	資質・能力 これからの時代に求められる保育者の資質・能力について学ぶ。どのような資質と能力を備えておくべきか話し合う。	テキスト第 4 講「保育者の資質と能力」第 1 3 講「資質向上に関する組織的取組」の通読（60分）	
第 8回	園の専門性と欠格事由 教員や保育士の専門性を教員免許や保育士資格との関連でとらえてその名称独占の意味を知るとともに、教員と保育士の欠格事由の違いをみてそれぞれに与えられている職責を話し合う。	テキスト第 3 講を読み、教員、および保育士の欠格事由についてまとめておく。（60分）	

第 9回	<u>義務・身分保障</u> 法令を基に教員に課せられている服務上の義務と身分保障について話し合ってまとめた後、教員の義務と対応させて保育士の信用失墜行為や秘密保持の義務の意味を話し合う。	「教員が行ってはいけないこと」に関する事例を探し、授業に持参する。（60分）
第10回	<u>教育と養護及びその一体的な展開</u> 幼稚園の幼児と保育所の乳幼児の生活を比較して、前者が遊びを中心にした総合的な指導であることに対して、後者は保育所保育指針の「保育の目標」や「健康及び安全」をもとに養護の機能を加えて家庭的保育が行われるように環境が整えられていることを理解する。	テキスト第 5 講「養護および教育の一体的展開」の通読（60分）
第11回	<u>保育計画と評価</u> 保育計画にもとづいた保育を実践、記録し、その記録を振り返って計画や保育の実際を評価、改善する過程を理解する。また、その繰り返しが保育者自身の実践知を高めることになることを理解する。	テキスト第7講「計画に基づく保育の実践と省察・評価」の通読（60分）
第12回	<u>組織と協働</u> 幼稚園及び保育所や児童養護施設等、あらゆる職場で教職員がその専門性を生かして仕事を分担し、目的達成に向かって協働していることを、事例に基づいて理解する。	テキスト第 9 講「保育における職員間の連携・協働」の通読（60分）
第13回	<u>保護者支援</u> 保護者の子育て不安の要因を分析したり、保護者に対する支援の有り方を話し合ったりして、保護者支援が職務に位置づけられている意義を理解する。	テキスト第 6 講「家庭の連携と保護者に対する支援」の通読（60分）
第14回	<u>外部機関との連携</u> 幼稚園や保育所が、同じ幼稚園や保育所の間、小学校・役所の児童福祉課・医院・地域の人々との間で連携を保って在園乳幼児の保育を効果的に進めていることを理解する。	テキスト第 1 0 講「専門職間および専門機関との連携・協働」の通読（60分）
第15回	<u>研修とキャリア形成</u> 幼稚園や保育所等では、各自の研修を推奨するだけでなく現代的な保育問題の課題を取り上げて全教員・全保育者が協働して研修し、保育者としてのキャリアを向上させる必要性を理解する。また教員には研修が教育基本法によって義務化されていることから、研修が職務の一つであることを理解する。	テキスト第 1 4 講「保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義」の通読（60分）
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を行う	
フィードバックの方法：第2階以降ワークシート、課題については、返却後見直しをしておくこと。 フィードバックとして授業時に課題の解説を行う。（以下15回まで同様）		
テキスト： 矢藤誠慈郎・天野珠路編『保育者論』中央法規出版		
参考書・参考資料等： 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 その他授業に必要な文書を印刷配布する。		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：次の 3 点を総合的に評価して成績を判定する。 ① 定期試験の得点（6 0 %） ② ワークシートや課題の提出状況や内容（3 0 %） ③ 授業態度（1 0 %）		
実務家教員による授業科目：		

授業科目名：2211013021 特別支援の理解と方法 2年前期	必修：卒・幼	単位数： 1単位	担当教員名：本郷 美奈子 担当形態：演習 単独																
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 基礎理論科目 幼：教育の基礎的理解に関する科目 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解																		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 6. 7. 8																			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ① インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。 ② 児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。 ③ 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身につけている。 ④ 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。 ⑤ 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。 ⑥ 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。 ⑦ 特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。 ⑧ 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。 【テーマ】 ①特別支援教育の仕組み、②特別な支援を必要とする子どもの特性と心身の発達、③個別の指導計画と教育支援計画、④家庭や関係機関との連携																			
授業の概要：本授業は、様々な「特別な支援を必要としている子」を理解し、家庭や関係機関と組織的な協力関係を構築する方法を身につけ、子ども達が生きる力を身につけていくことを支援できる指導者となるための基礎知識を身につける事を目標としている。 テーマに挙げた①から④を軸に乳児期から幼児期までの子どもを中心に対応を学び、個別の指導計画を立案するための基礎知識を身につける。																			
授業計画： <table><tr><th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr><tr><td>第 1回</td><td>特別支援教育に関する制度の理念と仕組み インクルーシブ教育の理念や特別支援教育の仕組みを概観し、「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒」とはどういう子ども達なのかを知る。</td><td rowspan="6">第2回～第15回：教科書の該当するページまたは授業内で配布する参考資料を読んでくること(60分)</td></tr><tr><td>第 2回</td><td>発達の見方と評価について 発達評価を行うための視点を持つために基本的な知識を知る。発達の客観的評価の方法について知る。</td></tr><tr><td>第 3回</td><td>家庭および関係機関との連携 (1) 子どもに障害が疑われたときの保護者の気持ちを事例を通して理解する。グループ討議を行い、グループ毎にまとめ (A4 用紙) を提出する。</td></tr><tr><td>第 4回</td><td>家庭および関係機関との連携 (2) 地域の子育て支援、医療機関、療育機関など関係機関の役割を知り、家庭との連携や保護者支援の方法について知る。 また、自分が住んでいる地域の子育て支援センターについて調べ、次回講義でレポートを提出する。</td></tr><tr><td>第 5回</td><td>障害のある子どもの早期発見と支援 健康診査制度について理解し、発達相談と療育資源について事例を通して理解する。</td></tr><tr><td>第 6回</td><td>特別な支援を必要とする子ども：知的障害 知的障害について基本的な知識を身につける。集団生活の中で特別な支援を必要とする知的障害のある子どもを早期に発見するための基礎的知識を身につけ、早期療育の必要性について知る。</td></tr></table>				回数	内容	準備学習	第 1回	特別支援教育に関する制度の理念と仕組み インクルーシブ教育の理念や特別支援教育の仕組みを概観し、「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒」とはどういう子ども達なのかを知る。	第2回～第15回：教科書の該当するページまたは授業内で配布する参考資料を読んでくること(60分)	第 2回	発達の見方と評価について 発達評価を行うための視点を持つために基本的な知識を知る。発達の客観的評価の方法について知る。	第 3回	家庭および関係機関との連携 (1) 子どもに障害が疑われたときの保護者の気持ちを事例を通して理解する。グループ討議を行い、グループ毎にまとめ (A4 用紙) を提出する。	第 4回	家庭および関係機関との連携 (2) 地域の子育て支援、医療機関、療育機関など関係機関の役割を知り、家庭との連携や保護者支援の方法について知る。 また、自分が住んでいる地域の子育て支援センターについて調べ、次回講義でレポートを提出する。	第 5回	障害のある子どもの早期発見と支援 健康診査制度について理解し、発達相談と療育資源について事例を通して理解する。	第 6回	特別な支援を必要とする子ども：知的障害 知的障害について基本的な知識を身につける。集団生活の中で特別な支援を必要とする知的障害のある子どもを早期に発見するための基礎的知識を身につけ、早期療育の必要性について知る。
回数	内容	準備学習																	
第 1回	特別支援教育に関する制度の理念と仕組み インクルーシブ教育の理念や特別支援教育の仕組みを概観し、「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒」とはどういう子ども達なのかを知る。	第2回～第15回：教科書の該当するページまたは授業内で配布する参考資料を読んでくること(60分)																	
第 2回	発達の見方と評価について 発達評価を行うための視点を持つために基本的な知識を知る。発達の客観的評価の方法について知る。																		
第 3回	家庭および関係機関との連携 (1) 子どもに障害が疑われたときの保護者の気持ちを事例を通して理解する。グループ討議を行い、グループ毎にまとめ (A4 用紙) を提出する。																		
第 4回	家庭および関係機関との連携 (2) 地域の子育て支援、医療機関、療育機関など関係機関の役割を知り、家庭との連携や保護者支援の方法について知る。 また、自分が住んでいる地域の子育て支援センターについて調べ、次回講義でレポートを提出する。																		
第 5回	障害のある子どもの早期発見と支援 健康診査制度について理解し、発達相談と療育資源について事例を通して理解する。																		
第 6回	特別な支援を必要とする子ども：知的障害 知的障害について基本的な知識を身につける。集団生活の中で特別な支援を必要とする知的障害のある子どもを早期に発見するための基礎的知識を身につけ、早期療育の必要性について知る。																		

第7回	特別な支援を必要とする子ども：多動な子への対応の工夫 多動な子どもが集団生活の中で経験する困難や必要な支援について知り、個別の指導計画、教育支援計画をたてるための基礎的知識を身につける。
第8回	特別な支援を必要とする子ども：自閉スペクトラム症の子への対応の工夫 自閉スペクトラム症の子どもが集団生活の中で経験する困難や必要な支援について知り、個別の指導計画、教育支援計画をたてるための基礎的知識を身につける。
第9回	特別な支援を必要とする子ども：学習障害の子への対応の工夫 学習障害の子どもが集団生活の中で経験する困難や必要な支援について知り、個別の指導計画、教育支援計画をたてるための基礎的知識を得る。また学齢期になって経験する可能性がある困難について知り、支援の方法について知る。
第10回	個別計画の意義について 誕生から青年期までの発達段階を概観し、発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別な支援を必要とする子どもにとっての個別の指導計画および個別の教育支援計画の重要性を知る。提示した事例についてグループで検討を行い指導計画を作成し、後日レポートを提出する。
第11回	様々な障害を持つ子どもへの学習支援について (1) 知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある子どもについて基礎的知識を身につけると共に、特別支援学校における教育を概観する。
第12回	様々な障害を持つ子どもへの学習支援について (2) 視覚障害・聴覚障害を含む様々な障害のある子どもについて基礎的知識を身につけると共に、特別支援学校における教育を概観する。
第13回	特別な教育的ニーズがある子どもへの理解と対応 母国語や貧困、家庭の問題等により特別な教育的ニーズがある子どもについて知りその対応を理解する。
第14回	特別な支援を必要とする子どもの就学支援 就学に向けた支援の在り方を学び、小学校との連携について考察する。
第15回	特別な支援を必要とする子どもの小学校生活 特別な支援を必要とする子ども達の学校生活について概観する。インクルーシブ教育や小学校における特別支援教育コーディネーターの役割について基礎的な知識を得る。
定期試験 定期試験期間中に筆記試験を行う	
フィードバックの方法：第3回、4回、10回のレポートにコメントを付して返却すると共に、次回の授業にて全体的なコメントを行う。	
テキスト： 『実践に生かす障害児保育・特別支援教育』前田泰弘編著,立元真,中井靖,小笠原明子.萌文書林	
参考書・参考資料等：『特別支援学校一幼稚園教育要領/小学部・中学部学習指導要領/高等部（最新版）』文部科学省、授業内容に合わせたA4版1～2ページの自作資料を適宜配付する。	
オープンな教育リソース：	
学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①定期試験の得点(60%) ②レポート等 (30%) ③授業態度 (10%)	

授業科目名：2300113121 保育の計画と評価 2 年前期		必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：小山 玲子 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		保：保育の内容・方法に関する科目 保育の計画と評価		
学習成果該当番号：1. 3. 7				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について学ぶ。また、子ども理解に基づいた保育の過程について考えながら、全体的な計画と指導計画の関係性及び作成の意義と方法について理解する。 【テーマ】 保育所保育指針 第 1 章 総則 4「幼児教育を行う施設として共有すべき事項」に示されているように、保育所は、幼児教育の場であることを明確化している。保育所における保育目標の達成及び子どもの発達を見通した保育の方法と環境に関する基本的な考え方について学ぶ。計画性のある保育を実施するために必要な留意事項やポイントについて具体的な事例を通して理解する。				
授業の概要： 本授業では、園の包括的な基本方針（保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園共通）である「全体的な計画」の構成と関連する指導計画並びに指導計画作成上の留意事項を保育現場での具体的な事例を通して学ぶ。また、ポートフォリオ・ドキュメンテーションなど保育活動を可視化することで見えてくる子ども理解や保育者としての成長について考えながら、保育の内容と評価に基づく記録方法や改善に対する理解を深めていく。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第 1 回	保育の計画と評価の基本 子どもの保育と育ちについて考える。		テキストp7-18の通読 (60分)	
第 2 回	保育所の理解 保育所における乳児保育の基本と配慮・保育所における全体的な計画と保育の実践について「乳児保育」の授業で学んだ内容を確認する。		テキストp65-p98の通読 (60分)	
第 3 回	幼稚園の理解 幼稚園における教育の基本と配慮・幼稚園における教育課程と指導計画の実践を理解する。		テキストp35-p45の通読 (60分)	
第 4 回	幼稚園の部分指導計画を修正する(課題1) 1年次の課題で作成した部分指導計画を修正して提出する		テキストp46-64・配布資料の通読(60分)	
第 5 回	長期的な指導計画の作成 長期的な指導計画とは・年間指導計画・期別指導計画・月別指導計画・指導計画の工夫・保健計画・食育計画等の作成手順と留意事項を学ぶ。		テキストp19-31テキスト・課題作成 (60分)	
第 6 回	短期的な指導計画の作成(0・1・2歳児) 0・1・2歳児の指導計画作成の留意点を理解する。 保育実習の振り返りと実習園の指導計画の比較を行う。 (グループ討議)各園の違いをレポートに記入する。		テキストp99-125の通読 (60分)	
第 7 回	短期的な指導計画の作成(3歳以上児) 3歳以上児の指導計画作成の留意点を理解する。 3歳以上児の指導計画作成のポイント・指導計画の実例の作成手順と留意事項を学ぶ。		第6回のレポートの記入・テキストp132-141の通読 (60分)	
第 8 回	保育所の部分指導計画を作成する。(課題2)		配布資料の通読 (60分)	

部分指導計画は、課題として提出を求める。		
第9回	0・1・2歳児の特徴と指導計画 0歳児の特徴と保育・1歳児の特徴と保育・2歳児の特徴と保育、並びに具体的な活動場面における適切な援助方法を理解する。	テキストp135-p142の通読(60分)
第10回	幼児の特徴と指導計画 3歳児の特徴と保育・4歳児の特徴と保育・5歳児の特徴と保育、並びに具体的な活動場面における適切な援助方法(子どもの主体的な活動を尊重した援助)を理解する。	テキストp143-150・配布資料の通読(60分)
第11回	幼稚園の部分指導計画を作成する(課題3) 部分指導計画は、課題として提出を求める 幼稚園・保育所実習の振り返りと実習園の指導計画の比較を行う。(グループ討議)	テキストp128・配布資料の通読(60分)
第12回	子ども理解や保育者としての成長につながる保育の記録 ポートフォリオ・ドキュメンテーション等の役割、実例をもとに理解する。ドキュメンテーションを作成する。(課題4)	配布資料の通読(30分) 復習:ドキュメンテーション作成(60分)
第13回	グループワーク 作成したドキュメンテーションの発表と内容の検討を行う。	ドキュメンテーションの作成(120分)
第14回	保育の評価と改善 保育における評価とは・評価を改善に生かす・保育の質の向上を目指す研修の取り組みを理解する。	テキストp151-157テキストの通読(60分)
第15回	教育・保育施設と小学校との連携 生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録・幼稚園幼児指導要録の役割と作成方法を理解する。	テキストp158-164・テキストの通読(60分)
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を実施する。 ・毎回授業内で2～4人でのディスカッションを行う。	
フィードバックの方法: フィードバックとして提出課題にコメントを返す。		
テキスト: テキスト『教育課程・保育の計画と評価 書いて学べる指導計画』 岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正(萌文書林)		
参考書・参考資料等: 『保育所保育指針解説』(フレーベル館)・『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館)		
オープンな教育リソース:		
学生に対する評価: 以下の3点を総合的に評価する。 ①課題の提出とその内容(30%) ③授業への取り組み(20%) ④定期試験(50%)		

授業科目名：2311113222 保育内容総論 2年後期	必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：瀬川 千津子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容総論		
学習成果該当番号：1. 2. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】①乳幼児期の教育における内容について具体的な事例を挙げて説明できる。②遊びを通しての学びと育ちについて理論的に理解し説明できる。③幼稚園教育における幼児理解に基づく評価及び小学校教育との円滑な接続連続性について説明できる。④環境を通して行う保育について理論的に理解し、具体的な実践例を挙げながら説明ができる。⑤保育の可視化、様々な記録方法と評価の関係についてそれを理解し有効に利用することができる。⑥ESD と SDG sを意識し、質の高い教育について考え、理解する。⑦諸外国の保育内容を知り、日本の保育との相違を理解し自らの保育の向上へ生かすことができる。⑧子どもが権利を有する存在であることを理解し、それを保育へ生かす方法を考え続けることができる。 【テーマ】①乳幼児期の発達を支える保育内容について、保育は常に子どもの興味と関心から始まり、子どもが主語主体であることを具体的な事例から実感して学ぶ。②子どもの遊びを通じた学びについて佐伯理論を通して学びつつ、実践的な事例を通して理解を深める。③幼児期に育ってほしい10の姿への理解を通して、幼児教育における評価と小学校教育との接続と連続性について保育内容をもとに話し合う。④ヒトと自然・社会との対話、モノとの対話、コトとの対話に着目しつつ、環境を通して行う保育について子どもの育ちを支える環境について考え合う。⑤保育の記録方法、特に可視化の方法をグループで考え合いながら作業する。⑥質の高い保育教育について ESD や SDG sを通して考え合う。⑦諸外国で実践されている質の高い保育について具体的にDVDなどを通して触れながら、文化の相違、人間観の相違などにも考えを巡らせつつ、日本で行われている保育のさらなる質の向上について考え合う。⑧「子どもの権利」の視点から改めて子ども観、保育観、保育内容について考え合う。			
授業の概要：本授業では、子どもにとって保育内容とはどのようなものなのかを、幼稚園教育要領や保育所保育指針及び認定こども園教育保育要領と保育内容の実践の考え方を中心に学ぶ。子どもを理解することから始まる保育内容を、子ども主体、子どもの権利という視点から具体的な保育の実践事例を通して理解する。理解の手立てとして、視聴覚教材の利用やグループ討議、グループでの作業を行う。仲間との学びを通して、理解の幅を広げることを期待する。また、ESD, SDG sや諸外国の保育内容に触れることで、既存の保育から離れ子どもと創り出す保育の醍醐味を感じ取り、保育を常により良く造り替えていける保育者として、子ども観、人間観、保育観を醸成する。			
授業計画：			
回数	内容	事件事後学習	
第1回	保育の基本と保育内容 保育の全体構造/養護と教育、育みたい資質・能力について グループ討議を通して、「保育内容」について考え合う。	・幼稚園教育要領解説第1章総則第1を熟読(60分) ・ノートまとめ(30分)	
第2回	子どもの権利と保育内容 子どもの主体性を尊重する保育 子どもに聴き入ることから始まる保育	・既配布の授業資料を熟読(60分) ・テキストの復習(30分)	
第3回	子どもの遊びと保育内容 遊びを通して育まれる資質・能力 遊びや生活を通して学ぶということについてグループ討議を通して考え合う。	・既配布の授業資料を熟読(60分) ・グループ討議の内容をまとめる(30分)	
第4回	子ども理解と評価の考え方 保育における子ども理解とは、子ども理解に基づく評価とは グループ討議を通して考え合う	・既配布の授業資料を熟読(60分) ・グループ討議の内容をまとめる(30分)	
第5回	環境を通して行う保育 子どもの育ちを支える環境とは 「ヒト・モノ・コト」との対話についてグループ討議に基づく理解	・既配布の授業資料を熟読(60分) ・グループ討議の内容をまとめる(30分)	
第6回	保育内容の変遷(歴史)に学ぶ「今」と「これから」の保育について考え合う① 一保育内容の始まりから児童中心主義まで一	・テキスト第5章1-4節を熟読(70分) ・ワークシートの完了(30分)	

第7回	保育内容の変遷(歴史)に学ぶ「今」と「これから」の保育について考え合う① ーすべての子どもの尊重から子どもの権利ベースへー 2008年幼稚園教育要領と保育所保育指針の改訂 認定こども園教育保育要領の刊行 新しい子ども・新しい人間を育む保育内容	・テキスト第5章5-6節を熟読(60分) ・ワークシートの完了(30分)
第8回	乳幼児(0,1,2歳児)の特性と保育内容 保育所保育指針, 認定こども園教育保育要領と乳児の一日 乳児期の保育計画(全体的な計画)と実践そして、省察としての評価	・テキスト第6章を熟読(60分) ・授業内容をノートにまとめる(30分)
第9回	幼児(3,4,5歳児)の特性と保育内容 幼稚園教育要領, 認定こども園教育保育要領と幼児の一日 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とは 幼児期の保育教育計画と実践そして、省察としての評価	・テキスト第7章を熟読(60分) ・授業内容をノートにまとめる(30分)
第10回	子どもの学び・育ちの可視化の重要性 観察、様々な記録方法(エピソード, ドキュメンテーション, ポートフォリオ, 保育ウェブなど)や写真, ビデオを通しての理解 記録の実践についてグループ作業を通して理解する	・テキスト第8章を熟読(60分) ・グループ作業のまとめ(60分)
第11回	保育施設の役割の多様性 子育て支援としての家庭と地域との連携 保育の質を高めるための家庭と地域との連携 多様性の尊重や貧困、虐待に対する保育の役割をグループで話し合い、考え合う。	・既配布の授業資料とテキスト第9章の熟読(60分) ・授業内容をノートにまとめる(30分)
第12回	インクルージョン, 特別な権利を有する子ども 「配慮を有する」から「特別な権利を有する」という考え方 特別な権利を有する子どもと保育内容及び、病児保育について	・テキスト第10章の熟読(60分) ・授業内容をノートにまとめる(30分)
第13回	小学校への連携をふまえた保育 保幼少連携の取り組み、連携から接続へ学びと育ちの連続性 幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿との関連についてグループ討議を通して考え合う。	・既配布の授業資料とテキスト第9章の熟読(60分) ・討議内容をまとめる(30分)
第14回	保育内容の地平線; 諸外国の保育内容 レゾ・エミリア(プロジェクト保育), ニュージーランド(テ・ファリキ: ラーニングストーリー)他に触れ、改めて日本の保育を考える。	・テキスト第13章の熟読(60分) ・ワークシートの完了(30分)
第15回	子どもの権利を保障する保育者・保育内容へ 保育の質の向上に向けて ESDとSDGs GOAL5 質の高い教育にも触れ、これからの保育について考え合う。	・テキスト第12章, 終章を熟読(60分) ・ワークシートの完了(30分)
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を課す	
フィードバックの方法: 提出のワークシートやリアクションペーパーにコメントを返信する。また、リアクションペーパーで理解の進まない点が確認される場合については翌授業時に補足をする。		
テキスト: 森真理他編著『保育内容総論』 北大路書房 (2022年)		
参考書・参考資料等: 渡邊英則, 大豆生田啓友他編著『新しい保育講座 保育内容総論』ミネルヴァ書房 『幼稚園教育要領解説』文部科学省, フレーバル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省, フレーバル館 『幼保連携型認定こども園 保育・教育要領解説』内閣府, 文部科学省, 厚生労働省, フレーバル館		
学生に対する評価: 以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①定時試験の得点(50%) ②レポート及び授業内課題・リアクションペーパー他(30%) ③授業態度及び出席状況(20%)		
実務家教員による授業科目: 長年保育現場で主任、教頭として勤務した後、大学院において子ども人間学を修了、他学で実習に関する相談や実習先開拓、実習指導を担当してきた実績がある。その経験を踏まえ、実践的に教育を行う。		

授業科目名：2311213312 幼児と健康 1 年後期		必修：卒・幼・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：豊田 泰代、 岩井 幸博 担当形態：演習 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項		
学習成果該当番号：1・2・3・4・6				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 領域「健康」に示されるねらいを十分に学び、それを保育現場で達成することの出来る能力を育成することを授業の目標とする。また、具体的な運動を取り上げ運動観察すること で、運動の発生過程や援助方法の理解を深める。 【テーマ】 健康に関する現代的課題は広範囲にわたっていることを知る。その上で子どもたちにとっ て運動の意義について、また、運動あそびを提供する際に大切にしなければならない考え方について 理解を深める。子どもたちがのびのびと運動に親しみ主体的に取り組める環境作りについて考える。				
授業の概要：幼稚園教育要領 領域「健康」には、幼児の健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活 を作り出す力を養うという観点が示されている。心と体の健康は相互に関連し合い、健康で情緒の安 定している幼児は積極的に環境に関わり自ら体を動かして遊ぶものである。また乳幼児の身体的能力 の調和的発達は健やかな成長にとって必要不可欠である。そこで本授業では、領域「健康」の指導・援 助の基本となる見方・とらえ方・考え方を、具体的事例の資料や視覚教材などの I C Tを活用し修得 させる。保育者に必要な『観察力』を高め、指導・援助の基礎的力を高めていく。				
授業計画：				
回数	内容			準備学習
第 1回	現代の子どもたちの現状（担当：豊田泰代・岩井幸博） 現代の子どもたちの健康課題は広範囲にわたっていることを 理解し現状を把握する。 ICT 教材「身体が動かない～子どもの運動能力に異変あり」 NHK クローズアップ現代 2007 年放送（約 26 分） ICT 活用：Teams 課題にレスポンスを入力する。			準備学習：保育所保育 指針、幼稚園教育要領 の「健康」の部分に目 を通す。（60分）
第 2回	運動の得意・不得意は生まれつき？（担当：豊田泰代） 人間の動きは生まれたのち、学習によって身に付ける割合が多いこと を理解する。また、その時期（臨界期）を逃すと身に付きづらくなるこ とを学ぶ。 ICT 教材「母と子の体操(Das Mutter unt Kind Turnen)」 1970 年女子体育連盟監修、 オーストリア（約25分）母と子がともに身体を動かす中で「心 身」の健康がはぐくまれていることを映像から読み取る。 ICT活用：Teams課題にレスポンスを入力する。			準備学習：保育所保育指 針・幼稚園教育要領・幼 保連携型認定こども園教 育・保育要領から抜粋し た「健康」に関するプリ ントに目を通す。（45分） 事後学習：共有された レスポンスを読む。 （15分）
第 3回	領域「健康」のねらいと内容（担当：豊田泰代） 子どもの健康を育むためには運動能力を向上させるのが目的 なのではなく、豊かな生活から心身の健康が獲得されるという 領域「健康」のねらいを理解する。また、保育所保育指針・幼稚 園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領から抜粋した「健 康」に関するプリントで用語の違いなどについて理解する。 ICT教材「ダンスダンスダンス」（約15分）自作動画を用いて 現場の取り組みを観る。 ICT活用：Teams課題にレスポンスを入力する。			準備学習：教科書 pp8 - 9を読む。（45分） 事後学習：共有された レスポンスを読む。 （15 分）
第 4回	健康な生活のリズムー健康を取り戻す（担当：豊田泰代） 子どもたちの生活リズムの乱れが問題となっている。乳幼児 の基本的な生活習慣の意義を健康の三大原則（食事・睡眠・運 動）や生活リズム（早寝・早起き・朝ごはん）の観点から考察 する。また自分の身を守れない「転んでも手が出ない」子ども たちの健康を取り戻す方策を考える。 ICT 教材「転んでも手が出ない子どもたちへのアプローチ」			準備学習：教科書 pp9 - 11、文部科学省 「早寝・早起き・朝ご はん」パンフレットを 読む。（45分） 事後学習：共有された レスポンスを読む。

第5回	(約15分) 自作動画を用いて理解を深める。 ICT活用：Teams 課題にレスポンスを入力する。 幼児の運動能力低下の原因(背景) (担当：岩井幸博) 生活習慣の変容が幼児の体の発達や運動能力に与える影響を理解する。また親や保育者として運動能力の向上のためにはどうしたらよいか、その方策をグループでディスカッションし発表する。 ICT教材「公園での遊びが禁止」等の映像を用いて説明する。(約10分) ICT活用：Teams 課題にレスポンスを入力する。	(15分) 準備学習：教科書 pp12 - 15、運動能力の低下に関する新聞記事やインターネットのニュース記事を読む。(45分) 事後学習：共有されたレスポンスを読む。
第6回	身体 of 発育発達と運動 (担当：豊田泰代) 乳幼児の身体諸機能の発育・発達を理解するとともに、運動とのかかわりを理解する。 ICT教材「身体 of 発達と移動運動(ロコモーション) of 発生過程」(約15分) 自作動画、自作資料を用いて理解を深める。 ICT活用：Teams 課題にレスポンスを入力する。	(15分) 準備学習：教科書 pp15 - 18を読む。(45分) 事後学習：共有されたレスポンスを読む。
第7回	運動 of 適時性 (担当：豊田泰代) 乳幼児は大人を単に小さくしたものではない。乳幼児 of 特性を把握し、適切な時期に適切な運動を行うことの重要性を理解する。 ICT教材「運動 of 適時性を考える」(約15分) 自作動画、自作資料を用いて理解を深める。 ICT活用：Teams 課題にレスポンスを入力する。	(15分) 準備学習：教科書 pp18 - 19、揺さぶられっ子症候群 of 記事を読む。(45分) 事後学習：共有されたレスポンスを読む。
第8回	器用な子と不器用な子 of うごきの習得過程 (担当：豊田泰代) 一見不器用と思われる子どもでも、一見器用だと思われる子どもと最終的な到達点は同じであるという視点に立った援助 of 重要性について理解を深める。 ICT教材「一見不器用と思われる子ども of 成長過程を追う」(約10分) 自作動画、自作資料を用いて理解を深める。 ICT活用：Teams 課題にレスポンスを入力する。	(15分) 準備学習：教科書 pp23 - 25を読む。(45分) 事後学習：共有されたレスポンスを読む。
第9回	自己概念と運動およびあそび of 効用 (担当：豊田泰代) 一見関係が無いと思われるあそびが上達ポイントである事例からうごきの転移やあそびがもたらす効用について考察する。また運動は自己概念 of 形成に大きく関与することを理解する。 ICT教材「うごきの転移ー幼児 of 投げ of 発生過程から眺める」(約10分) 自作動画、自作資料を用いて理解を深める。 ICT活用：Teams 課題にレスポンスを入力する。	準備学習：教科書 pp26 - 27, pp31 - 33を読む。(45分) 事後学習：共有されたレスポンスを読む。
第10回	社会性(ルール) of 発達と運動 (担当：岩井幸博) 遊び of 発達や年齢的变化を知り、ルール of ある遊び of 意義について考える。遊び of 発達と社会性 of 発達が相互関係にあることを学ぶ。また、なぜ幼児期に遊びが大事であるか考え、他者と意見交換する。 ICT教材「映像で見る主体的な遊びで育つ子ども、あそんでばかりは人間になる」 of 映像を用いて説明する。(約10分) ICT活用：Teams 課題にレスポンスを入力する。	準備学習：教科書 pp33 - 36を読む、実習等で運動遊び場面に見られたいざこざなどを振り返りまとめておく。(45分) 事後学習：共有されたレスポンスを読む。
第11回	生活としての運動 (担当：岩井幸博) 子ども of 生活と運動 of 関連性について理解を深める。なかでも基本的生活習慣にみられる動き(箸をもつ、鉛筆や筆をもつ、着衣、排泄など) of 習得について考える。 ICT教材「子ども of 手 of 発達について」(約10分) ICT活用：Teams課題にレスポンスを入力する。	(15分) 準備学習：教科書 pp41 - 46を読む、今の自分の基本的生活習慣に見られる動きの中で、苦手な動きを把握しておく。(45分)

		事後学習：共有されたレスポンスを読む。 (15分)
第12回	遊びの中の運動（担当：岩井幸博） 幼児期の組織化されたスポーツの課題を取り上げ、親や指導者の目標志向性に影響されることを理解する。これまでの経験から目標志向性についてディスカッションする。ディスカッションではTeamsのホワイトボード機能等を活用し、双方向性の意見交換を行う。また、様々な世界の運動遊びの種類を知り、運動遊びを通して習得する基本的な動作の種類やあそびの概念と特質を理解する。 教材「ブリューゲル作の『子供の遊戯』」の絵画に記載されている遊びはどんなものかクイズ形式で問い、遊びについてディスカッションする。 ICT活用：Teams課題にレスポンスを入力する。	準備学習：教科書 pp46 - 53を読む、日本や世界の運動遊びの中で知っているものを挙げておく。(45分) 事後学習：共有されたレスポンスを読む。 (15分)
第13回	動機付けと運動（担当：豊田泰代） 運動場面における内発的動機付けと外発的動機付けについて理解する。また、活動が深まりを見せていくためには、内発的動機付けの中核的要因としてのできる感覚⇌有能感が重要であることを理解する。 ICT教材「できる感覚を味わうことの重要性－短なわとびの発生過程から眺める」（約10分）自作動画、自作資料を用いて理解を深める。 ICT活用：Teams課題にレスポンスを入力する。	準備学習：教科書 pp53 - 58を読む。(45分) 事後学習：共有されたレスポンスを読む。 (15分)
第14回	人的環境（応答的環境）の重要性（担当：豊田泰代） 乳幼児にとって「できたかできなかったか」の評価ではなく「どのような点がどのようによくなったのか」という質的評価を含めた評価が返ってくることの重要性を応答的環境の側面から考察する。 ICT教材「運動の質的側面を含めた評価の重要性－幼児のころがりの発生過程から眺める」（約10分）自作動画、自作資料を用いて理解を深める。 ICT活用：Teams課題にレスポンスを入力する。	準備学習：教科書 pp59 - 60を読む。(45分) 事後学習：共有されたレスポンスを読む。 (15分)
第15回	安全を考える、安全に気づく力の育成、病気の予防（担当：岩井幸博） 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を学ぶ。幼児が遊ぶ場所や動線などを考えて安全に遊びができる環境を構成する力を養う。 ICT教材「運動遊び場面に見られる動線の考え方」（約10分） ICT活用：Teams課題にレスポンスを入力する。	準備学習：教科書 pp73 - 81、95 - 97を読む。(45分) 事後学習：共有されたレスポンスを読む。 (15分)
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を課す	
フィードバックの方法：すべての授業のはじめに前回の授業で入力したレスポンスカードの内容について取り上げコメントをフィードバックする。また記載内容をPDFにまとめ、いつでも閲覧・復習できるように共有フォルダにアップロードしておく。		
テキスト：『保育と幼児期の運動あそび』，岩崎洋子編，萌文書林，2008.		
参考書・参考資料等：『保育所保育指針解説』，（株）フレーベル館，2018. 『幼稚園教育要領解説』，（株）フレーベル館，2018. 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』，（株）フレーベル館，2018. 『0歳からはじめるうごきづくり』，太田昌秀・豊田泰代・久保景子，幻冬舎レクサス，2008. 『すこやかな子どもの心と体を育む運動遊び（第二版）』，井上勝子編，建帛社，2010.		

『どの子どものびる運動神経－幼児期の運動100選』, 白石豊・広瀬仁美, かもがわ出版, 2003.

オープンな教育リソース：

学生に対する評価：乳幼児の「健康」に関する見方・とらえ方・考え方が身についているかをはかるために以下の2項目を総合的に評価して成績を判定する。定期試験成績（70％），また第1回から第15回の授業時のレスポンスカード（30％）

授業科目名2311213421 幼児と環境 2年前期		必修：卒・幼	単位数： 1単位	担当教員名：笹川 康子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項		
学習成果該当番号：2. 4. 6. 7				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 幼児を取り巻く環境について総合的に理解し、幼児と環境との関わりの重要性について専門的に学ぶ。環境の中から幼児の興味・関心を引き出すことのできる知識・技術の習得を目指すし、保育現場での実践力を身に付ける。 【テーマ】 領域「環境」を通して、幼児の原体験を豊かにし、幼児に「科学的なものの見方や考え方」を育成するための援助・指導法を中心テーマとする。領域「環境」のねらいと内容、領域「環境」の具体的な指導方法、その後の学習という視点からも「科学的なものの見方や考え方」を幼児期から習得することの意義が非常に大きいことを学ぶ。				
授業の概要： 幼稚園教育要領「環境」のねらいを保育現場で実践していくために必要とされる、「保育者としての感性の育成」に重点を置き、まず保育者自身が幼児にとって最大の環境であることを学ぶ。学生が自身の原体験を再認識し、幼児に様々な事象と積極的に触れ合う場を提供すること、さらに幼児の「科学的なものの見方や考え方」の芽生えを支える知識・技術の習得を行う。各授業には幼小接続の視点が盛り込まれている。授業は様々な視聴覚教材、具体的教材の製作を行い、学生自身による調査研究、発表等も重視して領域「環境」について広く習得させるものである。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習等	
第 1回	領域「環境」のねらいと内容 領域「環境」で扱う幼児を取り巻く環境には、物的環境、人的環境、社会的環境等様々な側面があることを学び、それらが幼児の発達に及ぼす影響とその重要性について学ぶ。 幼児にとって保育者は、センス・オブ・ワンダーを担う隠れたカリキュラムと言える非常に重要な環境であることを把握し、今後の学習に対する姿勢を形成する。		事後学習 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針 領域「環境」のねらいと内容、 A：14～23頁、36～37頁、155～163頁(45分)	
第 2回	幼児の育ちと環境に関わる力の育成 自身の原体験を振り返りながら、幼児の育ちと環境に関わる力の育成に関する専門的事項を学ぶ。領域「環境」と小学校「生活科」「理科」との接続、さらに21世紀を生きる社会人となることを見据えた上で、幼児の興味・関心を「科学的探究心」へと導くことの重要性を学ぶ。		準備学習 B：6～9頁 幼児期からの自身の原体験をまとめる(45分)	
第 3回	環境に関わる力の必要性 幼児に周囲の環境に対して興味・関心を抱かせるためには保育者が積極的に「環境」の設定を行うことが必要である。 さらにその興味・関心を保育者が「科学的探究心」に発展させるためには、自身の感性を養うことが必須である。 自然の不思議さを遊びから感じ取る、日常生活での興味・関心を大切にすることがなぜ必要なのかを考え、領域「環境」と理科教育分野への幼小接続まで視野に入れて、法則性や因果関係への気づきの重要性を発達と共に学ぶ。		準備学習 A：30～31頁、88～89頁、 B：18～23頁をまとめる。 (45分)	
第 4回	乳幼児期の思考・科学的概念の発達① 文字・数量の概念（1から10までの数、連続量・非連続量）について学び、教材研究を行う。		準備学習 A：81～85頁、B：10～17頁(45分)	
第 5回	乳幼児期の思考・科学的概念の発達② 図形概念（まる・さんかく・しかくを主として）、併せて幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心の育成や関わり方等を学び、教材研究を行う。		準備学習 A：85頁、身の回りの物の形状と理由について考える(45分)	
第 6回	幼児の生物・自然との関わりに関する事象について ① 自然を取り入れてあそぶ。自然の不思議さに触れる。		準備学習 A：64～65頁 B：43～46	

	(題材：昆虫) 保育現場での飼育の重要性、幼児が実物に触れる体験の重要性、生命維持の難しさ等、命を持つ生物ならではの関わり方について学ぶ。	頁(45分)
第7回	幼児の生物・自然との関わりに関する事象について② 自然にかかわる力はなぜ必要なのか。身近な小動物への幼児の興味・関心を高めるために保育者の援助のあり方を考える。 (題材：昆虫)	準備学習 A：145～147頁、B：48～55頁(45分)
第8回	幼児の生物・自然との関わりに関する事象について③ 自然にかかわる力はなぜ必要なのか。身近な小動物への幼児の興味・関心を高めるために保育者の援助のあり方を考えた上で、他領域との関わりを大切にして教材開発を行う。 (題材：昆虫)	準備学習 第7回教材を完成させる(45分)
第9回	幼児の生物・自然との関わりに関する事象について④ 幼児に生物・自然との関わりに幅広く興味・関心を持たせるため、身近な植物への興味・関心を大切にして保育活動を行うことを学ぶ。	準備学習 A：134～135頁、B：40頁～42頁、身近な野草の生息状況の把握(45分)
第10回	幼児の生物・自然との関わりに関する事象について⑤ 身近な植物への興味・関心を大切にして保育活動を行う。領域「環境」と小学校「生活科」「理科」との接続について学ぶ。	準備学習 A：136～144頁(45分)
第11回	幼児の生物・自然との関わりに関する事象について⑥ 幼児の環境にある自然現象を題材として、教材開発を行いつつ、幼児の科学的なものの見方や考え方を育てるための知識習得と幼小接続の視点からの指導法を学ぶ。	事後学習 保育教材となる自然現象を1つ選び、教材開発も含め各自レポートを作成する。(45分)
第12回	幼児の生物・自然との関わりに関する事象について⑦ 生物多様性や大型哺乳類を題材とした授業を通し、知識の獲得や現代の課題確認を通して、21世紀を生きる人が持つべき「科学的なものの見方や考え方」を学ぶ。SDGsの17目標のターゲット13、14、15の視点を学ぶ。	準備学習 A：62～63頁(15分) 事後学習 授業中に出された課題について行う(30分)
第13回	幼児の生物・自然との関わりに関する事象について⑧ 大型哺乳類を題材とした教材開発を行い、「乳幼児期から体系的に関わる力」と「その後の教育に接続することのできる力」の獲得の重要性を理解する。「命」を感じる保育を目指す。	準備学習 A：56～57頁(15分) 事後学習 授業中に出された課題について行う(30分)
第14回	幼児の生物・自然との関わりに関する事象について⑨ 秋の自然環境を題材とし、その現象の理論的理解と保育現場を念頭に置いた教材開発ならびに指導法を学ぶ。	準備学習 幼稚園教育要領解説 教科書A：58～61頁(45分)
第15回	環境構成 保育者はどのように保育環境を捉え、計画的に構成していけばよいか、理論と実践を学ぶ。	準備学習 A：95～107頁(45分)
定期試験 定期試験期間中に筆記試験を行う		
フィードバックの方法：第11回レポートについて個別コメントでフィードバックを行う		
テキスト：A：『保育実践に生かす 保育内容「環境」』（高内正子監修 上中修編著 教育情報出版）B：『こどもの世界Ⅲ こどもと自然／科学』（矢野博之編著 大学図書出版）		
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』（文部科学省 フレーベル館）『保育所保育指針解説』（厚生労働省 フレーベル館） 自作資料・教材を配付 視聴覚教材使用		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①定期試験(70%) ②授業内課題(20%) ③準備学習への取り組み及び授業態度(10%)		

目名：2311213512 幼児と言葉 1年後期	必修：卒・幼・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：山本 伸一 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域に関する専門的事項		
学習成果該当番号：2			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 領域「言葉」の指導の基盤となる言葉の意義と機能及びその言葉の獲得過程を理解するとともに、言葉に対する感覚を磨き、言葉で想像する楽しさを味わわせるための専門的事項を身につける。①話し言葉や書き言葉の意義と機能について説明できる。②乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気付きも含めて説明できる。③言葉の楽しさや美しさについて、具体例を挙げて説明できる。④言葉遊びについて基礎的な知識を身に付ける。⑤言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を幼児の発達の姿と合わせて説明できる。⑥児童文化財について基礎的な知識を身に付けるとともに、幼児の発達における意義について理解する。 【テーマ】 ①言葉の意義と機能、②表現と伝達、③言語活動の意義と機能、④言葉の力、⑤言葉の発達、⑥言葉遊び（しりとり・なぞなぞ・かるた）、⑦児童文化財（歌・絵本・お話・劇）			
授業の概要： 本授業は、領域「言葉」の指導の基盤となる事項を講義、話し合い、実践等により修得させるものである。テーマで述べたように、言葉そのものの意義と機能から始めて、言葉が人間に及ぼす力の大きさを確認した後、乳幼児における言葉の発達を概観する。その後、言葉遊びや児童文化財等の具体的な題材や作品等に基づいてその教育的価値を追究できるようにし、子どもの言語や言語生活及び遊びや児童文化財に対する理解を深めるようにする。 授業形態は、対面授業で行う。遠隔授業は必要な状況においては、下記の授業計画に示す内容でオンデマンドまたはリアルタイムオンラインで授業を行う。			
授業計画：			
回数	内容		準備学習
第1回	言葉の意義と機能 社会的な記号体系である言葉の意義や機能としての伝達、思考及び認識等について知り、それらが現れる具体場面の様子についてディスカッションする。確認テストを時間内に行う。		テキストp5-p13の下調べ (60分)
第2回	表現と伝達 幼児の絵と文字の発達の様子から、絵が幼児のものの見方や感じ方の表現であることを理解するとともに、文字も絵と同じような自己表現から始まり他者との伝達に用いられていくようになる過程について事例を基にディスカッションする。確認テストを時間内に行う。		テキストp14-p24の下調べ及び確認テストの見直し (60分)
第3回	言語活動の意義と機能 言語活動である聞く、話す、読む、書くという四つの様態を知り、それらが自分と社会に果たす役割を具体的な事例に基づいてディスカッションする。確認テストを時間内に行う。		テキストp25-p34の下調べ及び確認テストの見直し (60分)
第4回	乳幼児の注意をひきつける言葉の力 人間が話す言語音は様々な音の中の一つであるが、機械音、自然の音、動物や昆虫の立てる音及び音楽の非言語音と比べて最も注意をひきつけることを知るとともに、聞きなれない外国語と聞きなれた国語の聞き取りにも注意力に差があることを理解する。確認テストを時間内に行う。		テキストp35-p39の下調べ及び確認テストの見直し (60分)
第5回	言葉以前の言葉に関わる発達 言葉の発達は言葉だけの範疇だけで見られるものではなく、1人の乳幼児において運動、情操、認識、思考等々の全体的な発達の中において見られるものであることを理解し、特定の音声と特定の対象との結びつき及びその後の展開を事例に基づいてディスカッションし、特に共鳴動作の様々な様子と三項関係の成立を理解する。確認テストを時間内に行う。		テキストp40-p49の下調べ及び確認テストの見直し (60分)
第6回	三歳未満児の言葉の発達 1歳未満児では、食事やおむつ替え、衣服の着脱等のときに保育士が声掛けをして気持ちを通わせられることを理解するとともに、1歳を過ぎる頃から発音、語彙、文法、相手意識		テキストp50-p56の下調べ及び確認テストの

	、言語活動から言語の発達が捉えられることを知り、象徴機能の成立までの特徴的な現象についてディスカッションし、表にまとめる。表は確認テストとして扱う。	見直し (60分)
第7回	三歳以上児の言葉の発達 象徴機能の成立後から、内言の成立までの特徴的な現象についてディスカッションし、表にまとめる。表は確認テストとして扱う。	テキストp57- p61の下調べ及び 前回授業でまとめた表の見直し (60分)
第8回	言葉遊び1 (しりとりや回文の遊びの意義) 国語(日本語)の音韻の特性を利用した様々な言葉遊びを知るとともに、しりとり遊びでは実践を通してその遊びが音節の明確な把握に導くことを理解し、回文では音節や単語への関心を高めることを理解するとともに、それらの遊びが可能となる条件(発達過程)や遊び方について討議する。また1歳未満児では、見つめ合いや喃語等に対する保育者の反応の大切さをディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	テキストp62- p70の下調べ及び 前回授業でまとめた表の見直し (60分)
第9回	言葉遊び2 (なぞなぞ遊びの意義) 国語(日本語)の音韻の特性を利用した様々ななぞなぞを収集し、なぞなぞが言葉の意味と形式とを使い分けて回答者の抱くイメージとのずれを楽しむ遊びであることを理解し、なぞなぞ遊びが可能となる条件(発達過程)や効果的な遊び方について討議する。確認テストを時間内に行う。	テキストp71- p78の下調べ及び 確認テストの見直し (60分)
第10回	言葉遊び3 (かるた) いろはかるたや教師自作の単語かるたを使ったかるた遊びの面白さや単語かるたを使った神経衰弱の面白さについて遊びの活動を体験して味わうとともに、それらの遊びが幼児の文字への関心を高めることを具体的に理解する。確認テストを時間内に行う。	テキストp79- p85の下調べ及び 確認テストの見直し (60分)
第11回	児童文化財1 (幼児の言葉と童謡の言葉) 童謡、唱歌及びわらべ歌のいくつかを取り上げて、その物語性、会話や問答、具体的事物と抽象的概念、オノマトペ等々の観点で話し合い、幼児に理解されやすい言葉の特徴をディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	テキストp86- p97の下調べ及び 確認テストの見直し (60分)
第12回	児童文化財2 (お話の意義) 口承文芸としてのお話が物語であることを理解するとともに、説明と物語の構成や文体を比較して、物語文が幼児や児童に魅力的に感じられることをディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	テキストp98- p106の下調べ及び 確認テストの見直し (60分)
第13回	児童文化財3 (お話の技術) 落語「牡丹灯籠 お札はがし」の一節を聞いて語りの魅力と語る技術について話し合い、「たぬきと山伏」(木下順二)や「茨海小学校」・「ガドルフの百合」(宮沢賢治)から一つを選択してテンポ、間、独白、心内語等々に注意して朗読する。朗読はグループ学習で代表をきめるとともに、その朗読を聞いて評価票に評価する。朗読の評価票を確認テストとして扱う。	テキストp107- p118の下調べ及び 確認テストの見直し (60分)
第14回	児童文化財4 (絵本の意義と幼児にとっての魅力) 絵本の意義を理解するとともに、『そらいろのたね』などの絵本について、幼児のもつ協調性(親和性)、自己中心性、空想力などについてディスカッションし、想像における現実的な事象の用いられ方について考える。確認テストを時間内に行う。	テキストp119- p130の下調べ及び 確認テストの見直し (60分)
第15回	児童文化財5 (紙芝居の意義と幼児にとっての魅力) いくつかの作品をもとに、絵本と比較しながら紙芝居の特徴を理解し、その選択と扱い方について話し合う。またパネルシアター、エプロンシアター、人形劇なども、お話という聴覚情報を補う視覚的情報という共通性があることを理解する。確認テストを時間内に行う。	テキストp131- p137の下調べ及び 確認テストの見直し (60分)
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を行う	

フィードバックの方法：確認テストはA, B, Cの三段階で評価して次回授業日に返却する。第2回

から15回まで同様に行う。

テキスト：『幼児と言葉 言葉をつくる』（神谷爲義著 貞静学園短期大学）

参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』（文部科学省 フレーベル館）
『保育所保育指針解説書』（厚生労働省 フレーベル館）

オープンな教育リソース：

学生に対する評価：①試験（60％）

②授業内の演習における取り組み状況（20％）

③確認テストの提出状況・内容（20％）

実務家教員による授業科目：初等教育教員養成課程を卒業し、中学校教諭1種免許状（国語）と高等学校教諭Ⅰ種級免許状（国語）も有し、長年小学校教諭として勤務した。また、学校就学前の言葉の教育について実践研究を行っている。指導主事、統括指導主事、指導室長、校長、東京都教育委員会研究開発委員会国語部会委員長、東京都小学校国語研究会会長、全国小学校国語研究会全国理事、日本国語教育学会理事を経験している。学校就学前の言葉の教育について実践研究を行っている。その経験を生かし、幼児と言葉を担当する。

実務家教員による授業科目：幼稚園教員養成課程を卒業し、幼稚園並びに小学校教諭として長年勤務してきた。その間に大学院において学校教育を専攻し、研鑽を積み、小学校並びに幼稚園教諭専修免許状を取得している。幼少接続を専門的に研究しており、長きにわたる経験を合わせ、幼児と言葉を担当する。

授業科目名：2311213612 幼児と表現 1 年後期	必修：卒・幼・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：桑原 章寧、津布楽 杏里 担当形態：演習 オムニバス
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項		
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】①幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。②表現を生成する過程について理解する。③様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。④幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。⑤身の周りのものを五感で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。⑥表現の楽しさを実感し、その楽しさとは何かを分析することができる。⑦グループで演奏することを通して他者の表現を受け止め共感し、豊かな表現につなげることができる。⑧様々な表現の基礎的な知識を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。 【テーマ】①幼児の表現②幼児期の音楽的発達③音楽教育に影響を及ぼした理論④幼児の遊びと音楽⑤障がいを持つ子どもと音楽⑥音楽教育のメソッド⑦わらべうた⑧唱歌と童謡⑨器楽⑩教育評価			
授業の概要：本授業は、領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿や発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境構成などの専門的事項について、討論・実技演習を通して知識・技能・表現力を身につけさせる。具体的にはテーマに挙げた幼児の音楽的な成長の理解からはじめ、幼児と音楽の視点から討論を取り入れながら理解を深める。さらにわらべうた、唱歌と童謡、器楽の実技演習を通して表現力を養い、他者の表現に共感し創造的な表現活動を展開する。			
授業計画：			
回数	内容		準備学習
第 1 回	第 1 回 幼児の表現 幼児の音楽的活動を実践していくために必要なポイントについて考える。聴く、歌う、動く、奏でる、作るという体験は相互に関連しているため、これらを総合的に展開していく方法について考える。その際、保育者がどのような役割を果たすのかについても考える。テキスト、参考資料から学んだ内容をもとに自分自身の音楽体験から、音楽の教師がどのような実践をしていたか思い浮かべ、その実践から学んだことについて話し合う。		授業で配付するプリントについて、次回までに準備学習として取り組む。
第 2 回	幼児期の音楽的発達 乳幼児期の音楽的発達に焦点をあて音楽的発達について考える。マクドナルド、サイモンの理論から音楽性が遺伝と環境の二つの側面から育まれること、からだの発達と音楽の関連、聴取スキル、歌唱行動とリズム行動の発達について理解する。さらにキース・スワンウィックの理論（マスタリー、模倣、想像的な遊び、メタ認知）というスパイラルな音楽的発達の成長過程について理解する。これらに基づいて音楽体験を振り返り、音楽的に影響を受けたエピソードを紹介し合い、乳幼児の身長や体重を調べ、音楽的な成長と重ね合わせてみる。		乳幼児の身長や体重を調べ音楽的な成長と重ね合わせレポートする。(60分)
第 3 回	音楽教育に影響を及ぼした理論 モンテッソーリ(感覚教育)、ペスタロッチ(基礎陶冶の理念)、ピアジェ(同化と調節による認知能力の発達)、ブルーナー(行為的表象、映像的表象、象徴的表象)を取り上げそれぞれの教育において何を目的とし、どのような特徴があったのか理解する。具体的には、モンテッソーリの感覚教具の体験、ペスタロッチのコレギウム＝ムジクにおける活動への影響についての討論、ピアジェによる思考の発達段階における音楽的行為の事例の追体験、ブルーナーの教育理論から考えられる音楽への動機付けについての討論である。		コレギウム＝ムジクとは何か調べる。討論のための調査(60分)

第4回	幼児の遊びと音楽 ホイジンガ、カイヨワの文献から遊びの定義について理解し、日本の伝承遊びがどのようなものであったか考える。また実際の伝承遊び（わらべうた）の実践を通して、わらべうたの特性を理解する。 これらのことから生活と音楽、自然と音楽が深くつながっていることを理解する。	遊びとは何か調べる。また伝承遊びの具体例を3つ調べる。(60分)
第5回	障がいをもつ子どもと音楽 障がいを持つ人々は音楽とどのようなかかわりを持っているのか、音楽と関わることでどのようなメリットがあるのか、さらに障がい者が音楽参加するために、私たちはどのような態度が必要なのか考える。障がいの種類、認知的な限界、発達的な要因について理解する。DVD映像資料として映画「耳をすます」を視聴し、障がい者にとって音がどのような意味を持っているのか討論し考える。	障がい者にとって音楽はどのような意味を持つかレポートにまとめる。(120分)
第6回	音楽教育のメソッド エミール＝ジャック・ダルクローズ、カール・オルフ、ゾルタン・コダーイ、鈴木鎮一、マリーシェイファーの音楽の特徴を理解する。さらにジョンペインターが提唱する創造的音楽づくりの実際から活動内容や評価方法について理解する。これらの比較を通して幼児教育にとってどのような音楽が必要であるか討論する。	音楽教育のメソッドについて調べる。(120分)
第7回	わらべうた わらべうたの構造について理解する。また日本の音楽の音階や構造と西洋の音楽の音階の違いについて理解する。わらべうたによる伝承遊びの実技演習を通して、わらべうたが育む子どもの感性とはどのようなものか考える。またわらべうたの楽しさを生み出す要因について討論しまとめる。	自分が経験したことのあるわらべうたをまとめる。(60分)
第8回	唱歌と童謡その1 唱歌 唱歌の歴史を概観し、幼稚園創設と唱歌教育、音楽取調掛の創設、保育唱歌の特徴、小学校唱歌集、西洋音楽の移入、幼稚園唱歌集、幼年唱歌、文部省唱歌について理解を深める。また実際の歌唱活動を通してどのような歌が歌われてきたか理解する。	唱歌についてまとめ表にする。(60分)
第9回	唱歌と童謡その2 童謡 明治期以降の童謡の歴史を概観する。大正期の童謡運動、「赤い鳥」童謡運動からこれらの運動を推進した人々が目ざしたものは何だったのか考える。また文学運動からどのように音楽運動へとつながっていったのか理解する。	童謡について調べる。(60分)
第10回	器楽1 オルフの教育理念にもとづいた合奏 カール・オルフは以下5つの観点について述べている。①音楽教育は母国語と共に母国語によって始まる。②音楽、踊り、言葉そしてその他の芸術を1つの分野として認知する。③音楽教育において全ての音楽的パラメーターを体験する為に楽器の演奏も学ぶべきである。④「音楽を楽しむ」ということは、個人的な体験だけでなく、グループ体験でもあるべきである。⑤音楽教育では誰でもが創造的に音楽に取り組んでいけるようにしなければならない。これらオルフの音楽教育の理念に基づいた器楽のアンサンブルを通して、音楽表現の生成について理解する。また音楽表現の構造について反復と対照という視点から構造的に分析する力を養う。	
第11回	器楽2 合奏の構造	

第12回	リズム、旋律、ハーモニーの視点から楽器の役割を理解し、幼児の器楽表現において留意する点について考える。また実際の演奏を通して、幼児にとってどのような演奏が楽しい表現となるのかその要因について話し合う。	
第13回	器楽3 合奏の楽しみ方 任意の曲を選曲し、合奏表現を練り上げる過程を通して、幼児がどのような点に興味を持ち楽しむことができるのか考える。またその際の指導上の留意点についても検討する。	
第14回	器楽4 発表会に向けて 学芸会での発表を設定し、選曲、役割分担、プログラム作成、ステージ設置、環境整備を行い、発表会に必要な様々な仕事やその過程についての理解を深める。またグループ活動におけるリーダーシップの発揮や協調性、活動を推進する力を身につける。	それぞれの役割で必要なものを準備作成する。(60分)
第15回	器楽5 発表会 聴衆と演奏者に分かれ、学芸会発表の迫体験を通して、お互いの表現を受け止めて、共感し、より豊かな表現につなげる。お互いの発表を批評文としてまとめる。	事後課題として発表に向けての過程を振り返り、よかった点、改善すべき点についてレポートにまとめる。(60分)
第15回	教育評価 評価の定義、評価方法の計画、幼児の音楽的成長の評価について理解を深める。これまで行ってきた器楽の映像をもとに評価基準を設定し、グループごとに評価分析を行う。	
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を実施	
フィードバックの方法：レポート・ノートに評価・コメントし返却します。		
テキスト：神原雅之（2014）『幼児教育要論』開成出版、『幼稚園教育要領解説』、『保育所指導指針解説』		
参考書・参考資料等：マクドナルド、DTサイモンズ、GM 著神原雅之訳（1999）『音楽的成長と発達』キース・スワニック著、野波健彦他共訳（1992）『音楽と心と教育』音楽の友社 ホイジンガ（1938）『ホモ・ルーデンス』中央文庫、ロジェ・カイヨワ（1958）『遊びと人間』講談社 小泉文夫（1986）『子どもの遊びとうた わらべうたは生きていた』草思社 小泉恭子（2000）『いろいろな音をさがしてあそぼう』明治図書出版 DVD 資料映画 谷川俊太郎（1982）「耳をすます」福音館書店 モンテッソーリ著、中村勇訳（2003）『子どもの発見』日本モンテッソーリ教育研究所 ペスタロッチ著（1780）『隠者の夕暮れ』岩波文庫 ブルーナーJS 著、鈴木祥蔵・佐藤三郎訳（1986）『教育の過程』岩波書店 L.チョクシー・R.エイブラムソン・A.ガレスピー・D.ウッズ著、板野和彦訳（1994）『音楽教育メソッドの比較 コダーイ、ダルクローズ、オルフ、CM』 菊池雅春編曲・監修（2005）『器楽合奏でディズニー』YAMAHA 株式会社テプロ MP（2009）『こどもの器楽大全集スタジオジブリ 1～3』株式会社テプロ MP 株式会社テプロ MP（2012）『こどもの器楽合奏ポップス2』株式会社テプロ MP		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：子どもと表現について討論を通して基礎的な知識や指導上の留意点が理解できたか否か、試験の記述内容から評価（50%） 毎授業での取り組む姿勢・意欲について、意見発表、演奏等から評価（25%） 準備学習として配布するプリントの発達に関すること、楽器に関すること、楽譜に関すること、和声に関すること、それぞれの問題を解いてくること。（25%）		

授業科目名：2311113721 健康指導法 2年前期	必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：豊田 泰代 担当形態：演習 単独												
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容演習														
学習成果該当番号：1・2・3・4・7															
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】①幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示された領域「健康」のねらい、内容及び内容の取扱いと、養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれ関連を持つことを合わせて理解する。 ②短期の指導案を作成できる。③模擬授業とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。 ④運動指導場面における安全に配慮した環境設定ができる。⑤乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。⑥領域「健康」の特性及び乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。⑦幼児教育と小学校教育との繋がりを理解するとともに、幼児教育における評価の考え方を理解している。 【テーマ】乳幼児の発達段階をとらえながら、保育現場で運動あそびの活動が展開できる力を養う。「楽しい！」を創り出すにはどのような準備が必要か、グループで考え取り組むことで、保育の基礎的技能を高めていく。また小学校教育とのつながりをふまえた乳幼児期の運動の見方・とらえ方など観察や体験を通じて理解する。															
授業の概要：この授業では、演習形式により領域「健康」の見方・捉え方・援助方法について学ぶ。そのために、学生自身が保育現場で行える運動あそびについて調べ、そのあそびを提供する場合にどのような準備が必要かを考え、指導計画案を立てる。それらをもとに、グループで話し合いよりよい活動内容になるよう練り上げる。グループでまとめあげた指導計画案をもとに、学生を幼児に見立て実際に指導（ロールプレイ）を行う。指導の様子はビデオに記録し、指導後に振り返りをしてその反省を次にいかせるようにしていく。指導法の授業は、指導する側と指導される側として展開されるが、それぞれの指導の良い点、改善点などは全員が振り返りを行い、記録としてノートにまとめる。 また、保育現場で運動遊びに使われる施設・設備・遊具の種類に応じた活動の援助方法や管理などについても学ぶ。具体的活動内容として、伝承遊び、ボール運動など小型遊具を使ったあそび、ゲーム・ダンスなど用具を使わない遊びなどを取り上げる。															
授業計画： <table><tr><th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr><tr><td>第 1回</td><td>指導計画や指導案作成について 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。その上で長期・短期の指導計画や指導案作成について学ぶ。</td><td>準備学習：『幼稚園教育要領解説』また『保育所保育指針解説書』に書かれた、領域「健康」のねらい及び内容に目を通す（30分）</td></tr><tr><td>第 2回</td><td>模擬保育準備及び領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知る 個人の指導案を持ち寄り、より具体的な保育を想定した指導案をグループで作成する。 また、領域「健康」の特性に応じた現代的課題（自ら健康で安全な生活を作り出す力の基盤づくり）や保育実践の動向を観察や体験を通じて理解する。</td><td>準備学習：領域「健康」に関する指導案を個別に作成する（90分） 事後学習：ダンスの復習（15分）</td></tr><tr><td>第 3回</td><td>模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける①保育者の適した立ち位置 具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意点や評価の考え方の理解を深めていく。模擬保育の様子は学生が交替でビデオ撮影する。教員は発表学生に対しコメントを伝えるとともに撮影された動画を即時Teamsへ載せ（ICT活用）発表学生へフィードバックする。学生は改善する視点をノートに記録する。第3回は特に保育者の適した立ち位置の理解を深める。</td><td>準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル（60分） 事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グループは発表映像をみて指導を振り返る（45分） ダンスの復習（15分）</td></tr></table>				回数	内容	準備学習	第 1回	指導計画や指導案作成について 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。その上で長期・短期の指導計画や指導案作成について学ぶ。	準備学習：『幼稚園教育要領解説』また『保育所保育指針解説書』に書かれた、領域「健康」のねらい及び内容に目を通す（30分）	第 2回	模擬保育準備及び領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知る 個人の指導案を持ち寄り、より具体的な保育を想定した指導案をグループで作成する。 また、領域「健康」の特性に応じた現代的課題（自ら健康で安全な生活を作り出す力の基盤づくり）や保育実践の動向を観察や体験を通じて理解する。	準備学習：領域「健康」に関する指導案を個別に作成する（90分） 事後学習：ダンスの復習（15分）	第 3回	模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける①保育者の適した立ち位置 具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意点や評価の考え方の理解を深めていく。模擬保育の様子は学生が交替でビデオ撮影する。教員は発表学生に対しコメントを伝えるとともに撮影された動画を即時Teamsへ載せ（ICT活用）発表学生へフィードバックする。学生は改善する視点をノートに記録する。第3回は特に保育者の適した立ち位置の理解を深める。	準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル（60分） 事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グループは発表映像をみて指導を振り返る（45分） ダンスの復習（15分）
回数	内容	準備学習													
第 1回	指導計画や指導案作成について 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。その上で長期・短期の指導計画や指導案作成について学ぶ。	準備学習：『幼稚園教育要領解説』また『保育所保育指針解説書』に書かれた、領域「健康」のねらい及び内容に目を通す（30分）													
第 2回	模擬保育準備及び領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知る 個人の指導案を持ち寄り、より具体的な保育を想定した指導案をグループで作成する。 また、領域「健康」の特性に応じた現代的課題（自ら健康で安全な生活を作り出す力の基盤づくり）や保育実践の動向を観察や体験を通じて理解する。	準備学習：領域「健康」に関する指導案を個別に作成する（90分） 事後学習：ダンスの復習（15分）													
第 3回	模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける①保育者の適した立ち位置 具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意点や評価の考え方の理解を深めていく。模擬保育の様子は学生が交替でビデオ撮影する。教員は発表学生に対しコメントを伝えるとともに撮影された動画を即時Teamsへ載せ（ICT活用）発表学生へフィードバックする。学生は改善する視点をノートに記録する。第3回は特に保育者の適した立ち位置の理解を深める。	準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル（60分） 事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グループは発表映像をみて指導を振り返る（45分） ダンスの復習（15分）													

第4回	模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける②集団の動かし方 具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意点や評価の考え方の理解を深めていく。模擬保育の様子は学生が交替でビデオ撮影する。教員は発表学生に対しコメントを伝えるときにも撮影された動画を即時Teamsへ載せ（ICT活用）発表学生へフィードバックする。学生は改善する視点をノートに記録する。第4回は特に集団の動かし方について理解を深める。	準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル（60分） 事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グループは発表映像をみて指導を振り返る（45分） ダンスの復習（15分）
第5回	模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける③乳幼児の興味関心を引く環境づくりと言葉がけ 具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意点や評価の考え方の理解を深めていく。模擬保育の様子は学生が交替でビデオ撮影する。教員は発表学生に対しコメントを伝えるときにも撮影された動画を即時Teamsへ載せ（ICT活用）発表学生へフィードバックする。学生は改善する視点をノートに記録する。第5回は特に乳幼児が興味や好奇心を持って関わることのできるような環境づくりや言葉がけについて理解を深める。	準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル（60分） 事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グループは発表映像をみて指導を振り返る（45分） ダンスの復習（15分）
第6回	模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける④空間構成について 具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意点や評価の考え方の理解を深めていく。模擬保育の様子は学生が交替でビデオ撮影する。教員は発表学生に対しコメントを伝えるときにも撮影された動画を即時Teamsへ載せ（ICT活用）発表学生へフィードバックする。学生は改善する視点をノートに記録する。第6回は特に空間構成について理解を深める。	準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル（60分） 事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グループは発表映像をみて指導を振り返る（45分） ダンスの復習（15分）
第7回	模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける⑤安全に配慮した環境 具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意点や評価の考え方の理解を深めていく。模擬保育の様子は学生が交替でビデオ撮影する。教員は発表学生に対しコメントを伝えるときにも撮影された動画を即時Teamsへ載せ（ICT活用）発表学生へフィードバックする。学生は改善する視点をノートに記録する。第7回は特に安全に配慮した環境について理解を深める。	準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル（60分） 事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グループは発表映像をみて指導を振り返る（45分） ダンスの復習（15分）
第8回	模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける⑥乳幼児の心情を汲む保育 具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意点や評価の考え方の理解を深めていく。模擬保育の様子は学生が交替でビデオ撮影する。教員は発表学生に対しコメントを伝えるときにも撮影された動画を即時Teamsへ載せ（ICT活用）発表学生へフィードバックする。学生は改善する視点をノートに記録する。第8回は特に乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育について理解を深める。	準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル（60分） 事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グループは発表映像をみて指導を振り返る（45分） ダンスの復習（15分）
第9回	小学校体育科学習とのつながり①支持力を必要とする教材のレディネス 乳幼児期は小学校に上がるまでのレディネスを整える時期であることを考慮し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を基に幼稚園の領域「健康」の具体的な指導内容について体験する。第9回は支持力を必要とする教材の前段階をテーマに取り上げる。	準備学習：支持系の遊びの下調べ（15分） 事後学習：授業内容のノートまとめ（30分） ダンスの復習（15分）

第10回	小学校体育科学習とのつながり②投運動の教材のレディネス 乳幼児期は小学校に上がるまでのレディネスを整える時期であることを考慮し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を基に幼稚園の領域「健康」の具体的な指導内容について体験する。第10回は投補運動の前段階をテーマに取り上げる。	準備学習：投運動の遊びの下調べ（15分） 事後学習：授業内容のノートまとめ（30分） ダンスの復習（15分）
第11回	小学校体育科学習とのつながり③跳躍の教材のレディネス 乳幼児期は小学校に上がるまでのレディネスを整える時期であることを考慮し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を基に幼稚園の領域「健康」の具体的な指導内容について体験する。第11回は跳躍の前段階をテーマに取り上げる。	準備学習：跳躍の遊びの下調べ（15分） 事後学習：授業内容のノートまとめ（30分） ダンスの復習（15分）
第12回	動きを引き出す環境①大型遊具 遊びや生活の場面において動きを引き出す様々な環境や動線に配慮した環境を構成したりするためにこれらを体験しながら理解する機会を設ける。12回は大型遊具をテーマに取り上げる。	準備学習：大型遊具の遊びの下調べ（15分） 事後学習：授業内容のノートまとめ（30分） ダンスの復習（15分）
第13回	動きを引き出す環境②小型遊具 遊びや生活の場面において動きを引き出す様々な環境や動線に配慮した環境を構成したりするためにこれらを体験しながら理解する機会を設ける。13回は小型遊具をテーマに取り上げる。	準備学習：小型遊具の遊びの下調べ（15分） 事後学習：授業内容のノートまとめ（30分） ダンスの復習（15分）
第14回	動きを引き出す環境③鬼ごっこ 遊びや生活の場面において動きを引き出す様々な環境や動線に配慮した環境を構成したりするためにこれらを体験しながら理解する機会を設ける。14回は鬼ごっこ及び身近なものをを用いた遊びをテーマに取り上げる。	準備学習：鬼ごっこの下調べ（15分） 事後学習：授業内容のノートまとめ（30分） ダンスの復習（15分）
第15回	ダンス・表現 授業の準備運動で行ったダンスの復習とテスト、また保育現場において活用するために場面と年齢に合わせたアレンジ方法を学ぶ。	準備学習：前期に行ったダンスの復習をする（60分）
定期試験 幼児ダンステスト、ノート提出を定期試験とする。		
※ 毎回の授業時のはじめに準備運動として幼児ダンスを踊る。		
フィードバックの方法：模擬保育については発表後、学生同士ディスカッションし良かった点と改善点について発表する。また、教員からもコメントしフィードバックする。また撮影された動画はICTを活用し即時、学生へフィードバックする。		
またホワイトボードの記載内容の写真、配布されたプリントのPDFデータ、幼児ダンスの動画はいつでも閲覧・復習できるようにTeamsの共有フォルダにアップロードする。		
テキスト：なし		
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』（株）フレーベル館、2018、『保育所保育指針解説』（株）フレーベル館、2018、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（株）フレーベル館、2018『0歳からはじめるうごきづくり』太田昌秀・豊田泰代・久保景子著、幻冬舎ルネッサンス、2008。『身体表現遊びプレイソング2』田中（賀来）良江・豊田泰代、チャイルド本社、2005		
第3～8回の授業では学生が作成した指導案を配布		
第1～15回の授業では内容に合わせた自作資料も使用		
オープンな教育リソース：豊田泰代 【とよたやすよの幼児ダンスTV】Yasuyo Toyota チャンネルURL： https://www.youtube.com/channel/UCkmMAkKzhezj3PuzR9eMoFw		
学生に対する評価：保育現場における指導力の向上がみられたかをはかるために以下の4項目を総合的に評価して成績を判定する。①模擬保育発表内容（40%）②授業に関するノート・提出物等（30%）③授業の取り組み（20%）④ダンステスト（10%）		

授業科目名：2311113812 人間関係指導法 1 年後期	必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名： 小山 玲子 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒： 専門教育科目 保育の内容・方法 幼：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容演習		
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 5. 6			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】①幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「人間関係」に示されるねらいと内容を理解する。②子どもたちの自己の確立や他者との関わりを支え、育みたい資質能力に向けた保育を構想し、実践する力を身につける。③乳幼児の発達を捉え、乳児保育における3つの視点と、領域「人間関係」における主体的、対話的で深い学びが実現する指導場面を想定し、環境の構成、教材や遊具の活用と工夫、計画・実践・観察・記録・評価について実践的に学ぶ。 【テーマ】子どもの人間関係の発達と援助のあり方を中心テーマとし、①幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「人間関係」のねらいと内容、②乳幼児期の人間関係の発達、③「人とのかかわる力」を育てるための保育実践を取り上げる。			
授業の概要：幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。乳幼児期にどのような経験や関わりが必要なのかを考え、「人と関わる力」を育成する保育者の援助のあり方を、事例を通して具体的に学ぶ。また、保育者を目指す自らが、自己の確立と他者への共感的理解、人とかかわりの重要性を十分に理解することで、子どもの人間関係を支える保育者としての資質向上につなげる。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	<u>領域「人間関係」の意義</u> 人間関係に関わる現代社会を概観し、領域「人間関係」の役割を理解する。乳幼児が育つ家庭・社会環境を学生自身の育ちや経験をもとに話し合い、領域「人間関係」の役割について考えていく。	テキスト p 10-23の通読(30分))夏のボランティアの振り返りシートの記入 (30分)	
第 2回	<u>保育における「人間関係」(0・1・2 歳児クラス)</u> 保育所保育指針の乳児期の領域「人間関係」のねらい・内容の取扱いを読んで話し合い、大要を理解する。「振り返りシート」(提出)をもとに夏のボランティアで観察した子どもの言葉・遊び・生活と人間関係について実践事例から考える。	テキスト p 24-26. p34-40. p50、保育所保指針解説 p 101-109. p135-144の通読 (60分)	
第 3回	<u>保育における「人間関係」(3・4・5 歳児クラス)</u> 幼稚園教育要領・保育所保育指針の幼児期における領域「人間関係」のねらい・内容の取扱いを読み、幼児期の発達を理解する。	テキスト p 41～45. p50～51. 保育所保指針解説 p 204-227・幼稚園教育要領解説p167-192の通読 (60分)	
第 4回	<u>安心できる人との関わりの中で育つ0 歳児</u> 母子の共感性や保育者の応答的関わりなど0 歳児の発達と保育について説明する。乳児保育の3つの視点「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」を理解する。	テキスト p24-25. p34-37. 保育所保指針解説 p 89-120の通読 (60 分)	
第 5回	<u>周囲のもの・人への興味が広がる1歳児</u> 探索活動・遊びや生活を通した人間関係の育ちと保育者の援助の基本と配慮事項を理解する。	テキストp26. p38-41. 保育所保指針解説 p 135-139の通読 (60分)	
第 6回	<u>「わたし」が芽生え自己主張が強くなる2 歳児</u> 自我の芽生え・自己主張、人や物との関わり、保育者	テキスト p25-26. 保育所保指針解説 p 135-139 の通読 135-	

	の援助の基本と配慮事項を理解する。	139 (60 分)
第 7回	<u>「私」が育ち、自立に向かう 3 歳児</u> 自立心と協働性の芽生え、子ども同士の関わり、保育者の援助の基本と配慮事項を理解する。	テキスト p27-28. p41-42. p50. 保育所保育指針解説 p 204～227 の通読 (60分)
第 8回	<u>保育の構想</u> いくつかの具体的事例を挙げて 4 歳児クラスの指導案を作成する。準備学習で作成した指導案を検討、手直しをする。次回の模擬保育の計画を立てる。	期日までに領域「人間関係」をねらいとする指導案を作成する (90分)
第 9回	<u>4歳児の保育実践</u> 模擬保育、模擬保育の振り返りを通して評価から改善の一連の作業を経験し、領域「人間関係」の理解を深めていく。模擬保育の振り返りシートを作成する。	役割に応じた模擬保育の準備 (60 分) 復習：模擬保育の振り返りシートを仕上げ (30分)
第10回	<u>「私たち」の意識が芽生え、協調性が育つ 5 歳児</u> 集団の中で育まれる「協同性」について、遊びや生活を通した人間関係の育ち、保育者の援助の基本と配慮事項を理解する。	テキスト p27-31. p51. p58-64. 保育所保育指針解説 p62-83 の通読 (60分)
第11回	<u>実際の子どもの生活(グループワーク)</u> 幼稚園実習で観察した子どもの言葉と人間関係・遊びと人間関係・生活と人間関係について実践事例から考える。振り返りシートを作成する。	幼稚園実習などで気付いたこと・感じたこと・学んだこと・疑問点等を振り返りシートに記入する (60分)
第12回	<u>「個性」と「人間関係」「気になる子ども」</u> 保育現場における気になる子の環境状況や背景を検討しクラス運営をする中で人間関係に関するねらいと保育内容を踏まえ、家庭との連携や保育者の援助などを考えていく。レポートを題材にグループワークを行う。	幼稚園実習などの体験や文献から、気になる子の事例(レポート)をまとめる (60分)
第13回	<u>幼保小連携(小学校への円滑な接続)</u> 幼児教育と小学校教育の段差を乗り越えるための取り組み・接続期カリキュラム等、幼児期の学びを考える。	テキスト p 96- p 110. 保育所保育指針解説 p288-292 の通読 (60分)
第14回	<u>多様な人との関わり(グループワーク)</u> 現代社会と子どもとの関わり、地域の中で育まれる子ども同士の関わり、高齢者との交流、地域で支える子育て支援について理解する。グループ発表を行う。	テキスト p 96- p 110. 保育所保育指針解説 p329-342 の通読 (60分)
第15回	<u>めざす保育者像(保育者が作る「人間関係」)</u> 子どもとの関係を築く・保護者との関係を築く・保育者同士の関係を築く・地域や専門機関などとの関係を築く・学び続ける保育者像について理解する。	テキスト p32-. p52. p128-132. 保育所保育指針解説 p345-347 の通読 (60分)
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を実施する。	
・ 毎回授業内で2～4人でディスカッションを行う ・ 保育実践に役立つよう人間関係に関するワークを多く取り入れる。		
フィードバックの方法：フィードバックとして、振り返りシートにコメントを記入し返却する。		
テキスト：「乳幼児と人間関係」 浅井拓久也 編著 萌文書林		

「保育内容指導法 人間関係」 浅井拓久也 編著 萌文書林
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』（文部科学省 フレーベル館） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省 フレーベル館）適宜プリントを配布 『乳幼児と人間関係』
オープンな教育リソース：『保育内容指導法 人間関係』 萌文書林
学生に対する評価：定期試験50％・授業への取り組み20％・課題30％を総合的に評価する

授業科目名2311113922 環境指導法 2年後期	必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：笹川 康子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容演習		
学習成果該当番号：2. 4. 6. 7			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】五領域の領域「環境」とは、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目的とする。領域「環境」のねらい及び内容はそれ単一で成立するものではない。養護及び教育に関わる保育の内容がそれぞれに関連性をもつことを理解し、総合的に保育を展開できるよう、乳幼児の発達を理解し、領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけることを到達目標とする。乳児保育における3つの視点と1歳以上児の五領域の視点から、発達に応じて主体的・対話的で深い学びが実現するよう、環境の構成、教材・遊具の活用と工夫、計画・実践・配慮すべき事項を理解する。 【テーマ】「科学的なものの見方や考え方」を育成するための援助・指導法を中心テーマとし、乳児期から「環境にかかわる力」を習得させる方法論について、幼小接続まで視野に入れ、実践的に学ぶ。			
授業の概要：幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「環境」のねらいを着実に保育現場で実践していくため実践力を高め、乳幼児に「科学的なものの見方や考え方」の育成を行うことができる知識・技術・指導法の習得を行う。さらに他領域と併せた総合的保育活動へ発展させ、幼小接続まで視野に入れた指導ができるよう、様々な教材開発・指導法開発を行い、卒後も保育者として研究を続けられる素地をつくる。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習等	
第1回	領域「環境」のねらい及び内容 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「環境」のねらい及び内容について概略を再確認する。小学校生活科・理科等教科への接続を見据え、乳幼児期の子どもが周囲の様々な環境に好奇心・探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験の重要性を反映した保育活動について学ぶ。	準備学習 幼稚園教育要領、保育所保育指針 領域「環境」のねらいと内容を再読(45分)	
第2回	自然・周囲の環境との関わり 乳児期から周囲の環境と深く関わり、子どもが健康的かつ安全・快適に過ごすことのできる環境に配慮し、季節によって変化する自然・周囲の環境に興味や好奇心をもって関わる体験ができるよう保育活動を構想する。視聴覚教材利用。	準備学習 A：56～61頁(20分) 事後学習 演習内容の保育現場での活用を考える(25分)	
第3回	周囲の環境との関わり・生命尊重 乳幼児の「環境に関わる活動」の際、保育者として子どもの感情や気付きを受容し、「科学するところ」の萌芽を育成する指導上の留意点を理解する。保育場面での具体例から原体験を積む活動を学ぶ。	準備学習 A：121～132(45分)	
第4回	「科学的な物の見方や考え方」における保幼小接続① 「科学的なものの見方や考え方」指導力育成のため、映像資料も活用し、乳幼児の発達を見据えた指導方法を学ぶ。小学校生活科への円滑な接続を視野に入れた保育活動の提案、教材開発、指導法を考える。	準備学習 A：67～80頁(45分)	
第5回	「科学的な物の見方や考え方」における保幼小接続② 「光の性質」を用いて発展的に「科学的な物の見方や考え方」を学ぶ。日常の保育活動における積み上げ型、保幼小接続型の教材開発と指導法習得に取り組む。	準備学習 幼児と環境 「光の性質」授業内容復習、 B：6～17(45分)	

第6回	「科学的な物の見方や考え方」における保幼小接続③ 前回扱った内容をさらに発展させて保育教材について製作を交えて深く学ぶ。保育者として持つべき「科学的なものの見方や考え方」を身に着けるための取り組みを行う。	事後学習 保育教材製作を行い、併せて指導法や保育現場での活用を考え、レポート提出する(45分)
第7回	「科学的な物の見方や考え方」における保幼小接続④ 保育者として持つべき「科学的なものの見方や考え方」を身に着けるため、実験を行い、そこから論理的に考えるという手順を経験し、法則性や因果関係を捉える。併せて保育教材の製作も行う。	準備学習 A : 88-94頁 B : 18~29 (45分間)
第8回	「科学的な物の見方や考え方」における保幼小接続⑤ 領域「環境」の具体的な指導場面を想定し、子どもの好奇心を育てる保育方法を身に付ける。日常の保育活動の中で法則性や因果関係に気づかせるための保育構想の重要性を知る。「空気・風」及び「水」をテーマに教材開発を実施し、発達段階に応じた遊びを考え、その指導法を考える。	事後学習 課題について、理論を復習し、第9回で取り組む教材開発についてレポートに記入。(45分)
第9回	「科学的な物の見方や考え方」における保幼小接続⑥ 領域「環境」の具体的な指導場面を想定し、子どもの好奇心を育てる保育方法を身に付ける。領域「環境」のねらい及び内容を踏まえた「空気・風」及び「水」をテーマとした保育活動を考えることを通して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を育むことと小学校教育への接続を目的に指導法・評価の考え方を習得する。	事後学習 第8回の事後学習レポートの実践について振り返りと改良を行う (45分)
第10回	環境に関わる体験と指導法① 森林素材や生態系を題材に用い、幼児に「科学する心」の芽生えをもたせ、さらに「科学的探究心」へと育成していくための保育・教育活動とは何かを考える。 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえた保育活動を通して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を育むことのできる指導力を身につける。	準備学習 B : 30頁~39頁 (45分)
第11回	環境に関わる体験と指導法② グループ単位による模擬保育活動を体験する。視聴覚教材も併用し、幼児の認知的発達に合わせた教材の活用、科学するところを受け止められるよう基礎知識と技能を身に付ける。	準備学習 模擬授業実施のための準備を行う(45分)
第12回	現代社会の環境課題について学ぶ① 視聴覚教材使用。限定された系をモデルとして生態系を学び、地球規模での生態系理解へと発展させる。SDG s に対する学習への入り口とする。また、幼児の身の回りの視聴覚情報の利用並びに水族園(館)、植物園、動物園、科学博物館等様々な施設と教育活動事例を学ぶ。	準備学習 割り当てられた施設について、事前に調べまとめて提出できるようにする。(45分)
第13回	現代社会の環境課題について学ぶ② 現代社会の環境課題についてテーマ別に理解を深める。SDG s の17目標のうち、ターゲット7, 13, 14, 15について、世界的な状況をグループ単位で調べ、他者へプレゼンテーションできるよう資料作成を行い、理解を深める。	事後学習 担当課題についてまとめる(45分)
第14回	現代社会の課題と保育構想の向上① 第13回での学習成果をグループ別に発表し、SDG s のターゲット7, 13, 14, 15について理解を深める。	準備学習 資料作成(45分)
第15回	現代社会の課題と保育構想の向上② 現代社会における諸外国の保育実践の取り組みについて学び、保育構想の向上に取り組むための資質を養う。保育現場を想定して授業で開発した教材のまとめを行う。	準備学習 第14回授業で出される課題に取り組む(45分)
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を行う	

フィードバックの方法： 第6回提出課題のフィードバックを行い、添削後学生に返却する。
テキスト： A『保育実践に生かす 保育内容「環境」』（高内正子監修 上中修編著 教育情報出版） B『こどもの世界Ⅲ こどもと自然／科学』（矢野博之編著 大学図書出版）
参考書・参考資料等： 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省 フレーベル館） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省 フレーベル館） 自作資料・教材を配付
オープンな教育リソース：
学生に対する評価： 以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①定期試験の得点70％ ②授業内課題20％ ③準備学習への取り組み及び授業態度10％

授業科目名：2311114021 言葉指導法		必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：山本 伸一 担当形態：演習 単独
2 年前期				
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容演習		
学習成果該当番号：2				
授業の到達目標及びテーマ：				
【授業の到達目標】生活における言葉使用の能力を高めるための、領域「言葉」の指導法について具体的な指導場面を構想する方法を身につける。①幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示された領域「言葉」のねらい、内容及び内容の取扱いを理解している。②幼児教育と小学校教育との繋がりを理解するとともに、幼児教育における評価の考え方を理解している。③乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。④領域「言葉」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。⑤長期・短期の指導計画や指導案を作成できる。⑥模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。⑦領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向に気付き、保育構想の向上に取り組むことができる。				
【テーマ】①領域「言葉」のねらい、内容及び内容の取扱い、②非言語コミュニケーション、③指導援助の方法（聞く力・話す力・考える力・文字への関心等）、④言語障害、⑤オノマトペとなぞなど、⑥小学校国語科とのつながり、⑦絵本の読み聞かせ計画の作成と実践				
授業の概要：初めに幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「言葉」のねらい、内容及び内容の取扱い等を確認して、言葉指導の基盤である信頼関係の醸成とともに、聞く力、話す力、考える力を高めたり、文字への関心を高めたりする方法を概観する。その後、言語障害、オノマトペ、小学校国語科の導入等の題材を取り上げて幼児の言語使用の特色を理解する。最後に絵本の読み聞かせの実践を通して児童文化財の具体的な取り扱い方を学ぶ。				
授業形態は、対面授業で行う。遠隔授業は必要な状況においては、下記の授業計画に示す内容でオンデマンドまたはリアルタイムオンラインで授業を行う。				
授業計画：				
回数	内容			準備学習
第 1 回	幼稚園教育要領領域「言葉」 領域「言葉」のねらい、内容及び内容の取扱いを読んで話し合い、その大要を理解する。確認テストを時間内に行う。			テキストp. 5-p. 14の下調べ（60分）
第 2 回	保育所保育指針領域「言葉」 領域「言葉」について、三歳未満児のねらい、内容及び内容の取扱いを読んで話し合い、大要を理解する。確認テストを時間内に行う。			テキストp. 15-26の下調べ及び確認テストの見直し（60分）
第 3 回	非言語コミュニケーション 乳幼児と親しい大人との間で行われる「見つめ合い」、「いないいないばあ」、「おもちゃを用いた遊び」、「物のやりとり」など1歳未満の乳児では、その動きや発声に注意して保育者が応答的にかかわったり、語り掛けや歌いかけを行ったりして気持ちの通じ合うことが言葉の発達に必要であることを話し合いによって気付くようにする。確認テストを時間内に行う。			テキストp. 27-p. 33の下調べ及び確認テストの見直し（60分）
第 4 回	指導援助の方法 1（聞く力、話す力） 聞く力を育てる具体的な場や指導事項を調べたり、表現を豊かにする具体的な場や指導事項を調べたりして日常活動の中にインタビューの時間を設定することの重要性を理解するとともに、子どもが答えやすいインタビューの内容及び実施上の留意点を表にまとめる。まとめた表は、確認テスト兼ミニレポートとして扱う。			テキストp. 34-p. 42の下調べ及び確認テストの見直し（60分）
第 5 回	指導援助の方法 2（考える力） 考える力・想像する力を育む具体的な場である生活や遊び、児童文化財の鑑賞等に関わる指導事項を調べる。確認テストを時間内に行う。			テキストp. 43-p. 48の下調べ及び確認テストの見直し（60分）
第 6 回	指導援助の方法 3（記号・文字への関心） 記号への関心を育む具体的な場である生活や遊びの中の指導事項を調べて話し合			テキストp. 49-p. 58の下調べ及び確認テス

	う。また、落書きなどの遊びが自己表現として考えられることを知り、その落書きの中に出ている文字、語、文の発達の様子と指導法について話し合う。確認テストを時間内に行う。	トの見直し (60分)
第7回	指導援助の方法4 (言葉の発達と環境) 人との係わり、生活や遊び、絵本等の言葉が幼児に移される様子について資料をもとに話し合うとともに、経験する事象の認識、相手意識及び語彙の獲得等が、鬼ごっこなどの遊びの基礎になっていることを理解する (色鬼の成立には色の知識があることやその知識獲得を行う効果的な指導場面を話し合っまとめる)。確認テストを時間内に行う。	テキストp. 59-p. 71の下調べ及び確認テストの見直し (60分)
第8回	言語障害 言語障害の症状、原因、治療等について、テキストや図書館資料やインターネットで調べた結果を発表し合うとともに、当該幼児の保育方針について話し合い、言語障害の保育についての理解を深める。確認テストを時間内に行う。	テキストp. 72-p. 77の下調べ及び確認テストの見直し (60分)
第9回	感覚的言語 (オノマトペ1) 童謡、唱歌及びわらべ歌に使われている擬音語や擬態語の効果について、それらの擬音語や擬態語を他の一般的な言葉に置き換えた事例と比較を通して、幼児が理解しやすいかどうかという観点で話し合う。自作資料「もし、こんな言葉にかわったら」確認テストを時間内に行う。	テキストp. 78-p. 95の下調べ及び確認テストの見直し (60分)
第10回	感覚的言語 (オノマトペ2) 擬音語を含んだ文からその基となる事物や動物を当てるなぞなぞをつくったり、特定の動物についてその鳴き声が英語ではどのように発音されているかをインターネットで調べて一覧表にまとめたりし、そのオノマトペの指導が適当な発達過程を話し合い、長期の指導計画を作成する。作成した指導計画は、ミニレポートとして扱う。	テキストp. 96-p. 103の下調べ及び確認テストの見直し (60分)
第11回	小学校国語科学習とのつながり 小学校1年用 (上) の国語科教科書を用いて、その4月・5月の学習内容を調べるとともに、幼稚園教育要領総則「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 (8) (9)」を基に幼稚園の領域「言葉」の具体的な指導事項について話し合う。確認テストを時間内に行う。	テキストp. 104-p. 116の下調べ及び前回授業で作成した指導計画の見直し (60分)
第12回	生活の中の言葉指導計画、遊びの中の言葉指導計画及び絵本の読み聞かせ計画の事例の中から、絵本の読み聞かせ計画の例を取り上げて、その計画作成の方法を理解する。確認テストを時間内に行う。	テキストp. 117-p. 128の下調べ及び確認テストの見直し (60分)
第13回	絵本の読み聞かせ1 順番に教室の前で絵本の読み聞かせを行い、聞き比べて読み方の優れた点に気付くように評価をする。13回は、特に絵本の持ち方・見せ方に注意する。評価表を確認テストとして扱う。	テキストp. 129 第13・14・15回の準備学習として夏休み中に絵本の選択と読み聞かせ計画の作成を課す。読み聞かせ計画の見直し及び評価表による評価基準の見直し (各60分)
第14回	絵本の読み聞かせ2 順番に教室の前で絵本の読み聞かせを行い、聞き比べて読み方の優れた点に気付くように評価をする。14回は、特に会話と地の文の読み分けと声量に注意する。評価表を確認テストとして扱う。	同上
第15回	絵本の読み聞かせ3 順番に教室の前で絵本の読み聞かせを行い、聞き比べて読み方の優れた点に気付くように評価をする。15回は、特に間の取り方を重点とする。評価表を確認テストとして扱う。	
定期試験	筆記試験を行う。	

フィードバックの方法：第2回から第15回まで行う前回授業の確認テストは、A、B、Cの三段階で評価して次回授業日に返却して解説する。

テキスト：『領域言葉Ⅱ 言葉指導法』（神谷爲義著 貞静学園短期大学）

参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』（文部科学省 フレーベル館）
『保育所保育指針解説書』（厚生労働省 フレーベル館）

オープンな教育リソース：

学生に対する評価：①試験（50%）

②授業内の演習における取り組み状況、レポート（30%）

③確認テストの提出状況・内容（20%）

実務家教員による授業科目：初等教育教員養成課程を卒業し、中学校教諭1種免許状（国語）と高等学校教諭Ⅰ種級免許状（国語）も有し、長年小学校教諭として勤務した。また、学校就学前の言葉の教育について実践研究を行っている。指導主事、統括指導主事、指導室長、校長、東京都教育委員会研究開発委員会国語部会委員長、東京都小学校国語研究会会長、全国小学校国語研究会全国理事、日本国語教育学会理事を経験している。学校就学前の言葉の教育について実践研究を行っている。その経験を生かしその経験を生かして、領域言葉の指導法について実践的に教授する。

実務家教員による授業科目：幼稚園教員養成課程を卒業し、幼稚園並びに小学校教諭として長年勤務してきた。その間に大学院において学校教育を専攻し、研鑽を積み、小学校並びに幼稚園教諭専修免許状を取得している。その経験を生かして、領域言葉の指導法について実践的に教授する。

授業科目名：2311114121 表現活動指導法（リトミック） 2年前期	必修：卒・幼・保	単位数：1単位	担当教員名：桑原 章寧 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容演習		
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 6. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】①幼稚園教育要領に示された、領域「表現」のねらい及び内容と全体構造を理解する。②保育所保育指針における「養護」と「教育」の視点から、保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための具体的な方法や技術、子どもの実態に即した援助やかかわりを理解する。③幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解する。④領域「表現」のねらいと内容を踏まえ幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解する。⑤指導案の構造を理解し、活動の導入、展開を考慮した手遊び歌の指導案を作成することができる。⑥幼稚園教育における評価の考え方を理解する。（小学校との違い）⑦模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。⑧領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。⑨領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育に活用することができる。 【テーマ】①領域「表現」のねらい、内容と全体構造 ②幼児の表現（音楽教育） ③援助やかかわりとしての音楽 ④模擬保育の実際 ⑤総合的な表現（オペレッタ） ⑥保育における評価と小学校音楽科における評価			
授業の概要：幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい、内容、内容の取り扱いについて理解させる。また、保育所保育指針に示された、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする「表現」としての保育について理解させる。具体的には、リズム遊戯曲を数多く学ぶ中で、リズムカルな身体の動きを身につけ、音楽に対する感性を高める。グループでの演習を通してリトミック教育が音楽性ととともに社会性を育てること、保育者と子ども、子どもどうしの相互作用によって高められることを理解する。これらの活動の総合的な表現として、音楽劇[オペレッタ]を作り発表させる。事前課題として、学生が授業までに手遊び歌を練習し発表を通していろいろな実践の場面に適した指導法を習得する。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	幼稚園教育要領「表現」の理解。保育所保育指針における「養護」と「教育」の視点から、保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための具体的な方法や技術、子どもの実態に即した援助やかかわりの理解。領域「表現」のねらい、内容、内容の取り扱いを読み、その概要を理解する。領域「表現」におけるリトミックの位置づけの理解。身近なものに関わり感性が育つリトミックの展開の理解。		
第2回	乳児、幼児の表現その1 身近な人と気持ちが通じ合うリトミックの活動、創造性を豊かにするリトミックの活動、強弱を使った活動 ゾウとりすの動き、ダンプとミニカーの動き、対照的な強弱の変化、時間・空間・エネルギーの関係を体験する。	準備学習・テキストNO. 1－4 手遊び歌の予習 (60分)	
第3回	乳児、幼児の表現その2 身近な環境に興味や関心をもって関わり、感じたことや考えたことを自分なりに表現する活動カノンを使った活動 カエルのうた、フレールジャック、コーコケ コッコ夜が明けた等の輪唱と動きのカノン、時間・空間・エネルギーの関係を体験する。	テキストNO. 5－8 手遊び歌の予習(60分)	
第4回	乳児、幼児の表現その3 創造性を豊かにするリトミックの活動フレーズを使った活動 フレーズごとにボール回し、フレーズ受け渡し、フレージング、時間・空間・エネルギーの関係を体験する。	テキストNO. 9－12 手遊び歌の予習(60分)	
第5回	乳児、幼児の表現その4 身近な環境に興味や関心をもって関	テキストNO. 13－16 手遊	

	わり、感じたことや考えたことを自分なりに表現する活動リズムの縮小と拡大を使った活動 二分音符と四分音符で蝶々の羽根の動きを模倣、四分音符と八分音符に分かれて手拍子や足拍子、時間・空間・エネルギーの関係を体験する。	び歌の予習(60分)
第6回	幼児の表現その5 創造性を豊かにするリトミックの活動 音の長短を使った活動 八分音符、四分音符、二分音符、それぞれで歩く、音価の理解、時間・空間・エネルギーの関係を体験する。	テキスト NO. 17-20 手遊び歌の予習(60分)
第7回	乳児、幼児の表現その6 身近な環境に興味や関心をもって関わり、感じたことや考えたことを自分なりに表現する活動音の高低を使った活動 高い音、低い音に反応して歩いたり止まったりする。	テキスト NO. 21-24 手遊び歌の予習(60分)
第8回	幼児の表現その7 感じたことや考えたことを自分なりに表現する活動 音階と調を理解する活動 上行形音階を前に歩き、下行形音階を後ろに下がり表現する。半音と全音。	テキスト NO. 25-28 手遊び歌の予習(60分)
第9回	模擬保育の実際 幼児の表現その1からその7までの活動を元にグループで幼児活動の指導案を作成し、模擬保育を行う。指導案の作成と模擬保育の準備	テキスト NO. 29-32 手遊び歌の予習(60分)
第10回	模擬保育各グループの発表と振り返り	テキスト NO.33-36 手遊び歌の予習(60分)
第11回	オペレッタの準備①昔話を素材とした脚本の選択	あらかじめ配布された脚本を読んでおく。(60分)
第12回	オペレッタの準備②物語に合う選曲とおどりの創作、時間・空間・エネルギーの関係を活用する。	・配役、役割分担に基づいてピアノ練習、歌と台詞の練習(120分)
第13回	オペレッタの準備③舞台配置、照明、衣装(リハーサル)	
第14回	オペレッタの準備④発表に向けての練習、時間・空間・エネルギーの関係を活用する。GP	各グループで準備、練習する。(60分)
第15回	オペレッタの発表と鑑賞、時間・空間・エネルギーの関係を活用する。(課題・オペレッタの制作を振り返り、①練習への取り組む姿勢、②協力、③リーダー性の発揮、④創造性の工夫という観点別に記述する。	各グループの発表を振り返りまとめる。(60分)
定期試験	定時試験期間中を提出締切とするリトミックについてのレポート提出をもって定時試験とする(このレポートにはコメントを付して返却する)。	
フィードバックの方法：		
手遊びの予習は発表後評価解説を行います。オペレッタの準備は発表内容から推測し評価解説を口頭で行います。記述内容にはコメントし返却します。		
テキスト： 『うたっておどっておもちゃ箱 PART 2』鈴木恵津子編著、教育芸術社出版 『保育者のためのマーチ集』津布楽杏里・桑原章寧編著、東京国際芸術協会出版		
参考書・参考資料等： 『幼稚園教育要領解説(最新版)』、『保育所保育指針解説(最新版)』、『ダルクローズのリトミック』ドレミ出版、『リズムと音楽と教育』全音楽譜出版社、『リズム・インサイド』西日本法規出版、『こどものミュージカル竹取物語・ありときりぎりす・サンドリヨン』ドレミ出版、『体を楽器にした音楽表現リズム&ゲームにどっぷりリトミック 77 選』明治図書、『いっしょに歌おうエリックカール絵本うた』コンセル		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価： 課題として事前に与えられた手遊びの発表(テキスト使用)における指導内容(20%)、毎回の授業への取り組み(10%)、ノート提出時のノートのまとめ方(50%)、オペレッタの発表内容(20%)の4項目から評価する。なお、ノートについては、活動の流れ、活動の詳細な記述、活動における言葉がけとかかわり方、活動を通して感じた内容、予想される子どもが感じ取る内容を観点として評価する。		

授業科目名：2300214221 器楽合奏（選択） 2年前期		必修：	単位数： 1単位	担当教員名： 桑原 章寧 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等				
学習成果該当番号：1. 2. 4. 6. 8				
授業の到達目標及びテーマ：				
【授業の到達目標】 ○ 幼児に楽器の演奏活動をさせる際に必要な楽器の構造や奏法について理解する。 ○ 実際の合奏活動を通して各楽器の響きや合奏中の役割を理解する。また指揮活動を通してアゴーギク（速度法）、デュナーミク（強弱法）の重要性を理解する。 【テーマ】 幼児の器楽合奏における奏法やその他指導法について学ぶ。				
授業の概要： 旋律楽器とリズム楽器を分担し、合奏活動を通してその指導法を理解する。 鍵盤ハーモニカ、木琴、鉄琴、アコーディオン等、旋律を担当する楽器の奏法理解とその習得。 タンブリン、トライアングル、スネアドラム（小太鼓）、ボンゴ等リズムを担当する楽器の奏法理解とその習得。リズム譜の読譜。指揮者として指導する際の指導のポイントとして、はじめの合図の出し方、音のそろえ方、強弱の出し方を理解する。練習した曲（各グループ2曲）は、最終授業でその成果を演奏発表する。				
授業計画：				
回数	内容			準備学習
第1回	幼児教育指導法のねらいと進め方について説明・個別音楽経験実態調査、シラバスを読んで疑問に思ったことやわからないことの質疑応答			シラバスに目を通し疑問点を質問できるようにする。 (60分)
第2回	旋律楽器の奏法その1 鍵盤ハーモニカ、アコーディオン・楽譜の読み方、準備学習で練習した課題曲を実際の楽器鍵盤ハーモニカとアコーディオンで練習する。事前練習が十分でない学生はピアノで練習する。鍵盤ハーモニカではタンギングで音を切る方法と指のタッチで音を切る方法があることを理解する。			事前に配布した楽譜を見て演奏できるようにピアノで練習する。(60分)
第3回	旋律楽器の奏法その2 木琴、鉄琴 準備学習で練習した課題曲を実際の楽器木琴と鉄琴で練習する。トレモロや鉄琴のサスティーンペダルの使い方を理解する。			事前に配布した楽譜を見て演奏できるようにピアノで練習する。(60分)
第4回	リズム楽器の奏法その1 スネアドラム、大太鼓・リズム譜の読み方 スティックを使う前に実際手で叩いて触覚で感じる大切さを理解する。スティックの持ち方や打楽器の基本的な練習方法について理解する。事前に配布したリズム譜を用いて実際の楽器スネアドラム、大太鼓でリズム奏の練習をする。			事前に配布したリズム譜を見てリズム打ちができるように練習する。(60分)
第5回	リズム楽器の奏法その2 ボンゴ、タンブリン、トライアングル それぞれの楽器の奏法や名称について調べてきたことをもとに発表する。その後各楽器の奏法について解説し事前に配布したリズム譜を用いて各楽器の練習をする。			事前に配布したリズム譜を見てリズム打ちができるように練習する、各楽器の名称と奏法について調べる。(60分)
第6回	指揮法（合図の出し方） 調べたことをもとに指揮についてその役割りや方法、テクニックについて発表しあう。その後実際の指揮法について実践練習する。			指揮法について調べる。 (60分)
第7回	指揮法（速度法と強弱法） アゴーギク(速度法)とデュナーミク(強弱法)について調べたことを発表しあう。実際の指揮でどのように応用するか練習する。			アゴーギク(速度法)とデュナーミク(強弱法)について調べる。(60分)
第8回	指揮及び指導者としての合奏の進め方その1 始まりと終			指揮法で演奏する課題曲を練

	わり 実際の演奏を練習する中で指揮者を交代しながら適切なアドバイスができたか振り返る。	習する。(90分)
第9回	指揮及び指導者としての合奏の進め方その2 速度法と強弱法 実際の演奏を練習する中で指揮者を交代しながら適切なアドバイスができたか振り返る。	指揮法で演奏する課題曲を練習する。(90分)
第10回	指揮及び指導者としての合奏の進め方その3 各楽器パートのバランス 準備学習で行ったワークシートを元に各楽器の音量バランスを指示する。またその理由についても述べる。	各楽器の音量バランスについてワークシートにまとめる。(60分)
第11回	指揮及び指導者としての合奏の進め方その4 全体的な流れ出だしの音量、各楽器の音量バランス、アゴーギグ、デュナーミクについて適切な指示を与えながらよりよい演奏をめざす。 実技試験(指揮法)	配布された楽譜をもとに全体的な流れをワークシートにまとめる。(60分)
第12回	任意の楽器の演奏 パート(リズム・旋律) 選曲した曲の理由を発表し合い、その曲の特徴やよさを確認する。	グループで演奏した曲を選曲(60分)
第13回	任意の楽器の演奏 パート(リズムパートと旋律パート) 練習	個人練習(60分～90分)
第14回	任意の楽器の演奏 合奏練習	パート練習(60分～90分)
第15回	任意の楽器の演奏 各グループの合奏発表と鑑賞 実技試験(演奏)	楽曲の特徴とよき演奏の留意点をまとめる。(60分)
定期試験	筆記による定期試験あり	
フィードバックの方法：準備学習として毎回配布するプリントの楽器に関すること、楽譜に関すること、和声に関することそれぞれの問題を解いてきたものに対して回答と解説を行う。また練習課題は発表の観察から評価し、どのような練習をするとさらによりよい演奏となるのか助言する。		
テキスト：楽譜、資料に関しては随時プリント配布		
参考書・参考資料等：こどもの器楽合奏ポップス1, 2, 3(株式会社テプロMP、器楽合奏アルバム1(教育研究社)、幼児の器楽合奏曲(音楽の友社)、器楽合奏でディズニー(Yamaha music media)		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：		
基本的な楽器の奏法、音楽用語、コードネームについての筆記による定期試験(50%)、 実技として指定した曲の指揮のテストを行い評価(25%)、 毎授業、準備学習での取り組む姿勢、意欲について発表、演奏から評価(25%)		

授業科目名：2301214321 表現活動指導法（創作活動）Ⅰ 2年前期		必修：幼	単位数： 2単位	担当教員名：別府 浩実 担当形態：演習 単独												
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法														
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8																
授業の到達目標及びテーマ：授業の到達目標は下記5項目である。 ①（テーマ）幼稚園教育要領及び保育者保育指針 領域「表現」のねらい、内容、指導法について。 （到達目標）理論的に理解し、実践できるようになる。 ②（テーマ）表現活動指導の留意点を踏まえ、道具の使い方・素材の安全性の理解。 （到達目標）乳幼児・子どもの心と身体の安全を配慮し、指導計画・実践ができるようになる。 ③（テーマ）乳幼児・子どもが、いろいろなものから感じ・考えたことから創造性豊かな表現。 （到達目標）発達段階や個性を理解した上で指導計画・実践ができるようになる。 ④（テーマ）教材（絵本・紙芝居・劇等）を用いた発展的な指導。 （到達目標）読み聞かせだけではなく WEB 等の利用、SDG s を考慮した指導ができるようになる ⑤（テーマ）乳幼児・子どもが表現した内容の評価。 （到達目標）領域「表現」のねらいを踏まえ評価できるようになる。 ※遠隔（WEB）授業に変更の場合は、グループディスカッションは記述（WEB）での意見交換とする。																
授業の概要： 最初に、幼稚園教育要領及び保育者保育指針の領域「表現」のねらい・内容を学び、考察を深めた後、到達目標について講義を行う。その後、3つのテーマに取り組み、実践力を身につける。 テーマ①お話・絵本・紙芝居・劇等を使ってイメージを豊かにし、感じたり考えたりしたことを表現する活動の指導。 テーマ②身近にある材料（素材）の色・形・手触りなどに気づき、それを使って楽しんだり遊んだりすることや、材料（素材）を工夫して作ることを楽しむ活動の指導。 テーマ③季節の変化や自然の美しさを感じることを、行事に親しむことを通して感情や感覚を豊かにする表現活動の指導。 具体的に、表現活動指導を行うために必要な4つの観点を踏まえた上で指導案を作成し、ロールプレイ（模擬指導）を行う。その後、検証し、改善を行う。 観点①乳幼児・子どもの発達段階の理解、 観点②指導人数を踏まえた表現活動内容の計画、 観点③活動環境の設定、 観点④道具の使用法、材料（素材）の特性と安全性 ※遠隔（WEB）授業に変更の場合は、グループディスカッションは記述（WEB）での意見交換とする。																
授業計画： <table><tr><th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr><tr><td>第 1回</td><td>幼稚園教育要領及び保育者保育指針に示されている領域「表現」創作活動のねらい、指導の留意点について講義を行い、ディスカッション・質疑応答において理解を深める。</td><td>※準備学習 幼稚園教育要領及び保育者保育指針に示されている領域「表現」を読み、内容について全体像を把握する。(30分) ※復習学習 授業内容（グループによる分析と考察）を文章にまとめる。(30分)</td></tr><tr><td>第 2回</td><td>乳幼児・子どもの表現活動をどのように指導するのか実技演習を通して考え、発達段階に即した指導法について学ぶ。どのような表現活動が興味ひき、創造性を育むのかについて考察する。</td><td>※準備学習 幼稚園教育要領及び保育者保育指針に示されている領域「表現」を再確認する。(30分) ※復習学習 授業内容（グループによる分析と考察）を文章にまとめる。(30分)</td></tr><tr><td>第 3回</td><td>表現活動指導の現場を想定し、乳幼児・子どもがどのようにすれば表現や創作活動に向き合い、自ら進んで実践するのか導入について学び、演習を通じて試行錯誤し深める。</td><td>※準備学習 指導案の様々なモデルを書籍・WEB等でリサーチしておく。(30分) ※復習学習 学んだ指導案の作成方法を振り返り、作成方法を記憶</td></tr></table>					回数	内容	準備学習	第 1回	幼稚園教育要領及び保育者保育指針に示されている領域「表現」創作活動のねらい、指導の留意点について講義を行い、ディスカッション・質疑応答において理解を深める。	※準備学習 幼稚園教育要領及び保育者保育指針に示されている領域「表現」を読み、内容について全体像を把握する。(30分) ※復習学習 授業内容（グループによる分析と考察）を文章にまとめる。(30分)	第 2回	乳幼児・子どもの表現活動をどのように指導するのか実技演習を通して考え、発達段階に即した指導法について学ぶ。どのような表現活動が興味ひき、創造性を育むのかについて考察する。	※準備学習 幼稚園教育要領及び保育者保育指針に示されている領域「表現」を再確認する。(30分) ※復習学習 授業内容（グループによる分析と考察）を文章にまとめる。(30分)	第 3回	表現活動指導の現場を想定し、乳幼児・子どもがどのようにすれば表現や創作活動に向き合い、自ら進んで実践するのか導入について学び、演習を通じて試行錯誤し深める。	※準備学習 指導案の様々なモデルを書籍・WEB等でリサーチしておく。(30分) ※復習学習 学んだ指導案の作成方法を振り返り、作成方法を記憶
回数	内容	準備学習														
第 1回	幼稚園教育要領及び保育者保育指針に示されている領域「表現」創作活動のねらい、指導の留意点について講義を行い、ディスカッション・質疑応答において理解を深める。	※準備学習 幼稚園教育要領及び保育者保育指針に示されている領域「表現」を読み、内容について全体像を把握する。(30分) ※復習学習 授業内容（グループによる分析と考察）を文章にまとめる。(30分)														
第 2回	乳幼児・子どもの表現活動をどのように指導するのか実技演習を通して考え、発達段階に即した指導法について学ぶ。どのような表現活動が興味ひき、創造性を育むのかについて考察する。	※準備学習 幼稚園教育要領及び保育者保育指針に示されている領域「表現」を再確認する。(30分) ※復習学習 授業内容（グループによる分析と考察）を文章にまとめる。(30分)														
第 3回	表現活動指導の現場を想定し、乳幼児・子どもがどのようにすれば表現や創作活動に向き合い、自ら進んで実践するのか導入について学び、演習を通じて試行錯誤し深める。	※準備学習 指導案の様々なモデルを書籍・WEB等でリサーチしておく。(30分) ※復習学習 学んだ指導案の作成方法を振り返り、作成方法を記憶														

第 4回	「乳幼児・子どもが、お話・絵本・紙芝居・劇等でイメージを豊かにし、感じたり考えたりしたことを表現する」① 指導案を作成する。	する。(30分) ※準備学習 お話・絵本・紙芝居・劇を調べ、自分がテーマとしたものを決定しておく。(30分) ※復習学習 作成した指導案の模擬指導ができるように練習する。(30分)
第 5回	「乳幼児・子どもが、お話・絵本・紙芝居・劇等でイメージを豊かにし、感じたり考えたりしたことを表現する」② 指導案に基づきグループ内で模擬指導を行う。その後、幼児が豊かな感性や創造力を育むための指導をテーマにグループの模擬指導を振り返る。グループから1名、全体での発表者を選ぶ。	※準備学習 自分の作成した指導案による模擬指導の練習を行ってくる。(30分) ※復習学習 グループの振り返りから学んだことを指導案に取り入れ、記述する。(30分)
第 6回	「乳幼児・子どもが、お話・絵本・紙芝居・劇等でイメージを豊かにし、感じたり考えたりしたことを表現する」③ グループ代表者による模擬指導を行う。指導役以外は、幼児役として指導を受ける。終了後に振り返り（検証）と改善を行う。	※準備学習 模擬指導の発表準備を行う。(30分) ※復習学習 模擬指導の振り返り（検証）と改善点を文章にまとめる。(30分)
第 7回	「乳幼児・子どもが、お話・絵本・紙芝居・劇等でイメージを豊かにし、感じたり考えたりしたことを表現する」④ グループ代表者の模擬授業から学んだことを自分の指導案に取り入れ実践的なものとする。保育現場で行われている実践指導、幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び小学校教科とのつながりの実例を講義によって学び、指導案に反映させる。	※準備学習 保育実践の事例、表現活動における小学校教科とのつながりについてリサーチする。(30分) ※復習学習 自分が作成した指導案を再検討し、完成させる。(30分)
第 8回	「乳幼児が身近にある材料の色・形・手触りなどに気づき、それを使って遊んだり、描いたり作ったりすることを楽しむ表現」① 乳幼児・子どもの発達段階、指導対象人数、活動空間、使用する道具と材料（素材）を設定して作品製作の指導法を考える。	※事前課題 幼児・子どもが表現に使いやすい身近にある素材をリサーチし、持参する。(30分) ※復習学習 自分が選んだ身近にある素材をテーマとした指導案を構想する。(30分)
第 9回	「乳幼児が身近にある材料の色・形・手触りなどに気づき、それを使って遊んだり、描いたり作ったりすることを楽しむ表現」② 対象年齢・ねらいを決め、素材・道具の安全性を踏まえて作品製作を行う。	※準備学習 自分が使用する素材・道具の不足分を再検討し、持参する。(30分) ※復習学習 自分が行っている創作活動の手順を文章にする。(30分)
第10回	「乳幼児が身近にある材料の色・形・手触りなどに気づき、それを使って遊んだり、描いたり作ったりすることを楽しむ表現」③ 作品製作を行う。また、製作過程を振り返り、指導案を作成する。	※準備学習 指導案の原案を作る。(30分) ※復習学習 創作が未完成であれば完成させる。指導案を推敲する。(30分)
第11回	「乳幼児が身近にある材料の色・形・手触りなどに気づき、それを使って遊んだり、描いたり作ったりすることを楽しむ表現」④ 全員の作品を鑑賞し、表現活動が幼児にどのような発達を促すか、幼児の成長と発達がどのような小学校の教科につながるかについてディスカッションする。	※準備学習 幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び小学校の教科とのつながりについて発表準備を行う。(30分) ※復習学習 授業内容を踏まえて指導案を完成させる。(30分)
第12回	「季節の変化や自然の美しさを感じることで、行事に親しむことを通して感情や感覚を豊かにする表現活動の	※準備学習 季節の変化・自然の美しさ・年中行事についてリサー

	指導」① 構想。季節の変化や自然の美しさを感じる心、年中行事で体感する伝統・文化について準備学習を発表し、授業目的を共有する。	チする。(30分) ※復習学習 季節の変化・自然の美しさ・年中行事から自分の指導したいテーマを絞る。(30分)
第13回	季節の変化や自然の美しさを感じる心、行事に親しむことを通して感情や感覚を豊かにする表現活動の指導」② 季節の変化・自然の美しさ・年中行事から自分のテーマを決定し、指導案を作成する。	※準備学習 保育現場で行われている季節の変化・自然の美しさ・年中行事の指導のResearchをする。(30分) ※復習学習 授業内容を踏まえ指導案の内容を深める。(30分)
第14回	「季節の変化や自然の美しさを感じる心、行事に親しむことを通して感情や感覚を豊かにする表現活動の指導」③ 作成した指導案に基づき、表現・製作活動を行う。	※準備学習 素材と道具を選定し、持参する。(30分) ※復習学習 表現・創作活動を振り返り、指導案を推敲する。(30分)
第15回	「季節の変化や自然の美しさを感じる心、行事に親しむことを通して感情や感覚を豊かにする表現活動の指導」④ 全員による指導案及び表現・創作活動の合評を行い、季節の変化や自然の美しさを感じる心や行事に親しむ表現活動が感情や感覚を豊かにすることについて、また、そのことが小学校の教科とどのようなつながっていくかといったことについてディスカッションする。	※準備学習 表現・創作活動を振り返り、合評準備を行う。(30分) ※復習学習 授業内容を振り返り指導案を完成させる。(30分)
定期試験	授業15回終了後に作品製作・表現を評価する定期試験（製作）を行う。	
フィードバックの方法：		
第7回：お話・絵本・紙芝居・劇等の演習を振り返り、要点や注意点を示したプリントあるいはWEB資料を配布する。		
第11回：乳幼児が身近にある材料を使って遊んだり、描いたり作ったりすることを楽しむ表現の授業を振り返り、要点や注意点を示したWEB資料を送信する。		
第15回：季節・自然・行事に親しむことを通して行う表現活動の指導の振り返り、要点や注意点を示したWEB資料を送信する。		
テキスト：「幼稚園教育要領解説」・「保育所保育指針解説」・自作によるテキスト		
参考書・参考資料等：「幼稚園教育要領解説」（最新版）（文部科学省フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（厚生労働省フレーベル館） 授業内容に合わせた参考資料・自作による表現の手引き		
オープンな教育リソース：紙ライブ https://www.youtube.com/channel/UCT-Lh2PrQJghI1AWvWpi9Jg		
学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①作品表現70% ②提出された指導案やレポート、構想スケッチ 20% ③授業態度 10%		
実務家教員による授業科目：絵本・アートブック・紙芝居の作家であり、幼児から大人対象の創作表現ワークショップを長年行ってきた実務経験から五領域「表現」の創作活動分野を実践的に指導・教授する。		

授業科目名：230124422 表現活動指導法（創作活動）Ⅱ 2年後期		必修：幼	単位数： (2単位)	担当教員名：別府 浩実 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法		
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8				
授業の到達目標及びテーマ： 授業の到達目標は下記3項目である。 ①（テーマ）表現活動指導法（創作活動）Ⅰの授業到達目標5項目の習熟度を再確認。 （到達目標）内容を「発展」させ「深める」ことを目標とする。 ②（テーマ）保育現場を想定しグループで連携し、表現活動の計画と実践。 （到達目標）保育現場における展示会・行事（お祭り）の計画と実践が行える。 ③（テーマ）保育の動向のリサーチを元にした指導法の構想、教材製作。 （到達目標）電子媒体を積極的に使う力を育成し、実践的に使用できるようにする。 ※遠隔（WEB）授業に変更の場合、グループ活動はWEB上での意見交換とする。				
授業の概要： 最初に、幼稚園教育要領及び保育者保育指針の領域「表現」のねらい、内容、指導法についての理解を確認する。その後、表現活動指導法（創作活動）Ⅰで取り組んだテーマ3項目①②③を保育現場で実践するために、楽しむ（ゲーム・レクリエーション）・遊ぶ（工作・立体・遊び場）・飾る（絵画・壁面）の3分類に発展させ、本授業テーマ、共同指導や共同作業を通して互いに創造性を豊かにしていく指導法を展示と発表によって探求する。まとめとして保育教材研究及び指導法研究を行い、保育構想の向上に取り組むことのできる力を育成する。 ※遠隔（WEB）授業に変更の場合は、グループ活動はWEB上での意見交換とする。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第1回	幼稚園教育要領及び保育者保育指針に示されている領域「表現」創作活動のねらい、指導の留意点について再確認する。また、責任実習（年齢・時間・人数・場所等）を想定した表現活動の指導内容を考え、作品を作成する。		※準備学習 自分が実習を行う保育現場を想定し、責任実習に使う指導案を数パターン考えてくる。(30分) ※復習学習 自分が作成した指導案に沿った指導の練習を行う。(30分)	
第2回	保育現場における、楽しむ（ゲーム・レクリエーション）・遊ぶ（工作・立体・遊び場）・飾る（絵画・壁面）をテーマとした表現活動について映像を見る。幼児の心情・認識・動きについて講義で学ぶ。情報機器のWEB活用について学ぶ。		※準備学習 保育現場で実践されている、楽しむ（ゲーム・レクリエーション）・遊ぶ（工作・立体・遊び場）・飾る（絵画・壁面）について調べる。(30分) ※復習学習 楽しむ（ゲーム・レクリエーション）・遊ぶ（工作・立体・遊び場）・飾る（絵画・壁面）について、自分が取り組みたい内容を書き出す。(30分)	
第3回	「展示・発表会を企画・運営すること」について全体リーダーが司会となり展示・発表会の全体デザイン・実行計画を進める。その後、グループを構成し、ミーティングを行い、「楽しむ（ゲーム・レクリエーション）・遊ぶ（工作・立体・遊び場）・飾る（絵画・壁面）」の表現活動、指導内容を発想する。		※準備学習 幼児を対象とした、楽しむ（ゲーム・レクリエーション）・遊ぶ（工作・立体・遊び場）・飾る（絵画・壁面）を調べ、発表できるようにしておく。(30分) ※復習学習 共有した表現活動、指導内容についてまとめる。(30分)	
第4回	展示・発表の全体デザインとして、各グループの計画書に基づき学内の展示・発表場所を選定し、作品サイズ等を決定する。各グループ一人一人の役割を分担し、日程・進行の計画案を作成し、使用する材料(素材)についてリサーチする。		※準備学習 グループの材料と必要経費についてリサーチする。(30分) ※復習学習 グループで共有している展示・発表の構想を文章にまとめる。(30分)	
第5回	共同作業の効率と役割分担を考え、分業による構想・試作・練習を行う。		※準備学習 グループで計画したテーマの道具・材料・機材を準備する	

第 6回	分業による製作物を合体させ共同作業を行う。展示・発表空間の安全性、展示物の耐久性・安全性等の再検討を行う。	。(30分) ※復習学習 分担された構想・試作・練習を行う。 (30分) ※準備学習 乳幼児・子どもの行動の危険・安全対策の事例を調べる。 (30分) ※復習学習 展示・発表空間の安全性、展示物の耐久性・安全性について指導案に記述する。(30分)
第 7回	展示・発表会のシミュレーション。テーマであった楽しむ(ゲーム・レクリエーション)・遊ぶ(工作・立体・遊び場)・飾る(絵画・壁面)について模擬発表を行う。	※準備学習 発表、指導、遊びの補助の準備を行う。(30分) ※復習学習 発表の振り返りを基に改善する。(30分)
第 8回	グループによる展示物の設置・発表(楽しむ(ゲーム・レクリエーション)・遊ぶ(工作・立体・遊び場)・飾る(絵画・壁面))を行い、乳幼児、子どもの参加(大学祭を想定)、実践的な表現活動・指導・遊びの補助を行う。また、子どもの感情や思考がどう動くか、年齢による発達段階の違いについて観察を行う。	※準備学習 グループで発表準備を行う。(30分) ※復習学習 授業内容(グループによる分析と考察)を文章にまとめる。(30分)
第 9回	展示・発表空間の後片付け。(表現活動においては、後片付けまで指導の一部と考える。)発表・展示空間の解体、ゴミの分別・清掃を役割分担して行う。展示・発表の鑑賞及び合評をおこなう。	※準備学習 指導の内容を推敲する。(30分) ※復習学習 鑑賞・合評の振り返りを行う。(30分)
第10回	領域「表現」のまとめとして。保育教材及び指導法研究を行う。創作活動のねらい・指導の留意点・小学校との教科とのつながり・現代の保育実践の動向・幼稚園教育における評価の考え方についてWEBを利用してリサーチし、保育教材の作成及び指導法を構想する。初回は、講義とリサーチを行う。	※準備学習 現代の保育実践の動向について、WEBを利用してリサーチを行う。(30分) ※復習学習 自分の働く現場を想定し、そこで使用できる領域「表現」の教材、指導法を構想する。(30分)
第11回	図書館・WEBを利用して保育教材及び指導法研究についてリサーチを行う。 領域「表現」のねらい・内容を再確認した上で保育教材作成の道具と素材を集める。	※準備学習 前回、WEBを利用してリサーチした内容を深める。(30分) ※復習学習 保育教材あるいは指導法の構想・試作を深める。(30分)
第12回	自分が使用する保育教材の製作あるいは指導法の構想を行う。	※準備学習 自分が現場で使用する保育教材あるいは指導法の方方向性を絞っておく。(30分) ※復習学習 自分が現場で使用する保育教材あるいは指導法を決定する。(30分)
第13回	自分が使用する保育教材の製作あるいは指導法の構想を進める。	※準備学習 製作方法を構想する。(30分) ※復習学習 製作方法を構想する。(30分)
第14回	保育教材製作・指導法の構想を進める。	※準備学習 完成に向けて進める。(30分) ※復習学習 完成に向けて進める。(30分)

第15回 保育教材・指導法研究の合評を行う。合評においての気づきを基に保育教材・指導法を改善し、完成させる。	※準備学習 合評の準備を行う。(30分) ※復習学習 合評内容を基に完成させる。(30分)
定期試験 授業15回終了後に作品製作・表現を評価する定期試験（製作）を行う。	
フィードバックの方法：	
第5回 共同作業の効率と役割について、改善提案を示したプリントあるいはWEB資料を配布する。	
第9回 楽しむ（ゲーム・レクリエーション）・遊ぶ（工作・立体・遊び場）・飾る（絵画・壁面）展示・発表についてアンケート結果等をプリントあるいはWEB資料で示す。	
第11回 保育現場における教材・指導法について総括的なプリントあるいはWEB資料を配布する。	
テキスト：「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」・自作のテキスト	
参考書・参考資料等：「幼稚園教育要領解説」（最新版）（文部科学省フレーベル館）・「保育所保育指針解説」（最新版）（厚生労働省フレーベル館）・授業内容に合わせた参考資料・自作による表現の手引き	
オープンな教育リソース：紙ライブ https://www.youtube.com/channel/UCT-Lh2PrQJghIlAWvWpi9Jg	
学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。 ①作品製作・表現 70% ②提出した指導案やレポート、構想スケッチ 20% ③授業態度 10%	
実務家教員による授業科目：絵本・アートブック・紙芝居の作家であり、幼児から大人対象の創作表現ワークショップを長年行ってきた実務経験から五領域「表現」の創作活動分野を実践的に指導・教授する。	

授業科目名：2300014512 保育教材演習(エプロンシアター) (選択) 1年後期		必修：	単位数： 1単位	担当教員名：小山 玲子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める科目区分又は事項等				
学習成果該当番号：1. 2. 4				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 子どもの遊びや造形表現を豊かに展開するために必要な知識や技術を習得し、教育実習・保育実習に役立つオリジナルエプロンシアターを製作する 【テーマ】 幼児教育・保育における方法と技術について基礎知識を身につけるために、エプロンシアターを取り上げる。実習園・就職後の活用を念頭に置き製作・上演等をする。				
授業の概要： ・幼児教育 保育の方法及び技術に関する基礎的な考え方とその重要性について学ぶ。 ・演習形式 いくつか絵本・物語を選び、エプロンシアター実演のための脚本を作成する。 ・保育教材の重要性 実際の活用方法を念頭においた教材製作について学ぶ。 (教育実習・保育実習や保育現場で役立つエプロンシアターの製作及び上演、活用等、実践を学ぶ。)				
授業計画：				
回数	内容			準備学習
第1回	オリエンテーション 幼児の遊びと造形活動について・授業の計画・進め方・評価の仕方 エプロンシアターの紹介			図書室でエプロンシアターの本の内容と完成品を確認する(60分)
第2回	絵本・物語・歌等の選定。各自選んだ内容を発表。内容を吟味する			絵本・物語・歌等の選定(60分)
第3回	シナリオ作成または内容を発表 エプロンシアター実演用に選んだ物語の脚本の作成、内容の検討			シナリオ作成準備(60分)
第4回	エプロンシアター作成についての説明・型紙作り			シナリオ作成・型紙準備(60分)
第5回	エプロンシアター製作① 型紙作り・型紙に合わせてフェルトや布を切る			型紙作成(60分)
第6回	エプロンシアター製作② 縫製 中心人物を作る			中心人物作成準備(60分)
第7回	エプロンシアター製作③ 縫製 その他の人物を作る			その他の人物作成準備(60分)
第8回	エプロンシアター製作④ 縫製 背景や小物を作る			背景や小物の作成準備(60分)
第9回	エプロンシアター製作⑤ しかけ作り・装飾等			しかけ・装飾原案作成(60分)
第10回	エプロンシアター製作⑥ 仕上げ・BGMなどの工夫			仕上げ・BGM準備(60分)
第11回	エプロンシアター製作⑦ 製作物の追加・シナリオ修正			人形作成等(60分)
第12回	エプロンシアターの演じ方 練習			エプロンシアター練習(60分)
第13回	実演① 発表① お互いの作品を見せ合う。作品の修正を行う			エプロンシアター練習(60分)
第14回	実演② 発表② お互いの作品を見せ合い、講評			エプロンシアター練習(60分)
第15回	まとめ・レポート 保育者の豊かな表現と子どもの遊びとの関連性を考える グループワークとグループ発表 実技試験(エプロンシアターの実演)			エプロンシアター実技試験の練習(60分)
定期試験 レポートを提出する(詳細は授業内で告知)				
フィードバックの方法：フィードバックとして提出課題にコメントを返す。				
テキスト：なし(必要に応じてプリント・資料配布) 図書館の蔵書を参考にする				
参考書・参考資料等： 尾崎富美子「簡単たのしいエプロンでつくるポケットシアター」トロル出版 2010年 中谷真弓「楽しいエプロンシアター3」アド・グリーン企画出版 2011年 【留意事項】 土台となるエプロン代、約2000円に加えて、エプロンシアターに使うフェルトなどの材料は別途各自で購入します。				
オープンな教育リソース：				
学生に対する評価：以下の3点を総合的に評価する。 ①製作40%、②実演40%、③レポート20%				

授業科目名：2300014621 保育教材演習（紙芝居・絵本）（選択） 2年前期		必修：	単位数： 1単位	担当教員名：別府 浩実 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等				
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 5. 6. 7				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 乳児・幼児・子どもの心への理解を深め、発達段階に合った紙芝居や絵本を選び、読み聞かせや演じる表現ができるようになる。また、紙芝居や絵本を製作できるようになる。 ・年齢や発達段階に合った絵本や紙芝居を選ぶことができる。 ・ジャンルを理解し、対象や目的に応じたテーマを選ぶことができる。 ・日本および世界の絵本に触れ、様々な視点や考え方を保育・教育現場に活かすことができる。 ・紙芝居・絵本の仕組みや構造を理解し、自ら製作できるようになる。 【テーマ】 紙芝居・絵本の理解、実践技術の習得、子どもの感性育成、計画と振り返り。 ※遠隔（WEB）授業に変更の場合も到達目標及びテーマは同じとする。				
授業の概要： ・紙芝居・絵本の構造と表現形式を理解し、様々な絵本や紙芝居に接し、内容や表現を分析する。 ・様々なジャンルの紙芝居や絵本の読み聞かせや演じ方を習得する。 ・自分で作りたい紙芝居や絵本のテーマを見つけ、製作する。 ・習得した技術・知識・経験を踏まえ、表現の演習を行う。 ※遠隔（WEB）授業に変更の場合は、ディスカッションは記述（WEB）での意見交換とする。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第 1回	「紙芝居と絵本、どこが違う？」 初回は、シラバスを説明した後、絵本と紙芝居の構造・演じ方・環境構成・対象の年齢・人数について講義を行う。 ・紙芝居と絵本の特徴や表現方法の違いについて学ぶ。 ・切り紙（物語の素材）を作る演習。		※準備学習 シラバスを読んで授業構成の全体像を把握する。 （30分） ※復習学習 紙芝居・絵本の構造と演じ方について学んだ内容をまとめる。（30分）	
第 2回	「紙芝居を演じてみよう！」 ・自分の好きな（思い出の）紙芝居を準備し、演じる。演者と観客を経験した上で、持参した絵本と紙芝居について、作者・画家について、物語・内容について、対象年齢についてディスカッションを行う。 ・切り紙（物語の素材）を使って、小さな本を作る演習。		※準備学習 自分の好きな（思い出の）紙芝居を探し、演じる練習をする。（30分） ※復習学習 演じた内容の振り返り、自分の演技の改善（PDCA）を行う。（30分）	
第 3回	「絵本を演じてみよう！」 ・自分の好きな（思い出の）絵本を準備し、読み聞かせをする。読み手と聞き手を経験した上で、作者・物語・内容・対象年齢についてディスカッションを行う。 ・切り紙（物語の素材）を使って作った小さな本を演じる演習。		※準備学習 自分の好きな（思い出の）絵本を探し、読み聞かせの練習をする。（30分） ※復習学習 読み聞かせとディスカッションを振り返り、改善（PDCA）を行う。（30分）	
第 4回	赤ちゃん絵本・紙芝居（乳幼児の発達段階への理解を深める） ・赤ちゃん絵本の特性や表現について分析し、乳幼児の発達段階への理解を深める。 ・オノマトペ（擬音）やゼスチャー（身振り・手振り）を使った表現を演じる。		※準備学習 あかちゃん絵本を選び、読み聞かせの練習をする。 （30分） ※復習学習 自分とグループの演じた内容を振り返り、改善（PDCA）を行う。（30分）	
第 5回	赤ちゃん絵本・紙芝居（乳幼児の発達段階への理解を深		※準備学習 あかちゃん絵本・紙	

	める)	・赤ちゃん(乳幼児)向けの絵本・紙芝居を作る。 ・シンプルな色や形・安全な素材による造形を行う。	芝居製作に必要な素材・画材を探してくる。(30分) ※復習学習 自作のあかちゃん絵本・紙芝居の表現の練習を行う。(30分)
第6回	赤ちゃん・乳幼児対象の絵本・紙芝居(乳幼児の発達段階への理解を深める)	・赤ちゃん(乳幼児)向けの絵本・紙芝居を作り、演じる。	※準備学習 あかちゃん絵本・紙芝居製作に必要な素材・画材を探してくる。(30分) ※復習学習 自作のあかちゃん絵本・紙芝居の表現の練習を行う。(30分)
第7回	子ども・ヤングアダルト・高齢者の紙芝居・絵本(自己実現に向き合う)	・子どもから大人まで対象の紙芝居・絵本を分析し、ディスカッションを行う。 ・表情(喜怒哀楽)の表現の演習。特徴を捉えて描く演習。	※準備学習 自分が興味を持った子ども・ヤングアダルトの紙芝居・絵本を見つけ、発表準備を行う。(30分) ※復習学習 読み聞かせとディスカッションを振り返り、改善(PDCA)を行う。(30分)
第8回	子ども・ヤングアダルト・高齢者の紙芝居・絵本(自己実現に向き合う)	・様々な視点から子どもから大人まで対象の絵本を分析し、読み聞かせを行う。 ・植物(木・草・花)の表現。特徴を捉え、デザインして描く演習。	※準備学習 自分が興味を持った子ども・ヤングアダルトの紙芝居・絵本の読み聞かせ練習を行う。(30分) ※復習学習 読み聞かせとディスカッションを振り返り、改善(PDCA)を行う。(30分)
第9回	(1)「どんなジャンルがあるのか?」(人間の歴史)	・昔話・神話・伝説・創作系のジャンルについて分析と考察し、ディスカッションを行う。 ・動物表現。特徴を捉え、デザインして描く演習。	※準備学習 自分が興味を持った昔話・神話・伝説・創作系のジャンルの紙芝居・絵本を見つけ、発表準備を行う。(30分) ※復習学習 読み聞かせを振り返り、改善(PDCA)を行う。(30分)
第10回	(2)「どんなジャンルがあるのか?」(環境への意識)	・自然・科学・道徳・教育のジャンルについて分析と考察し、ディスカッションを行う。 ・建物・人工物。特徴を捉え、デザインして描く演習	※準備学習 自分が興味を持った自然・科学・道徳・教育のジャンルの紙芝居・絵本を見つけ、発表準備を行う。(30分) ※復習学習 読み聞かせとディスカッションを振り返り、改善(PDCA)を行う。(30分)
第11回	(1)自作の絵本・紙芝居を作る演習(構想をする)	・授業の知識と表現演習を生かして、自作の絵本紙芝居を作る。 ・テーマ・対象の年齢・絵本と紙芝居の構造・演じ方といった授業で学んだ内容を踏まえ、テーマを決め、構想をする。	※準備学習 自分の作りたいテーマをいくつか選んでくる。(30分) ※復習学習 自分の作りたいテーマと同じ絵本や紙芝居をリサーチする。(30分)
第12回	(2)自作の絵本・紙芝居を作る演習(絵コンテを描く)	・物語あるいは内容の絵コンテを作成する。	※準備学習 自分の作りたい物語・内容のキャラクターを構想する。(30分) ※復習学習 絵コンテを推敲する。(30分)
第13回	(3)自作の絵本・紙芝居を作る演習(描く・作る)	・製作を行う。	※準備学習 素材・資料を準備する。(30分) ※復習学習 製作を進める。(30分)
第14回	(4)自作の絵本・紙芝居を作る演習	・製本・紙芝居の仕上げをする	※準備学習 製作を進める。(30分) ※復習学習 製作の未完成分を補

第15回 (5) 自作の絵本・紙芝居を作る演習 ・自作の読み聞かせと合評	う。(30分) ※準備学習 発表の準備を行う。 (30分) ※復習学習 合評を振り返り、改善(PDCA)を行う。(30分)
定期試験 授業15回終了後に製作・表現を評価する定期試験を行う。	
フィードバックの方法： 第6回：提出されたあかちゃん絵本・紙芝居に、物語・絵・製本・読み聞かせ方等についてのアドバイス資料を配布あるいは送信する。 第10回：提出された表情（喜怒哀楽）・植物（木・草・花）動物・建物・人工物の表現について、具体的な資料を配布あるいは送信する。 第15回：提出された自作の絵本・紙芝居に、物語・絵・製本・読み聞かせ方等について資料を配布あるいは送信する。	
テキスト： 保育所保育指針解説（最新版）、幼稚園教育要領解説（最新版）	
参考書・参考資料等： 授業計画によって準備した絵本・紙芝居・画集を参考資料とする。	
オープンな教育リソース：	
学生に対する評価： ・授業の事前準備・授業態度 20% ・製作・表現（授業の目的を理解しているか・創意工夫・完成度の高さ）70% ・レポート提出等（基礎造形の知識を習得できているか・素材や道具を理解しているか）10%	

授業科目名：2311014711 教育課程と教育方法 1 年前期		必修：卒・幼	単位数： 1単位	担当教員名：姜 華 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：教育の基礎的理解に関する科目 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
学習成果該当番号：1. 2. 7				
授業の到達目標及びテーマ： 【教育の到達目標】 幼稚園教育要領を基準として各幼稚園において編成する教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各幼稚園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。またこれからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 【テーマ】 教育課程の意義・変遷・編成・実施・評価、指導計画の意義・様式・作成方法・作成の観点・実施・評価・改善				
授業の概要：幼稚園教育における教育課程、指導計画（長期・短期）の意義と作成・評価・改善のあり方を学ぶ。その過程で今回の幼稚園教育要領改訂の主体的・対話的で深い学びを実現するという主旨を明らかにし、学級や教材のあり方を中心に環境を通して行う教育を理解させる。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第 1 回	【教育課程・教育方法の意義・歴史・語源】 教育課程の目的と意義について、法令による幼稚園教育の位置づけや適切な教育課程の編成、カリキュラム・マネジメントについて、幼稚園教育要領などを用いて、その役割・機能・意義を理解する。		保育所保育指針解説p2 ～p9、幼稚園教育要領解説 p74～p77の通読。様々な幼稚園の教育課程を調べる。 （60分）	
第 2 回	【教育の内容・方法・計画・評価】 幼稚園教育においてこれからの子どもに求められる資質・能力の育成について学び、5 領域、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と教育課程の相関性、主体的・対話的で深い学び、幼児教育における評価について考察する。		幼稚園教育要領解説 p. 96～123、保育所保育指針解説p. 13～25の通読。 （60分）	
第 3 回	【教育課程・教育方法を考える上での社会的事象】 教育課程・教育方法を学ぶ上での社会の変化について学ぶ。子どもを取り囲む社会の変化を理解し、現代の社会で必要な教育課程のあり方、保育における計画と評価について理解する。教育課程が社会において果たしている役割・機能についても触れる。		日本の現代社会の変化 に関して、社会、学校、家庭のあり方の着目し、自分の考えをまとめる。 （60分）	
第 4 回	【教育課程・教育方法の歴史・思想的変遷（西洋）】 教育課程・教育方法の歴史的変遷について、コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、オーエン、フレーベル、デューイらを取り上げ考察していく。		西洋における近代以降の歴史について、高等学校日本史・世界史の教科書を用いて復習する。（60分）	
第 5 回	【教育課程・教育方法の歴史・思想的変遷（日本）】 幼稚園教育要領、学習指導要領、保育所保育指針の成り立ちやその内容について理解し、如何なる変遷をたどり現在に立ったのか、現在何が必要とされているのか具体的に理解する。先人の教育思想として、倉橋惣三についても触れる。		日本の教育課程・教育方法の歴史的変遷を教育原理のテキストや高等学校日本史の教科書から復習する。 （60分）	
第 6 回	【教育課程編成と教育方法の実際（1）：行事のあり方】 教育課程を考える上で、「行事」は如何なる役割を持っているのか、カリキュラム・マネジメント、主体的・対話的で深い学びの視点から考える。教育課程編成の基本原則を理解する。		幼稚園で実際に行っている行事について調べる。幼稚園教育要領解説p. 114「行事の指導」の通読（60分）	
第 7 回	【教育課程編成と教育方法の実際（2）：様々な環境】 保育・教育現場の様々な環境について理解し、それが子どもに与える影響、さらには単元、学期、学年をまたいだ長期的視		長期指導計画の意義について、様々な幼稚園の実	

野から指導計画を検討することの重要性を理解する。	
第8回	【教育課程編成と教育方法の実際（3）：いのちの教育】 「幼児期に終わりまでに育ってほしい姿」の「道徳性、違反意識の芽生え」「自然との関わり、生命尊重」に関わり、その意義、計画、実践、評価について理解する。
第9回	【教育課程編成と教育方法の実際（4）：幼児文化教材】 教育の目的に適した指導技術について学ぶ。特に、教育課程における幼児文化教材の意味を説明し、とりわけ絵本・紙芝居、ペープサート、素話などを取り上げ、保育を行う上で基礎的な技術、計画のあり方を学ぶ。
第10回	【教育課程編成と教育方法の実際（5）保幼小の接続】 保幼小連携・接続・一貫教育について説明し、その方法や留意点について理解を深める。実際の幼稚園の取り組みを知り、実践的に保幼小連携・接続・一貫教育の意義を理解する。
第11回	【情報機器（ICT）の活用と教育実践】 ICT機器を活用した効果的な保育や教材の作成について理解する。その際、現代的な視点（知識基盤社会、シンギュラリティ、IoT、ICTなど）を基本に、子どもたちの情報活用能力（情報モラル）の育成についても学ぶ。
第12回	【子どもの遊びと教育課程・教育方法】 教育課程編成上の遊びの意義と、教育方法としての遊びの展開について理解を深める。また、砂場を取り上げ、子どもの興味を喚起する教育方法論について理解を深める。MI理論にも触れ、子どもの個性と遊びという面から考察する。
第13回	【教育課程編成と教育方法の実際（6）絵本の意義】 教育課程編成における絵本の意義を説明し、日々の保育活動にどう位置づいているのか理解する。また、絵本の特性と子どもの発達段階に即した教育方法についても触れる。さらにカリキュラム編成という視点から絵本の意義を考察する。
第14回	【日案（1日指導計画）の作成】 長期の指導計画をもとに1日を単位とした指導計画の様式や保育活動の実施についてディスカッションし、学級、幼児、教材等の保育を構成する基本的な要件を理解する。
第15回	【日案（1日指導計画）の評価と改善：全体的なまとめ】 日案（1日指導計画）について、幼児理解がなされていたのか、教師の指導法や教材が適切であったか等、また評価のあり方についてディスカッションし理解を深める。
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を行う
フィードバックの方法：提出された課題及び指導案などは返却し、フィードバックを行う。	
テキスト：高橋弥生・大沢裕 編著『幼児教育方法論』一藝社、2022年。	
参考書・参考資料等：	
文部科学省「幼稚園教育要領」フレーベル館 厚生労働省「保育所保育指針」フレーベル館 内閣府「幼保連携型認定こども園保育・教育要領」フレーベル館	
オープンな教育リソース：	
学生に対する評価：試験、提出物、取り組みなど総合的に評価する。具体的には次の通り。①定期試験の得点：70%、②課題の提出：20%、③指導案（日案）：10%	

際の内容について自分で調べておく（60分）。
命の教育を展開している幼稚園について、インターネットや書籍で探し、自分の考えをまとめる（60分）

絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアターなどの意義を調べまとめる（60分）

自分の地域での保幼小接続の取り組みについて調べておく（60分）

幼稚園教育要領解説p115の通読。（60分）

自身が子どものころに思い出に残っている遊びについて、考えをまとめておく。（60分）

自身が子どもころ好きだった絵本について、なぜ好きだったか考えをまとめておく（60分）

グループ毎に日案（1日指導計画）の発表の練習を行う。（60分）

幼稚園教育要領に即した書き方ができているか、確認する。（60分）

授業科目名：2300114822 社会的養護Ⅱ 2年後期	必修：（卒）・保	単位数： 1単位	担当教員名：笹尾 雅美 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の内容・方法に関する科目 社会的養護Ⅱ		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ：			
【到達目標】 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に学ぶ。 2. 施設養護及び家庭養護の実践について学ぶ。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について学ぶ。 4. 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における児童虐待の防止と家庭支援について理解する。			
【テーマ】 社会的養護の現状や課題をふまえて、施設養護や里親制度における支援の実践を理解する。			
授業の概要：社会的養護の現状として、入所児童の特徴や傾向を把握する。特に、被虐待児や障がいのある児童の増加が背景にあることから、施設養護である乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設等の家庭養護に焦点をおき、子どもたちや保護者が抱える社会的、心理的課題に対する専門的支援についての理解を深める。この授業では事例を用いながらワークシート、グループ学習、発表などを通して、保育士として必要とされる知識及び援助の在り方を学び、実践力を習得することを目指す。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	子どもの権利擁護について理解する。 ・里親家庭や施設など、組織として子どもの権利擁護を図る取り組みや運営について学び、子どもの権利擁護の質の向上を図るための方法についてグループ学習をする。	社会的養護Ⅰを振り返り、教科書pp.1-12を読み、子どもの権利擁護の基本について、下調べをする（60分）。	
第2回	社会的養護における子どもの背景や特徴を理解する。 ・子どもの理解を深めていくための理解の仕方やアプローチについて学ぶとともに、社会的養護のもとで生活する子どもやその家庭環境などについて理解を深める。	教科書pp.13-24を読み、社会的養護のもとで生活する子どもの心身や学業の状況について、下調べをする（60分）。	
第3回	社会的養護の内容①日常生活支援について理解する。 ・日常生活支援に関する事例を分析することを通して、日常生活での支援のあり方についてグループディスカッションを行う。	教科書pp.25-36を読み、衣食住や生活環境の整備などの日常生活支援について、下調べをする（60分）。	
第4回	社会的養護の内容②心理的支援について理解する。 ・社会的養護における子どもの心理的支援の特徴や養育者支援について、実践例を読み、グループディスカッションを行う。	教科書pp.37-48を読み、多職種や他機関とのチーム連携を取り入れた心理的支援について、下調べをする（60分）。	
第5回	社会的養護の内容③自立支援について理解する。 ・社会的養護の子どもの退所後の進路や自立についての理解を深め、さまざまな「居場所」や切れ目ない支援についてレポートを作成する。	教科書pp.49-60を読み、社会的養護から巣立つ子どもの自立支援について下調べをして、多様な「自立」を知る（60分）。	
第6回	乳児院等の生活特性および実際について理解する。 ・法令や統計などをもとに各施設の生活の特性についてグループ学習をして、援助内容や今後の方向性と課題について、ディスカッションを行う。	教科書pp.61-72を読み、乳児院や児童養護施設および母子生活支援施設の生活特性について、下調べする（60分）。	
第7回	障害児施設の生活特性および実際を理解する。 ・障害児施設等の定義、子どもの特徴、施設の機能・支援の内容について、ワークシートを用いてまとめ、プレゼンテーションをする。	教科書pp.73-84を読み、児童心理治療施設、児童自立支援施設および障害児施設の特性について、下調べをする（60分）。	
第8回	家庭養護の生活特性および実際を理解する。	教科書pp.85-96を読み、養育里親や養子縁組などの家庭養護の	

第9回	・実親家庭と養育里親家庭の違いについて、ワークシートを用いて学び、プレゼンテーションをする。 アセスメントと個別支援計画の作成を体験する。 ・自立支援計画が何のためにあるのかを考え、事例をもとに、実際に自立支援計画の策定を体験し、「自立」についての理解を深める。	制度について、下調べをする(60分)。 教科書pp.97-108を読み、アセスメントとは何かを理解し、「自立」について、説明が出来るようにする(60分)。
第10回	記録および自己評価について理解する。 ・記録の意義と役割、自己評価について学修する。さらにグループディスカッションを通じて、社会的養護の現場で保育士に求められる記録について、理解を深める。	教科書pp.109-120を読み、社会福祉の現場における「記録」と「評価」について下調べをする(60分)。
第11回	社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践について学修する。 ・社会的養護系児童福祉施設の支援における保育士の専門性について理解を深め、実践力について意見交換する。	教科書pp.121-132を読み、児童福祉施設と保育士の配置と現場での対応について、下調べをする(60分)。
第12回	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践について学修する。 ・日常生活のケアや課題解決・ニーズ充足のための支援として、相談援助の展開過程を学ぶ。	教科書pp.133-144を読み、相談援助（ソーシャルワーク）の定義や体系について、下調べをする(60分)。
第13回	社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用）を学修する。 ・社会的養護におけるソーシャルワークの意味とその必要性を理解し、演習によりソーシャルワークに触れる。	教科書pp.145-156を読み、ソーシャルワークにおける支援方法の基本やスキルについて下調べをする(60分)。
第14回	社会的養護における家庭支援についての理解を深める。 ・社会的養護が代替的養育の提供だけではなく、子どもとその保護者・家庭を支援することを踏まえ、実際の支援場面での対応を学修する。	教科書pp.157-170を読み、「家庭を支援する」ことについて下調べをして、「幸せな子育て家庭」をイメージする(60分)。
第15回	今後の社会的養護の課題と展望について学修する。 ・厚生労働省資料集「社会的養育の推進に向けて（令和4年1月）」をふまえて、保育士の役割についてプレゼンテーションを行う。	教科書pp.171-182を読み、これまでの授業を振り返り、社会的養護における保育士の役割について自分の意見を話せるようにする(60分)。
定期試験 定期試験期間中に筆記試験を課す。		
フィードバックの方法：第6回に、第5回で提出されたレポートにコメントを返す。第8回と第15回のプレゼンテーションのあとに講評をする。		
授業実施形態：対面授業を基本とするが、状況に応じて遠隔授業に変更する場合がある。		
テキスト：公益財団法人児童育成協会（監修）相澤仁、村井美紀、大竹智（編集）「社会的養護Ⅱ」中央法規、2019		
参考書・参考資料等：厚生労働省資料「社会的養育の推進に向けて（令和4年1月）」 「e-GOV 法令検索」 https://elaws.e-gov.go.jp/		
厚生労働省 里親制度オンライン・シンポジウム「広げよう『里親』の輪」 https://www.youtube.com/watch?app=desktop&v=J1P1wo-ws24		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：準備学習及び授業への取り組み（主に、グループディスカッションやプレゼンテーションに関するリアクションペーパー）（20％）、ワークシート等の提出状況と内容（20％）、定期試験（60％）を総合して評価する。		

授業科目名：2300114922 子育て支援 2年後期	必修：（卒）・保	単位数： 1単位	担当教員名：富田 敦 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の内容・方法に関する科目 子育て支援		
学習成果該当番号：1. 3. 5. 6			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 保育所における保護者に対する子育て支援の基本的事項を踏まえ、保育者の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援についてその特性と展開を学ぶ。また、様々な場や対象に即した支援内容と方法及び関係機関との連携と協働について実践事例を通して学び、保護者の子育て力の向上を目指した具体的な支援への理解を深める。 【テーマ】 保育者の専門性を生かした保護者に対する子育て支援の実際とその役割について学ぶ。また、孤立感や子どもの接触経験の少なさから起こる育児不安等に対して、保護者が持つ力を引き出すことや子育てを保護者と共有することで、お互いに成長できるような具体的な支援を考えていく。			
授業の概要： 子どもの保育を通じた保護者への支援のあり方について、事例を題材として検討する。その際、グループワークやグループディスカッションなどを取り入れて、自分の考えをもとに他者と意見を交し合いながら学びを深めていく。また、子育て全般に関わる相談に対して適切なアドバイスを行うにあたり、親子を取り巻く地域資源や社会資源との関連を考えた上で専門機関との連携や役割について具体策を見出していく。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	子育ての負担や不安を抱えている保護者への支援 視聴覚教材を用いて現代の子育て家庭の問題や課題を知る。子どもと家庭生活を取り巻く社会的状況の中で、保育者が子育て支援を行う意義について考察する。リアクションペーパーの提出を求める。	第2回～第15回：教科書の該当するページ及び授業内で配布する参考資料を読むこと(60分)	
第 2回	保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと多面的な理解 少子化社会・家族形態の変容の中で多様化する子育て家庭の支援ニーズについて知り、子育て家庭の力を育む支援の在り方について考察する。リアクションペーパーの提出を求める。		
第 3回	子ども及び保護者の状況・状態の把握 子育て支援を実践するために、ソーシャルワークの基本的支援の枠組みを理解する。また、適切な支援を実践するために、支援者としての倫理について理解する。リアクションペーパーの提出を求める。		
第 4回	保育者に求められる専門性 日常的・継続的な関わりを通じた保護者への支援を実践するに当たって、保育者に求められる専門性について理解する。子育て支援に求められる態度・知識・技術について考察する。リアクションペーパーの提出を求める。		
第 5回	子育て支援の展開過程① 資料や視聴覚教材を用いて保育現場における子育て支援の内容について知り、子育て支援の展開過程について概観する。事例を通してケースの発見についてグループで考察し、意見を発表する。リアクションペーパーの提出を求める。		
第 6回	子育て支援の展開過程② インテーク（受理面接）の進め方・留意点について、事例を通して知る。ケースを概観するためのジェノグラムやエコマップの書き方・用い方について知る。リアクションペーパーの提出を求める。		
第 7回	子育て支援の展開過程③ 支援計画策定の基礎となる支援記録の方法や活用の仕方について知る。事例を通して支援計画の必要性・策定方法を知り、支援計画を生かすための他機関との連携について考察する。リアクションペーパーの提出を求める。		

第 8回	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 視聴覚教材等を用いて子育て支援に関連の深い関係機関や専門 職との連携・協働について理解する。リアクションペーパーの提出 を求める。
第 9回	支援の実践と記録及び評価とカンファレンスについて 支援プロセスの理解と事例を読みワークに取り組む。授業内に取 り組んだワーク課題の提出を求める。
第10回	保護者との信頼関係の構築 保護者との信頼関係を築く保育者の基本的な態度について知り、 信頼関係を築くための傾聴の姿勢や応答について知る。基礎的な話 の聞き方をグループで練習する。リアクションペーパーの提出を求 める。
第11回	不安の構造とストレスについて 子育て支援を実践するために考え・気持ち・行動・体の反応の繋 がりから見た不安の構造やストレスについて知る。不安をもたらす 考え方の偏りについて知り、対応の仕方を考察する。リアクション ペーパーの提出を求める。
第12回	ひとり親家庭に対する支援について 子どもと保護者のニーズ把握・支援方法について知る。ひとり親 家庭の支援の事例についてグループで考察し、授業内で発表する。 リアクションペーパーの提出を求める。
第13回	障害のある子ども及びその家族に対する支援 事例をもとにロールプレイを行う。リアクションペーパー の提出を求める。
第14回	特別な配慮を要する子ども及びその家族に対する支援 事例をもとにロールプレイを行う。リアクションペーパー の提出を求める。
第15回	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭への理解 事例をもとにグループディスカッションを行い授業内で 意見を発表する。リアクションペーパーの提出を求める。
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を行う
フィードバックの方法： フィードバックとしてワークの課題やリアクションペーパーにコメントを付して返却すると共に、次 回の授業にて全体的なコメントを行う。	
テキスト： 『シリーズ保育と現代社会 学ぶ・わかる・みえる 演習・保育と子育て支援』小原敏郎,橋本好市, 三浦主博 編集, みらい	
参考書・参考資料等： 『保育所保育指針解説』（厚生労働省,フレーベル館）.授業内容に合わせた A4 版 1～2 ページの自作資料を適宜配付する。	
オープンな教育リソース：	
学生に対する評価： 以下の 3 項目を総合的に評価して成績を判定する。①定期試験の得点(60%) ②レポートや授業で調べた内容・リアクションペーパーの記録 (30%) ③平素の学習状況及びグルー プワーク・グループディスカッション・ロールプレイ(10%)	

授業科目名：2300115011 乳児保育 I 1 年前期	必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：推野 万里子 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の内容・方法に関する科目 乳児保育I		
学習成果該当番号：1. 3. 4			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ・ 保育所保育指針に示されている乳児保育に関わる配慮事項及び 3 歳未満児の保育に関する配慮事項の内容や援助の在り方を理解するとともに乳児の月齢の発達及び保育内容を理解する。 ・ 乳児の生活・遊びを豊かにするために保育者に必要とされている知識を学ぶ。 ・ 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係期間との連携について理解する。 【テーマ】 3 歳未満児の発達過程と生活と遊びを理解する			
授業の概要：乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割について学び、乳児保育の現状と課題について子育て支援、入所施設、子どもを取り巻く環境等多方面から理解する。3 歳未満児の発育・発達及び自我の芽生え・信頼関係の構築・生活リズムの獲得・言葉の獲得・基本的生活習慣を理解し、保育者としての具体的な関わり方や配慮の仕方を学び、職員間の連携や協働、保護者や地域との連携の重要性についても深く学ぶ。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1 回	<u>乳児保育について</u> 乳児に対するイメージを話し合う。実際の保育所等で行われている乳児保育とは何か、乳児保育の意義・目的と役割を理解する。	教科書pp.2～5の通読(30分) 0・1・2 歳児のイメージ、子どもの頃の思い出をまとめる(30分)	
第 2 回	<u>乳児保育の歴史と現状</u> 保育施設の誕生、法的位置づけ、乳児保育が一般化するまでの道のり、乳児保育の現状を理解する。 事前学習の内容を発表する。	教科書pp.6～30の通読(30分)、 乳児院と認定こども園の違いについてまとめる (30分)	
第 3 回	<u>乳児保育に関する法律</u> 児童福祉法、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準、労働基準法、育児・介護休業法について理解する。 ワークシート①を完成させる。	教科書pp.22～40の通読(40分)、 児童福祉法についてわからない言葉について調べる(20分)	
第 4 回	<u>保育所保育指針について</u> 保育所保育指針の目的と方向性、3歳以上児の保育内容の共有化について理解する。	教科書pp.32～42の通読(30分)、 pp35を書き写す(15分) ワークシート②に取り組む(15分)	
第 5 回	<u>保育所保育指針における乳児保育のポイント①</u> 指針に見る保育所の役割とねらい、保育内容について理解する。ワークシート⑤を完成させる。	教科書pp.41～49の通読(30分)、 ワークシート③④に取り組む(30分)	
第 6 回	<u>保育所保育指針における乳児保育のポイント②</u> 指針に見る保育のねらい及び内容を年齢別に捉え、深く理解する。ワークシート②～⑦までを完成させる。	教科書pp.50～58の通読(40分)、 ワークシート⑥⑦に取り組む(20分)	
第 7 回	<u>乳児期をポルトマンの考え方に学ぶ</u> 人生の基礎としての人間の乳児期について、人間以外の高等哺乳類と比較し理解する。事前学習の内容を発表する。	教科書pp.60～63の通読(20分)、 アドルフ・ポルトマンについて調べる(40分)	
第 8 回	<u>乳児のこころの発達</u> 能動的存在の乳児の身近な人との絆、愛着形成について理解	教科書pp.64～69の通読(20分)、 自身の人見知りについて、子ども	

する。事前学習の内容を発表する。		の頃の様子を可能な範囲で情報収集する。(40分)
第9回	<u>乳児のことばの発達</u> 乳児の思いを伝えあう手段としての、ことばの発達の道筋、必要な力について理解する。 事前学習の内容を発表する。	教科書pp.70～77の通読(30分)、自身の初めての有意義語について、可能な範囲で情報収集する。(30分)
第10回	<u>乳児のからだ</u> 乳児期のからだの発育と運動機能の発達について理解する。 0・1・2歳児の成長記録映像を視聴し、理解を深める。母子手帳を見て気づいたことを発表する。	教科書pp.78～87の通読(40分)、可能な範囲で母子手帳の成長記録内容を確認する。(20分)
第11回	<u>乳児保育における複数担任制</u> 複数担任制の実際、保育者同士の連携の在り方について理解する。	教科書pp.88～93の通読(40分)、実践編レッスン11pp166～173の事故事例を確認する(20分)
第12回	<u>保育所で過ごす1日の流れ①</u> 保育所の一日、保育計画の重要性、年齢別デイリープログラムについて理解する。	教科書pp.94～107の通読(60分)
第13回	<u>保育所で過ごす1日の流れ②</u> 居住自治体の公立保育所を例に、0・1・2歳のデイリープログラムを作成することができる。	第4回の学習内容を見直し、まとめる。(20分)、0・1・2歳児のデイリープログラムを比較し、要点をまとめる(40分)
第14回	<u>保護者との連携</u> 乳児を取り巻く環境、外国籍、虐待、宗教等について考え、保護者との協力関係の重要性について理解する。	教科書pp.108～117の通読(40分)、宗教について知るところ、思うところをまとめる。(20分)
第15回	<u>発達の遅れとむき合う</u> 発達障害について理解を深め、保育者の役割、保護者との信頼関係の重要性について理解する。 事前学習内容を発表する。	教科書pp.118～126の通読(40分)、気になる子ってどんな子？自身のイメージをまとめる。(20分)
定期試験 定期試験期間中に筆記試験を課す。		
フィードバックの方法：事前学習、課題の発表は授業内で実施し、コメントする。グループワーク実施時には事前解説後にグループ内で検討しまとめたものを発表後に回収し、コメントを付けて返却する。		
テキスト：「はじめて学ぶ乳児保育」同文書院、適宜授業で資料を配布		
参考書・参考資料等：「保育所保育指針解説書」フレーベル館、 「乳児保育 演習ブック [第2版]」ミネルヴァ書房		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。 ① 定期試験 50% ②課題・レポート30% ③授業態度20%		

授業科目名：2300115112 乳児保育Ⅱ 1 年後期	必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：推野 万里子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の内容・方法に関する科目 乳児保育Ⅱ		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 6			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ・3 歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 ・養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解し、援助及び実際の技術を身につける。 【テーマ】 3 歳未満児の発達を理解し、保育者としての関わり方や援助の具体的な方法・内容を学ぶ。			
授業の概要：人間形成にとって重要な愛着関係の必要性を理解し、3 歳未満児の発育・発達の特徴や保育者としての役割を学ぶ。ビデオ視聴や保育現場での事例・演習を通してグループワーク等で理解を深め、保育に必要な知識や技術を身につける。手遊びや絵本の読み聞かせ等の実技や保育現場の事例を通して保育者の関わりかたを身につける。			
授業計画：			
回数	内容		準備学習
第 1 回	<u>乳児とのふれ合いの基本を学ぶ</u> よこ抱き・たて抱き・おんぶのポイントと注意点を学び、人形を用いて安全な実施方法を具体的に学ぶ。		教科書130～133の通読(30分)、身近な物で、3kg、5kg、7kgを持ち上げてみる(30分)
第 2 回	<u>乳児の衣服の基礎知識と着脱方法</u> 衣服の特徴と扱いを知る。衣服の選び方、着脱のポイントと注意点を学び人、形を用いて安全な実施方法を具体的に学ぶ。 事前学習の内容を発表する。		教科書pp.134～139の通読(30分)、自分の着替えの手順を実施して、気づいたことをメモする。(30分)
第 3 回	<u>おむつ交換とおむつはずれ</u> おむつ替えのポイントと注意点を学び、人形を用いて安全な実施方法を具体的に学ぶ。濡れたおむつの感覚を実際に自身の上腕の内側で体験してみる。 事前学習の感想を発表する。 おむつはずれの援助のポイントを学ぶ。		教科書pp.140～143の通読(30分)、ドラッグストアやスーパーで布おむつ、おむつカバー、紙おむつを探し、手に取る。(30分)
第 4 回	<u>授乳と離乳食の基礎</u> 人工乳・冷凍母乳の扱い、授乳のポイントと注意点を学ぶ。 離乳に向けた食事の進め方のポイントと注意点について学ぶ。		教科書pp.144～153の通読(60分)
第 5 回	<u>乳児のからだの清潔を保つ</u> 沐浴・清拭のポイントと注意点を学び、人形を用いて安全な実施方法を具体的に学ぶ。		教科書pp.154～157の通読(40分)、自身の入浴時の洗体順序、注意していることをまとめる。(20分)
第 6 回	<u>乳児保育における安全・衛生管理①</u> 子どもの生活の場の清潔で安全な環境整備のポイントと注意点について学び、感染予防・事故予防の具体的な対策について知る。 グループワークで保育施設における環境整備の重要性について話し合う。		教科書pp.158～165通読(40分)、子どもの感染症とケガについて、「子どもの保健」の復習をする。(20分)
第 7 回	<u>乳児保育における安全・衛生管理②</u> 日常生活における危険について具体的な事例を学び、乳児を事件		教科書pp.166～173の通読(40分)、1年以内に起こった保育事故事例を調べる(20分)

	・事故から守る方法を知る。 事前学習の内容を基にグループワークで、事故予防の具体策を考え、発表する。	
第 8回	<u>子どもの育ちを保護者とわかち合う</u> 連絡帳の書き方のポイント、注意点を学び、事前学習で考えた事例を基に連絡帳を書く。 ワークシート⑧に取り組み完成させる。	教科書pp.174~178の通読(20分)、pp97~101のデイリープログラムから1つ選び、乳児の保育所での1日の出来事を考える。(40分)
第 9回	<u>新型コロナウイルス感染症と乳児保育</u> 事前学習の内容を発表し、グループ内で意見交換する。 グループとしてコロナ禍で求められる保育者の行動についてまとめる。	教科書pp.180~181を熟読する(20分)、新型コロナウイルス感染症と保育者に求められる対応についてまとめる。(40分)
第10回	<u>遊びのアイデアと歌遊び</u> 乳児の笑顔を引き出すためのヒントから、歌遊びのアイデアを学び、歌う。	教科書pp.184~189の通読と歌ってみる。(60分)
第11回	<u>ふれあい体操</u> 乳児との絆を深めるために、子どもの発達状況を見ながらふれあい遊びを取り入れた歌や体操をやってみる。	教科書pp.190~195の通読と体操を歌いながらやってみる。(60分)
第12回	<u>子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境①</u> 子どものための魅力的環境構成とは何かを理解し、保育所で人気の遊びについて具体的に演習で学ぶ。 事前学習の手遊びを発表する。準備した材料を使用して手作りおもちゃに挑戦する。	廃材を利用した乳児に向けた手作りおもちゃを考え、材料を準備する。教科書に載っている手遊びを1つ覚える。(60分)
第13回	<u>子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境②</u> 作ったおもちゃのコンセプト、工夫した点、遊び方を発表し、おもちゃを使って遊んでみる。	手作りおもちゃを完成させる。(60分)
第14回	<u>0・1・2歳児向け絵本の選び方</u> 乳児の想像力を育むために、お勧めの絵本、絵本の選び方のポイントを学び、自分で選んだ絵本を声に出して読み、グループのメンバー同士で感想やアドバイスをしあう。ブックスタートで使用する絵本をグループで選ぶ。	教科書pp.196~199の通読(40分)、子どもの時に好きだった絵本を思い出し、理由を考えてみる。(20分)
第15回	<u>まとめ</u> グループごとにブックスタートの発表をする。 授業内全体の振り返りと確認。	グループ発表の準備 (60分)
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を課す。	
フィードバックの方法：事前学習、課題の発表は授業内で実施し、コメントする。グループワーク実施時には事前解説後にグループ内で検討しまとめたものを発表後に回収し、コメントを付けて返却する。		
テキスト：「はじめて学ぶ乳児保育」同文書院、適宜授業でプリント・資料を配布		
参考書・参考資料等：「保育所保育指針解説書」フレーベル館、 「乳児保育演習ブック〔第2版〕」 ミネルヴァ書房		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。 ① 定期試験 50% ②課題・レポート30% ③授業態度20%		

授業科目名：2300115212 子どもの健康と安全 1年後期	必修：（卒）・保	単位数： 1単位	担当教員名：推野 万里子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の内容・方法に関する科目 子どもの健康と安全		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】「子どもの保健」で学んだことを踏まえて、子どもの健康と安全を守る実践的な技術を習得する。 【テーマ】子どもと保育者が安心して過ごすための保健技術について取り上げる。			
授業の概要：子どもが安心して毎日を過ごすには、保育者の保健的視点が求められる。保育における衛生管理、事故防止、危機管理、災害対策、安全管理の実施体制、体調不良時の適切な対応を、演習を通して具体的に学ぶ。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	第1章 保育環境と援助 第2章 保育における健康と安全の管理① 1.衛生管理—嘔吐シミュレーションと吐物処理の方法、手袋の取扱い。	テキスト第1章・2章—1.衛生管理の項を読む(60分)	
第2回	第2章 保育における健康と安全の管理② 2. 事故防止と安全管理-1) 保育中の事故防止の取り組み テキスト付録ワークシート「①誤飲防止ルーラー・チャイルドマウスを作ろう」	テキスト第2章-2事故防止と安全管理の1. 保育中の事故防止の取り組みを読む(60分)	
第3回	第2章 保育における健康と安全の管理③ 2. 事故防止と安全管理-2) 施設内外の安全管理-3) 保育中の事故報告 テキスト付録ワークシート「②保育環境」	テキスト第2章-2の2施設内外の安全管理、3. 保育中の事故報告を読む(50分) 学校のAEDの設置場所を確認する(10分)	
第4回	第2章 保育における健康と安全の管理④ 3. 危機管理 4. 災害への備え 災害時の持ち出し品を発表する。 避難時に備えて、晒(サラシ)で赤ちゃん人形をおんぶしてみる	テキスト第2章-3危機管理と4. 災害への備えを読む(50分) 災害時の持ち出し品を5つ考える(10分)	
第5回	第3章 子どもの体調不良などへの対応① 1. 体調不良や傷害が発生した場合の対応 バイタルサイン測定／薬の取扱い	テキスト第3章-1体調不良や傷害が発生した場合の対応を読む(40分) 体温、脈拍、呼吸数を測ってみる(20分)	
第6回	第3章 子どもの体調不良などへの対応② 2. 応急手当 止血法／包帯法／その他の応急手当 一番痛かったケガについて発表する	テキスト第3章-2. 応急手当を読む(40分) 今までに負ったケガの中で、一番痛かった事を思い出しメモをする。いつ頃、どうして、体のどこに？(20分)	
第7回	第3章 子どもの体調不良などへの対応③ 3. 一次救命処置 心肺蘇生法練習用マネキン、AEDトレーナー、気道異物除去法練習用マネキンを使用し一次救命処置技術を学ぶ。	テキスト第3章-3. 一次救命処置を読む(30分) 2019-2020年に起きた子どもの水の事故(溺水・溺死)を調べ、実際の事故を知る。(30分)	

第8回	第4章 子どものかかりやすい感染症対策 テキスト付録ワークシート「自分の感染症罹患歴&予防接種ノートを作ろう③」 手洗いチェッカーで正しい手洗いを身につける	テキスト第4章を読む(50分) 今日1日何回手を洗ったか思い返す。何を使って?何で拭いた?(10分)
第9回	第5章 保育における保健的対応① 1. 保育における保健的対応の基本的な考え方 テキスト付録ワークシート「発育の様子をみてる④」 赤ちゃん人形の身長・体重・頭囲・胸囲を測定	テキスト第5章-1. 保育における保健的対応の基本的な考え方を読む(40分) 体重、頭囲、胸囲を測ってみる(20分)
第10回	第5章 保育における保健的対応② 2. 3歳未満児への対応—おむつ交換/着替え 赤ちゃん人形を使っておむつ交換と着替えの練習	テキスト第5章-2. 3歳未満児への対応を読む(50分) 2枚重ねの洋服の着脱をやってみる(10分)
第11回	第5章 保育における保健的対応③ 2. 3歳未満児への対応—沐浴・シャワー浴・清拭 赤ちゃん人形を沐浴してみる	テキスト第5章-2の子どもの生活に対する援助(3)沐浴の方法を確認する(50分) 自身の入浴時間、洗体方法・順序を思い出す(10分)
第12回	第5章 保育における保健的対応④ 2. 3歳未満児への対応—歯みがき・爪切り・耳・鼻のケア テキスト付録ワークシート「歯磨き・磨き残しチェック⑤」/ハミガキ上手をつかってみる	テキスト第5章-2の歯みがき、爪切り、耳・鼻のケアを読む(50分) 歯みがきをする(5分)、歯みがきの順序を思い返しメモをする。(5分)
第13回	第5章 保育における保健的対応⑤ 2. 3歳未満児への対応—睡眠・排泄・食事 授乳と排気 事前学習の内容をグループ内で発表し、レポートにまとめる	テキスト第5章-2の子どもの生活習慣を読み、チャイルドデスレビューについて調べたことをまとめる(60分)
第14回	第5章 保育における保健的対応⑥ 3. 個別的な配慮が必要な子どもへの対応—アレルギー疾患・慢性疾患・先天異常 エピペン®トレーナーを使用し自己注射を体験する。	テキスト第5章-3 個別的な配慮が必要な子どもへの対応を読む(60分)
第15回	第5章 保育における保健的対応⑦ 4. 障害のある子どもへの対応 第6章 健康及び安全の管理の実施体制	テキスト第5章-4. 障害のある子どもへの対応、第6章健康及び安全の管理の実施体制を読む(60分)
定期試験 定期試験期間中に筆記試験を課す。		
フィードバックの方法：第7・13回のレポートは授業内グループワーク後に回収しコメントをつけて返却する。 ※授業内で実施したテキスト付録のワークシートは授業後に復習(10分)し、次回授業時に回収しコメントをつけて返却する。		
テキスト：「これだけはおさえない！保育者のための子どもの健康と安全」 創成社		
参考書・参考資料等：「授業で現場で役に立つ！子どもの健康と安全テキスト」診断と治療社、 「なぜ起こる 乳幼児の致命的な事故」学建書院、「小さないのち」朝日新聞出版		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：①定期試験50% ②課題・レポート30% ③授業態度20%		

授業科目名：2300115311 障害児保育Ⅰ 1 年前期	必修：（卒）・保	単位数： 1単位	担当教員名：豊田 賀子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の内容・方法に関する科目 障害児保育		
学習成果該当番号：1. 3. 7			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ① 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 ② 様々な障害について理解し、個々の特性や心身の発達等に応じた支援や配慮について学ぶ。 【テーマ】 障害児保育全般についての基礎的知識の習得を目指す。また、多様な障害種別について理解したうえで、一人一人のニーズに応じた保育実践のあり方を学習する。			
授業の概要：近年、保育施設においては障害児及びその他の特別な配慮を要する子どもの数が増加している。本講義では、「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷、ソーシャル・インクルージョン及び合理的配慮の理解と障害児保育の基本を学び、障害児保育を支える理念を理解するとともに、障害の保育における支援について学習し、一人一人の発達に応じた支援・配慮の方法を身につけることを目的とする。なお、本授業は、双方向型授業を基本とする。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	障害児保育の基本理念とは	教科書p1～16までを読み、障害の概念と保育・教育の基本について理解する。 (約60分)	
第 2回	障害の概要と保育・教育の基本、ソーシャル・インクルージョン及び合理的配慮の理解	教科書p8～10、61を読み、ソーシャル・インクルージョン、合理的配慮についての予習を行う。(約60分)	
第 3回	聴覚障害児の理解と援助	教科書p33～40を読み、聴覚障害についての予習を行う。(約60分)	
第 4回	視覚障害児の理解と援助	教科書 p17～24 を読み、視覚障害についての予習を行う。(約 60 分)	
第 5回	言語障害児の理解と援助	教科書p41～46を読み、言語障害についての予習を行う。(約60分)	
第 6回	肢体不自由児、重症心身障害児、医療的ケア児の理解と援助、	教科書p25～31、p81～88を読み、肢体不自由児、重症心身障害児、医療的ケア児についての予習を行う。(約60分)	
第 7回	まとめと振り返り（1）	第1回目～第6回目までに配布されたプリントを予習・復習する。(約60分)	
第 8回	知的障害の理解と援助（1） 知的障害の概要	教科書p47～62までを読み、知的障害についての予習を行う。(約60分)	
第 9回	知的障害の理解と援助（2） 知的障害児者についての支援	前回の配布プリントを復習する(約60分)	
第10回	発達障害の理解と援助（1） 自閉スペクトラム症	教科書p63～71までを読み、自閉スペクトラム症についての予習を行う。(約60分)	
第11回	発達障害の理解と援助（2） 注意欠陥多動性障害	教科書p71～79までを読み、注意欠陥多動性障害についての予習を行う。(約60分)	

第12回	発達障害の理解と援助（3） 学習障害	教科書p71～79までを読み、学習障害についての予習を行う。（約60分）
第13回	配慮を要する子どもの理解と援助（1） 虐待	教科書 p89～108 を読み、虐待を受けた子ども、様々な国籍の子どもについての予習を行う。（約 60 分）
第14回	配慮を要する子どもの理解と援助（2） 様々な国籍の子ども	配布プリントを復習する。（約60分）
第15回	まとめと振り返り（2）	第8回目～第14回目までに配布されたプリントを復習する。（約60分）
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を行う	
フィードバックの方法：ワークシートを随時配布、回収し、その都度フィードバックを行う。		
テキスト：前田康弘・編（2019）「実践に生かす障害児保育・特別支援教育」萌文書林 安部博志（2019）「子どもの発達を支えるアセスメントツール」合同出版株式会社		
参考書・参考資料等：必要に応じて資料を配布する。		
オープンな教育リソース：特になし		
学生に対する評価：定期試験（60%）、提出物（20%）、グループワーク・授業態度（20%）を目安に総合的に判断する。		

授業科目名：2300115412 障害児保育Ⅱ 1年後期	必修：（卒）・保	単位数： 1単位	担当教員名：豊田 賀子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の内容・方法に関する科目 障害児保育		
学習成果該当番号：1. 3. 7			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ① 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育計画を作成し、個別の支援及び他の子どもとの関わりの中で育ち合う保育実践について理解を深める。 ② 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や、関係機関との連携について理解する。 ③ 障害のある子どもの保育に関わる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。 【テーマ】 障害児保育の実際として、保育現場で必要となる実践力を身につける。また、障害児その他の特別な配慮を要する子どものおかれている現状や課題についての知見を深める。			
授業の概要： 障害児保育Ⅰでの学びを基盤とし、障害児その他の特別な配慮を要する子どもの個別の支援計画、指導計画を実際に作成する。また、各関係機関との連携、就学、家庭への支援等事例を通して理解し、具体的な援助方法を考えることを目指す。インクルーシブな保育の推進とは何かを考え、現状と課題を理解し健常児と共に育ち合う環境構成について深く学ぶ。なお、本授業は、双方向型授業を基本とする。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	授業ガイダンス、特別支援教育・保育の現状	シラバスを読み、授業の内容を把握する。障害児保育Ⅰの定期試験の復習を行う。教科書p12～21までを読み特別支援教育・保育について予習する。(約60分)	
第 2回	障害の診断と受容	配布資料を予習・復習する。(約60分)	
第 3回	発達の課題に応じた援助と関わり（1） 子ども同士の関りと育ち合い、発達を促す生活や遊びの環境について学習する。	配布資料を予習・復習する。(約60分)	
第 4回	発達の課題に応じた援助と関わり（2） クラスの子どもたちへの支援とその方法について学習する。	教科書p131～142までを読み、子どもたちへの支援とその方法について予習する。(約60分)	
第 5回	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際（1）指導計画及び個別の支援計画の作成について学習する。	教科書p116～124までを読み、指導計画についての予習を行う。(約60分)	
第 6回	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際（2）指導計画及び個別の支援計画の作成について学習する。	教科書p143～153までを読み、個別の教育支援計画についての予習を行う。(約60分)	
第 7回	家庭及び自治体・関係機関との連携（1） 地域の専門機関を調べ、グループでまとめる。	教科書p168～174までを読み、地域の専門機関との連携についての予習を行う。(約60分)	
第 8回	家庭及び自治体・関係機関との連携（2）	グループワークの内容をまとめる。	

地域の専門機関を調べ、グループで発表する。		(約60分)
第 9回	職員間の協働と保育環境 教職員間の連携やについてグループワークを通じて学習する。	教科書p155～158までを読み、職員間の協働と保育環境についての予習を行う。(約60分)
第10回	家庭との連携（１） 保護者や家庭に対する支援や連携の仕方について学習する。	教科書p168～177までを読み、保護者への支援についての予習を行う。(約60分)
第11回	家庭との連携（２） 保護者や家庭に対する支援や連携の仕方についてグループワークを通じて学習する。	グループワークの内容を自分なりにまとめる。(約60分間)
第12回	障害のある子どもの早期発見と支援と小学校への就学支援	教科書p182～203までを読み、就学先の小学校についての予習を行う。(約60分)
第13回	障害児とその他の特別な配慮を要する子どもの保育にかかわる現状と課題 保健・医療・福祉・教育における現状と課題について学習する。	教科書p208～211までを読み、福祉・教育における現状と課題についての予習を行う。(約60分)
第14回	支援の場の広がりをつながり	教科書p214～220までを読み、福祉・教育における現状と課題についての予習を行う。(約60分)
第15回	まとめと振り返り	第1回目～第14回目の配布資料を予習・復習する。(約60分間)
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を行う	
フィードバックの方法：随時、プリントやワークシートを配布、回収し、その都度必要に応じてフィードバックを行う。		
テキスト： 前田康弘・編（2019）「実践に生かす障害児保育・特別支援教育」萌文書林		
参考書・参考資料等：必要に応じて資料を配布する。		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：定期試験（60％）、レポート（20％）、グループワーク（10％）、平素の学習状況（10％）を目安に総合的に判断する。		

授業科目名：2311215511 幼児理解 1 年前期		必修：卒・幼・（保）	単位数： 2単位	担当教員名：笹尾 雅美、小山 玲子 担当形態：講義 オムニバス
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 幼児理解の理論及び方法		
学習成果該当番号：1. 2. 3				
授業の到達目標及びテーマ：				
【授業の到達目標】 幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる基本となるものである。幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができることを目指す。				
【テーマ】 理解の多義性、幼児理解の意義、幼児理解の内容と方法、保育の観察と記録、つまずきからの幼児理解、理解した内容の共有				
授業の概要： 幼児の心身の状況を理解することの重要性を講義に抛り理解させる。その後、理解しなければならない内容とその方法、及び理解のための観察と記録の重要性を講義する。また、特に問題となる現象を取り上げてその要因を考えることを通して、保育者としてのできる方策を考えるように働きかける。その事例として、最後に保護者との連携や園教職員との連携を取り上げる。				
授業計画：				
回数	内容			準備学習
第 1回	理解の多義性 人を理解する意味について、人柄や能力の理解、気持ちへの同情及び共感という理解があることを知り、保育活動に必要な幼児理解の内容について話し合う。			
第 2回	幼児理解の意義 幼児教育における幼児理解の必要性とその内容について、幼稚園における教育を効果的に推進するために大切なことを理解する。			「領域 人間関係」 p2～p27の通読（60分）
第 3回	幼児理解の内容と方法（1） 領域「健康」と関連する身体や運動能力の発達の観点から、提示された事例を話し合い、幼児理解のあり方を理解する。（課題1）公園や町で見かけた幼児の行動を記録する。 [次回の授業に提出]			「幼稚園教育要領解説」 p145～p166の通読（60分）
第 4回	幼児理解の内容と方法（2） 領域「人間関係」と関連する情操や道徳性、自己の自立と他者との協調などの心の観点から、提示された事例を話し合い、幼児の心にそう幼児理解のあり方を理解する。			「幼稚園教育要領解説」 p167～p192の通読、「課題1」作成・完成(60分)
第 5回	幼児理解の内容と方法（3） 領域「環境」「言葉」「表現」と関連する身の回りの様々な事象や文字や数字などの記号等に関する興味関心の観点から、家庭や幼稚園での提示された事例を話し合い、長期的展望に立つ幼児理解のあり方を理解する。 (課題2) 幼児理解と5領域のまとめ[次回の授業に提出]			「幼稚園教育要領解説」 p193～p247の通読（60分）
第 6回	幼児理解の内容と方法（4） 幼児の心身の発達や成長を他者との比較によって把握する方法と、以前の状態からの変化によって把握する方法があ			第5回授業配布プリント「課題2」作成・完成(60分)

	ることを知り、授業という共通の到達目標を定めなくて個々の幼児が発達する姿をとらえる幼児理解の重要性を理解する。	
第7回	<u>子ども相互の関わりと関係づくり</u> 幼稚園での日々の活動や行事を通していろいろな経験をし、そこで育まれる自主的な活動・他児と協力しあうことの大切さを学べるよう、保育者の適切な関わりを考え、理解する。	「幼稚園教育要領解説」p114の通読
第8回	<u>保育の観察と記録（１） 観察について</u> 日常の保育が、幼稚園という場でのあり方、幼児と教師や幼児相互のあり方と深く影響されることを知り、常に場や人間関係を省みつつ教育活動が行われることを、提示された事例をもとに理解する。	「領域 人間関係」p30～p37の通読（60分）
第9回	<u>保育の観察と記録（２） 記録について①</u> 保育の場、教師及び幼児やその集団は自然と一定の傾向を持つものと考え、その傾向を把握するためには、日常の保育に見られる現象を記録し、分析することが大切であることを、提示された事例をもとに理解する。 (課題3)事例について考え、自分の考えをまとめる [次回の授業に提出]	「領域 人間関係」p38～p58の通読（60分）
第10回	<u>保育の観察と記録（３） 記録について②</u> 週の保育活動や連続する主要な題材の保育活動の区切り、または日常の保育活動の終了後に行うエピソード記録について、事例をもとにその特徴と記録の仕方を理解する。	第9回授業配布プリント「課題3」作成・完成(60分)
第11回	<u>保育の観察と記録（４） 指導要録</u> 指導要録の意義を理解するとともに、日常のエピソード記録を整理して指導要録に記入する手順や文章表現などの方法を、事例をもとに理解する。 (課題4)エピソード記録を作成する [次回の授業に提出]	「領域 人間関係」P71～p80の通読（60分）
第12回	<u>つまずきからの幼児理解（１）</u> 登園しぶり、孤立、生活自立の未熟などの問題行動の現象を知るとともに、その要因として当人、集団、教師の指導、家庭環境等々から考えられる様々な要因を理解する。 (課題5)幼児の問題行動と解決策を調べる。 [次回の授業に提出]	第11回授業配布プリント「課題4」作成・完成「幼稚園教育要領解説」p124～p128の通読（60分）
第13回	<u>つまずきからの幼児理解（２）</u> けんか、乱暴な行動、習癖などの問題行動の現象を知るとともに、その要因として当人、友達（学級）、教師の指導、家庭環境等々から考えられる様々な要因を理解する。	第12回授業配布プリント「課題5」作成・完成(60分)
第14回	<u>理解した内容の共有（１）</u> 当該幼児の成長のために、保護者が理解している子どもの様子と教師が理解した幼児の様子を共有することの重要性について理解を深め、幼児の発達や成長をうながす観点から共有するための方法や留意事項を理解する。	「領域 人間関係」p64～p70の通読（60分）

第15回 定期試験 定期試験期間中に筆記試験を実施する ・ 毎回授業内で2～4人でのディスカッションを行う。	<u>理解した内容の共有（2）</u> 当該幼児の理解や指導方針を話し合って検証するための、園教職員の日常の話し合いや定期的な話し合いの重要性を理解する。グループ発表 フィードバックの方法：フィードバックとして提出課題にコメントを返す。	グループワークの準備及び課題のまとめ(60分) * 定期試験に備え、毎回の授業で取り扱った内容を復習しておくこと。(60分)
テキスト：	毎回授業でプリント・資料を配布 「幼稚園教育要領解説（最新版）」（文部科学省 フレーベル館）	
参考書・参考資料等：	「幼児理解に基づいた評価」文部科学省 「子どもの理解と援助」萌文書林	
オープンな教育リソース：	特になし	
学生に対する評価：	①定期試験として筆記試験を実施（50％）②課題の提出、グループ発表(30％)、③授業態度・グループディスカッション（20％）	

授業科目名：2411115611 発達心理学 1 年前期	必修：卒・幼・保	単位数： 2単位	担当教員名：豊田 賀子 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育の対象・理解 幼：教育の基礎的理解に関する科目 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 保：保育の対象の理解に関する科目 保育の心理学		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 6. 7			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ① 乳幼児の心身の発達及び学習の過程について基礎的な心理学的知識を身につけ、発達を捉える視点について理解する。 ② 各発達段階における心理的特性を踏まえ、保育、教育、そして支援の基礎となる考え方を理解する。 ③ 生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育実践に活かせるように理解を深める。 【テーマ】乳幼児期から児童期まで各発達段階における発達課題および、運動・言語・認知、思考・社会性の発達について学習する。			
授業の概要：発達心理学とは、人間の加齢に伴う心身の発達の变化を多面的に学ぶものである。本講義では、保育士および幼稚園教諭に必要な乳幼児期の発達を主に、乳幼児期から児童期まで各発達段階における発達課題および、運動・言語・認知、思考・社会性の発達についての学習を行う。また、それらの背後にある環境の重要性と相互関係や、子どもの発達における保育者の役割について理解する事を目的とする。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	子どもの発達の理解とその意義 発達とは何か、発達の諸問題（遺伝と環境、発達段階、発達の仕組み）	配布資料を確認し、予習する。（約60分）	
第 2回	0 歳児の発達と心理 0 歳の心身の発達と発達課題について映像を見ながら学習し理解する	配布プリントを確認し、予習する。（約60分）	
第 3回	1 歳児の発達の心理 1 歳の心身の発達と発達課題について映像を見ながら学習し理解する	0歳児の心身の発達と発達課題についてまとめる。（約60分）	
第 4回	2歳児の発達の心理 2 歳の心身の発達と発達課題について映像を見ながら学習し理解する	1歳児の心身の発達と発達課題についてまとめる。（約60分）	
第 5回	3歳児の発達の心理 3歳の心身の発達と発達課題について映像を見ながら学習し理解する	2歳児の心身の発達と発達課題についてまとめる。（約60分）	
第 6回	4歳児の発達の心理 4歳の心身の発達と発達課題について映像を見ながら学習し理解する	3歳児の心身の発達と発達課題についてまとめる。（約60分）	
第 7回	5歳児の発達の心理 5歳の心身の発達と発達課題について映像を見ながら学習し理解する	4歳児の心身の発達と発達課題についてまとめる。（約60分）	

第 8回	まとめと振り返り (1) 第1回目～第7回目までのまとめと振り返り	第1回目～第7回目までの配布資料と自身がまとめた子どもの発達について復習する。 (約60分)
第 9回	社会性の発達 愛着関係や社会性やコミュニケーション能力や発達過程について	5歳児の心身の発達と発達課題についてまとめる。 (約60分)
第10回	言葉・言語の発達 言葉・言語の習得や発達過程について	テキストp40-51を予習する。 (約60分)
第11回	認知機能や思考の発達 認知機能の習得や思考の発達過程について	テキストp53-を予習する。 (約60分)
第12回	身体機能の発達 身体機能の発達過程について	テキスト p 13-26を予習する。 (約60分)
第13回	情動の発達 情動や感情のコントロールや発達過程について	テキスト p 63-74を予習する。 (約60分)
第14回	遊びの発達と仲間関係 子どもの遊びとは、友達関係の発達	配布プリントを確認し、予習する。(約60分)
第15回	まとめ 第9回目から14回目までの振り返りとまとめ	第9回目～第14回目までの配布資料と自身がまとめた各発達について復習する。 (60分)
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を行う	
フィードバックの方法：随時、プリントやコメントシートを配布、回収し、その都度必要に応じてフィードバックを行う。		
テキスト：本郷一夫(編) 「発達心理学―保育・教育に活かす子どもの理解」 建帛社		
参考書・参考資料等：参考書は授業中にその都度紹介し、テーマに合わせた資料を配布する。		
オープンな教育リソース：特になし		
学生に対する評価：定期試験成績60%、提出物20%、プリント提出10%、授業への参加度（態度、グループワーク等）10%で総合的に判断し評価する。		

授業科目名：2400115712 子ども家庭支援の心理学 1年後期	必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：豊田 賀子 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の対象の理解に関する科目 子ども家庭支援の心理学		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 5. 7			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ① 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解する。 ② 家族・家庭の意義や機能を理解すると共に、親子関係や家族関係等について発達の理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 ③ 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。 ④ 子どもの精神保健とその課題について理解する。 【テーマ】乳幼児期から老年期までの心身の発達を学ぶとともに、保育現場で活用できるように、子どもおよび保護者・家庭に対する支援の方法について学習する。			
授業の概要： 子ども家庭支援の心理学では、発達心理学及び臨床心理学の知見を踏まえ、生涯発達の観点から乳幼児期から老年期までの心身の発達を学ぶとともに、保育現場で活用できるように、子どもおよび保護者・家庭に対する支援の方法について学習する事を目的とする。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	子ども家庭支援の心理学とは 生涯発達とは、ライフサイクル論について	シラバスを読み、授業に関する情報をインターネットで収取しておく。（60分） 配布されたワークシートを記入する。（60分）	
第 2回	生涯発達（1）乳幼児期の発達とその特徴 乳幼児期の心身の発達や発達課題について	配布されたワークシートを記入する。（60分）	
第 3回	生涯発達（2）児童期の発達とその特徴 児童期の心身の発達や発達課題について	配布されたワークシートを記入する。（60分）	
第 4回	生涯発達（3）青年期における発達とその特徴 青年期の心身の発達や発達課題について	配布されたワークシートを記入する。（60分）	
第 5回	生涯発達（4）成人期前期における発達とその特徴 成人期前期の心身の発達や発達課題について	配布されたワークシートを記入する。（60分）	
第 6回	生涯発達（5）成人期後期・老年期における発達とその特徴 成人期後期・老年期の心身の発達や発達課題について	配布プリントを復習する。（60分）	
第 7回	家族システムと家族の発達 家族になるまでのプロセスや発達段階について	配布プリントを復習する。（60分）	
第 8回	子育て家庭に関する現状と課題（1） 子育てを取り巻く社会的状況	配布されたワークシートを記入する。（60分）	
第 9回	子育て家庭に関する現状と課題（2） ライフコースと仕事・子育て・多様な家庭とその理解	配布プリントを復習する。（60分）	
第10回	子育て家庭に関する現状と課題（3） 特別な配慮を要する家庭（虐待・家族の問題）	配布プリントを予習・復習する。（60分）	
第11回	子育て家庭に関する現状と課題（4） 特別な配慮を要する家庭（虐待・家族の問題②）	配布されたワークシートを記入する。（60分）	

第12回	子育て家庭に関する現状と課題 (5) 特別な配慮を要する家庭 (貧困・外国籍の子どもたち)	配布プリントを予習・復習する。 (60分)
第13回	子どもの心と健康 子どもの精神的な問題について	配布プリントを予習・復習する。 (60分)
第14回	子どもの生活・生育環境とその影響	配布プリントを予習・復習する。 (60分)
第15回	まとめ 第1回目～15回目までの授業内容の振り返りとまとめ	配布プリントを予習・復習する。 (60分)
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を行う	
フィードバックの方法： 随時、プリントやワークシートを配布、回収し、その都度必要に応じてフィードバックを行う。		
テキスト：永房 典之(編) (2023) 「新・子ども家庭支援の心理学」 教育情報出		
参考書・参考資料等：授業中にその都度紹介し、テーマに合わせた資料を配布する。		
オープンな教育リソース：特になし		
学生に対する評価：定期試験成績60%、提出物20%、授業への参加度（態度、グループワーク等）20%で判断し評価する。		

授業科目名：2400115821 子どもの理解と援助 2 年前期	必修：保	単位数： 1単位	担当教員名：豊田 賀子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の対象の理解に関する科目 子どもの理解と援助		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 6. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ① 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 ② 子どもの経験や学習過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 ③ 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 ④ 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。 【テーマ】 子ども一人一人の心身の発達や、子どもの問題行動等の理解、援助に必要な基本姿勢の理解。			
授業の概要： 本講義では、保育現場で求められる、子どもを理解し援助するために必要な基本的な考えや方法、支援方法について学ぶことを目的とする。具体的には、子ども一人一人の心身の発達や、子どもの問題行動等の理解、援助に必要な基本姿勢について学習する。なお、本授業は、双方向型授業を基本とする。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	子どもの実態に応じた発達や学びの把握（1） 保育における子ども理解の意義について学習する。	教科書 p 2～12を読み保育における子ども理解の意義について理解を深める。（約60分）	
第 2回	子どもの実態に応じた発達や学びの把握（2） 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わりについて学習する。	教科書 p 12～25を読み保育における子ども理解の意義について理解を深める。（約60分）	
第 3回	子どもの実態に応じた発達や学びの把握（3） 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わりについてグループワークを通じて学習する。	グループワークを通じて学んだことをまとめる。（約60分）	
第 4回	子どもを理解する視点（1） 子どもの生活や遊び、保育者と子どもの発達、環境の理解と構成について学習する。	配布プリントを予習・復習する。（約60分）	
第 5回	子どもを理解する視点（2） 集団における経験と育ち、葛藤やつまづきについて学習する。	配布プリントを予習・復習する。（約60分）	
第 6回	子どもを理解するための観察・記録・省察・評価（1） 事例を通じて、子どもを観察する視点や記録方法、省察、評価について検討を行う。	グループワークを通じて学んだことをまとめる（約60分）。	
第 7回	子どもを理解するための観察・記録・省察・評価（2） 事例を通じて、子どもを観察する視点や記録方法、省察、評価について検討を行う。	前回のグループワークを通じて学習したことをまとめる。（約60分）	
第 8回	発達の課題に応じた援助と関わり（1） 0～2歳児の事例を通じて、援助と関わりを学習する。	配布プリントを予習・復習する。（約60分）	
第 9回	発達の課題に応じた援助と関わり（2） 3～5歳児の事例を通じて、援助と関わりを学習する。	配布プリントを予習・復習する。（約60分）	

第10回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助（1） 事例を通じて、援助と関わりを学習する。	事例について自分なりに対応方法を考えまとめる。（約60分）
第11回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助（2） 事例を通して、援助と関わりをグループワークにて学習する。	前回のグループワークを通じて学んだことをまとめる。（約60分）
第12回	保護者との情報共有 グループワークを通じて、情報共有の方法について学習する。	グループワークを通じて学んだことをまとめる。（約60分）
第13回	職員間・地域・専門機関との連携や対話 グループワークを通じて、教員間や専門機関との対話の方法について学習する。	グループワークを通じて学んだことをまとめる。（約60分）
第14回	発達連続性と就学への支援	配布プリントを予習・復習する。（約60分）
第15回	まとめと振り返り 第1回目～14回目のまとめと振り返りを行う。	第1回目～14回目までの内容および配布資料を復習する。（約60分）
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を行う	
フィードバックの方法：随時、プリントやコメントシートを配布、回収し、その都度必要に応じてフィードバックを行う。また、グループディスカッションやグループワークでのコメントは、授業内にフィードバックを行う。		
テキスト：「子どもの理解と援助」井戸ゆかり編 萌文書林		
参考書・参考資料等：参考書は授業中にその都度紹介し、テーマに合わせた資料を配布する。		
オープンな教育リソース：特になし		
学生に対する評価：①定期試験成績60%、②提出物20%、③準備学習・授業への参加度（態度、グループワーク等）20%で総合的に判断し評価する。		

授業科目名：2401015922 教育相談論 2 年後期	必修：幼	単位数： 2単位	担当教員名：豊田 賀子 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ①教育現場の実際の問題を知り教育相談の意義を理解し、説明できる。 ②教育相談の基礎となるカウンセリングについて理解し、対処できるようになる。 ③教育相談（カウンセリング）を実践するための基本的に視点を身につけ実践できる。 ④子どもや保護者に対して教育相談が実践できるような知識を身に着ける。 【テーマ】幼稚園や教育現場で行われる教育相談活動において、子どもや保護者を理解するために必要な知識・方法および実際の介入方法などについて学習する。			
授業の概要：教育相談とは、子どものこころの問題を扱うだけでなく、保護者や子どもをとりまくさまざまな環境なども考慮しながら進められていく、教育現場における心理的な支援活動である。本講義では、主に幼稚園や教育現場で行われる教育相談活動において、子どもや保護者を理解するために必要な知識・方法および実際の介入方法などについて知識を深め考察することを目的とする。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	幼稚園・保育園における教育相談の意義	シラバスを読み、教育相談論の授業についての理解をふかめる。 (60 分)	
第 2回	発達段階における適応上の問題、保育者のメンタルヘルスについて学習する。	配布プリントを予習・復習する。(60分)	
第 3回	教育相談の方法（1） 来談者中心療法について学習する。	配布プリントを予習・復習する。(60分)	
第 4回	教育相談の方法（2） 精神分析療法について学習する。	配布プリントを予習・復習する。(60分)	
第 5回	教育相談の方法（3） カウンセリングについて学習する。	配布プリントを予習・復習する。(60分)	
第 6回	教育相談の方法（4） 相談援助を行う態度について学習する。	配布プリントを予習・復習する (60分)	
第 7回	様々な精神・心理的障害の理解と対応（1） 気分障害について学習する。	配布プリントを予習・復習する。(60 分)	
第 8回	様々な精神・心理的障害の理解と対応（2） 統合失調症について学習する。	第1回目～第7回目までの配布プリントを予習・復習する。(60分)	
第 9回	様々な精神・心理的障害の理解と対応（3） 依存症について学習する。	配布プリントを予習・復習する。(60分)	
第10回	様々な精神・心理的障害の理解と対応（4） 不安障害について学習する。	配布プリントを予習・復習する。(60分)	

第11回	事例検討（１） 配慮が必要な子ども・保護者の実際の対応について、映像による事例を通して学習する。	配布プリントを予習・復習する。（60分）
第12回	事例検討（２） 家族の問題を抱えた子ども・保護者の対応について映像による事例を通して学習する。	配布プリントを予習・復習する。（60分）
第13回	事例検討（３） 障害を持った子どもおよび保護者の対応について、映像を見ながら学習する。	配布プリントを予習・復習する。（60分）
第14回	事例検討（４） 教員間で起こりうる問題について、映像を見ながら学習する。	事例について自分なりの支援方法・対応方法について検討しまとめる。（60分）
第15回	まとめと振り返り	第9回目～第14回目までの配布プリントを予習・復習する。（60分）
定期試験 定期試験期間中に筆記試験を行う		
フィードバックの方法：随時、プリントやワークシートを配布、回収し、その都度必要に応じてフィードバックを行う。		
テキスト：なし		
参考書・参考資料等：授業中にその都度紹介し、テーマに合わせた資料を配布する。		
オープンな教育リソース：特になし		
学生に対する評価：定期試験成績(60%)、レポート提出(30%)、授業への参加度（態度、グループワーク等）(10%)で総合的に判断し評価する。		

授業科目名：2400116011 子どもの保健 1 年前期		必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：推野 万里子 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		保：保育の対象の理解に関する科目 子どもの保健		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 8				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 子どもの発育と発達及び健康状態を把握して、保健的な対応を習得する。 【テーマ】 「子どもの保健をどう保育に活かすか」について取り上げる。				
授業の概要：子どもの心身の健康増進を図るために、子どもの健康と保健活動の意義を、現代社会における現状と課題を踏まえて理解する。子どもの身体発育や生理機能の発達及び子どもの疾病と対応について学び、子どもの健康状態とその把握方法について理解を深める。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第 1 回	第 1 章 子どもの心と体の健康と保健の意義① 保健活動の意義と目的 自身の健康観と子どもの心身の健康について考え、子どもの保健の意義を知る。		テキスト p 1-5 を読む(20 分) 自分の健康への意識を文章にしてみる。(40 分)	
第 2 回	第1章 子どもの心と体の健康と保健の意義② 現代における子どもの健康と保健活動 事前学習について発表し事例検討し、レポートを作成		テキスト p6-22 を読む(30 分) 虐待に関するニュースを調べ、印象に残った事例をまとめる。(30分)	
第 3 回	第2章 子どもの発育・発達と保健① わたしたちの体と身体発育		テキスト p 24-33を読み、付録ワークシート「子どもの発育・発達1-①」を実施(60分)	
第 4 回	第2章 子どもの発育・発達と保育② 運動機能・生理機能の発達 自転車に乗れた日のことを発表する		テキスト p 33-46を読む(50分)、 初めて自転車に乗れた日のことを思い出しメモする。(10分)	
第 5 回	第2章 子どもの発育・発達と保育③ 感覚機能・精神機能の発達		テキスト p 47-54を読み、付録ワークシート「子どもの発育・発達1-②」を実施(60分)	
第 6 回	第3章 子どもの心と体の健康状態の把握① 発育・発達の把握と健康診断／保護者との情報共有		テキスト p 56-76を読む(50分)、 今年の健康診断結果を確認する(10分)	
第 7 回	第3章 子どもの心と体の健康状態の把握② 健康状態の観察と体調不良児への対応 テキスト付録ワークシート「子どもの健康観察のポイント2-①②」を実施		テキスト p 76-89を読む(40分) 自身の健康状態について気になることをメモしておく。(20分)	
第 8 回	第4章 子どもの病気の予防と適切な対応① 子どものかかりやすい感染症-(1) 子どもの頃の発熱の思い出を発表する		テキスト p 91-111を読む(50分)、 子どもの頃に発熱したときのことを思いだし、辛かったこと、うれしかったことをメモする。(10分)	
第 9 回	第4章 子どもの病気の予防と適切な対応② 子どものかかりやすい感染症-(2) テキスト付録ワークシート「子どもの病気4-②」を実施		テキスト付録ワークシート「子どもの病気4-①」を実施する(60分)	
第 10 回	第4章 子どもの病気予防と適切な対応③ 感染症の予防と対応 テキスト付録ワークシート「子どもの病気5-①②」を実施		テキスト p 111-128を読む(50分) 自分の予防接種歴を調べる。(10分)	
第 11 回	第4章 子どもの病気予防と適切な対応④ その他の子どもの病気-(1) 食物アレルギー		テキスト p 129-145を読む(60分)	
第 12 回	第4章 子どもの病気予防と適切な対応⑤		テキスト付録ワークシート「アレルギー	

第 13 回	その他の子どもの病気-(2) その他のアレルギー 第4章 子どもの病気予防と適切な対応⑥ その他の子どもの病気-(3) その他の病気 乳幼児突然死症候群について調べたことを発表する	疾患6-①②」を実施する(60分) テキスト p 146-153を読む(20分) 乳幼児突然死症候群について調べる (40分)
第 14 回	第4章 子どもの病気予防と適切な対応⑦ 先天異常 先天異常について調べたことを発表する	テキスト p 153-155を読む(10分) 先天異常について調べる(50分)
第 15 回	第5章 保育における保健 総まとめ/テキスト付録ワークシートの解説	テキスト p 158-163を読む(20分) テキスト付録ワークシート1. 2. 4. 5. 6を 見返す(40分)
定時試験 定時試験期間中に筆記試験を課す。 フィードバックの方法：第2回のレポートは授業内で発表後に回収し、コメントをつけて返却する。 ※事前学習・授業内で実施したワークシートは復習(15分)し、次回授業時に回収しコメントをつけて返却する。第15回授業内で、実施した全ワークシートの解説をする。		
テキスト：「これだけはおさえない！保育者のための子どもの保健」 創成社		
参考書・参考資料等：「授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト」 診断と治療社		
学生に対する評価：①定期試験 50% ②課題・レポート30% ③授業態度20%		
備考：対面授業ができない場合（新型コロナウイルス感染状況等）は、オンライン、オンデマンド授業を以て対面授業に代えることがある。		

授業科目名：2400216112 子どもの健康と運動（選択） 1年後期		必修：	単位数： 1単位	担当教員名：豊田 泰代 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等				
学習成果該当番号：1・2				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】動くことの本質的な「楽しさ」を実感し、指導者としてその楽しさを創り出すための工夫ができるようになることを目標とする。 【テーマ】さまざまなうごきの感覚が未熟な子どもたちに、身体感覚を呼び覚ますためには・・・学生自らが様々な感覚を伴うあそびを体験する。また、遊具を作り遊びこむ体験を積む。				
授業の概要:子どもたちを取り巻く環境の変化から、遊びが乏しくなってきた。この授業では数々の具体的な遊びを取り上げ、実際に遊んでみることを通して、「遊びは面白い！」ことを実感し、遊び込むことでその深さに触れる。具体的内容としては身体感覚を呼び覚ますうごきの体験、個々に行う・集団で行う伝承あそびの体験、鬼ごっこなどのあそびの体験を積む。グループで取り上げた遊びについて教えあう。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第1回	第1回	感覚遊び①ころがること 鬼ごっこ 幼児ダンス	準備学習：ころがりのあそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第2回		遊び用具①なわとび 幼児ダンス	準備学習：なわとびあそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第3回		感覚遊び②とびのる・とびおりる なわとび遊び 鬼ごっこ 幼児ダンス	準備学習：鬼ごっこのあそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第4回		遊び用具②竹落とし・竹とんぼ 幼児ダンス	準備学習：竹細工のあそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第5回		感覚遊び③つっぱること 竹けん玉遊び 竹落とし 鬼ごっこ 幼児ダンス	準備学習：支持あそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第6回		遊び用具③ぼっくり・竹馬 幼児ダンス	準備学習：バランスあそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第7回		感覚遊び④バランス ぼっくり・竹馬遊び 鬼ごっこ 幼児ダンス	準備学習：バランスあそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第8回		遊び用具④吹き矢 幼児ダンス	準備学習：呼吸を用いるあそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第9回		感覚遊び⑤呼吸法 吹き矢遊び 鬼ごっこ 幼児ダンス	準備学習：呼吸を用いるあそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第10回		遊び用具⑤手回しこま 幼児ダンス	準備学習：こまあそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第11回		感覚遊び⑥こま回し遊び ぶらさがること 鬼ごっこ 幼児ダンス	準備学習：ぶらさがりあそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第12回		遊び用具⑥凧作り 幼児ダンス	準備学習：たこあげあそびの種類・内容・方法について調べる（30分）	

第13回	感覚遊び⑦走る 風あげ遊び 鬼ごっこ 幼児ダンス	事後学習：行ったダンスの復習（30分） 準備学習：たこあげあそびの種類・内容・方法について調べる（30分）
第14回	遊び用具⑦リングホッケー 幼児ダンス	事後学習：行ったダンスの復習（30分） 準備学習：ホッケーあそびの種類・内容・方法について調べる（30分）
第15回	感覚遊び⑧すべること リングホッケー遊び 鬼ごっこ 幼児ダンス	事後学習：行ったダンスの復習（30分） 準備学習：ホッケーあそびの種類・内容・方法について調べる（30分）
総復習	遊んで得られたことについて振り返りシートに記入	事後学習：行ったダンスの復習（30分）
定期試験	遊びを提供する場合に楽しさを引き出すための工夫についてレポートを提出する	
フィードバックの方法：事前学習で行った調べ学習について授業内にてプリントを配布してフィードバックする。		
テキスト：なし		
参考書・参考資料等：『0歳からはじめるうごきづくり』太田昌秀・豊田泰代・久保景子著，幻冬舎ルネッサンス，2008. 自作プリント資料		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：遊びの体験の深まりがみられたかをはかるために以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。授業での取り組み（60％）、授業内で作成した教材（20％）、振り返りシート・レポート等（20％）		

授業科目名：2400116210 子どもの食と栄養 1年通年	必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：水津 彩香 担当形態：演習 単独															
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の対象の理解に関する科目 子どもの食と栄養																	
学習成果該当番号：2. 6																		
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 健康な生活の基本として、食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養について理解する。 以上の到達目標を実現するために、前期は食生活の意義や栄養に関わる基本的知識、子どもの発育・発達と食生活の関連についての理論を学ぶ。後期は子どもの発達段階に応じた食生活の調理実習を行い理論の定着を図るとともに、実践応用力を身に付けることを目標にする。 【テーマ】 本授業全般に関わるテーマは「人間生活の中の食について考える」ことである。単なる栄養知識の習得に終わるのではなく、人間らしい食べ方とは何か、子どもの食生活を考える際に一番大切にすべきことは何か等、保育士としての心得を学び、子どもの心身共に健やかな成長を援助できるようにする。人間らしい食生活が展開できるような食育実践能力を身に着ける。																		
授業の概要： 第1回～第15回は子どもの食生活の意義・目的、子どもの食生活を取り巻く現状、現代の食に関わる諸問題を概説し、食環境への関心を高め、食育の重要性を学ぶ。さらに栄養の消化吸収、栄養素のはたらき、食品の種類・特徴、食品衛生、調理・献立を学び、乳幼児の発達段階に応じた食生活の特徴を理解する。 第16回～第30回は前期の基礎的知識を応用した調理実習を行い、実践力を養う。調乳方法、離乳食の月齢に応じた調理方法や与え方、発達段階毎に3歳未満児・3歳以上の幼児食・成人食（妊娠期）などの調理実習を行い、栄養に関する基本的知識や乳幼児の発達段階に応じた食と栄養の特徴を理解する。特別な配慮を要する子どものへの対応について、アレルギー対応食の調理を通して理解を深める。食育に関する調理実習では、子どもの食と栄養の意義・目的、食生活の現状、現代の食に関わる諸問題、季節行事や伝統文化等について実践的に理解する。																		
授業計画： <table><tr><th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr><tr><td>第1回</td><td>子どもの健康と食生活の意義 子どもの心身の健康や食生活について学ぶ。 。</td><td>事前学習 テキスト p2 を読む。(15 分) 事後学習 子どもの食生活の意義についてまとめる。 (45分)</td></tr><tr><td>第2回</td><td>子どもの食生活の現状と課題 子どもの食生活の実態や生活環境がもたらすからだへの影響を学ぶ。</td><td>事前学習 テキスト pp3～10 を読む。(15 分) 事後学習 自分自身の食生活に関するレポートを作成する。(45分)</td></tr><tr><td>第3回</td><td>栄養に関する基本的知識 1 栄養の基本的概念と食事摂取基準について学ぶ。</td><td>事前学習 テキスト pp12～15 を読む。(15 分) 事後学習 自分自身の生活記録を作成する。(45分)</td></tr><tr><td>第4回</td><td>栄養の基本的知識 2 3大栄養素（炭水化物、脂質、たんぱく質）の特徴と機能について学ぶ。</td><td>事前学習 テキスト pp16～31 を読む。(15 分) 事後学習 3大栄養素の特徴と機能をまとめる。 (45分)</td></tr></table>				回数	内容	準備学習	第1回	子どもの健康と食生活の意義 子どもの心身の健康や食生活について学ぶ。 。	事前学習 テキスト p2 を読む。(15 分) 事後学習 子どもの食生活の意義についてまとめる。 (45分)	第2回	子どもの食生活の現状と課題 子どもの食生活の実態や生活環境がもたらすからだへの影響を学ぶ。	事前学習 テキスト pp3～10 を読む。(15 分) 事後学習 自分自身の食生活に関するレポートを作成する。(45分)	第3回	栄養に関する基本的知識 1 栄養の基本的概念と食事摂取基準について学ぶ。	事前学習 テキスト pp12～15 を読む。(15 分) 事後学習 自分自身の生活記録を作成する。(45分)	第4回	栄養の基本的知識 2 3大栄養素（炭水化物、脂質、たんぱく質）の特徴と機能について学ぶ。	事前学習 テキスト pp16～31 を読む。(15 分) 事後学習 3大栄養素の特徴と機能をまとめる。 (45分)
回数	内容	準備学習																
第1回	子どもの健康と食生活の意義 子どもの心身の健康や食生活について学ぶ。 。	事前学習 テキスト p2 を読む。(15 分) 事後学習 子どもの食生活の意義についてまとめる。 (45分)																
第2回	子どもの食生活の現状と課題 子どもの食生活の実態や生活環境がもたらすからだへの影響を学ぶ。	事前学習 テキスト pp3～10 を読む。(15 分) 事後学習 自分自身の食生活に関するレポートを作成する。(45分)																
第3回	栄養に関する基本的知識 1 栄養の基本的概念と食事摂取基準について学ぶ。	事前学習 テキスト pp12～15 を読む。(15 分) 事後学習 自分自身の生活記録を作成する。(45分)																
第4回	栄養の基本的知識 2 3大栄養素（炭水化物、脂質、たんぱく質）の特徴と機能について学ぶ。	事前学習 テキスト pp16～31 を読む。(15 分) 事後学習 3大栄養素の特徴と機能をまとめる。 (45分)																

第5回	栄養の基本的知識 3 5大栄養素（ミネラル、ビタミン）と水分の特徴と機能について学ぶ。また、自分自身の生活記録について食事バランスを評価する。	事前学習 テキスト pp32～43 を読む。(15 分) 事後学習 ミネラル、ビタミン、水分の特徴と機能をまとめる。(45分)
第6回	栄養の基本的知識 4 食べ物の消化と吸収について学ぶ。	事前学習 テキスト pp44～48 を読む。(15 分) 事後学習 消化吸收の過程についてまとめる。(45分)
第7回	栄養の基本的知識 5 献立作成と調理の基本について学ぶ。	事前学習 テキスト pp49～65 を読む。(15 分) 事後学習 テキストp50「食生活指針」を読み、献立を作成する。(45分)
第8回	子どもの発育・発達の基本 子どもの発育・発達の特徴について学ぶ。	事前学習 テキスト pp68～77 を読む。(15 分) 事後学習 子どもの咀嚼と機能の発達についてまとめる。(45 分)
第9回	胎児期（妊娠期）の食生活 胎児期（妊娠期）の母体の変化や、胎児の発育、栄養・食生活について学ぶ。	事前学習 テキスト pp78～90 を読む。(15 分) 事後学習 テキストp87「妊産婦のための食生活指針」を読み、まとめる。(45分)
第10回	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 1 乳汁栄養について学ぶ。	事前学習 テキスト pp91～113 を読む。(15 分) 事後学習 テキストp113「授乳等の支援のポイント」を読み、まとめる。(45分)
第11回	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 2 離乳の必要性、離乳食の進め方について学ぶ。	事前学習 テキスト pp114～121 を読む。(15 分) 事後学習 テキストp117「離乳食の進め方の目安」を読み、まとめる。(45分)
第12回	幼児期の心身の発達と食生活 幼児期の心身の発達の特徴、食生活の特徴と問題点を学ぶ。	事前学習 テキスト pp122～135 を読む。(15 分) 事後学習 テキストpp131～135「幼児期の食生活の問題点」を読み、対策をまとめる。(30分)
第13回	食育の基本と内容 食育基本法の概略、食育の意義・目的、食育の内容について学ぶ。	事前学習 テキスト pp154～163 を読む。(15 分) 事後学習 テキストpp232～233「食育指導計画例」を読み、食育指導計画を作成する。(45分)
第14回	家庭や児童福祉施設における食と栄養 家庭における食と栄養、児童福祉施設における食事の提供について学ぶ。	事前学習 テキスト pp166～188 を読む(15 分) 事後学習 テキストp171「子どもの健やかな発育・発達をめざした食事・食生活支援」を読み、まとめる。(45分)

第15回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもへの対応を学ぶ。	事前学習 テキスト pp190～218 を読む。(15 分) 事後学習 テキストp206「アレルギー疾患生活管理 指導表」を読み、作成する。(45分)
定期試験	あり（定期試験期間中に筆記試験を行う）	
第16回	調理実習オリエンテーション 実習目的、実習予定日、服装、家政学実習 室の使用法、調理器具等について説明する 。	
第17回	乳児期の食事に関する調理計画 育児用粉乳の種類、調乳法、器具の消毒法に ついて復習し、調理計画を作成する。	事前学習 第10回の資料を読む(15 分) 事後学習 調理計画表を作成する。(45分)
第18回	乳児期の食事に関する調理実習 調理計画に従って調理実習を行い、乳児期の 食生活について理解を深める。	事前学習 調理計画を確認する。(15 分) 事後学習 調理実習レポートを作成する。(45分)
第19回	離乳期の食事に関する調理計画 離乳食の進め方について復習し、調理計画を 作成する。	事前学習 第11回の資料を読む。(15 分) 事後学習 調理計画表を作成する。(45 分)
第20回	離乳期の食事に関する調理実習 調理計画に従って調理実習を行い、離乳期の 食事について理解を深める。	事前学習 調理計画を確認する。(15 分) 事後学習 調理実習レポートを作成する。(45 分)
第21回	幼児期の食事に関する調理計画 幼児期の食生活の特徴を復習し、調理計画を作 成する。	事前学習 第12回の資料を読む(15 分) 事後学習 調理計画表を作成する。(45 分)
第22回	幼児期（1～2歳児）の食事に関する調理実習 調理計画に従って調理実習を行い、幼児期（1 ～2歳児）の食事について理解を深める。	事前学習 調理計画を確認する。(15 分) 事後学習 調理実習レポートを作成する。(45 分)
第23回	幼児期（3歳以上児）の食事に関する調理実 習 調理計画に従って調理実習を行い、幼児期（3 歳以上児）の食事について理解を深める。	事前学習 調理計画を確認する。(15 分) 事後学習 調理実習レポートを作成する。(45 分)
第24回	胎児期（妊娠期）の食事に関する調理計画 妊娠期の食生活の特徴を復習し、調理計画を 作成する。	事前学習 第9回の資料を読む。(15 分) 事後学習 調理計画表を作成する。(45 分)
第25回	胎児期（妊娠期）の食事に関する調理実習 調理計画に従って調理実習を行い、胎児期 （妊娠期）の食事について理解を深める。	事前学習 調理計画を確認する。(15 分) 事後学習 調理実習レポートを作成する。(45 分)
第26回	食物アレルギーに関する調理計画 食物アレルギーの特定原材料、代替食品につ いて復習し、調理計画を作成する。	事前学習 第15回の資料を読む。(15分) 事後学習 調理計画表を作成する。(45分)
第27回	食物アレルギーに関する調理実習 調理計画に従って調理実習を行い、食物アレ ルギーについての理解を深める。	事前学習 調理計画を確認する。(15 分) 事後学習

第28回 食育に関する調理計画 絵本を基に物語メニューの献立を作成し、調理計画を作成する。 第29回 食育に関する調理実習 調理計画に従って調理実習を行い、食育についての理解を深める。 第30回 食育活動の発表会、家政学実習室の清掃 定期試験 レポートにより評価を行う	調理実習レポートを作成する。(45分) 事前学習 第13回の資料を読む。(15分) 事後学習 調理計画表を作成する。(45分) 事前学習 材料を準備する。(15分) 事後学習 調理実習レポートを作成する。(45分)
フィードバックの方法： フィードバックとして第2、3、18、20、22、23、25、27、29回のレポートにコメントを返す	
テキスト：「最新 子どもの食と栄養」 学建書院	
参考書・参考資料等：適宜、プリントを配布する。	
オープンな教育リソース：	
学生に対する評価： 前期評価は第1～15回分で行い、以下の3項目を考慮して総合的に評価する。 ① 授業態度20%、②レポート20%、③定期試験60% 後期評価は16～30回分で行い以下の2項目を考慮して総合的に評価する。 ① 授業態度30%、②レポート70% 通年評価は前期・後期の成績の平均とする。	

授業科目名：2511116322 保育教育実践演習 2年後期	必修：卒・幼・保	単位数： 2単位	担当教員名：山本 伸一 担当形態：演習 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育教育実践演習 幼：教育実践に関する科目 教職実践演習 保：総合演習 保育実践演習		
学習成果該当番号：3. 4. 5. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 保育の重要な概念である発達、環境、遊び等の意味を確認するとともに、感情労働と職務専念義務という仕事の性格やあり方を具体的に理解できる。また、保育の仕事には、乳幼児に直接働きかける仕事のほかに、それを支える様々な仕事を組織的、計画的に行っていることを具体的な事務処理のあり方を通して理解するとともに、その事務処理技術を学ぶことができる。 【テーマ】 保育という仕事、行事、保育を支える諸活動の三つのテーマを柱として、保育に関する運営面を考究する。			
授業の概要： 保育教育実践演習は、2人の教員が分担して指導する。神谷の分担は、「保育という仕事」で保育を考える基本的な概念を再考させ、「経営・運営の計画と実践」で行事や保育を支える諸活動の経営的な側面や運営上の留意点などを話し合っていくものである。なお、授業は、課題を把握した後、資料をもとに討議を重ね、最後に授業の主旨に基づいて自分の考えをまとめるという展開を基本にする。資料の朗読や意見の発表は、そのまま実践的な演習としてとらえ、学生には主体的な授業態度を重視していることを伝えるとともに、学びが充実するように特に授業記録の整理や提出物の確実な提出と返却物の確実な保管を指導する。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	第1回 保育という仕事1 『短期大学生のための保育教育実践演習資料集』の保育の基本をもとに幼児教育における幼児観、教育観をディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	同資料集p12-p14の下調べ（60分） また教科書資料集pp150-153には授業ごとのまとめの問題を掲載しているので、準備学習として資料を読むとともに問題も予習するように指示する。	
第2回	保育という仕事2 資料集の「感情労働」をもとに保育者の仕事の特徴を討議し、仕事を通じた成長の重要性を理解する。確認テストを時間内に行う。	同資料集p15-p20の下調べ及び返却された確認テストの見直し（60分）	
第3回	保育という仕事3 資料集の「職務専念義務」をもとに仕事の意味を理解して、仕事と人間の生き方についてディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	同資料集p21-p25の下調べ及び返却された確認テストの見直し（60分）	
第4回	行事1 資料集の「行事」をもとに行事が生活に変化と潤いをもたらすものであることを理解して、運動絵画果たす役割を討議する。確認テストを時間内に行う。	同資料集p92-96の下調べ及び返却された確認テストの見直し（60分）	
第5回	行事2 園外保育を実施する場合の下見の重要性を理解し、園外保育下見のフィールドワークを行う。下見のメモを確認テストとして扱う。	同資料集p96-p97を読んで、教育の森公園の位置を確認おく（60分）	
第6回	行事3 下見した結果グループで出し合い、同資料集の下見報告書の様式にしたがって活動可能な場所や危険箇所などに注意して下見報告をまとめる。下見報告書を確認テストとして扱う。	同資料集p98を見て、さまざまな報告書の書き方をインターネットとの違いなどを調べておく（60分）	
第7回	行事4 下見メモや下見報告書をもとに目標と活動と準備の関係に注意しながら、グループで相談して園外保育（遠足）実施計画書を作成する。作成した実施計画書を確認テストとして扱う。	同資料集p99を見て、実習で作成した全日実習指導案との共通点や相違点を調べておく（60分）	
第8回	安全教育・安全管理1 学校安全構造図をもとに、幼稚園教育要領、同解説、安全計画、日常の安全管理について	同資料集p101-p105の下調べ及び返却された確認テストの	

	、指導や点検のあり方を討議する。確認テストを時間内に行う。	見直し (60分)
第9回	安全教育・安全管理2 乳幼児に多い事故と病気、及びその原因について資料をもとにディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	同資料集p104-p109の下調べ及び返却された確認テストの見直し (60分)
第10回	家庭との連携1 家庭との連携が必要な理由を幼稚園教育要領や同解説から理解し、家庭訪問、降園時の連絡、学級懇談、個人面談等の目的や方法についてディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	同資料集p110-p114の下調べ及び返却された確認テストの見直し (60分)
第11回	家庭との連携 学級だよりの目的、内容、方法、作成上の留意点について具体的な学級便りの例をもとにディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	同資料集p115-p121の下調べ及び返却された確認テストの見直し (60分)
第12回	障害がある乳幼児への対応 幼児に多く見られる達生涯について理解を深めるとともに、さまざまな障害の把握の方法や個別の支援計画及び個別の指導計画の意義を理解し、障害をもった幼児に対する接し方の事例についてディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	同資料集p122-p126の下調べ及び返却された確認テストの見直し (60分)
第13回	学級経営 学級経営の意義、学級経営案の作成の方法を理解し、具体的な保育所や幼稚園に就職した場合を仮定して、学級経営案の一部を書く。実習の経験や資料をもとに障害をもった幼児への支援のあり方をディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	同資料集p127-p130の下調べ及び返却された確認テストの見直し (60分)
第14回	日常の保育と指導要録 指導要録の意義を理解するとともに、エピソードを整理し指導要録にまとめるまでの方法について事例をもとにディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	同資料集p131-p134の下調べ及び返却された確認テストの見直し (60分)
第15回	幼小連携 幼稚園・保育所と小学校の連携の必要性について幼稚園教育要領総則などの記述をもとに話し合い、とくに就学前教育のあり方についてディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	同資料集p135-p140の下調べ及び返却された確認テストの見直し (60分)
定期試験	定期試験期間中にレポート試験を行う。	
フィードバックの方法：確認テストはA、B、Cの三段階で評価して次回授業日に返却する。B、Cの評価を受けたものは書き直して再提出すれば評価も見直す。第2回から15回まで同様に行う。		
テキスト：『短期大学生のための保育教育実践演習資料集』（神谷爲義 学校法人貞静学園短期大学）		
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』（文部科学省 フレーベル館）『保育所保育指針解説書』（厚生労働省 フレーベル館）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府 フレーベル館）『幼稚園教育指導資料集1・2・3・4集』（文部省・文部科学省）		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：次の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①定時試験の成績60% ②授業のまとめ等の提出物30% ③授業態度10% ②③の評価は、授業における発表や討論への参加態度、授業で作成した様々な文書、各授業終了時の確認テスト等々である。その評価基準は、A：問題を正対してとらえ、解決を目指している。 B：ある程度問題を理解し、対応を自分で考えることができる。 C：指導助言により、問題をとらえて具体的な取り組みへの構想をもつことができる、とする。なお成績については、担当教員2名が50%ずつとし、合わせて1科目として評価をする。		

授業科目名：2511116322 保育教育実践演習 2年後期	必修：卒・幼・保	単位数： 2単位	担当教員名：姜 華 担当形態：演習 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育教育実践演習 幼：教育実践に関する科目 教職実践演習 保：総合演習 保育実践演習		
学習成果該当番号：1. 3. 4			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 発達段階を踏まえた幼児の保育活動について、指導計画と幼児理解の両面から理解するとともに、保育理論や保育技術を実践の場で具体化できるようになる。具体的には、保育計画の具体化と実践について目的・内容・方法・留意点を理解すること、また幼児の言葉や行動を取り上げてその発達の様子を多面的に捉えることが本授業の目標である。 【テーマ】 履修履歴の把握、教育計画の編成、指導計画の作成と展開、幼児一人ひとりへの応じ方			
授業の概要：まず、学生が自分の履修履歴を確認して、保育者となるための課題を把握する学習を行う。次に、指導計画の作成の観点について、指導計画の具体例を取り上げ考察する。そして、幼児の行動の様々な具体例を取り上げて、それについて観点をきめて話し合いや発表を行う。科目名の通り、保育や教育に関する具体的な場面を取り上げた上で、演習を行っていく。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	第1回 履修履歴の把握 履修履歴に基づいて、各自の履修状況を捉えて課題を把握する。	『短期大学生のための保育教育実践演習資料集資料集』 p 5- p 11を読んでおくこと（60分） 実習先の教育方針、特色等を調べる。同資料集p25-p32を読んでおくこと（60分）	
第2回	教育課程の編成 教育課程や長期指導計画について資料集をもとにディスカッションする。実習先の教育方針、特色などについてまとめる。	同資料集p33-p35を読んでおくこと（60分）	
第3回	指導計画の作成と展開1 指導計画におけるPDCAサイクルについてディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	同資料集p36- p 41を読んでおくこと（60分）	
第4回	指導計画の作成と展開2 短期の指導計画が前週の活動の実態把握から導かれる様子について資料集をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	同資料集p42-46を読んでおくこと（60分）	
第5回	指導計画の作成と展開3 生活記録や実践記録をもとに活動や生活の記録の仕方について資料集をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	教育要領「人間関係」「言葉」を読む。同資料集 p 47-p50を読んでおくこと（60分）	
第6回	指導計画の作成と展開4 指導計画を展開するための環境構成や援助について幼稚園教育要領「人間関係」「言葉」や資料集をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	同資料集 p 51- p 54を読んでおくこと（60分）	
第7回	指導計画の作成と展開5 研究会の指導計画を見て、その特徴や優れた点について資料集をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	同資料集 p 55-57を読んでおくこと（60分）	
第8回	幼児の育ちの理解1 幼児の生活する姿とそのとらえ方について資料集の事例1～2をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	同資料集 p 57- p 59を読んでおくこと（60分）	
第9回	幼児の育ちと理解2 幼児と心をつなぐ接し方について資料集の事例3～4をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	同資料集 p 60- p 63を読んでおくこと（60分）	
第10回	幼児の育ちと理解3 集団の中にいる子どもの心の捉え方について資料集の事例7～10をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	同資料集 p 63-p66を読んでおくこと（60分）	
第11回	幼児の育ちと理解4 幼児が自分を発見する姿を空間から捉えることについて料集の事例11～14をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。		

第 12 回	幼児の育ちと理解5 自我を発達させる様子を過去の記憶について料集の事例15～16をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	同資料集p67-p69を読んでおくこと（60分）
第 13 回	幼児の育ちと理解6 自我を発達させる様子が言葉の発達などから捉えられることについて料集の事例17～20をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	同資料集 p 69-p71を読んでおくこと（60分）
第 14 回	泣くこと 泣きが言葉と同じ機能を果たすことや泣きに対する日仏の保育士の相異について資料集台V章をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	同資料集第V章を読んでおくこと（60分）
第 15 回	子育て悩み相談 子育て不安が増大している原因や相談のやり方について資料集台VIII章をもとにディスカッションするとともに、自分の保育者を観点に従って自己評価する。確認課題を時間内に行う。	同資料集第VIII章と関連教科のテキストを読んでおくこと（60分）
定期試験	定期試験期間中を提出締め切りとする指導計画および幼児理解についてのレポート提出をもって定期試験とする。	

フィードバックの方法：確認課題の返却時に解答の解説を行う。第2回授業から第15回まで同様に行う。	
テキスト：	
『短期大学生のための保育教育実践演習資料集』（神谷爲義 学校法人貞静学園短期大学）	
参考書・参考資料等：幼稚園教育要領解説 文部科学省 保育所保育指針解説書 厚生労働省編	
オープンな教育リソース：	
学生に対する評価：次の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①レポート試験の成績60％、②授業のまとめ等の提出物30％、③授業態度10％、②③の評価は、授業における発表や討論への参加態度、授業で作成した様々な文書、各授業終了後のまとめ等とする。なお成績については、担当教員2名が50％ずつとし、合わせて1科目として評価をする。	

授業科目名：2601016413 教育実習 1年後期	必修：（卒）・幼	単位数： 全部で5単位	担当教員名：実習幼稚園、 教育実習担当教員	
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教育実践に関する科目 教育実習			
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8				
授業の到達目標及びテーマ：幼児教育の場としての幼稚園のあり方やそこで活動する幼児の様子から、 幼児の発達過程と幼児が主体的に活動する幼児教育のあり方を追求する。				
実習の概要： (1) 実習内容は、幼児の様子と幼稚園のあり方を中心に、次の事項を取り上げる。 ア 幼稚園の役割について、体験を通して理解する。 イ 幼稚園の1日の流れを理解し、保育に参加する。 ウ 幼児の観察やそれとの関わりを通して、幼児の発達過程を理解する。 エ 保育者の援助や指導の内容と方法を学ぶ。 オ 職員の役割分担とチームワークについて理解する。 カ 家庭や地域社会に対する子育て支援や預かり保育について理解する。 キ 保育者の業務内容と職業倫理を具体的に学ぶ。 ク 疾病予防及び安全対策について具体的に学ぶ。 ケ 幼稚園周辺の環境整備について学ぶ。 コ 実習前後の事務処理を通して迅速正確な処理能力を高める。 (2) 実習は、見学実習、観察実習及び参加実習とし、それぞれ次の具体的な目標の達成を目指す。 ア 見学実習及び観察実習の具体目標 (ア) 幼稚園の沿革・教育方針・運営等について理解する。 (イ) 保育の1日の流れ（預かり保育を含む）を全体的に理解する。 (ウ) 建物の構造（園舎や教室の配置、園庭の施設や遊具など）や環境を理解する。 (エ) 園長、主任及び教諭等の業務内容を理解する。 (オ) 室内外の教材・教具・園具などについて把握する。 (カ) 幼児一人一人の遊びや集団の一員としての行動等を把握する。 (キ) 幼稚園と家庭・地域社会及び保育所・認定こども園・小学校との連携を理解する。 イ 参加実習の具体目標 (ア) 幼稚園の教育方針とその具体化された目標や指導の重点等を理解する。 (イ) 学級の指導計画を理解した上で保育に参加し、1日の流れ、生活のリズムを体得する。 (ウ) 多くの幼児と関わる中で、各年齢の特徴や個人差の理解を深める。 (エ) 担任の助手的立場で教材開発や環境設定、生活や遊びの方法、安全への配慮などを具体的に学ぶ。 (オ) 保育時間の内外を通じて、担任の業務内容を具体的に学ぶ。 (カ) 職員間の役割分担、チームワーク等の組織的な活動のあり方や、家庭・地域社会及び保育所・認定こども園・小学校との関わりかたを学ぶ。 (キ) 実習日誌に観察や参加の記録を的確に記入し、保育への理解を深める。 (ク) 担任の指導の下に絵本の読み聞かせ、手遊び、その他の部分的な指導を行い、幼児全体への働きかけ方を学ぶ。				
実習計画：				
実習名	実習時間	実習場所	実習形態	備考（実施時期等）
第Ⅰ期教育実習	56時間	幼稚園	見学・観察、参加	1年11月
※実習時間 56 時間は、実習日数 7 日間である。なお、56 時間(7 日間)は最低基準であり、実習期間内においてそれを超えて実習しても差し支えない。				
テキスト：①小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ②小櫃智子他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社				

参考書・参考資料等：特になし

学生に対する評価：

教育実習等	単位認定のデータ	評定におけるデータの得点割合			単位
		①：②	実習Ⅰ：Ⅱ	実習：前後	
第Ⅰ期教育実習 (幼稚園)	実習園からの「実習成績評価表」 ①	7：3	7：15	4：1	5
	実習報告書、実習日誌 ②				
第Ⅱ期教育実習 (幼稚園)	実習園からの「実習成績評価表」 ①	7：3			
	実習報告書、実習日誌 ②				
教育実習事前事後の指導	試験成績、提出物、授業態度等				

- (1) 実習の評価は、実習評価票の得点に実習報告書等 20 点、実習日誌 10 点を加算して得点とする。
- (2) 実習に係る提出物は期限を過ぎた場合でも提出を求めるが、締め切った後に提出されても加算はしない。

授業科目名：2601016413 教育実習 2年後期	必修：（卒）・幼	単位数： 全部で5単位	担当教員名：実習幼稚園、 教育実習担当教員 担当形態：実習 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教育実践に関する科目 教育実習		
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ：幼児理解を一層深めて幼児が主体的に活動する指導計画を作成し、実践することを通して、環境を通して行う幼児教育のあり方を追求する。			
授業の概要：			
(1) 実習内容は、幼児の様子と幼稚園のあり方を中心に、次の事項を取り上げる。 ア 幼稚園の役割について、体験を通して理解する。 イ 幼稚園の1日の流れを理解し、保育に参加する。 ウ 幼児の観察やそれとの関わりを通して、幼児の発達過程を理解する。 エ 担任等の指導の下に自分で指導計画を作成し、実践し、評価することを通して指導の内容と方法を学ぶ。 オ 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 カ 家庭や地域社会に対する子育て支援や預かり保育について理解する。 キ 保育者の職業倫理を具体的に学ぶ。 ク 疾病予防及び安全対策について具体的に学ぶ。 ケ 幼稚園とその他関係機関との連携について学ぶ。 コ 実習前後の事務処理を通して迅速正確な処理能力を高める。			
(2) 実習は、参加実習及び責任実習とし、それぞれ次の具体的な目標の達成を目指す。 ア 参加実習の具体目標 (ア) 幼稚園の沿革・教育方針・運営等について理解する。 (イ) 園長、主任及び教諭等の業務内容を理解する。 (ウ) 保育の1日の流れ（預かり保育を含む）を理解して保育に参加し、生活のリズムを体得する。 (エ) 担任の助手的立場で子どもが主体的に活動できるように環境や施設設備の整備をしたり、生活や遊びを指導したり、安全への配慮を行ったりする。 (オ) 担当教師に承認された範囲で直接子どもの遊びに加わったり、保育活動の一部を分担したりしながら、積極的に参加活動を行う。 (カ) 幼児一人一人の遊びや集団の一員としての行動等を観察して、発達の様子や一人一人の特长を把握する。 (キ) 幼稚園と家庭・地域社会及び保育所・認定こども園・小学校との連携を理解する。 イ 責任実習の具体目標 (ア) 保育者としての態度、保育技能・技術を身につける。 (イ) 担当教師の補佐として環境構成、教材の準備や後片付け、クラス運営の事務処理、その他の業務を行う。 (ウ) 一人一人の子どもの個別指導を実践しながら、その具体的な指導技術の習得を図る。 (エ) 担当教師等の指導や助言を受けて指導計画を作成し、それに基づいて実践し、指導方法や指導技術を習得する。			

授業計画：

実習名	実習時間	実習場所	実習形態	備考（実施時期等）
第Ⅱ期教育実習	120 時間	幼稚園	見学・観察、参加	2 年 10 月

※実習時間 120 時間は、実習日数 15 日間である。なお、120 時間(15 日間)は最低基準であり、実習期間内においてそれを超えて実習しても差し支えない。

テキスト：①小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社
②小櫃智子他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社

参考書・参考資料等：特になし

学生に対する評価：

教育実習等	単位認定のデータ	評価におけるデータの得点割合			単位
		①：②	実習Ⅰ：Ⅱ	実習：前後	
第Ⅰ期教育実習 (幼稚園)	実習園からの「実習成績評価表」 ①	7：3	7：15	4：1	5
	実習報告書、実習日誌 ②				
第Ⅱ期教育実習 (幼稚園)	実習園からの「実習成績評価表」 ①	7：3			
	実習報告書、実習日誌 ②				
教育実習事前事後の指導	試験成績、提出物、授業態度等				

- (1) 実習の評価は、実習評価票の得点に実習報告書等 20 点、実習日誌 10 点を加算して得点とする。
- (2) 実習に係る提出物は期限を過ぎた場合でも提出を求めるが、締め切った後に提出されても加算はしない。

授業科目名：（教育実習） 教育実習事前事後の指導 1年通年（前期）	必修：（卒）・幼	単位数： （5単位）	担当教員名：山本 伸一 担当形態：（実習） 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教育実践に関する科目 教育実習		
学習成果該当番号：1. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ① 第Ⅰ期教育実習に臨むにあたり必要な基礎的な知識や技術について理解したり身につけたりする。 ② 実習生としての実習に必要な準備を遅滞なく進める。 【テーマ】 教育実習の意義、目的、方法、幼稚園の様子、実習の実際、実習の準備等々、実習に必要な事項を具体的に上げていく。			
授業の概要：この授業では、教育実習が必要な理由とその方法を明確に捉えることが大事である。従って、はじめにテキスト等を用いて講義形式で理解を図る。その後、必要な書類の作成や日誌の書き方について学ぶ等、円滑に実習を行うために必要な準備を行う。なお、夏休みに行われる保育ボランティアの準備を通して上記の内容を具体的に学ぶ。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	幼稚園、保育所、認定こども園についてテキスト①p12～p15をもとにディスカッションし理解する。	テキスト①p12～p15を読んでおくこと（30分）	
第2回	教育実習の意義と流れについてテキスト①p8～11をもとにディスカッションし理解する。	テキスト①p8～p11を読んでおくこと（30分）	
第3回	実習園の一日についてテキスト①をもとにディスカッションし理解する。	テキスト①p76～77を読んでおくこと（30分）	
第4回	保育実技についてテキスト①p48～p59をもとにディスカッションし理解する。	テキスト①p48～p61を読んでおくこと（30分）	
第5回	保育ボランティアの概要について配布プリント（ボランティアの概要）をもとにディスカッションし理解する。必要書類について学ぶ。	自宅近隣の保育所、幼稚園について調べておくこと（30分）	
第6回	ボランティア先に電話をかける際の留意事項について学びグループで練習をする。	テキスト①p22～p23を読んでおくこと（30分）	
第7回	保育ボランティアのオリエンテーションに伺う際の留意点オリエンテーションで確認することについて配布プリント（オリエンテーションの受け方）をもとにディスカッションし理解する。	保育ボランティア依頼の電話をかけて実施園を探す。	
第8回	保育ボランティアに必要な履歴書等の書類作成を行う。作成した書類は提出する。提出後、教師が確認して不備や誤りがあった場合は返却するので、その場合は、新しく書き直して再提出する。	書類作成に必要な事項について調べておくこと 訂正箇所の書き直しをすること（30分）	
第9回	実習日誌を書く意義についてテキスト②p12～p17をもとにディスカッションし理解する。	テキスト②p12～p17を読んでおくこと（30分）	
第10回	実習日誌を書くときの基本事項についてテキスト②p20～p23をもとにディスカッションし理解する。	テキスト②p20～p23を読んでおくこと（30分）	
第11回	保育の様子に関するビデオ①を見ながら実習日誌（記録部分）を下書きする。	第9回、10回の授業内容をまとめておくこと（30分）	
第12回	再度保育の様子に関するビデオ①を見ながら前回の授業で下書きした実習日誌（記録部分）を完成させる。完成した	第11回で作成した下書きを読み返し、誤字脱字等	

	実習日誌の記録は確認テストとして提出する。記録は添削し返却する。	がないか調べて訂正しておくこと（30分）
第13回	実習日誌を書く時の文章表現について学ぶ。テキスト②p22～p23および配布プリント（保育用語）をもとに文章表現の基本について確認する。配布プリントは確認テストとして扱う。	テキスト② p22～p23を参考に、配布プリントに取り組み指定日に提出する。（30分）
第14回	実習日誌の考察や感想の書き方についてテキスト②p48～p57をもとにディスカッションし理解するとともに、テキスト①p26～p29をもとに保育ボランティアにおける課題設定を行う。	テキスト②p48～p57、テキスト①p26～p29を読んでおくこと（30分）
第15回	保育ボランティアに向けた心構えについてテキスト①p18～p21および配布プリント（心構えについて）をもとにディスカッションをする。	テキスト①p18～p21を読んでおくこと（30分） 保育ボランティア1日分の日誌を作成し夏休み明けに提出すること（3時間）提出された日誌については添削し返却する
定期試験 定期試験期間中に筆記試験を実施する		
フィードバックの方法：提出された書類、日誌及び確認テスト等に必要な指導・助言を書いてフィードバックする。		
テキスト：①小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ②小櫃智子他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社		
参考書・参考資料等：文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 石橋裕子・林幸範『幼稚園・保育所・児童福祉施設 実習ガイド』同文書院 相馬和子・中田カヨ子『実習日誌の書き方』萌文書林		
学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。 ①定期試験の得点50% ②課題や提出物の提出状況や内容40% ③授業態度10%		

授業科目名：（教育実習） 教育実習事前事後の指導 1年通年（後期）	必修：（卒）・幼	単位数： （5単位）	担当教員名：山本 伸一 担当形態：（実習） 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教育実践に関する科目 教育実習		
学習成果該当番号：1. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ：			
【到達目標】			
① 第Ⅰ期教育実習に臨むにあたって実習生としての実習に必要な準備を遅滞なく進めるとともに、意義ある実習とするために問題意識・課題意識を持つ。			
② 自らの実習をふり返り成果と課題を見いだす。			
【テーマ】実習の準備、実習後の事務処理、実習のふり返りの三つの内容により行われる。			
授業の概要：この授業ではまず、実習のために必要な準備を行い、実習における留意点等について学習するまた、充実した実習を行うために実習における自らの課題を明確にする学習を行う。その後、第Ⅰ期教育実習が行われるが、実習後には、実習や事後の事務処理を行うとともに、自らの実習をふりかえり、次回の実習や保育者になるに向けての課題を抽出する学習を行う。			
授業計画：			
回数	内容		準備学習
第1回	第Ⅰ期教育実習の概要について学び必要な準備について確認をする。実習園におけるオリエンテーションの受け方、オリエンテーション報告書の作成について理解する。		前期に配布したオリエンテーション関連のプリントを熟読しておくこと（30分）
第2回	実習日誌の自分のプロフィールや実習園の概要等について実習前に書き上げること理解する。授業当日に配布された資料及び解説した内容を参考に、各自で実習日誌の概要その他指定された頁の記述をすすめ、第5回の授業までに提出する。		配属先の実習園の概要について調べておくこと テキスト②p58～p61を読んでおくこと 教育実習日誌 p 1～p 2を読んでおくこと（30分）
第3回	実習日誌の書き方について、幼児の活動、環境構成、保育者の動き、気づいたことなどのポイントを確認する。部分実習の概要について学ぶ。		テキスト②p24～p27、p62～p64を読んでおくこと 教育実習日誌 p 4を読んでおくこと（30分）
第4回	実習日誌（概要その他指定された頁）の確認を受ける。		手遊びおよび園で読み聞かせをしたい絵本や紙芝居を3冊以上選んでおくこと（30分）
第5回	実習課題の設定、日々のねらいの立て方について理解し日々のねらいを立ててみる。		テキスト①p26～29、p82～p 83を読んでおくこと。（30分）
第6回	実習の心構えや留意点について学び理解する。		教育実習日誌p3を読んでおくこと（30分）
第7回	礼状の書き方について理解し学んだことについて一言を入れた礼状を作成する。礼状は確認テストとして扱う。		時候の挨拶について調べておく。テキスト①p130～p131を読んでおくこと（30分）
第8回	実習報告書の書き方について理解し、実習報告書を作成する。実習報告書は確認テストとして扱う。		予め配布した、実習報告書の下書き用紙に必要な事項を記入しておくこと（30分）
第9回	実習をふりかえる1（実習日誌の日々のまとめや全体のまとめをもとに実習全般に関する自己評価を行う）自己評価シートは確認テストとして扱う。		実習日誌を読み返しておくこと。（30分）
第10回	実習をふりかえる2（次回の実習や保育者になるにあたっての課題について考える。）グループ討議を通して異		テキスト① p 132～134を読んでおくこと（30分）

第 11 回	なった視点から実習に関する考えを深める。 実習をふりかえる 3 クラス全員で、実践した保育内容をふりかえり、今後の課題と目標についてディスカッションをする。	集団討議で話し合われた内容をまとめておくこと (30分)
第 12回	4歳児対象の部分実習指導の様子をDVDで視聴しディスカッションする。 ※ 定期試験はレポートの提出であることを告げ、その課題を提示する。学生は定められた期日までにレポートを提出する。	テキスト②p66～p70を読んでおくこと (30分)
第 13回	5歳児対象の部分実習指導の様子をDVDで視聴しディスカッションする。4歳児、5歳児対象の部分実習指導について気づいたことを文書にまとめて提出する。提出物は確認テストとして扱う。	4歳児対象の部分実習についてまとめておくこと (30分)
第 14回	4歳児あるいは5歳児の部分実習を想定して、具体的な指導案の作成について理解を深める。	部分実習で指導してみたい具体的な内容について考えておくこと (30分)
第 15 回	1年間の学びを振り返り、第Ⅱ期教育実習に向けて自己課題を明確にする。	第Ⅱ期に向けた自己課題を考えておくこと (30分)
定期試験	定期試験期間中を提出締切とする実習の振り返りについてのレポート提出をもって定期試験とする。(詳細については第12回の授業時に告知する)。	
フィードバックの方法：オリエンテーション報告書、実習日誌、準備として行った計画を示す書類、実習報告書、礼状等のチェックをして、不備があるものは返却し、再提出を求める。		
テキスト：①小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ②小櫃智子編『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社		
参考書・参考資料等：文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 石橋裕子・林幸範『幼稚園・保育所・児童福祉施設 実習ガイド』同文書院 相馬和子・中田カヨ子『実習日誌の書き方』萌文書林		
学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。 ①レポート（定期試験期間中）評価40％ ②課題や提出物の提出状況や内容45％ ③授業態度15％		

授業科目名：（教育実習） 教育実習事前事後の指導 2年通年（前期）	必修：幼	単位数： （5単位）	担当教員名：姜 華 担当形態：（実習） 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教職に関する科目 教育実習		
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達度】第Ⅰ期教育実習の経験や保育実習Ⅰ・Ⅱの実習における学びも取り入れて指導案の立て方や記録の仕方を工夫して、実習目的に合った実習の準備ができるようになる。 【テーマ】実習前のテーマなので実習に向かっての準備を取り上げるのはもちろんであるが、責任実習なので部分実習や全日実習などの指導案の作成を中心的なテーマとする。なお、実習の記録も、自分の実践についての記録を重視することを取り上げる。			
授業の概要：第Ⅱ期教育実習は、責任実習といわれるように自ら指導案を作成して、実施し、反省する、という過程を繰り返す実習である。そこで、指導案の立て方を授業の中心的なテーマに取り上げて、実際にそれを書くという体験を積んで行くことにする。また、実習に入るためのさまざまな事務手続きを遅滞なく進めるように、授業の中できめ細かく指導して行くものとする。 この授業を受けている間には、保育実習Ⅰと保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲが 10 日間ずつ実施されるが、その実習の経験を生かすとともに、教育実習の内容や事務手続きが混乱しないように注意を払って授業する。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	部分実習と責任実習 実習の核心は自らの計画立案、実施、反省であることを理解し、実践の中で学ぶことの重要性について知る。	テキストpp102-120まで目を通し、理解する（30分）	
第2回	指導案の書き方 1日の生活の流れを踏まえて、テキストから必要な部分や事項を抜き出す。	テキストpp102-120の中で重要事項に線を引く（30分）	
第3回	部分実習の教材研究「絵本の選択」 発達過程にあった絵本の選択し、一覧表にまとめる。表は時間内で作成し、確認テストとする。	実習で実施予定の絵本10冊の選択（30分）	
第4回	部分実習指導案① 紙芝居「ばいきんバイバイ」の指導案に倣って絵本の読み聞かせの指導案を相談して書く。指導案は時間内で書き上げて、確認テストとして扱う。	読み聞かせる絵本の選択（30分）	
第5回	部分実習指導案② 帰りの会の指導案に倣って「歌・手遊び・絵本の読み聞かせ」が入った指導案を相談して書く。	手遊びをネットで検索しておく。（30分）	
第6回	部分実習指導案③ 外遊びの指導案例を参考にして外遊びの指導案を相談して書く。指導案は時間内で書き上げて、確認テストとして扱う。	類似の指導案をインターネットなどで調べておく（30分）	
第7回	部分実習指導案④ 室内遊びの指導案例を参考にして室内遊びの指導案を相談して書く。指導案は時間内で書き上げて、確認テストとして扱う。	類似の指導案をインターネットなどで調べておく（30分）	
第8回	部分実習指導案⑤ 製作の指導案例を参考にして製作の指導案を相談して書く。指導案は時間内で書き上げて、確認テストとして扱う。	類似の指導案をインターネットなどで調べておく（30分）	
第9回	部分実習指導案⑥ 製作から遊びへ展開する指導案例を参考にして製作の指導案を書く。指導案は時間内で書き上げて、確認テストとして扱う。	類似の指導案をインターネットなどで調べておく（30分）	
第10回	幼稚園の一日の流れを確認して、幼稚園の日課を話し合う。	第Ⅰ期教育実習日誌で1日の流れを確認（30分）	
第11回	書類作成 第Ⅱ期教育実習用の「履歴書」を作成する。履歴書は時間内で書き上げて、確認テストとして扱う。	家族の年齢確認等の必要項目について調べておくこと（30分）	
第12回	実習課題の明確化① 保育技術をお話、ピアノ、絵本、手遊びの観点からABCで自己評価をして、自己の課題をとら	保育実習で実践した題材一覧（30分）	

第13回	える。 実習課題の明確化② 第Ⅰ期教育実習日誌をもとに実習課題についてディスカッションし、第Ⅰ期教育実習との違いを明確にする。	実習日誌 (pp1-3) の実習目標や実習内容の下読みと課題の原案作成 (30分)
第14回	実習課題の明確化③ 実習を期間全体、第1週、第2週、第3週に分けて、それぞれの課題をディスカッションし、自己の課題を整理する。	第4～9回で作成した指導案を整理して持参する (30分)
第15回	指導案のねらいについて、幼稚園教育要領や活動の特性を生かした書き方の観点から書き方を検討する。	幼稚園教育要領第2章を読んでおくこと (30分)
定期試験	定期試験期間中に提出する部分実習指導案・責任実習指導案に関するレポートをもって定期試験とする。	
フィードバックの方法：第4～9回の授業で提出された指導案については、それぞれ作成した次回の授業時にフィードバックし、再度書き方のポイントを助言する。また第11回の履歴書の不備については書き直しを指示したり、第12回の自己の課題では夏季休業中の練習計画を助言したりする。		
テキスト：小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社		
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』（文部科学省 フレーベル館）『保育・教育実習 フィールドで学ぼう』（同文書院）		
学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。 ①定期試験期間中に提出するレポートの内容：60% ②授業のまとめ、レポート、事務的な書類の提出：30% ③授業への参加・態度：10%		

授業科目名：（教育実習） 教育実習事前事後の指導 2年通年（後期）		必修：幼	単位数： （5単位）	担当教員名：姜 華 担当形態：（実習） 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		幼：教職に関する科目 教育実習		
学習成果該当番号：1. 2. 3. 5. 7. 8				
授業の到達目標及びテーマ：【授業の到達目標】第Ⅱ期教育実習について振り返り、実習後の事務的な書類を作成したり、体験を話し合ったりする中で、理想の一日の生活、理想の幼稚園のあり方、理想の幼稚園教諭について考え、具体的な指導案や感想としてまとめることができる。 【テーマ】実習後のテーマは、大きくまとめると①実習後の事務的な整理、②園生活の理想の一日「修正全日実習指導案」、③理想の幼稚園「実習園の印象調査」 ③保育現場の新しい動き、④理想の保育者像、の四つである。				
授業の概要：授業は 50 分授業なので、テーマの四つについて各時間の授業内容が明確になるように 1 コマごとのテーマを小さく分けて提示するとともに、具体的な作業や話し合い・発表を取り入れて授業を進める。また、本学は EXPO TEISEI を単なる大学祭ではなく授業の一環として重視しているので、そこを実習の成果を発表する機会として位置付け、園生活の理想として考える修正全日指導案を作成して掲示したり理想の保育者像の発表会を開いたりして、授業が具体的な行動に結びつくようにする。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第 1 回	実習準備学習 第Ⅱ期教育実習に関する予定を知らせ、実習不安の解消を図る。本時は、第Ⅱ期教育実習前の授業である。		日誌p10までの記入（3時間）	
第 2 回	実習整理1 実習幼稚園長宛てのお礼状を書いて提出する。お礼状には、実習で学んだ具体的で大事と思う事柄を一言でもよいから入れる。礼状は確認テストとして扱う。本時から第Ⅱ期教育実習後の授業となる。		手紙例文資料を読んでおくこと（30分）	
第 3 回	実習整理2 第Ⅱ期教育実習報告書「1 実習概要」・「2 実習園から大学への要望」を記入して提出する。実習報告書は、ミニレポートとして扱う。		事前に下書き用紙を配布するので、内容を整理しておくこと（30分）	
第4・5回	園生活の理想の一日 理想の一日の生活を考えて、第Ⅱ期教育実習の指導案をもとに、領域のねらいや内容と関連させて修正した全日実習指導案を作成する。全日実習指導案はミニレポートとして扱い、優れたものは学園祭で掲示する。		実習中の指導案を整理しておくこと（30分）	
第 6 回	実習園の保育内容について振り返りのグループディスカッションを行い、そのまとめを発表する。		実習中の保育内容について整理しておくこと（30分）	
第 7 回	理想の幼稚園① 理想の幼稚園を考える視点（内容面で就学準備ー遊び、方法面で教師主導ー幼児主体）を決めて、アンケート用紙のXY座標に実習先幼稚園の座標に示すとともに、その幼稚園の特色ある活動を洗い出してアンケート用紙に書く。		テキストp150～p151を読んでおくこと（30分）	
第8・9 回	理想の幼稚園② アンケートの集計結果を見て学生が捉えた幼稚園の現状を概観するとともに、自分が回答したアンケートをもとに実習先の幼稚園の様子についての報告会を開き、理想に近い幼稚園を選択する。		回答の確認と報告準備をすること（30分）	
第 10 回	理想の幼稚園③ 前2回の授業で選んだ理想の幼稚園の集計結果を概観して現実と理想の差異に気づくとともに、現実に行われている特色のある活動についてその教育的価値を一つずつ確認する。		第22回授業のアンケート用紙の確認をしておくこと（30分）	
第 11 回	資料により今日の幼児教育の課題を確認するとともに、その課題について実習幼稚園で実践していたり見聞したりした事項をまとめ、今日的課題に対処する教育動向をとらえ		今後の自己課題および目標について考えておくこと（30分）	

第12回	る。実践や見聞のまとめは、確認テストとして扱う。 理想の保育者像① 実習経験をもとに自分の理想の保育者像を発表の原稿として600字程度にまとめる。まとめは次回以降のプレゼンテーション後に返却する。	実習日誌で指導教員の確認をしておくこと（30分）
第13・14 ・15回	理想の保育者像②③④ 実習で指導を受けた教員の中から、専門的な知識、優れた技術、広い視野等々の具体的な事例をもつ理想の保育者について、自分が学んだことをプレゼンテーションする。 聞き手の学生は、その内容を簡潔に記録し、感想を付して提出する。この聞き取りの記録は確認テストとして扱う。	順番ごとのスピーチの練習をしておくこと（30分）
定期試験	定期試験期間中に提出する「理想の幼稚園」「保育者の専門性」についてのレポートの提出をもって、定期試験とする。	
フィードバックの方法：実習報告書や理想の全日実習指導案は、提出させて評価し、その後優れたものは本人だけでなく他の学生や下学年の学生に閲覧できるようにする。またアンケートによる現実の幼稚園の姿や理想の姿は集計して全体像が把握できるようにする。理想の保育者の原稿はプレゼンテーションやその聞き取り記録によって学生にフィードバックする。		
テキスト：小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社		
参考書・参考資料等：『保育・教育実習 フィールドで学ぼう』（同文書院）		
学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。 ①定期試験期間中にレポートを提出：60% ②授業のまとめ、レポート、事務的な書類の提出：30% ③授業への参加・態度：10%		

授業科目名：2600116513 保育実習Ⅰ（保育所） 1年後期・2年前期	必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：実習保育所 瀬川 千津子
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育実習 保育実習Ⅰ		

学習成果該当番号：1. 5. 7. 8

授業の到達目標及びテーマ：

【授業の到達目標】

- 1・保育所の役割や機能を具体的に理解する。
- 2・観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。
- 3・既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
- 4・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
- 5・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

【テーマ】

保育所の生活に参加し保育所の役割や機能を具体的に理解し、観察・子どもとのかかわりから乳幼児への理解を深める。既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学び、保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。実習から保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

実習の概要：

- 1・保育所の役割と機能
 - (1) 保育所の役割と機能について、体験を通して理解する。
 - (2) 保育所の生活と一日の流れを理解し、保育に参加する。
- 2・子ども理解
 - (1) 子どもへの援助やかかわりを通して、子どもの発達過程を理解する。
- 3・保育内容・保育環境
 - (1) 保育の計画に基づく保育内容の実際を理解する。
 - (2) 子どもの疾病予防及び安全対策について具体的に学ぶ。
- 4・保育の計画、観察、記録
 - (1) 保育課程と指導計画の理解と活用について理解する。
 - (2) 実習日誌に観察記録を的確に記入し、保育への理解を深める。
- 5・専門職としての保育士の役割と職業倫理
 - (1) 保育士の業務内容を理解する。
 - (2) 職員間の役割分担や連携について学ぶ。
 - (3) 保育士の役割と職業倫理について具体的に学ぶ。

準備学習

保育実習指導Ⅰの履修

部分実習指導案の作成や実習日誌の記録など必要に応じて、個別指導を行う。

「保育所保育指針」の熟読 保育実習日誌のオリエンテーション記録（p9）まで記録する。

事後学習

保育実習からの学びの確認及び学生間で学びの共有を図り、次の実習課題を明確にする。

保育実習報告書を提出する。ただし、内容によっては修正及び再提出を求めることがある。

実習計画：

実習名	実習時間	実習場所	実習形態	備考（実施時期等）
保育実習Ⅰ（保育所）	80 時間	保育所	見学・観察、参加	1年2月、2年5月

※実習時間 80 時間は、実習日数 10 日間である。なお、80 時間(10 日間)は最低基準であり、実習期間内においてそれを超えて実習しても差し支えない。

事前：実習園オリエンテーションの実施、オリエンテーション報告書の提出、健康管理書類の確認。

事後：実習日誌・実習報告書

テキスト：① 大豆生田啓友他編著『学生・養成校・実習園がともに学ぶこれからの時代の保育者養成・実習ガイド』 中央法規
② 河原紀子監修・執筆 『0歳～6歳 子どもの発達と保育の本』 学研教育出版

参考書・参考資料等： 大豆生田啓友他編著『新しい保育講座 12 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房

学生に対する評価：

実習園評価及び実習日誌の提出(70%) 実習報告書及びその他提出物(20%) 実習日誌(10%)

授業科目名：2600116613 保育実習Ⅰ（施設） 1年後期・2年前期	必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：実習先施設、 瀬川 千津子											
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育実習 保育実習Ⅰ													
学習成果該当番号：1. 5. 7. 8														
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 1・児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する。 2・観察やかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3・既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に体験する。 4・職員の業務内容と職業倫理について具体的に学ぶ。 【テーマ】 既習の教科の内容を踏まえ、習得した知識や技術を基に、児童福祉施設の役割や機能、現状を具体的に理解し実践する。施設の生活を通して子どもの保育及び保護者への支援について総合的に体験し、子どもへの理解と施設利用者への理解を深める。保育士の業務内容と職業倫理、指導員及びその他の職員の役割と連携のあり方等を学び理解する。														
実習の概要： 1・施設の役割と機能 (1) 当該施設の生活と一日の流れを理解する。 (2) 当該施設の役割と機能について理解する。 2・利用者理解 (1) 利用者とのかかわりを通して理解を深める。 (2) 個々の状態や障がいの特性に応じたかかわりとそれに基づいた支援をする。 (3) 子どもの最善の利益についての配慮、子どもの権利への配慮について理解する。 3・養護内容・生活環境 (1) 利用者の年齢・障がいの程度・家庭環境・生育歴・自立の方向性などの背景に応じた支援計画が作成されているか、総合的に学ぶ。 (2) 施設の人的環境、物的環境及び地域環境を理解する。 4・計画と記録 (1) さまざまな支援がどのように計画され、その計画が無理のない適切なものなのか学ぶ。 (2) 記録がどのように作成されているか、後で読み返した際に、知りたい情報が記載されているか学ぶ。 5・専門職としての保育士の役割と倫理 (1) 職員の業務内容と職業倫理について具体的に学ぶ。特に保育士の業務内容を理解する。														
実習計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>実習名</th> <th>実習時間</th> <th>実習場所</th> <th>実習形態</th> <th>備考（実施時期等）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育実習Ⅰ（施設）</td> <td>80 時間</td> <td>保育所以外の 児童福祉施設</td> <td>見学・観察、参加</td> <td>1 年 2 月、2 年 5 月</td> </tr> </tbody> </table>					実習名	実習時間	実習場所	実習形態	備考（実施時期等）	保育実習Ⅰ（施設）	80 時間	保育所以外の 児童福祉施設	見学・観察、参加	1 年 2 月、2 年 5 月
実習名	実習時間	実習場所	実習形態	備考（実施時期等）										
保育実習Ⅰ（施設）	80 時間	保育所以外の 児童福祉施設	見学・観察、参加	1 年 2 月、2 年 5 月										
※実習時間 80 時間は、実習日数 10 日間である。なお、80 時間(10 日間)は最低基準であり、実習期間内においてそれを超えて実習しても差し支えない。														
事前： 保育実習指導Ⅰの履修 「保育所保育指針」の熟読 保育実習日誌のオリエンテーション記録（p9）まで記録する。 部分実習指導案の作成や実習日誌の記録など必要に応じて個別指導を行う。 オリエンテーション(実習園)・オリエンテーション報告書・健康管理書類提出など														
事後： 保育実習からの学びの確認及び学生間で学びの共有を図り、次の実習課題を明確にする。														

保育実習報告書を提出する。ただし、内容によっては修正及び再提出を求めることがある。 実習日誌の提出
テキスト:① 大豆生田啓友他編著『学生・養成校・実習園がともに学ぶこれからの時代の保育者養成・ 実習ガイド』 中央法規 ② 松本峰雄監修 『より深く理解できる 施設実習』 萌文書院
参考書・参考資料等: 大豆生田啓友他編著『新しい保育講座 12 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房
学生に対する評価: 実習園評価及び実習日誌の提出(70%) 実習報告書及びその他提出物(20%) 実習日誌(10%)

授業科目名：2600116710 保育実習指導Ⅰ 1年通年（前期）	必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：瀬川 千津子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育実習 保育実習指導Ⅰ		
学習成果該当番号：1. 5. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】①保育実習の意義・目的及び内容を理解し、自らの実習課題を明確にする。②保育士の職務内容を理解し、保育士として必要な知識・技術を習得する。③子どもの人権の尊重、守秘義務について理解する。④実習施設の役割や機能を理解する。 【テーマ】保育実習の意義や目的、実習施設やそこに勤める保育士の役割、子ども理解などが中心テーマとなる。			
授業の概要：保育士の職域は保育所をはじめ児童養護施設や乳児院など多岐におよぶ。保育実習Ⅰでは保育所と保育所以外の児童福祉施設の実習が実施される。本授業前期は、保育所実習を中心に、保育実習（保育所）の意義・目的を理解し、実習の内容と課題を明確にする。さらに、実習に際しての留意事項として子どもの人権と最善の利益の配慮、プライバシーの保護と守秘義務等について学び、実習生としての自覚や態度を醸成する。観察の視点・日誌の書き方部分実習指導計画の作成・など、保育実践を想定し具体的に事例を通して学ぶ。事後指導では保育実習の総括と自己評価を行い、今後の課題を明確にする。DVDの活用やグループ討議、ワークシートの作成などにより、理解を深める。			
授業計画：			
回数	内容	事前事後学習	
第1回	科目の概要（進行と評価方法など）と保育の役割について 保育士の仕事や保育所の役割の大枠について 国家資格としての保育士資格の意義	・テキスト①p6～13 を熟読（15分） ・授業資料、テキスト の復習（30分）	
第2回	保育所実習の意義・目的・内容 学内の学びを現場保育所の営み理解へと繋ぐ重要な取り組み であることを踏まえ、保育実習の必要性を討議 保育実習の意義や目的の理解 実習の種類、保育実習ⅡⅢまでの実習過程と内容	・テキスト①p14～23 （15分） ・授業資料、テキスト の復習（30分）	
第3回	実習施設（保育所）の役割や機能・基準 準備学習で調べてきた保育所の保育理念やクラス配置などの 各保育所の相違を討議 設置基準や保育所の役割などの説明をする。授業始めに復習 ワークシートの確認テストの実施、見直し。	・保育所の概要（理念 ，保育時間など）を調 べる。（30分） ・授業ワークシートの 完了（30分）	
第4回	保育士の職業倫理：保育士の社会的役割及び義務 保育実習における実習生とあり方 保育士が遵守する守秘義務や子どもの人権の保障など 実習生として臨む際の態度や姿勢を討議	・保育所・保育士に関 する法令を調べる。 （30分） ・授業ワークシートの 完了（30分）	
第5回	保育所における生活と遊び① 3歳未満児の保育と子どもの発達について 準備学習のレポートについてグループで討議し、3歳未満児 の発達の特徴に応じた保育内容を検討	・テキスト②を参考に 3歳未満児の発達の特 徴をまとめる。（30分） ・授業での討議内容を まとめる。（30分）	
第6回	保育所における生活と遊び② 3歳以上児の保育計画と子どもの発達について 個と集団の発達、クラス運営など、準備学習のレポートにつ いてグループで討議し、保育内容について検討する。	・テキスト②を参考に 3歳児以上の子どもの 発達の特徴をまとめる 。（60分）	
第7回	保育所の環境 保育における環境に意味と役割について 環境を構成する保育者の意図、環境の意味について討議	・テキストp56～67を 熟読する。（15分） ・授業での討議内容を まとめる。（30分）	

第8回	保育の計画 保育のねらいと内容を理解、保育者としての視点の理解 指導案の立案、評価、改善の過程を理解し、「ねらい」「内容」及び、保育者の援助等の持つ意味を検討する。	・テキスト p 92～101 を熟読する。(15分) ・授業での討議内容を まとめる。(30分)
第9回	実習日誌の書き方① 保育実践の記録としての実習日誌 文章表現や日誌を書く視点を理解する。	・テキスト p 80～91を 熟読する。(15分) ・授業での内容をノート にまとめる。(30分)
第10回	実習日誌の書き方② 準備学習でまとめた個々の日誌を討議し、内容を検証する。 討議を振り返り、気づきをまとめ提出する。 必要に応じて修正や再提出を求め、個別に指導を行う。	・ワークシート実習日 誌記録を記入し提出す る。(40分) ・実習日誌記録の改善 を記録する。(20分)
第11回	保育技術の実践（模擬授業の実践） グループで絵本の読み聞かせをする。 保育者役の学生は読み聞かせの振り返り、子ども役の学生は 子どもの立場になり評価を無記名で行い提出する。評価は学 生個々に整理、返却し、改善点を整理する。	・絵本の選出、読み聞 かせの準備をする。 (30分) ・模擬授業実践の改善 を整理し記録する。 (30分)
第12回	子どもの発達と遊び 子どもにとっての遊びの重要性、発達に沿った遊びについて 討議し、保育所における「遊び」の意味を理解する。	・テキスト p 44～55を 熟読する。(15分) ・授業内容の整理 (30 分)
第13回	部分実習指導案作成 保育所実習に向けた部分実習の指導案の作成 部分実習に取り組む年齢や活動内容、配慮事項の討議 部分実習指導案を個々に作成	・部分実習に向けて取 り組みたい活動をまと める。(30分) ・テキスト p 68～79を 熟読する。(15分)
第14回	保育者の視点 保育者の視点からDVDを活用して子どもへの援助、環境な ど保育者の意図や願いを討議 保育実習に取り組む中での学びの視点を確認	・配布用具資料を熟読 する。(15分) ・ワークシートの完了 (30分)
第15回	保育所実習における課題 保育所実習における日々の課題の作成 保育所実習の全体を見通し、グループ討議する。保育所実習 全体の学びを日々の学びへと具体化し整理する。	・保育所実習で学びた いことや観察したいこ とをまとめてくる。 (30分) ・ワークシートの完了 (30分)
定期試験 定期試験期間中に筆記試験を課す		
フィードバックの方法： レポートおよび小テストは添削及び採点し返却する。部分実習指導案やワークシート・授業内課題な どは添削、解説し返却する。必要に応じて個別指導を行う。		
テキスト： ① 高玉和子編 改訂『実践力がつく 保育実習』 大学図書出版 ② 河原紀子監修・執筆 『0歳～6歳 子どもの発達と保育の本』 学研教育出版 ③ 長島和代編 改訂2版『わかる・話せる・使える 保育のマナーと言葉』わかば社		
参考書・参考資料等： 『保育所保育指針解説』『認定こども園保育教育要領解説』 フレーベル館 大豆生田啓友他編著『新しい保育講座 12 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房		
学生に対する評価： 以下の4点を総合的に評価して成績を判定する。①定時試験 40% ②レポート 及び小テスト 40% ③平素の学習状況 10% ④実習準備のための提出物 10%		
実務家教員による授業科目： 長年保育現場で主任、教頭として勤務した後、大学院において子ども人間学を 修了、他学で実習に関する相談や実習先開拓、実習指導を担当してきた実績がある。保育所や保育所以外の児 童福祉施設における実習のための事前事後指導を実践的に行う。		

授業科目名：2600116710 保育実習指導Ⅰ 1年通年（後期）	必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：瀬川 千津子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育実習 保育実習指導Ⅰ（施設）		
学習成果該当番号：1. 5. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】①保育実習の意義・目的及び保育内容を理解し、自らの実習課題を明確にする。②保育士の職務内容を理解し、実習生として必要な知識・技術を習得する。③子どもの人権の尊重、守秘義務について理解する。④実習施設の役割や機能を理解する。 【テーマ】保育実習の意義や目的、実習施設や保育士の役割、子ども理解などを中心テーマとする。			
授業の概要： 保育士の職域は保育所をはじめ児童養護施設や乳児院など多岐におよぶ。保育実習Ⅰでは保育所と保育所以外の児童福祉施設の実習が実施される。本授業前期は、保育所実習を中心に、保育実習（施設）の意義・目的を理解し、実習の内容と課題を明確にする。さらに、実習に際しての留意事項として子どもの人権と最善の利益の配慮、プライバシーの保護と守秘義務等について学び、実習生としての自覚や態度を醸成する。観察の視点・日誌の書き方部分実習指導計画の作成・など、保育実践を想定し具体的に事例を通して学ぶ。事後指導では保育実習の総括と自己評価を行い、今後の課題を明確にする。DVDの活用やグループ討議、ワークシートの作成などにより、理解を深める。			
授業計画：			
回数	内容	事前事後学習	
第1回	施設実習の目的と意義 児童福祉施設の種類や概要、目的の理解 施設実習の目的や内容の大枠を理解した上で、第3回から第6回授業のグループワークの発表担当を決定	・テキスト①p.100～110を熟読（15分） ・テキスト② p.30～41を熟読（30分）	
第2回	施設実習と子どもの人権 児童福祉施設の利用対象者、利用理由の理解 子どもの人権やプライバシーについての理解 実習生としての心構えについてグループ討議	・テキスト① p.112～119を熟読（15分） ・授業資料、テキストの復習（30分）	
第3回	実習施設を学ぶ①－児童養護施設－ 児童養護施設の役割や機能、事例について担当グループが発表する。発表の振り返りと補足を行う。 保育用語小テスト①	・テキスト①p.123～125を熟読 ・発表担当者は発表準備（15分） ※配布資料がある場合は授業2日前までに教員に提出。 ・児童養護施設に関するワークシートの完了。（30分）	
第4回	実習施設を学ぶ②－乳児院－ 乳児院の役割や機能、事例について担当グループが発表する。発表の振り返りと補足を行う。 保育用語小テスト②	・テキスト①p.120～122を熟読 ・発表担当者は発表準備（15分） ※配布資料がある場合は授業2日前までに教員に提出。 ・乳児院に関するワークシートの完了。（30分）	
第5回	実習施設を学ぶ③－障がいのある子どもの施設－ 障がいのある子どもの施設の役割や機能、事例について担当グループが発表する。発表の振り返りと補足を行う。 保育用語小テスト③	・テキスト①p.130～139を熟読 ・発表担当者は発表準備（30分） ※配布資料がある場合は授業2日前までに教員に提出。 ・障がいのある子どもの施設に関するワークシートの完了。（30分）	
第6回	実習施設を学ぶ④－母子生活支援施設－ 母子生活支援施設の役割や機能、事例について担当グループが発表。発表の振り返りと補足を行う。 保育用語小テスト④	・テキスト①p.125～128を熟読 ・発表担当者は発表準備（30分） ※配布資料がある場合は授業2日前までに教員に提出。 ・母子生活支援施設に関するワークシートの完了。（30分）	
第7回	実習施設を学ぶ⑤	・テキスト②p.10～29を熟読（	

	実習施設の発表内容全体に関するまとめ。 施設の役割や機能の相違、施設保育士の職務について確認し理解を深める。実習対象外の児童福祉施設についても理解を深める。	30分) ・各施設についてのワークシート、授業資料の復習。(30分)
第 8回	保育実習Ⅰ書類作成 実習に向けて履歴書等必要書類の作成 施設概要確認テスト	・第 3 回から第 6 回授業ワークシートの見直し(30 分) ・確認テストの振り返り (30分)
第 9回	保育実習Ⅰ（施設）における実習日誌の作成 保育実習日誌の記入の意義と意味及び、扱い方や書き方をの確認と理解	・テキスト①p78～88を熟読(30 分) ・授業ノートの振り返り(30 分)
第10回	実習園オリエンテーションの概要など 実習園オリエンテーションの概要と依頼について 実習日誌及び部分実習案等の提出方法の確認と理解	・テキスト①p.23～25を熟読。(15 分) ・実習園オリエンテーションについての振り返り(30分)
第11回	施設実習日誌の書き方① 施設の特徴を応じた日誌の作成 事例を基に実習日誌記録の視点などを理解する。	・授業資料「施設実習日誌の事例」を熟読。(30分) ・実習日誌記録の完成 (30分)
第12回	施設実習日誌の書き方② 実践記録のDVDを視聴し、その内容を日誌に書き グループ討議をする。 相互添削による改善点の明確化。	・実習日誌記録の見直し(30 分) ・実習日誌記録の相互添削の記入と改善点の記入。(30 分)
第13回	「実習のねらい」の設定 保育所と施設実習との相違点や実習への取り組み内容についてグループ討議を行う。 自己の実習の目的・課題の明確化と確認	・保育実習日誌の実習の目的を熟読。(30分) ・授業ワークシートの「実習のねらい」記入を完了する。(30分)
第13回	部分実習指導案作成 施設の種別における部分実習の実際の理解 部分実習指導案の作成	・部分実習指導案（施設）の素案を考える。(30分) ・部分実習指導案の完成と見直し(30分)
第14回	実習における留意事項 保育実習中の配慮したい関り、個人情報保護、ハラスメントなど諸注意について 実習先への提出書類の確認。 部分実習指導案などの個別指導を行う。	・実習チェックシートの完了。(30分) ・実習に向けての最終準備(30分)
第15回	実習後の振り返りと評価 具体的な実践の観点から自己評価し振り返る。 自己の省察をグループで共有し討議する。 課題及び改善点を明確にする。	・実習振り返りシートの作成。(30分) ・仲間との学びワークシート及び実習報告書の完成(30分)
定期試験	定時試験期間中に筆記試験を課す	
フィードバックの方法： レポートおよび小テストは添削及び採点し返却する。部分実習指導案やワークシート・授業内課題などは添削、解説し返却する。必要に応じて個別指導を行う。		
テキスト：① 高玉和子 編 『改訂 実践力がつく 保育実習』 大学図書出版 ②松本峰雄監修 『より深く理解できる 施設実習』 萌文書院 ③ 長島和代編 改訂 2 版『わかる・話せる・使える 保育のマナーと言葉』わかば社		
参考書・参考資料等：『保育所保育指針解説』『認定こども園保育教育要領解説』 フレーベル館 大豆生田啓友他編著 『新しい保育講座 12 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房		
学生に対する評価：以下の 4 項目を総合的に評価して成績を判定する。①定時試験 40% ②レポート及び小テスト 40% ③平素の学習状況 10% ④実習準備のための提出物 10%		
実務家教員による授業科目：長年保育現場で主任、教頭として勤務した後、大学院において子ども人間学を修了、他学で実習に関する相談や実習先開拓、実習指導を担当してきた実績がある。保育所や保育所以外の児童福祉施設における実習のための事前事後指導を実践的に行う。		

授業科目名：2600216821 保育実習Ⅱ 2年前期	必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：実習先保育所、 瀬川 千津子											
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育実習 保育実習Ⅱ													
学習成果該当番号：1. 5. 7. 8														
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める 2. 子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める 3. 既習の教科や実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する 6. 保育士としての自己の課題を明確化する 【テーマ】 保育所の役割や機能、養護と教育の一体化、保育士の業務内容、職業倫理等について具体的な実践を通して理解を深める。保育実習Ⅰ（保育所）での学びを踏まえて、保育の観察、実践、計画、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。更に、保育士としての資質、能力、技術の向上を目指すとともに、家庭や地域社会で果たす保育所や保育士の役割について理解を深める。														
保育所実習の概要： 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 (1) 養護と教育が一体となって行われる保育について理解を深める (2) 保育所の社会的役割と責任について学ぶ 2. 観察・参加に基づく保育理解 (1) 子どもの観察・かかわりを通して、子どもにふさわしい生活・発達の展開を学ぶ (2) 多くの子どもとかかわる中で、各年齢の特徴や個人差の理解を深める (3) 保育士の援助や指導の内容と方法を学び、部分実習や責任実習に生かす (4) 保育所の一日の流れを理解し、保育に参加する 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通しての総合的に行う保育の理解を深める (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援を学ぶ (3) 地域社会との連携の大切さを理解する 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解を深める (2) 指導計画を立案して保育を実践し、保育技術を習得するとともに自己評価をする 5. 保育士の業務と職業倫理 (1) 保育士の助手的立場で、保育準備、環境設定、生活・遊びの指導の方法、安全への配慮等を具体的に学ぶ (2) 保育士の職業倫理を具体的に学ぶ 6. 自己の課題の明確化														
実習計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>実習名</th> <th>実習時間</th> <th>実習場所</th> <th>実習形態</th> <th>備考（実施時期等）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育実習Ⅱ</td> <td>80 時間</td> <td>保育所</td> <td>見学・観察、参加</td> <td>2 年 7 月</td> </tr> </tbody> </table>					実習名	実習時間	実習場所	実習形態	備考（実施時期等）	保育実習Ⅱ	80 時間	保育所	見学・観察、参加	2 年 7 月
実習名	実習時間	実習場所	実習形態	備考（実施時期等）										
保育実習Ⅱ	80 時間	保育所	見学・観察、参加	2 年 7 月										
※実習時間 80 時間は、実習日数 10 日間である。なお、80 時間(10 日間)は最低基準であり、実習期間内においてそれを超えて実習しても差し支えない。														
事前： 保育実習指導Ⅱの履修（保育実習Ⅰ（保育所・施設）を履修済であること） 「保育所保育指針」の熟読 保育実習日誌のオリエンテーション記録（p.9）まで記入する。 責任実習指導案を事前に作成、実習日誌等記録について必要に応じて再提出や個別指導を行う。 オリエンテーション（実習園）・オリエンテーション報告書・健康管理書類提出など 事後： 実習日誌の提出と実習報告書の作成														

保育実習指導Ⅱの授業内において報告書をもとに更に振り返りを行う（個人・グループ発表）
自己評価をもとに今後の自己課題を明確化する

テキスト：①大豆生田啓友他編著『学生・養成校・実習園がともに学ぶこれからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規
②長島和代編 改訂2版『わかる・話せる・使える 保育のマナーと言葉』わかば社

参考書・参考資料等：『保育所保育指針解説』（厚生労働省 フレーベル館）

学生に対する評価：

実習園評価及び実習日誌の提出(70%) 実習報告書及びその他提出物(20%) 実習日誌(10%)

授業科目名：2600216921 保育実習指導Ⅱ 2年前期	必修：（卒）・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：瀬川 千津子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育実習 保育実習指導Ⅱ（保育所）		
学習成果該当番号：1. 5. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】①保育実習Ⅰ（保育所）の学びを基礎に、保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、保育について保護者支援も含め総合的に学ぶ。②子どもの状況に応じた適切な関わりや実践ができるよう、保育の実践力を育成する。③責任実習を見据え、授業内で事前に実習指導案を立案し実習に備える。④保育の観察・記録・自己評価に基づく保育の改善が出来るようにする。⑤保育所保育士として求められる資質・能力・技術・職業倫理を習得し、保育現場に出られるように理論及び技術の習熟を目指す。⑥事後指導においては、実習の総括と自己評価を行い、自己の課題を明確にする。 【テーマ】保育実習Ⅱの意義と目的の理解を進めながら保育について総合的に学ぶ。子どもの発達に関する知識をもとに保育現場における保育の観察や記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実習における実践や事例を通して学ぶ。保育所の実際と実習にあたっての留意点及び実習指導案の立案について学ぶとともに、自己評価として振り返りを行い自己の課題を明確化する。			
授業の概要：保育実習Ⅰ（保育所）をもとに保育所において保育全般に参加し、保育技術の習得を目指す。さらに実習指導案を立案し、現場での保育者の指導・援助のもと、部分実習及び責任実習を行うことで保育所保育士として求められる資質・能力・技術・職業倫理を習得し、保育現場に出られるよう理論及び技術の習熟を目的とする。1. こども理解 2. 保護者とのコミュニケーション 3. 実習指導案を立案し、実習先での実践に備える 4. 職業倫理を理解する 5. 保育士に求められている資質・能力・技術を照らし合わせて、自己の課題を明らかにする。			
授業計画：			
回数	内容	事事前事後学習	
第 1回	保育実習Ⅱの意義と目的及び保育所保育における「養護」「保護者支援」について理解する 小テスト（保育用語を基本とした漢字テストを行う）	・保育所保育指針解説書 p.13-20,p.30-37を熟読(30分) ・小テスト振り返り(15分)	
第 2回	保育実習Ⅱにおける実習課題とねらいの設定及び記録方法（実習日誌の書き方）について理解する 保育実習Ⅰの学びを振り返りと課題の整理 保育と保護者支援について整理 小テスト（保育用語を基本とした漢字テストを行う）	・テキストp.12-35,p.36-47の熟読(30分) ・小テスト振り返り(15分) ・自己課題の整理の完成(15分)	
第 3回	事実収集型及びエピソード記述型による考察の方法について理解する 小テスト（保育用語を基本とした漢字テストを行う）	テキストp.48-57を熟読(30分) ・小テスト振り返り(15分)	
第 4回	保育環境の観察と記録のポイントについて整理する 小テスト（保育用語を基本とした漢字テストを行う）	・保育所保育指針解説書 p.24-26,及びテキスト p.58-61を熟読(30分) ・小テスト振り返り(15分)	
第 5回	実習指導案を作成する① 指導案立案の意義と理解 小テスト（保育用語を基本とした漢字テストを行う）	・テキストp.66-75を熟読し、指導案の素案を考案(30分) ・実習園の保育の概要及び保護者支援・子育て支援について調べる(30分)	
第 6回	実習指導案を作成する② 責任実習指導案の実際とポイント 実習園の子どもの姿に応じた実習指導案の作成を進める 指導案の相互添削 （実習園の保育の概要・保護者支援・子育て支援について調査する）	・テキストp.102～120を熟読(30分) ・指導案の完成 ・実習園の保育の概要及び保護者支援・子育て支援について調べる(30分)	

第7回	子どもの発達に応じた適切な関わり 事例をもとに学ぶ① -3歳未満児- (実習園の保育の概要・保護者支援・子育て支援について調査する)	・ 保育所保育指針解説書 p.91-181を熟読(30分) ・ 小テスト振り返り(30分)
第8回	子どもの発達に応じた適切な関わり 事例をもとに学ぶ② -3歳以上児- 実習園の保育の概要・保護者支援・子育て支援について整理しレポートにまとめる。	・ 保育所保育指針解説書 p.182-284を熟読(30分) ・ 実習園の保育の概要及び保護者支援・子育て支援について調べる(30分) ・ テキストp.122 - 135を熟読(30分) ・ 指導案の見直し(30分) ・ テキスト②p.161 - 173の熟読(30分) ・ ワークシートの完成(30分)
第9回	実習指導案を作成する③ 責任実習指導案の添削を基に指導案を再考する	・ 実習でのエピソード記録の下書き(30分) ・ エピソード記録の討議のまとめ(30分)
第10回	保育実習Ⅱの振り返り 実習の振り返り及び省察と自己課題の抽出 実習報告書の作成と実習事後の流れの確認	・ 保育所保育指針解説書 p.14-16,及び配布資料を熟読(30分) ・ 授業内容の復習(30分)
第11回	保育実習Ⅱの振り返り 実習園のエピソード記録からの振り返り エピソードによるグループ討議からの学び合い (保育実習Ⅱの振り返りを中心に行う)	・ 保育所保育指針解説書 p.328-342を熟読 (30分) ・ 授業内容の復習(30分)
第12回	保育実習Ⅱの振り返り 保育士の専門性についてまとめる (復習として第11回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行う)	・ 保育所保育指針解説書 p.26-29及び配布資料を熟読 (30分) ・ 授業内容の復習(30分)
第13回	保育所の役割再考① 子育て支援 (家庭支援) 保護者とのコミュニケーションの大切さを学ぶ (復習として第12回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行う)	・ 保育所保育指針解説書 p.344-354及び配布資料を熟読 (30分) ・ 授業内容の復習(30分)
第14回	保育所の役割再考② 子育て支援 (社会的な役割) 地域における子育てセンターとしての保育所 (復習として第13回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行う)	
第15回	保育士の業務内容について整理し、保育士の職業倫理について討議する (復習として第14回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行う)	
定期試験 定期試験期間中に筆記試験を課す		
フィードバックの方法：小テストの解答及び、リアクションペーパーへのコメント。実習指導案の添削とコメント。必要に応じて、実習日誌他、記録方法について個別指導を行う。		
テキスト：① 小櫃智子編 『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』 わかば社 ② 大豆生田啓友他編著 『新しい保育講座 12 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房		
参考書・参考資料等： ・ 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 ・ 長島和代編 『これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語』 わかば社		
学生に対する評価：以下の5項目を総合的に評価して成績を判定する。①指導案及び実習に必要な事務的書類の提出(10%) ②授業で調べた内容等の記録及び発表 (20%) ③小テスト、授業内課題及びリアクションペーパー(20%) ④定時試験(40%) ⑤授業態度(10%)		
実務家教員による授業科目： 長年保育現場で主任、教頭として勤務した後、大学院において子ども人間学を修了、他学で実習に関する相談や実習先開拓、実習指導を担当してきた実績がある。保育所や保育所以外の児童福祉施設における実習のための事前事後指導を実践的に行う。		

授業科目名：2600217021 保育実習Ⅲ 2年前期	必修：（卒）・（保）	単位数： 2単位	担当教員名：実習先施設、 笹尾 雅美 担当形態：実習（複数）
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：1. 5. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 1. 現場実習を通して児童福祉施設の役割や機能について理解を深める。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解とともに、保護者支援や家庭支援の知識、技術、判断力を養う。 3. 保育士の業務内容や子どもの生活の保障における保育士の役割、保育士として働くことの意義を体験させるとともに職業倫理について具体的に結びつけて理解する。 4. 保育士としての自己の課題を明確化する。 【テーマ】 保育実習Ⅰ（施設）の経験を踏まえて養護全般に参加し、援助技術を習得するとともに、個別支援計画を作成、実践、評価をもとにして児童福祉施設の役割や機能について実践を通して理解を深める。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉や社会的養護、障害児支援などに対する理解を進めながら、保護者支援や家庭支援の知識・技能・判断力を養い、施設保育士としての総合的な能力の向上を目指す。			
施設実習の概要： 1. 施設の役割と機能 (1) 施設の生活（24時間）と一日の流れを理解し、支援員と一緒に養護活動に参加し、援助技術を習得する。 (2) 施設の役割と機能について体験を通して理解し、深める。 2. 施設における支援の実際 (1) 子どもの障がいや特性を理解し、受容的応答関係を築いていく。 (2) 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に障がいのある子どもや家庭環境の違いによる子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。 (3) 支援計画を理解した上で養護活動に参加し、援助技術を習得する。 (4) 子どもと家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。 (5) 職員間の役割分担、チームワーク等の組織的な活動のあり方や家庭・地域社会との関係調整の役割を理解する。 (6) 親元を離れて生活する子どもの現状からその子どもの最善の利益を具体化する方法を学ぶ。 3. 専門職としての保育士の役割と倫理 (1) 職員の業務内容と職業倫理について具体的に学ぶ。特に保育士の業務内容を理解する。 4. 施設保育士としての自己課題を明確にしていく。			
準備学習 ・保育実習指導Ⅲの履修をする。 ・実習先の施設概要をまとめる。 ・テキスト「施設実習 パーフェクトガイド」を熟読する。 ・施設実習日誌のオリエンテーション記録（P9）まで仕上げる。 ・実習施設に取り組むにあたり支援計画案を作成する（到達度に応じて、修正及び、再提出がある。また、実習日誌等記録方法についても必要に応じて個別指導が行われる）。			
事後学習 ・実習報告書を作成する。 ・保育実習指導Ⅲの授業内において報告書をもとに振り返りを行う（個人・グループ発表）。 ・自己評価をもとに今後の自己課題を明確化する。			
*保育実習Ⅲは、保育実習Ⅰ（保育所・施設）を履修済の者が履修対象となる			
実習計画：			

実習名	実習時間	実習場所	実習形態	備考（実施時期等）
保育実習Ⅲ	80 時間	保育所以外の 児童福祉施設	見学・観察、参加	2 年 7 月
※実習時間 80 時間は、実習日数 10 日間である。なお、80 時間(10 日間)は最低基準であり、実習期間内においてそれを超えて実習しても差し支えない。				
事前： オリエンテーション（実習先施設）・オリエンテーション報告書・健康管理書類等の提出				
事後： 実習日誌・実習報告書の提出				
テキスト： 守 巧 ・小櫃智子 編 施設実習 パーフェクトガイド、わかば社、2020				
参考書・参考資料等： 公益財団法人 児童育成協会（監修）相澤仁、林浩康（編集）「社会的養護Ⅰ」中央法規、2019				
学生に対する評価： 実習施設での成績(70%)・実習報告書・実習日誌・出勤簿（30%）				

授業科目名：2600217121 保育実習指導Ⅲ 2年前期		必修：（卒）・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：笹尾 雅美 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等				
学習成果該当番号：1. 5. 7. 8				
授業の到達目標及びテーマ： ・ 保育所を除く児童福祉施設等の役割や機能について実習を通して理解を深める ・ 家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解とともに、保護者支援・家庭支援のための知識・技術・判断力を養う ・ 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解する ・ 保育士としての自己の課題を明確化する				
授業の概要： ・ 保育所を除く児童福祉施設の役割と機能 ・ 施設における支援の実際 (1) 信頼関係を築くために (2) 個人差や生活環境に伴う利用者のニーズの把握と利用者 (3) 個別支援計画の作成の仕方 (4) 利用者の家族への支援と対応 (5) 多様な専門職との連携 (6) 地域社会との連携 ・ 保育士の多様な業務と職業倫理				
授業計画：				
回数	内容	準備学習		
第 1回	保育実習Ⅲの意義と目的及び実習課題の設定・実習日誌の書き方について学習する。	テキストp8-p27, p44-47, p90-101を読んでおくこと（60分）		
第 2回	リアクションペーパーの提出を求める（第 15 回まで同様）。 児童福祉施設（養護系）-乳児院の保育士としての役割（利用者の家族への支援と対応を含む）について視聴覚教材を用いて学びを深める。 （復習として第 1 回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、保育実習Ⅲの意義と目的について確認する。）	テキストp29, p66-67 及び配布資料を読んでおくこと（60分）		
第 3回	児童福祉施設（養護系）-児童養護施設の保育士としての役割（利用者の家族への支援と対応を含む）について視聴覚教材を用いて学びを深める・ （復習として第2回授業のリアクションペーパーをもとに振り返りを行い、乳児院の保育士としての役割について確認する。）	テキストp28, p64-p65 及び配布資料を読んでおくこと（60分）		
第 4回	児童福祉施設（障害系）-福祉型障害児入所施設の保育士としての役割（利用者の家族への支援と対応を含む）について視聴覚教材を用いて学びを深める。 （復習として第3回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、児童養護施設の保育士としての役割について確認する。）	テキストp32, p72-p75 及び配布資料を読んでおくこと（60分）		
第 5回	社会福祉施設（障害者支援施設）-障害者支援施設の支援員としての役割（利用者の家族への支援と対応を含む）について視聴覚教材を用いて学びを深める。 （復習として第4回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、福祉型障害児入所施設の保育士としての役割について確認する。）	テキストp34, p82-83 及び配布資料を読んでおくこと（60分）		
第 6回	実習先の特徴や機能について調べる。 （復習として第5回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、障害者支援施設の支援員としての役割について確認する。）	保育実習Ⅰの振り返り（自己評価・実習報告）に関する整理をしておく（60分）		
第 7回	保育実習Ⅰ（施設）で学んだことを整理したうえで実習先が抱える社会的問題について探求し、問題解決学習（利用者の家族への支援と対応を含む）を進める。	各自問題解決の方法を考えておく（60分）		

第8回	(復習として第6回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、実習先が抱える諸問題について考える。) 実習先ごとに問題解決学習を行い、プレゼンテーションをする (復習として第7回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、実習先が抱える諸問題について理解を深める。)	各自問題解決の方法を見出し発表出来る状態に仕上げておく (60分)
第9回	支援内容の実際について整理しながら個別支援計画を作成する (復習として第8回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、実習先が抱えている諸問題について確認する。)	テキストp102-p122及び配布資料を読んでおくこと (60分)
第10回	個別支援計画作成を通して学習者間で積極的に発表し合い、意見交換をする。 (復習として第9回授業のリアクションペーパーをもとに振り返りを行い、実習先で行う予定の支援内容について確認。)	配布資料を読んでおくこと (60分)
第11回	保育実習Ⅲの振り返りをし、自己の課題を明らかにする。 (復習として第10回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、実習先における個別支援計画の実際について振り返り要点を確認する。)	配布資料を読んでおくこと (60分)
第12回	生活環境に伴う利用者のニーズの把握 ー利用児(者)に寄り添うとはー (復習として第11回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、自己なりの課題を明らかにする。)	配布資料を読んでおくこと (60分)
第13回	家族支援とその対応について学ぶ。 (復習として第12回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、生活環境に伴う利用者のニーズの把握について確認する。)	配布資料を読んでおくこと (60分)
第14回	多様な専門職とのチームワークの大切さと連携の方法について学ぶ。 (復習として第13回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、家族支援とその対応について確認する。)	配布資料を読んでおくこと (60分)
第15回	各施設での保育士としての業務内容と職業倫理について、グループディスカッションをする。 (復習として第14回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、多様な専門職とのチームワークの大切さと連携の方法について確認する。)	配布資料を読んでおくこと (60分)
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を行う。	
フィードバックの方法：フィードバックとしてリアクションペーパーにコメントを返す。		
授業実施形態：対面授業を基本とするが、状況に応じて遠隔授業に変更する場合がある。		
テキスト：『施設実習 パーフェクトガイド』（守 巧・小櫃智子 編著 わかば社）適宜プリント配布		
参考書・参考資料等：『よくわかる社会的養護』（ミネルヴァ書房）乳児院・児童養護施設運営ハンドブック 『保育実習指導のミニマムスタンダード』一般社団法人 全国保育士養成協議会編集 中央法規出版		
オープンな教育リソース：		
学生に対する評価：以下の5項目を総合的に評価して成績を判定する。①指導案及び実習に必要な事務的書類の提出(10%) ②授業で調べた内容等の記録及び発表 (10%) ③リアクションペーパー (30%) ④定期試験(40%) ⑤授業態度(10%)		

授業科目名：2700217220 ゼミナール	必修：	単位数： 2単位	担当教員名：保育学科専任教員
2年通年			担当形態：演習 分担
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：4. 6			
授業の目的・目標： 本学のゼミナールは、「保育者」を目指す全学生が2年間の集大成として、保育に関する専門分野の中からテーマを見出して取り組むものである。 ゼミナールでは、自分が調べてみたいこと、学んで来たことの中からさらに深く掘り下げて研究してみたいことに、一人ひとり、別々に取り組むことができる。つまり自分だけの研究を行う科目である。ゼミナールは指導教員がついて、助言をしたり、一緒に調査をしたり、研究についての指導を受けたりすることができる。一緒に学んできたとはいえ、一人ひとりの興味・関心は異なり、また、先生方とディスカッションをしていく間に自分のやりたいことがはっきりしてくると思われる。以下に研究の対象となる8分野をあげる。これらの分野で「論文」または「小論文と作品」に取り組もう。			
領域「健康」分野 健康の領域では、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うことをねらいとする。健康であるためには、幼児期に正しい生活習慣を身につけることや自ら進んで全身を使って運動することが重要である。この領域の研究テーマとしては、生活習慣面（食育、睡眠や排泄、衣類の着脱など）や運動面（戸外や室内での遊び、遊具や道具を使った遊びなど）、安全面（病気の予防、安全）などの分野が考えられる。			
領域「人間関係」分野 人とのかかわりに関する領域「人間関係」は「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことをねらいとする。保育に於いては、子どもが保育者との信頼関係を基盤として、様々なことを自分の力で行う満足感や充実感を味わうことが大切である。子どもの豊かな人間関係を育てるために、子ども一人ひとり、あるいは集団・家庭・社会など多方面から着目し、テーマを絞り研究を進める。			
領域「環境」分野 領域「環境」は、子どもが周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うことをねらいとする。子どもが身近な環境に親しみ、自然と触れあい、自ら試行錯誤しながら発見を楽しんだり、考えたりする過程を大切に考える。自然の大きさ、美しさ、不思議さ、季節の変化、行事、動物・植物、空気・水・光などを対象とする諸現象、数量や図形、動物園・水族館・植物園・博物館等諸施設、科学的なものの見方や考え方を育てるための保育教材のあり方等子どもを取り巻く全ての環境が研究対象になる。			
領域「言葉」分野 言葉は生活の中で聞いたり話したりして発達しますが、その言葉をとらえて研究することはとても難しくてかわない。そこでその幼児の言葉を発達させることに大いに役立つ児童文化財としての言葉に着目して研究を行う。絵本や紙芝居の物語（昔話・民話・童話）、唱歌や童謡やわらべ歌、手遊びや様々な劇等々の児童文化財には、すべて磨かれた言葉としての作品が存在している。研究はそこから一つを選んで、学問的に分析する。			
領域「表現」分野 表現の領域では、子どもが感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や			

表現する力を養い、創造性を豊かにすることをねらいとする。生活の中で美しいものにこころを動かし、音、形、色、手触り、動きなどに気付き、感じたことを音・動き・造形・描画・演技など様々な手法で表現して感動したことを伝え合う楽しさを味わう。表現には様々な素材や表現方法があり、それらに親しみ、工夫して遊ぶことで創造性が豊かになっていく。そうした中に研究テーマをみつけ、学問的に取り組むことができる。

心理関係分野

私たちの心は複雑で揺れ動きやすいものであり、何気ない一言で寂しくなったり、ふと見つけた優しい眼差しに勇気づけられたりする。日頃、見過ごしてきた自分と周りの人々の行動を心理学の視点から見直すと、新しい発見があるものである。乳幼児の心理発達、きょうだいや仲間関係、子どもの気になる行動、青年期の不安、そして子育ての悩みなどの心理学のテーマの中から、各自が興味を持ったり、問題を感じていたりするものを取りあげ、子どもや保護者の支援と、何よりもこれらの問題と関わる自分自身の明日に繋がる生き方について考えていく。

福祉関係分野

福祉の価値は、人の命や生活を守り、その人らしさを尊重することにある。社会福祉が充実する方法として、生活における困難な問題が解決・緩和されること、困難な状態に陥らないように予防すること、そして人々の生活の質の向上が挙げられる。この領域の研究テーマは、児童福祉（被虐待児童、貧困児童、待機児童、子育て不安など）、障がい者福祉（就労支援）に加えて、グローバルな視点から国際社会福祉の分野を扱う。

保育関係分野

ルソーの子どもの発見以降、子どもに対する考え方や教育の方法が変わってきました。「子どもとは・・・」そういった問いかけが、様々な教育思想を生み、教育の方法を構築して来ました。この分野では、こうした教育思想や思想家、子ども観、教育の方法そして、教育史がテーマとなる。諸外国の保育・教育を含め研究の対象として扱う。

授業計画：

- 第1回 ゼミナール学習の意義と内容について
- 第2回 ゼミナール学習で各自が取り組むテーマについての調査
- 第3回 ゼミナール学習におけるテーマについてのまとめ
- 第4回 ゼミナール学習で取り組むテーマの決定
- 第5回～第27回 テーマに沿って各自、指導教官と相談しながら個別に研究を進める
- 第28回・第29回 ゼミナール発表会での研究成果報告
- 第30回 振り返りと総まとめ
- 定時試験 論文等の期限までの提出と研究成果報告をもって定時試験とみなす。

*論文または作品の提出日は1月下旬を予定

準備学習として、次回授業までに各自研究を進めておくこと。

フィードバックは、毎回の授業時に研究の進め方やまとめ方等について指導や助言を直接行う。

テキスト：なし

参考書・参考資料等：各自のテーマに沿うもの

学生に対する評価：取組状況20% 提出された研究成果70% まとめ・成果報告発表10%